

平成6年度

教授要目

小樽商科大学

平成6年度

# 教授要目

小樽商科大学

平成6年度 1994/1995 CALENDAR

4月	日 月 火 水 木 金 土							10月	日 月 火 水 木 金 土						
	3	4	5	6	7	8	9		2	3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15	16	9	⑩	11	12	13	14	15		
17	18	19	20	21	22	23	16	17	18	19	20	21	22		
24	25	26	27	28	⑳	30	23/30	24/31	25	26	27	28	29		
5月	日 月 火 水 木 金 土							11月	日 月 火 水 木 金 土						
	1	2	③	④	⑤	6	7		6	7	8	9	10	11	12
8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19		
15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	㉓	24	25	26		
22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30					
29	30	31													
6月	日 月 火 水 木 金 土							12月	日 月 火 水 木 金 土						
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17	18	11	12	13	14	15	16	17		
19	20	21	22	23	24	25	18	19	20	21	22	㉓	24		
26	27	28	29	30			25	26	27	28	29	30	31		
7月	日 月 火 水 木 金 土							1月(7年)	日 月 火 水 木 金 土						
	3	4	5	6	7	8	9		1	②	3	4	5	6	7
10	11	12	13	14	15	16	8	9	10	11	12	13	14		
17	18	19	20	21	22	23	15	⑬	17	18	19	20	21		
24/31	25	26	27	28	29	30	22	23	24	25	26	27	28		
							29	30	31						
8月	日 月 火 水 木 金 土							2月(7年)	日 月 火 水 木 金 土						
	7	8	9	10	11	12	13		5	6	7	8	9	10	⑭
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18		
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25		
28	29	30	31				26	27	28						
9月	日 月 火 水 木 金 土							3月(7年)	日 月 火 水 木 金 土						
	4	5	6	7	8	9	10		5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	⑮	16	17	12	13	14	15	16	17	18		
18	19	20	21	22	㉓	24	19	20	㉑	22	23	24	25		
25	26	27	28	29	30		26	27	28	29	30	31			

○印は祝日及び休日

平成6年度 行事予定

	期 日 ・ 期 間	内 容	
前	4月13日(水)	入学式	
	4月14日(木)～4月15日(金)	新入生オリエンテーション	
	4月14日(木)	2～4年次生授業開始及び成績票交付	
	4月18日(月)	新入生授業開始	
	4月28日(木)	履修届締切日	
	5月下旬	定期健康診断	
	5月23日(月)～5月27日(金)	履修確認期間	
	6月9日(木)～6月10日(金)	半期制科目中間試験期間	
	6月13日(月)～6月14日(火)		
	期	7月7日(木)	創立記念日
7月18日(月)～7月25日(月)		履修科目取消期間(通年科目及び前期開講科目)	
7月22日(金)～7月28日(木)		夏季集中講義	
7月22日(金)～8月31日(水)		夏季休業	
9月14日(水)		前期授業終了	
9月16日(金)～9月30日(金)		前期定期試験	
後		10月1日(土)	後期授業開始
		11月1日(火)	研究指導オリエンテーション
		11月7日(月)～11月30日(水)	研究指導募集選考期間
		11月24日(木)～11月25日(金)	半期制科目中間試験期間
	11月28日(月)～11月29日(火)		
	12月2日(金)	研究指導内定者発表	
	12月15日(木)～12月21日(水)	履修科目取消期間(後期開講科目)	
	12月23日(金)～1月17日(火)	冬季休業	
	1月6日(金)～1月9日(月)	履修科目取消期間(冬季集中講義科目)	
	1月6日(金)～1月12日(木)	冬季集中講義	
1月23日(月)	学科・課程所属オリエンテーション		
期	1月24日(火)～1月27日(金)	学科・課程所属指導期間	
	1月31日(火)	卒業論文提出締切日	
	2月1日(水)～2月3日(金)	学科・課程所属募集期間	
	2月10日(金)	後期授業終了	
	2月13日(月)～3月2日(木)	後期定期試験	
	3月14日(火)	卒業判定会議(予定)	
	3月20日(月)	卒業式	

目次

I	平成6年度開講科目	1
II	卒業に必要な単位一覧表	12
III	科目履修と単位修得	14
1	一般教育科目の履修方法	14
2	外国語科目の履修方法	14
3	日本語・日本事情科目の履修方法	23
4	保健体育科目の履修方法	23
5	基礎教育科目の履修方法	23
6	専門教育科目の履修方法	23
7	研究指導の履修方法	23
8	教職科目の履修方法	24
9	単位の互換制度	30
10	平成4年度以前入学者の履修上の注意事項	31
11	進級に必要な単位	33
IV	科目試験の受験に際しての注意事項	35
V	卒業論文執筆要領	36
VI	平成6年度開講科目(昼間コース)の講義要目	41
VII	平成6年度開講科目(夜間主コース)の講義要目	173
VIII	平成6年度ゼミ教室配置図	215

昼間コース

I 平成6年度開講科目

〔一般教育科目等〕

区分	授業科目	単位数	必修科目		配当年次	実施期	担当教官	備考		
			平成4年度以降入学者	平成3年度以前入学者						
一般教育科目	人文科学系	哲学	4			I	通年	久保田	43	
		倫理	4			II	通年	久保田	43	
		心理学	4			I	通年	和田	44	
		歴史	4			I	通年	萩野	44 A・B2クラス	
		日本文学	4			I	通年	村山	45 A・B2クラス	
	社会科学系	外国文学	4							非開講
		英文学	4			I	通年	中川	46	
		ドイツ文学	4							非開講
		フランス文学	4							非開講
		中国文学	4							非開講
	社会科学系	社会学	4							非開講
		社会思想史	4			I	通年	宝福	47	
		教育社会学	4			I	通年	倉田	47	A・B2クラス
		政治学	4							非開講
*社会科学特別講義I		2			I・II	夏季集中	坪井	48		
自然科学系	*社会科学特別講義II	2					榊原	48	非開講	
	物理学	4			I	通年	原田	49		
	化学	4			I	通年	片岡	49	A・B2クラス	
	生物学	4			I	通年	金沢	49	A・B2クラス	
	自然科学概論	4							非開講	
外国語科目	英語	(講読A)	2	○	◎	I	通年	P.16 別表参照	50	
		英語I(講読B)	2	○	◎	I	通年			
		(会話・作文)	2	○	◎	I	通年			
		英語II(講読)	2	○	◎	II	通年			
	英語以外の外国語	英語III(講読)	2		◎	II	通年	P.16 別表参照	56	平成2年度以前入学者で会話・作文を修得済の者は講読1クラスのみ必修
		英語III	2		◎	III	通年	P.16 別表参照	62	
		ドイツ語I	2	○	○	I	通年	ドイツ語別表参照	64	}
		フランス語I	2	○	○	I	通年	フランス語別表参照	65	
		中国語I	2	○	○	I	通年	中国語別表参照	66	
		スペイン語I	2	○	○	I	通年	スペイン語別表参照	67	
ロシア語I	2	○	○	I	通年	ロシア語別表参照	68			
ロシア語II	2	○	○	II	通年	ロシア語別表参照	73			
日語科目	日本語I	2			I~IV	通年	阿部	73		
	日本語II	2			I~IV	通年	鈴木	73		
	日本語III	2			I~IV	通年	木元	74		
	日本事情	4			I~IV	通年	木元・未定	74		
保健体育科目	*保健体育理論	2	◎	◎	I	前期	浅沼・田野・中川	75	A・B2クラス	
	体育実技	2	◎	◎	I	通年	田野・花輪・中川・杉山	76	前期・後期のいずれかを履修	
				II	前・後	藤江・山田・中島・山本				
基礎科目	経済学概論	4	○	○	I	通年	船津・渋谷	79	経済学科 所属者必修	
	商学概論	4	○	○	I	通年	A 片桐・久野・高橋 B 高宮城・李・松本	81	商学 所属者必修	
	法学概論	4	○	○	I	通年	結城・久々湊	84	企業法学科 所属者必修	
	*社会情報概論	4	○	○	I	通年	A 杉本・山本・沼田 B 山本・杉本・沼田	85	社会情報学科 所属者必修	
数	学	4	○	○	I	通年	兼岩・池田	87	4クラス	

- (注) 1. 授業科目名の前に\*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、31頁の注意事項を参照すること。  
 2. 必修科目欄の◎は必修科目、○は選択必修科目を示す。  
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

〔専門教育科目〕  
経済学科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目						配当年次	実施期間	担当教官	備考			
			平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者										
			E	K	E	C	L	M					K		
基礎	*マクロ経済学	4	○	△	○	△	△	△	△	△	II	前期	山本・加藤	88	
	*ミクロ経済学	4	○		○						II	後期	山本	88	
	*マルクス経済学	4									II・III	通年	花田	90	
	現代経済理論	2									III・IV	夏季集中	武隈	90	
	統計学	4	○	△	○	△	△	△			II	後期	本間	91	
	数理統計学	4									III	通年	西山	91	
	経済統計学	4									III・IV	前期	本間	92	
	計量経済学	4									III	後期	遠藤	92	
	経済データ解析論														非開講
	経済学史														非開講
経済学	*経済史	4	○		○	△	△				II	通年	井上	93	
	日本経済史	4									III	通年	今西	93	
	西洋経済史														非開講
	国際経済史	4									III・IV	後期	井上	94	
	経済政策	4	○		○	△	△				III	後期	板谷	95	
応用経済学	社会政策	4									III	通年	中村	96	
	*産業組織論	4									III・IV	通年	鶴沢	96	
	農業経済学														非開講
	財政学	4	○		○						III・IV	前期	角野	97	
	地域経済学	4									III・IV	通年	望月	98	
	金融経済論	4	○		○						III	後期	和田	98	
	金融政策														非開講
	国際経済論	4	○		○	△	△				II・III	前期	船津	99	
	*国際経済政策														非開講
	国際政治経済学														非開講
経済学	国際金融論	4	○								III・IV	前期	渋谷	100	
	*経済学特別講義Ⅰ														非開講
	経済学特別講義Ⅱ	2									III・IV	後期	船津・和田	101	
	経済学特別講義Ⅲ	4									III・IV	後期	<未定>	101	
	研究指導	12									III・IV	2年継続		143~149	

- (注) 1. 授業科目の前に\*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、31頁の注意事項を参照すること。  
2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。  
Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。  
3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

商 学 科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目						配当年次	実施期間	担当教官	備考		
			平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者									
			C	K	E	C	L	M					K	
商学	流通組織論	4	○	△		○	△	△		II	通年	片桐	102	
	マーケティング	4								III	前期	黄	102	
	流通政策	4								III・IV	通年	伊藤	103	
	消費者行動論													非開講
	国際マーケティング													非開講
	貿易論	4								III・IV	後期	穴沢	103	
	保険論	2								III・IV	後期	本間	103	
	交通論													非開講
	証券市場論	4	○	△		○	△	△		III・IV	通年	井村	104	
	銀行論	2								III・IV	後期	<未定>	105	
経営学	商学特講Ⅰ													非開講
	商学特講Ⅱ													非開講
	経営学原理	4	○	△	△	○	△	△	△	II	通年	篠崎	105	
	経営学説史	4								III・IV	後期	高橋	106	
	企業形態論	4								III・IV	後期	小田	107	
	経営管理論	4	○	△		○	△	△		II	後期	鶴野	107	
	労務管理論	4					△			III・IV	通年	平尾	107	
	財務管理論	4		△						III・IV	前期	中村	108	
	産業心理学	4								III・IV	通年	和田	108	
	経営史	4	○			○				III・IV	通年	高田	108	
会計学	比較経営学													非開講
	国際企業論	4								III・IV	前期	李	109	
	経営学特講Ⅰ													非開講
	経営学特講Ⅱ													非開講
	*簿記論	4	○	△		○		△		II	前期	A山本B渡辺	109	A・B2クラス
	*財務会計論	4	○		△	○	△	△	△	III	通年	久野	110	
	監査論													非開講
	国際会計論													非開講
	原価計算論	4	○			○				III	通年	福島	111	
	管理会計論	4	○							III・IV	後期	中	111	
会計学	経営分析論													非開講
	*会計学特講Ⅰ	4								III・IV	前期	田中	112	
	会計学特講Ⅱ													非開講
	研究指導	12								III・IV	2年継続		149~158	
商業英語	4								IV	通年	相川	113		

- (注) 1. 授業科目の前に\*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、31頁の注意事項を参照すること。  
2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。  
Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。  
3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

企業法学科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目						配当年次	実施期間	担当教官	備考		
			平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者									
			L	K	E	C	L	M					K	
基礎法	*憲法総論	4	○				○		II	通年	結城	113		
	統治機構論	4							II	通年	猪股	114		
	*行政法総論	4	○						III	通年	秋山	115		
	*行政機構法	4							III	通年	石黒	115		
	租税法												非開講	
	*民法総論	4	○	△	△	△	○	△	△	II	前期	渡辺	115	
	*契約法	4	○		△	△	○			II	後期	藤原	116	
	担保法	4							III	通年	神田	116		
	*刑法	4	○				○		II	通年	臼木	116		
	*国際法	4	○				○		III	前期	中村	117		
	国際機構論	4							III・IV	後期	中村	117		
	*比較法	4							III・IV	通年	伊藤	117		
	基礎法特講												非開講	
	企業法	会社法	4	○	△	△	△	○	△	III	通年	青竹	118	
		商取引法	4	○		△	△			III	通年	田辺	118	
有価証券法		4							III	通年	飯田	118		
*民事手続法		4	○						III	前期	原	119		
倒産処理法		2							IV	前期	佐藤	119		
経済法		4					○		III	通年	和田	119		
*知的財産権法		4							III・IV	通年	久々湊	120		
労働法		4					○		III	通年	島田	121		
社会保障法													非開講	
環境法		4							III	後期	畠山	122		
国際経済法		2				△			III・IV	夏季集中	清水	122		
国際取引法		4							III・IV	通年	桑原	123		
企業法特講													非開講	
研究指導		12							III・IV	2年継続		158~162		

- (注) 1. 授業科目の前に\*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、31頁の注意事項を参照すること。  
 2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。  
 Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。  
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

社会情報学科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目						配当年次	実施期間	担当教官	備考		
			平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者									
			M	K	E	C	L	M					K	
計画科学	*管理科学	4	○		△	△		○	II	通年	奥田	123		
	*計画科学I	4	○					○	III	通年	若林	124		
	*計画科学II	4						○	III・IV	通年	戸島・中村	124		
	*社会計画I	4						○	III	通年	加藤	125		
	社会計画II												非開講	
	*計画数学I	4	○		△			○	II	通年	沼田・行方	126		
	*計画数学II	4	○					○	II	通年	行方	127		
	*応用統計I	4							III	通年	清水川	128		
	*応用統計II	4							III・IV	通年	清水川	128		
	*計画科学特講I	2							III・IV	前期	浅利	128		
	*計画科学特講II												非開講	
	組織と情報	組織と情報総論	4	○	△					II	通年	持田・酒井・近	128	
		*経営情報論	4						△	III	通年	酒井	129	
		*会計情報論	4	○		△		○		III	通年	山本	130	
		行政情報論												非開講
システムセキュリティ論		4							III・IV	通年	持田	131		
*組織と情報特講I													非開講	
社会情報	組織と情報特講II												非開講	
	社会と情報	4							II	通年	沼田	131		
	*ソフトウェア科学I	4	○	△	△		○	△	II	前期	中村	132		
	ソフトウェア科学II	4							II	後期	加地	133		
	*ソフトウェア科学III	4							III・IV	通年	戸島	133		
	*知識情報論	4	○						III	通年	杉本	133		
	情報システムI	4	○						III	通年	南	134		
	情報システムII												非開講	
	情報教育論I	4							III	通年	土谷	134		
	情報教育論II												非開講	
情報	*情報科学特講I	2							III・IV	前期	若林	135		
	情報科学特講II												非開講	
	研究指導	12							III・IV	2年継続		163~168		

- (注) 1. 授業科目の前に\*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、31頁の注意事項を参照すること。  
 2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。  
 Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。  
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

夜間主コース

〔一般教育科目等〕

区分	授業科目	単位数	必修科目	配当年次	実施期間	担当教官	備考	
一般教育科目	哲学	4		I	通年	久保田	175	
	心理学						非開講	
	歴史学						非開講	
	日本文学	4		I	通年	村山	175	
	外国文学	英文学						非開講
		ドイツ文学						非開講
		フランス文学						非開講
		中国文学						非開講
	ロシア文学						非開講	
	社会科学系	社会学	4		I	通年	宝福	176
		社会思想史						非開講
		教育学						非開講
	自然科学系	政治学	4		I	通年	坪井	177
		物理学	4		I	通年	原田	177
化学							非開講	
生物学							非開講	
外国語科目	英語 I (I-A)	2	◎	I	通年	P.17 別表参照	178	
		2	◎	I	通年			
	英語 II (講読) (会話・作文)	2	◎	II	通年	P.17 別表参照	179	
		2	◎	II	通年			
	英語以外の外国語	ドイツ語 I	4	○	I	通年	鈴木	180
		フランス語 I	4	○	I	通年	江口・尾形	
中国語 I		4	○	I	通年	萩原		
保健科目	保健体育理論	2	◎	II	後期	浅沼・花輪	182	
	体育実技	2	◎	I	通年	田野・花輪・中川	182	
			II	前期	A・B2クラス			
基育基礎科目	経済学概論	4	○	I	通年	鶴沢・山本	184 経済学科 所属者必修	
	商学概論	4	○	I	通年	黄・渡辺・高橋	185 商学科 所属者必修	
	法学概論	4	○	I	通年	田辺・桑原	186 企業法学科 所属者必修	
	*社会情報概論	4	○	I	通年	加藤・近	186 社会情報学科 所属者必修	
	数学	4	○	I	通年	池田	187	

- (注) 1. 授業科目の前に\*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、32頁の注意事項を参照すること。  
 2. 必修科目欄の◎は必修科目、○は選択必修科目を示す。  
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。  
 4. 教員免許状取得のためには、法学概論は必修科目である。

〔専門教育科目〕

経済学科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官	備考
基礎経済学	マクロ経済学					非開講
	ミクロ経済学	4	II	通年	加藤	189
	マルクス経済学	4	II	通年	花田	189
	統計学					非開講
	経済統計学	4	III	通年	西山	189
	経済学史					非開講
	日本経済史	4	III	通年	今西	190
	西洋経済史					非開講
	経済政策					非開講
応用経済学	産業組織論	4	III	通年	鶴沢	191
	財政学	4	III	通年	角野	191
	金融経済論	4	III	通年	和田	192
	国際経済論					非開講
	国際金融論					非開講
	経済学特別講義 I					非開講
経済学特別講義 II					非開講	
研究指導	I	4	III	通年	中村	211
	II					非開講

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

商 学 科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官	備考
商学	流通組織論					非開講
	マーケティング	4	Ⅲ	通年	高宮城	193
	貿易論					非開講
	保険論	2	Ⅲ	後期	本間	193
	証券市場論	4	Ⅱ・Ⅲ	通年	井村	194
	商学特講Ⅰ					非開講
経営学	経営学原理					非開講
	経営管理論	4	Ⅱ・Ⅲ	通年	鶴野	195
	労務管理論					非開講
	財務管理論					非開講
	国際企業論	4	Ⅲ	通年	高田	195
	経営学特講Ⅰ					非開講
会計学	簿記論	4	Ⅱ	通年	松本	196
	財務会計論	4	Ⅲ	通年	山本	196
	監査論					非開講
	原価計算論	4	Ⅲ	通年	福島	197
	管理会計論					非開講
	会計学特講Ⅰ	4	Ⅲ	通年	田中	197
研究指導	Ⅰ	4	Ⅲ	通年	井村・篠崎・渡辺	211~212
	Ⅱ					非開講

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

企業法学科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官	備考
基礎法	憲法総論	4	Ⅱ	通年	猪股	198
	行政法総論	4	Ⅲ	通年	石黒	199
	民法総論	4	Ⅱ	通年	渡辺・藤原	199
	契約法					非開講
	刑法	4	Ⅱ	通年	臼木	200
	国際法					非開講
企業法	会社法	4	Ⅲ	通年	青竹	200
	商取引法					非開講
	民事手続法					非開講
	経済法					非開講
	労働法	4	Ⅲ	通年	島田	200
	国際経済法					非開講
研究指導	Ⅰ	4	Ⅲ	通年	神田・和田	213
	Ⅱ					非開講

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

社会情報学科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官		備考
計 画 科 学	管理科学	4	Ⅱ	通年	奥田	202	
	計画科学Ⅰ	2	Ⅲ	後期	若林	202	
	計画科学Ⅱ						非開講
	社会計画Ⅰ	2	Ⅲ	後期	加藤	202	
	社会計画Ⅱ						非開講
	計画数学Ⅰ	2	Ⅱ	前期	行方	203	
	計画数学Ⅱ	2	Ⅱ	後期	中村	203	
	応用統計Ⅰ	2	Ⅲ	前期	清水川	204	
	応用統計Ⅱ						非開講
	計画科学特講Ⅰ						非開講
計画科学特講Ⅱ						非開講	
組 織 と 情 報	組織と情報総論	4	Ⅱ	通年	持田・酒井・近	204	
	経営情報論	2	Ⅲ	後期	酒井	205	
	会計情報論	2	Ⅲ	前期	山本	205	
	行政情報論						非開講
	システムセキュリティ論						非開講
	組織と情報特講Ⅰ						非開講
	組織と情報特講Ⅱ						非開講
社 会 と 情 報	社会と情報	2	Ⅲ	前期	近	206	
	ソフトウェア科学Ⅰ	2	Ⅱ	前期	加地	206	
	ソフトウェア科学Ⅱ	2	Ⅱ	後期	南	207	
	ソフトウェア科学Ⅲ	2	Ⅲ	前期	戸島	207	
	知識情報論						非開講
	情報システムⅠ						非開講
	情報システムⅡ	2	Ⅲ	後期	持田	207	
	情報教育論Ⅰ	2	Ⅲ	前期	土谷	208	
	情報教育論Ⅱ						非開講
	情報科学特講Ⅰ						非開講
	情報科学特講Ⅱ						非開講
	研究指導Ⅱ						非開講

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

共通科目  
〔教職科目〕

区分	授業科目	単位数	商業教員養成課程 所属者必修科目		配当年次	実施期間	担当教官	備考	平成7年度			
			平成2年度 以降入学者	平成元年度 以前入学者					開講 予定	配当 年次	単 位	
教 職 に 関 す る 科 目	*教育基礎論Ⅰ	4	◎	◎	Ⅱ	通年	上野	136		○	Ⅱ	4
	*教育基礎論ⅡA	2	◎	◎	Ⅱ	後期	湯浅	136	非開講	○	Ⅱ	4
	*教育基礎論ⅡB	2	◎	◎	Ⅱ	後期	渡辺	209		×	Ⅱ	2
	*教育方法学	2	◎	◎	Ⅲ	後期	上野	137		○	Ⅲ	2
	商業科教育法	2	◎	◎	Ⅲ	前期	上野	209		×		
	英語科教育法	4			Ⅲ	前期	土屋	137		○	Ⅲ	2
	道徳教育の研究	2			Ⅲ	後期	土屋	209		×		
	*教育実践論Ⅰ	2	◎	○	Ⅲ	前期	横川	137		○	Ⅲ	2
	*教育実践論Ⅱ	2	◎	○	Ⅲ	前期	小山	209		×		
	教育実習	3	◎	◎	Ⅲ・Ⅳ	通年	高井	138		○	Ⅲ・Ⅳ	4
	職業指導	4	◎	◎	Ⅲ・Ⅳ	前期	小松	139		×		
	言語学概論	4			Ⅱ	前期	土屋	139		○	Ⅱ	2
	英語学概論	4			Ⅱ	後期	土屋	139	非開講	○	Ⅱ	2
*英語学Ⅰ	4			Ⅱ	後期	土屋	139	非開講	○	Ⅱ	2	
*英語学Ⅱ	2	◎	◎	Ⅱ	後期	土屋	139	非開講	○	Ⅱ	2	
教育実習	3	◎	◎	Ⅳ		上野・高井・土屋		非開講	○	Ⅳ	3	
職業指導	4	◎	◎	Ⅳ		上野・高井・土屋		非開講	○	Ⅳ	3	
教 科 に 関 す る 科 目	職業指導	4	◎	◎	Ⅲ	通年	松田	140		○	Ⅲ	4
	言語学概論	4			Ⅲ	通年	松田	210		×		
	英語学概論	4			Ⅲ	通年	松田	210	非開講	○	Ⅱ~Ⅳ	4
	*英語学Ⅰ	4			Ⅱ~Ⅳ	通年	大島・津曲	141		×		
	*英語学Ⅱ	4			Ⅱ~Ⅳ	通年	山本	141	非開講	○	Ⅱ~Ⅳ	4
	英語学Ⅲ	4			Ⅱ~Ⅳ	通年	山本	141		×		
	英文学史	4							非開講	○	Ⅱ~Ⅳ	4
	英文学概論	4							非開講	○	Ⅰ	4
	*英文学Ⅰ	4			Ⅱ~Ⅳ	通年	永原・片山	141		×		
	*英文学Ⅱ	4			Ⅱ~Ⅳ	通年	君羅	142	非開講	○	Ⅱ~Ⅳ	4
	*英文学Ⅲ	4			Ⅱ~Ⅳ	通年	君羅	142		×		
	英会話・英作文	4			Ⅱ~Ⅳ	通年	杉村	142		×		
	英語コミュニケーション	2			Ⅱ~Ⅳ	通年	Diane	142		○	Ⅱ~Ⅳ	4
比較文化	2							非開講	○	Ⅱ~Ⅳ	2	
比較文化	2							非開講	○	Ⅱ~Ⅳ	2	
研究指導	12			Ⅲ・Ⅳ	2年 継続	永原・君羅・ 山本・高井	169 170		○	(Ⅲ) Ⅳ	12	

- (注) 1. 授業科目名の前に\*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、31頁の注意事項を参照すること。  
 2. 商業教員養成課程所属者必修科目欄の◎は必修科目、○は選択必修科目(2科目以上)。  
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。  
 4. 配当年次等の欄で上下二段に分かれている科目に関しては、上段は昼間開講、下段は夜間開講を表す。



昼間コース

Ⅱ 卒業に必要な単位一覧表

〔一般教育科目等〕

区分	平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者	
	単位数	備考	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上	4以上	1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上	4以上	1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上	4以上	1科目以上
	計	24	24	6科目以上
外国語科目	20	6科目中から2科目選択 各々I全クラス(6単位)、 IIのうち1クラス(2単位) は必修	18	英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目) のうちいずれか1科目 選択必修
日本語・ 日本事情科目	(10)	外国人留学生のみ卒業所要単位とする。		
保健体育科目	4	理論・実技共必修	4	講義・実技共必修
基礎教育科目	12	*必修科目を含め3科目 以上	12	*必修科目を含め3科目 以上
合計	60		58	

(注) 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。  
2. \*印を記してある必修科目については、平成6年度開講科目表の備考欄を参照すること。  
3. 外国人留学生が日本語・日本事情科目を履修した場合は、10単位まで外国語科目に充当できる。(母国語が英語の場合は英語の単位に充当し、母国語が英語以外の場合は、独・仏・中・西・露語として選択できる。)

〔専門教育科目等〕

所属	経済学科、商学科(商業学科商学コース)、企業法学科(商業学科経営法学コース)、社会情報学科(管理科学科)				商業教員養成課程			
	単位数	備考	平成2年度以降入学者		平成元年度以前入学者			
区分	単位数	備考	単位数	備考	単位数	備考	単位数	備考
所属学科(コース)・課程科目	40	所属学科(コース) *選択必修4科目	41	*選択必修6科目 (24単位)				
他学科(コース)科目	24	(注)1参照			44	*選択必修6科目 (24単位)		
教職科目			23	*必修8科目	20	*必修6科目		
研究指導	12	原則として所属学科(コース)から履修 履修しない者は所属学科(コース)科目 12単位を充足履修	12	教職以外の研究指導 全て履修可能 履修しない者は専門教育科目 12単位を充足履修	12	履修しない者は他学科(コース)科目 12単位を充足履修		
合計	76		76		76			

(注) 1. 平成3年度以前入学の商業教員養成課程以外に所属する学生は、他学科(コース)選択必修科目から2科目(管理科学科所属者の場合は1科目)の修得を要する。  
2. 平成4年度以降入学生の教職科目は単位数の変更はないが、必修科目数は9科目になる。  
3. \*印を記してある必修、選択必修科目については、平成6年度開講科目表の選択必修科目欄を参照すること。

夜間主コース

〔一般教育科目等〕

区分	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	24 6科目以上
外国語科目	12	英語(I・II)必修 英語以外の外国語(3科目)のうち いずれか1科目選択必修
保健体育科目	4	理論・実技共必修
基礎教育科目	12	*必修科目を含め3科目以上
合計	52	

(注) 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。  
2. \*印を記してある必修科目については、平成6年度開講科目表の備考欄を参照すること。

〔専門教育科目〕

区分	単位数	備考
所属学科科目	32	
他学科科目	40	
研究指導	4	所属学科から履修 履修しない者は所属学科科目4単位を 充足履修
合計	76	

(注) 社会情報学科以外の学生で研究指導を4単位を超えて修得した場合、超えた単位については所属学科専門教育科目の単位に算入する。

### Ⅲ 科目履修と単位修得

本学の全課程を修了するためには、4年間以上在学し、次の事項に示された科目を履修し、単位を修得することによって全課程修了が認定され、卒業資格が与えられます。

卒業所要単位数は昼間コースが136単位（平成3年度以前入学生は134単位）、また、夜間主コースは128単位となっており、その履修方法については授業科目区分、学科毎に定められていますが、各入学年度及び各自が所属している学科(コース)・課程によって異なりますので十分注意を要します。

本学の教育課程は、一般教育科目、外国語科目、日本語・日本事情科目、保健体育科目、基礎教育科目、専門教育科目及び教職科目の区分で構成されていますので、それぞれの履修方法に従って履修計画を立ててください。

#### 1. 一般教育科目の履修方法

一般教育科目は、人文、社会、自然科学の三分野に分かれており、これらの科目はそれぞれの配当基準年次に沿って履修すればよいことになっている。

また、当該年次に修得しておかないと、翌年以降に履修を希望しても、専門教育科目と時間が重なったりして履修のできない場合が起こるので、配当年次どおり履修することが望ましい。

卒業要件は各分野から最底1科目4単位を含め合計24単位を修得しなければならない。

#### 2. 外国語科目の履修方法

##### 【昼間コース】

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語及びロシア語の6か国語が開講されている。

外国語の授業は毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする(学則第14条の2参照)。

外国語(I・II・III)は各外国語ともそれぞれ1年次に毎週6時間6単位、2年次に毎週4時間4単位、3年次に毎週2時間2単位、合計12単位が開講される。そのうちから2外国語20単位を選択必修とする。1年次に上記6外国語のうちから2か国語を選びそれぞれ6単位ずつ12単位を履修し、2、3年次にすでに修得した外国語の中から8単位を選択履修することとする。配当年次及び履修方法は次のとおりである。

配当年次	外国語①	外国語②	履修方法
I	6	6	1年次に2外国語各6単位計12単位必修
II	4	4	2年次に2外国語各2単位計4単位必修
III	2	2	
計	12	12	20単位必修

ただし、いずれの外国語とも、Ⅲの2単位を履修するためにはⅡから2単位以上を履修しなければならないものとする。したがって、1、2年次の2外国語について10単位ずつ、計20単位を修得するか、あるいは1外国語につき12単位、他の外国語を8単位、計20単位を修得するかのいずれかになる。

なお、英語以外の5外国語は同一年次配当のクラスを同じ時間帯に開設しているため、同一年度において同一配当年次の2つの外国語を履修することはできない。

また、平成3年度以前入学生の履修方法は従前どおりとする。

##### 【夜間主コース】

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の4か国語が開講されている。

外国語の授業は毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする(学則第14条の2参照)。

英語(I・II)はI・IIとも毎週4時間4単位、合計8単位が必修である。

英語以外の外国語(I)はいずれか1か国語を選択必修とし、毎週4時間4単位を修得しなければならない。

### ★ 英 語

#### 【昼間コース】

英語を選択した場合の履修方法

- 平成6年度の英語クラス配置は別表のとおりである。
- 別表のうちEで始まる3桁の数字と記号は英語のクラス別を表す。3桁目の1、2、3は履修基準年次で、それぞれ1年次、2年次及び3年次配当のクラスであることを示す。英語Iに関しては、残りの2桁と記号でクラスを表す。英語II及びIIIに関しては、残りの2桁の数字がクラスを表す。
- 英語Iは別表の講読Aより2単位、講読Bより2単位、英会話・作文より2単位、合計6単位を必修とし、所定のクラス・時間帯で履修すること。
- 英語II・IIIに配当されているクラスの選択は自由である。英語IIは2クラス4単位、英語IIIは1クラス2単位を選択履修すること。ただし、英語IIIを履修する学生は英語IIのうち1クラス2単位以上を履修しなければならない。

なお、同一年次配当の同一教官のクラスを2つ履修することはできない。

別表 平成6年度英語クラス

昼 間 コ ー ス								
英 語 I		英 語 II		英 語 III				
講 読 A	E101A	坪谷	講	E201	永原	講	E301	豊国
	E102A	津曲		E202	豊国		E302	津曲
	E103A	大島		E203	永原		E303	大島
	E104A	前:片山 後:永原		E204	杉村		E304	Carr
	E105A	宮町		E205	三浦		E305	浪田
	E106A	豊国		E206	高井		E306	下宮
	E107A	吉田		E207	三浦			
	E108A	宮町		E208	横尾			
	E109A	杉村		E209	西村			
	E110A	坪谷		E210	吉田			
	E111A	大島		E211	前:津曲 後:大島			
	E112A	片山		E212	上田			
講 読 B	E101B	豊国	読	E213	上田	読		
	E102B	高井		E214	浪田			
	E103B	君羅		E215	根本			
	E104B	津曲		E216	根本			
	E105B	上野		E217	下宮			
	E106B	佐藤		E218	吉田			
	E107B	横尾		E219	坪谷			
	E108B	西村		E220	鈴木			
	E109B	津曲		E221	鈴木			
	E110B	上野		E222	布施			
	E111B	佐藤		E223	小林			
	E112B	高井		E224	小林			
英 会 話 ・ 作 文	E141C	Carr						
	E142C	Carr						
	E143C	Carr						
	E144C	Carr						
	E145C	Carr						
	E146C	Diane						
	E147C	Diane						
	E148C	Diane						
	E149C	Diane						
	E150C	Toskar						
	E151C	Toskar						
	E152C	Toskar						
	E153C	Gordon						
E154C	Gordon							
E155C	Gordon							
E156C	Wendy							
E157C	Wendy							
文 法	E161	大島						

(英語共通試験実施要領)

英語 I 講読Aクラスの履修と単位認定について

- 英語 I は講読A, Bからそれぞれ1クラス2単位, 英会話・作文から1クラス2単位, 合計6単位を必要とする。
- 英語 I 講読Aクラスの履修者には課外テキストを指定し, 年2回共通試験を行う。
- 英語共通試験は前期及び後期の各定期試験期間中に行う。前期及び後期の共通試験は両方とも受験しなければならない。
- 講読Aの各クラスの単位は, クラスでの成績と共通試験の成績とにより, 英語クラス担当教官が認定する。
- 課外テキスト  
海江田進・中村駿夫共著『詳解英文法』昇龍堂出版
- 平成4年度以前入学生のうち, 英語 I の単位未修得者の履修方法は平成5年度以降入学生の履修方法に準ずる。なお, 英語 I の単位未修得者は, 講読AのクラスにかえてE161を選択することができる。なお, 講読Aのクラスを選択する場合は, 必ず共通試験を受験しなければならない。

【夜間主コース】

平成6年度の英語クラス配置は別表のとおりである。

- 別表のうちEで始まる2桁の数字と記号は英語のクラス別をあらわす。
- 英語 I は講読4単位, 英語 II は講読2単位, 英会話・作文2単位, 合計8単位が必修である。

別表 平成6年度英語クラス

夜 間 主 コ ー ス			
英 語 I		英 語 II	
E11A	豊国	E21A	山本
E12A	君羅	E22A	杉村
E13A	布施	E23A	吉田
E11B	山本		
E12B	杉村		
E13B	吉田		
		E21C	Carr
		E22C	Diane
		E23C	Wendy

## ★ ドイツ語

【昼間コース】 ※夜間主コースは後掲

### 1. クラス編成と授業担当者（都合により担当者が変わることもある）

	ドイツ語 I	ドイツ語 II	ドイツ語 III
火	A 副島（後期ホルツァー） B オルデハーフェル C 加 納 D 佐 藤 E 大 塚（後期 副島）	A オルデハーフェル B 大塚（後期ホルツァー） C 加 納 D 佐 藤 E 副 島	
水	A 大 塚 B 副 島 C 鈴木・パーベンティン D オルデハーフェル E オルデハーフェル		A 中 川  B 大塚・パーベンティン
木	A 大 塚 B 副 島 C 鈴木・パーベンティン D 佐 藤 E 室 井	A 大 塚 B 副 島 C 鈴木・パーベンティン D 室 井 E 佐 藤	

### 2. クラスへの所属

#### a. ドイツ語 I

学生番号順にクラス分けを行い、授業開始までに公表する。再履修者の所属も併せて発表する。全クラスとも遅くとも後期にはネイティブ・スピーカーに教わる機会を持つ。

尚、ドイツ語 I の授業内容全般については64頁を参照のこと。

#### b. ドイツ語 II

全5クラスは、力点の相違に応じて二つのコースに別れる。A・B・Cクラスは「話す」「聞く」にやや力点を置いた『Sコース』に属し、D・Eクラスは「読む」にやや力点を置いた『Lコース』に属する（コースの名称変更ははじめドイツ語 II の授業内容全般については64頁を参照）。

志望票に基づいてクラス分けを行い、授業開始までに公表する。再履修者は4月13日に教務係に志望票を提出すること。所属は追って指示する。

尚、『Sコース』にまだ10名前後の余裕があるので、希望者は動機を再点検のうえ遠慮なく教務係に申し出ること。先着順とし、所属クラスは追って指示する。

#### c. ドイツ語 III

ドイツ語 III Aは『読解クラス』、ドイツ語 III Bは『総合クラス』。学年にかかわらず、また単位の取得にかかわらず自由に参加されたい。

尚、ドイツ語 III の授業内容全般については66頁を参照のこと。

### 3. 履修上の注意

a. クラス編成上の都合により、ドイツ語 II 志望票に申告した履修単位数の変更は認めない。

b. ドイツ語 I に合格していない者にはドイツ語 II の履修を認めない。同様にドイツ語 II に合格していない者にはドイツ語 III の履修を認めない。

### 4. その他の注意

a. ドイツ語の授業はシステムティックに進められるので1回でも休むとついて行くのが大変になる。全出席を目指すしかない。

b. 辞書の紹介は最初の授業で行う。

c. 教科書は品切れにならぬうちに早目に購入のこと。

d. 本学のドイツ語専任教官のオフィスアワーは次の通り。有効に活用されたい。

氏 名	研究室番号	曜 日	時 間
大塚 讓	4 2 4	火曜	2時～3時
鈴木 将史	3 5 7	火曜	1時～2時
副島美由紀	5 2 0	木曜	1時～2時

★ フランス語

【昼間コース】 ※夜間主コースは後掲

フランス語の授業は下記のクラス編成で行われる。

	フランス語 I	フランス語 II	フランス語 III
火	1 橋 本 2 小 林 3 尾 形	A 橋 本 B 小 林 C 江 口	
水	1 江 口 2 尾 形 3 Abdelfettah		Abdelfettah
木	1 梶 野 2 尾 形 3 江 口	D 梶 野 E 江 口 F 尾 形	

- (1) フランス語 I - 3 (火, 水, 木) は選択制の会話クラスであり, 定員は35名までとする。希望者多数の場合は抽選を行う。その他の学生は学生番号で均等割とする。
- (2) フランス語 II - E および II - F は会話クラスであるが, 前年度に I - C (会話クラス) を選択しなかった学生も履修することができる。
- (3) フランス語 III はネイティブ・スピーカーによる上級フランス語会話クラスである。
- (4) 91年度以前入学者は旧カリキュラムが適用されるので注意すること。

★ 中国語

【昼間コース】 ※夜間主コースは後掲

授業担当者

	中国語 I	中国語 II	中国語 III
火	A 野 沢 B 高	A 野 沢 B 高	
水	A 裴 原 B 萩		裴
木	A 裴 原 B 萩	A 裴 原 B 萩	

- (1) 中国語 I A・I B は, 学生番号順によるクラス分けを行う。所属クラスは追って指示する。
- (2) 中国語 II のクラス編成は前年度履修した中国語 I に同じ。
- (3) 中国語 III は, 新カリキュラムの学生のみ履修できる。中国語 II を4単位履修済みでなければならない。
- (4) 旧カリキュラムの学生が中国語 I を再履修する場合は水曜日と木曜日で履修することになるが, 所属クラスについては授業開始時に別に指示する。
- (4) 一年次生は, 4月最初の授業に必ず出席して, 必要な指示を受けること。

★ スペイン語

【昼間コース】

授業担当者

	スペイン語 I	スペイン語 II	スペイン語 III
火	守 下	山 田 守 下	
水	山 田		山 田
木	山 田	山 田	

★ ロシア語

【昼間コース】

授業担当者

	ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅲ
火	A 松 本 B 匹 田	A 松 本 B スペヴァコフスキー	
水	A スペヴァコフスキー B 匹 田		匹 田
木	A 匹 田 B スペヴァコフスキー	A スペヴァコフスキー B 匹 田	

- ロシア語ⅠはAとBの2クラスにクラス分けを行う。具体的なクラス分け方法については別途掲示を行う。
- ロシア語Ⅱの受講方法は原則的に自由であるが、スペヴァコフスキー教官担当の授業を2コマ履修することはできない。

★ ドイツ語

★ フランス語

★ 中国語

【夜間主コース】

授業担当者

	ドイツ語	フランス語	中国語
火	鈴 木	尾 形	萩 原
木	鈴 木	江 口	萩 原

3. 日本語・日本事情科目の履修方法

日本語・日本事情科目は、外国人留学生在が履修し単位を修得した場合には、外国語科目の卒業所要単位に充当できる。

(この場合、母国語が英語の場合は英語の単位に充当し、母国語が英語以外の場合は独・仏・中・西・露語として選択できる。)

なお、一般の学生も日本語・日本事情科目を履修できるが、卒業所要単位にはならない。

4. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目の実技2単位については、1年次毎週2時間(2単位の $\frac{2}{3}$ )、2年次前期または後期に毎週2時間(2単位の $\frac{1}{3}$ )の計2単位、理論については、昼間コースは1年次前期、夜間主コースは2年次後期に毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。

5. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目は、専門の基礎を与えることを目標として開設しているが、専門教育の単なる前段的なものではなく、広義の基礎を与えるとともに、一般教育の充実と統合を図るねらいをもって開設されている。

このため、学科で必修と指定した科目以外の履修も重要である。

6. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は各学科・課程で指定した選択必修科目(商業教員養成課程は教職科目の必修を含め)のほか研究指導を含め、合計76単位を修得しなければならない。

夜間主コース生が学則等16条の2により履修できる昼間コース開設科目は、夜間主コースにおいて開設していない科目について履修することを原則とする。ただし、夜間主コースの開設科目で当該年度に非開講の場合は、昼間コースにおいて同一科目を履修することができるものとし、その単位を修得した際は新たに夜間主コースで履修することはできない。

なお、履修できる単位は34単位(既に修得済の単位を含む)までとし、修得した単位は30単位を上限として卒業所要単位に算入されるが、配当年次が上位の科目は履修できない。

7. 研究指導の履修方法

昼間コースの研究指導は、毎週3時間、3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)であり、商業教員養成課程以外の学生は、原則として所属する学科の研究指導を履修するものとする。なお、平成3年度以前入学者で英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り、教科に関する科目(英語専修)の研究指導を履修するこのができる(詳細については別表(Ⅱ)を参照のこと)。

夜間主コースの研究指導は、3年次(Ⅰ)、4年次(Ⅱ)、卒業論文の各々4単位で構成されているが、社会情報学科については(Ⅱ)のみの開設となっている。

履修方法については、各学科によって異なるので学則別表を参照のこと。

研究指導を履修しない学生（いわゆるノンゼミと称する学生）は卒業所要単位に算入される研究指導分の単位をそれぞれ所属する学科・課程の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。

### 8. 教職科目の履修方法

教職科目は、教員免許状取得のために開設されており、商業教員養成課程に所属する学生は「教職に関する科目」<sup>※</sup>23単位が卒業所要単位に算入され、他に指定された専門教育科目を併せて修得することにより、高等学校教諭1種免許状（商業）の取得資格が与えられる。  
 (注) 平成元年度以前入学者は20単位

なお、別表（Ⅱ）による教科に関する科目の単位数と、教職に関する科目のうち「英語科教育法」を修得すれば高等学校教諭1種免許状（英語）も併せて取得することができる。

商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で上記免許状の取得を希望する者は、別表（Ⅰ）・（Ⅱ）の単位をそれぞれの学科の卒業所要単位のほかに修得しなければならない。

また、別表（Ⅱ）で指定した科目のほか「道徳教育の研究」2単位を修得することにより、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭1種免許状（英語）をも取得できる。

ただし、夜間主コースの学生で英語の免許状を取得できるのは商学科所属者だけである。

### （Ⅰ）高等学校教諭1種免許状（商業）取得希望者の単位修得方法

（商業教員養成課程所属以外の学生）

#### イ 平成4年度以降入学者

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
基礎教育科目	4	法学概論（日本国憲法2単位を含む）	
教職に関する科目	19	教育基礎論Ⅰ 4 教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2 教育方法学 2 商業科教育法 2 教育実践論Ⅰ 2 教育実践論Ⅱ 2 教育実習 3	
教科に関する科目	20	職業指導 4	マクロ経済学、統計学、流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理論、財務管理論、簿記論、民法総論、会社法、組織と情報総論、ソフトウェア科学Ⅰ
合 計	43		
備 考 基礎教育科目の法学概論及び教科に関する科目の選択科目については、それぞれの学科の卒業所要単位と併用できる。			

(商業教員養成課程所属以外の学生)

□ 平成3年度以前入学者

入学年度	平成2・3年度			平成元年度以前		
区分	単位数	必修科目	選択科目	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)		4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する科目	19	教育基礎論Ⅰ 4 教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2 教職演習 2 商業科教育法 2 教育実践論Ⅰ 2 教育実践論Ⅱ 2 教育実習 3		16	教育基礎論Ⅰ 4 教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2 商業科教育法 2 教育実習 2	教育方法学 2 教育実践論Ⅰ 2 教育実践論Ⅱ 2 (2科目選択)
教科に関する科目	20	職業指導 4	統計学, 経済原論Ⅰ, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 経営情報論, 情報処理Ⅰ, 財産法Ⅰ, 会社法 (4科目選択)	20	職業指導 4	統計学, 経済原論Ⅰ, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 経営情報論, 情報処理Ⅰ, 財産法Ⅰ, 会社法 (4科目選択)
合計	43			40		
備考 基礎教育科目の法学概論及び教科に関する科目の選択科目については, それぞれの学科の卒業所要単位と併用できる。						

(Ⅱ) 高等学校教諭1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

イ 平成4年度以降入学者

区分	単位数	必修科目	選択必修科目	
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)		
教職に関する科目	8	教育の本質及び目標に関する科目	教育基礎論Ⅰ 4	
		教育に係る社会的, 制度的又は経営的な事項に関する科目		
		幼児, 児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程に関する科目	教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2	
	19	6	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する科目	教育方法学 2
			教科教育法に関する科目	英語科教育法 4
		特別活動に関する科目	教育実践論Ⅱ 2	
		2	生徒指導, 教育相談及び進路指導に関する科目	教育実践論Ⅰ 2
3	教育実習	教育実習 3		
教科に関する科目	40	英語学関係 8	言語学概論 4 英語学Ⅱ 4 英語学Ⅲ 4	
		英米文学関係 12	英文学史 4 英文学概論 4 英文学Ⅰ 4 英文学Ⅲ 4	
	6	英会話・英作文 4 英語コミュニケーション 2		
	2	比較文化(外国事情を含む。)	比較文化 2	
合計	63			
備考 1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし, 基礎教育科目の法学概論は卒業所要単位と併用できる。 2. 教職に関する科目のうち「教育基礎論Ⅰ」, 「教育基礎論ⅡA」, 「教育基礎論ⅡB」, 「教育方法学」, 「教育実践論Ⅰ・Ⅱ」, 「教育実習」は(Ⅰ)(Ⅱ)表両方の場合に併用できる。 3. 夜間主コースの学生で英語の免許状を取得できるのは商学科所属者だけである。				



□ 平成2・3年度入学者

区分	単位数	必修科目	選択必修科目		
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)			
教職に関する科目	21	教育の本質及び目標に関する科目	教育基礎論Ⅰ 4		
		教育に係る社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目			
		幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程に関する科目	10	教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する科目	2	教職演習 2	
		教科教育法に関する科目	6	英語科教育法 4	
		特別活動に関する科目		教育実践論Ⅱ 2	
		生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	2	教育実践論Ⅰ 2	
教育実習	3	教育実習 3			
教科に関する科目	40	英語学関係	8	英語学概論 4 英語学Ⅰ 4	言語学概論 4 言語学Ⅱ 4 英語学Ⅲ 4
		英米文学関係	12	英文学史 4 英文学概論 4 英文学Ⅰ 4	英文学Ⅱ 4 英文学Ⅲ 4
		英語コミュニケーション	6	英会話・英作文 4 英語コミュニケーション 2	
		比較文化(外国事情を含む。)	2	比較文化 2	
					商業英語 4 研究指導 12
合計	65				
備考					
<p>1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、基礎教育科目の法学概論は卒業所要単位と併用できる。</p> <p>2. 「商業英語」は「英語学Ⅲ」と読み替えることができる。</p> <p>3. 「研究指導」は商業教員養成課程に所属する学生で、英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り履修することができ、修得単位は英語学又は英米文学の単位として換算できる。</p> <p>4. 教職に関する科目のうち「教育基礎論Ⅰ」、「教育基礎論ⅡA」、「教育基礎論ⅡB」、「教職演習」、「教育実践論Ⅰ・Ⅱ」、「教育実習」は(Ⅰ)、(Ⅱ)表両方の場合に併用できる。</p>					

ハ 平成元年度以前入学者

区分	単位数	必修科目	選択必修科目	
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)		
教職に関する科目	14	教育原理 4 教育心理学 4 英語科教育法 4 教育実習 2		
教科に関する科目	32	英語学関係	8	☆英語学概論 4 ☆言語学概論 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
		英文学関係	8	☆英文学史 4 ☆英文学概論 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4
	英会話・英作文	4		商業英語 4 研究指導 12
合計	50			
備考				
<p>1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、基礎教育科目の法学概論は卒業所要単位と併用できる。</p> <p>2. 選択必修科目のうち☆印は各領域からそれぞれ一科目必修。</p> <p>3. 「商業英語」は「英会話・英作文」又は演習科目と読み替えることができる。</p> <p>4. 「研究指導」は商業教員養成課程に所属する学生で、英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り履修することができ、修得単位は英語学又は英文学の単位として換算できる。</p> <p>5. 教職に関する科目のうち「教育原理(教育基礎論Ⅰ)」、「教育心理学(教育基礎論ⅡA・ⅡB)」、「教育実習」は(Ⅰ)、(Ⅱ)表両方の場合に併用できる。</p>				

### 9. 単位の互換制度

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。この場合の身分は北海道大学の特別聴講学生となる。

(1) 聴講出願対象者

履修方法等に関する規則第6条に規定する〔1, 2年次配当科目55単位以上〕を修得した平成6年4月現在の4年次生。

(2) 聴講科目

後日掲示いたします。

(3) 授業料 不要

※学生が他の大学において修得した単位については、3科目12単位を、外国の大学において得た学習の成果については30単位をそれぞれ超えない範囲（両者を含む場合は、30単位を超えない範囲）で卒業所要単位の一部とみなすことができる。

### 10. 平成4年度以前入学者の履修上の注意事項

次表の適用入学年度生においてB欄に掲げている授業科目を履修し、単位を修得した場合は、A欄に掲げている授業科目の単位を修得したことになります。

よって、A欄に掲げている授業科目の単位をすでに修得済の者は、B欄に掲げている授業科目を履修することはできません。

【昼間コース】

適用入学年度	授 業 科 目	
	A 欄	B 欄
平成元年度以前	社会科学概論	社会科学特別講義Ⅰ 社会科学特別講義Ⅱ
	工業経済学	産業経済論
	国際法Ⅰ	国際法
	国際法Ⅱ	比較法
	英語学演習Ⅰ	英語学Ⅰ
	英語学演習Ⅱ	英語学Ⅱ
	英文学演習Ⅰ	英文学Ⅰ
	英文学演習Ⅱ	英文学Ⅱ
平成2年度以前	経済学特別講義	経済学特別講義Ⅰ
	体育講義	保健体育理論
平成3年度以前	管理科学概論	社会情報学概論 社会情報概論
	経済原論Ⅰ	マクロ経済学
	経済原論Ⅱ	ミクロ経済学
	経済原論Ⅲ	マルクス経済学
	経済史概論	経済史
	産業経済論	産業組織論
	貿易政策	国際経済政策論
	簿記学	簿記論
	会計学	財務会計論
	簿記演習	会計学特講Ⅰ
	憲法	憲法総論
	行政法Ⅰ	行政法総論
	行政法Ⅱ	行政機構法
	財産法Ⅰ	民法総論
	財産法Ⅱ	契約法
	経済刑法	刑法
	民事訴訟法	民事手続法
	無体財産法	知的財産権法
	*管理科学通論 6	管理科学 4
	*管理科学Ⅰ 6	計画科学Ⅰ 4
	*管理科学Ⅱ 6	社会計画Ⅰ 4
	*管理科学Ⅲ 6	計画科学Ⅱ 4
*応用数学(代数) 6	計画数学Ⅰ 4	
*応用数学(解析) 6	計画数学Ⅱ 4	
*応用数学(統計Ⅰ) 6	応用統計Ⅰ 4	
*応用数学(統計Ⅱ) 6	応用統計Ⅱ 4	

平成3年度以前	*経営情報論	6	経営情報論	4
	*会計情報論	6	会計情報論	4
	*管理科学特講Ⅰ	3	計画科学特講Ⅰ	2
	*管理科学特講Ⅱ	3	計画科学特講Ⅱ	2
	*経営情報特講	3	組織と情報特講Ⅰ	2
	*情報処理Ⅰ	6	ソフトウェア科学Ⅰ	4
	*情報処理Ⅱ	6	知識情報論	4
	*情報処理Ⅲ	6	ソフトウェア科学Ⅲ	4
	*情報処理特講	3	情報科学特講Ⅰ	2
	教育原理		教育基礎論Ⅰ	
教育心理学		教育基礎論ⅡA 教育基礎論ⅡB		
教育史		教職演習 教育実践論Ⅰ 教育実践論Ⅱ	2科目 選択	
平成4年度以前	教職演習		教育方法学	
平成4年度	社会情報学概論		社会情報概論	

(注) 1. \*印を記してある科目を履修した際の修得単位は従前どおりとする。

(授業科目の右側にある数字は、単位数を示す)

2. 平成3年度以前入学者が、適用学則での開設科目以外の開講科目で上記の比較表に記されていない科目については、新・旧カリキュラム双方での開設科目として取り扱うので、履修することは差し支えない。

#### 【夜間主コース】

適用入学年度	授業科目	
	A 欄	B 欄
平成4年度	社会情報学概論	社会情報概論

#### 11. 進級に必要な単位

##### 【昼間コース】

(1) 1年次 → 2年次 16単位

1年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1年次配当科目のうちから16単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 2年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 学科または課程に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

(2) 2年次 → 3年次 55単位

2年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1・2年次配当科目のうちから55単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 3・4年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 研究指導に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

この55単位の算入については次表のとおりなので、履修上注意すること。

区分	年度	平成4年度生以降	平成3年度生以前
一般教育科目		24単位まで導入	24単位まで導入
外国語科目		20単位 "	16単位 "
保健体育科目(理論・実技)		4単位 "	4単位 "
基礎教育科目		12単件 "	12単件 "
専門教育科目		2年次配当科目	2年次配当科目

### 【夜間主コース】

(1) 1年次 → 2年次 16単位

1年次終了までに、1年次配当科目のうちから16単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 2年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 学科に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

(2) 2年次 → 3年次 42単位

2年次終了までに、1・2年配当科目のうちから42単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 3・4年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 研究指導に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

## IV 科目試験の受験に際しての注意事項

定期試験（前期、後期、半期制科目中間試験）およびこれに準ずる試験を受ける場合、次の注意事項を厳守して、不利益にならないよう十分留意してください。

1. 指定された席に着席すること（試験開始5分前には着席していること）。  
随時行う試験では席を指定しないこともある。
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない（座席の受験番号横におくこと）。
3. 試験時刻に遅れた者は原則として受験できない。ただし、20分以内の遅刻者は、事情により監督者の許可を得て受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了前10分以後は退場できない。
6. 教科書、参考書、ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め、これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
7. 教科書、参考書、ノートなどの参照を許された試験においては、それらの貸借をしてはならない。受験生の間で、貸借のあった場合は、それを不正行為とみなす。
8. 試験において、私語、その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意すること。
9. 試験中の不正行為については、学則に照し厳重に処分されるから厳正な態度で受験すること。さらに、不正行為を行った者に対しては、その学期に履修した科目の総ての単位が認定されない。したがって、在学期間が1年以上延期することになる。
10. 配付された答案用紙は必ず提出し、これを持ち帰ってはならない。
11. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させる。

## V 卒業論文執筆要領

卒業論文の作成要領について一般的な原則をのべるが、論文の形式は専攻分野ごとに、用語、文献の引用方式、記号の利用などに差があるので、指導教官の指示に従うこと。

### 1. 提出期限

今年度は、1月31日(火)17時(時間厳守)なので十分留意すること。仮り綴じのうえ、附属図書館で図書返却の確認を受けたのち、製本料を添えて教務係に提出する。仮り綴じのためには、教務係のドリルを使用してもよい。製本料は確定次第掲示で通知する。

表紙のみ、あるいは目次程度、または序章程度といった論文とは認めがたい卒業論文は受理しない。

### 2. 用紙など

和文で執筆する場合には、所定の原稿用紙を使用し、黒またはブルー・ブラックのインクを用いる。油性インクのボールペンは避けたい(鉛筆は不可)。文字は楷書とし、誤字・脱字に注意する。多色にする必要がある場合にも一定の方針をたてて統一し、さらに、必要最低限の多色化にとどめること。

ワード・プロセッサで作成する場合の用紙の規格、体裁及び1ページの文字数等については、指導教官の指示に従うこと(但し、感熱紙の使用は不可)。欧文で執筆する場合には、通常サイズの白地のタイプライター用紙にタイプ印刷する。いずれもオリジナルを提出し、全体をコピーしたものは提出しないこと。

### 3. 表紙および裏表紙

表紙と裏表紙は本文と同一の用紙を用いる。表紙には論文のタイトル、学生番号、氏名、ゼミナール名、および提出年度(平成6年度提出)を記し、裏表紙に図書館で返却済確認印を受ける。タイトル等は原簿に記入され、成績証明書、図書館の目録カード、製本後の背表紙の書きこみ等の場合に必要になるので、正確に書くこと。副題をつける場合には、その左右を棒線ではさむ。なお、表紙のタイトル全部を『』でかこんではいけない。

### 4. 「はしがき」と「目次」

「はしがき」(「まえがき」「序」)にはテーマを選択した動機などを書く。指導や助言を受けた人達、調査等に協力した人達に対する謝辞もここに書く。ただし、「はしがき」は省略してもよい。「はしがき」と「あとがき」の両方を書くことは、卒業論文の場合、概して不適當である。

「目次」は「表紙」または「はしがき」の次の用紙に書く。必要に応じて、「表目次」、「図目次」を別につけ加えてもよい。

### 5. 本文

- (1) 文体は「……である」の形とし、なるべく簡潔な文章とする。
- (2) 新しい章は新しいページから始める。
- (3) 章題と文章、あるいは、章題と節題の間は1行あける。
- (4) 章(節)の番号と章(節)題の間は1マスあける。
- (5) 各節の間は2行あける。
- (6) 新しいパラグラフの始めは1マスあける。
- (7) 句読点などは1字とする。ただし、行末の句読点は「ブラサゲ」として、マスの欄外に書き、次行のはじめにはもっていかない。また、句読点の次のマスをあけてはいけない。
- (8) 数式は、かならずしもマスや行にこだわらず、見やすいように余裕をもって書いてよい。
- (9) 文章の中の欧字と算用数字は、原則として2字で1マスとする。
- (10) 欧文イタリック文字は、単語の下または文章の下にアンダーラインを引いて示す。

### 6. 図表

表とグラフは番号と見出しをつけ、本文との対応を明らかにする。原稿用紙と同じサイズになるように、グラフ用紙や集計用紙に書いて、そのまま1ページ分として綴じこむとよい。「別表」として論文の末尾にまとめることもできる。サイズが小さいときは、原稿用紙の当該箇所にはりつけてもよい。計算機のプリントアウトは、サイズがあえばそのまま1ページとしてよい。いずれも、製本のときにヘリを数ミリメートル切り落とすことがあるので、上下左右は十分にマージンをとっておくこと。

図表には、資料の出所を明記しなければならない。他の文献等の図表のコピーをそのまま利用することは、特別の場合を除いて避けるべきである。

### 7. 「注」

説明の補足や引用・参照を示すため注を用いる。注のつけ方としては脚注や後注などがある。指定原稿用紙では「脚注」をつけることができる。ただ1つの注を3ページ以上に分けることは不適當であるから、長い注については工夫が必要である。後注として注を各章の終りにまとめて書いてもよい。このとき注番号は各章ごとに1から始めてよい。なお、注のなかに注をおいてはいけない。

### 8. 引用文献、参考文献、および引用

論文作成において、文献の参照と引用の明示は最も注意すべき点である。文献からの引用には必ず「」(欧文引用のときにま" ")をつけ、その文献を番号のついた注などで明示する。注番号はたとえば、「……である。(注1)」、「……である<sup>(1)</sup>。」などのように書く。肩付きのできないワードプロセッサのときは、「……である(注1)。」としてもよい。なお、

原典自体のなかに「 」(または“ ”)が含まれる場合には、原典中「 」(または“ ”)を『 』(または‘ ’)に代える。

要約して引用するときには、原文の文意を損なわないようにし、更に要約引用の範囲が分るように、出典と引用箇所を(例えば注を用いて)明示する。「孫引き」は、できるだけ避けて、原典にあたってチェックすべきであるが、やむを得ない場合には再引用であることを明記する。

引用文献、参考文献は注番号を明示したうえで、脚注部分に記載するか、または論文末尾(または各章末尾)に一括して記載する。文献記載の原則は次のとおりである。

#### 和 書

著者名『書名』、出版社名、出版年。

または

著者名『書名』(出版社名、出版年)。

引用ページを明示する場合には、このあとに引用ページを書く。

<例> 小宮隆太郎・天野明弘『国際経済学』、岩波書店、1972年、p. 10。  
藤瀬浩司『資本主義世界の成立』(ミネルヴァ書房、1980年)、56頁。

翻訳書の場合にも

<例> J. ブーヴィエ (井上隆一郎訳)『ロスチャイルド』(河出書房新社、1960年)、第3章。  
R. A. Mundell, *International Economics*, New York: Macmillan, 1968,  
(渡辺・箱木・井川訳『国際経済学』、ダイヤモンド社、1971年)。

などが通常の形式である。

和雑誌のなかの論文(および論文集の中の一つの論文)

著者名「論文名」、『雑誌名』第△△巻、第△号(発行年)。

著者名「論文名」、編集名『書名』出版社名、出版年。

(または、著者名「論文名」、『書名』(編集名)出版社名、出版年)。

などとする。

<例> 関口尚志「イングランド銀行バーミンガム支店」、『経済学論集』(東京大学)第47巻第2号、××頁。  
岡田純一「近代経済学とスミス」、『経済学史学会編『国富論の成立』、岩波書店、1976年、p. 345。(複数ページの場合、pp. 345~351.)

洋書および洋雑誌のなかの論文

著者名、書名<sup>(注1)</sup>、出版地：出版社、出版年

著者名、“論文名”、雑誌名、Vol. 巻数、No. 号数(発行年)

等とする。ただし、出版地：出版社を( )に入れることもある。また“論文名”、“雑誌名”の代りに“論文名”、“雑誌名”とすることも多い。著者名は A. Smith とする場合と Smith, A. とする場合の両方があるが、著者名が2つ以上並ぶ(共著の)場合に、2人目以降の人名については、A. Smith (または Adam Smith) のようにファースト・ネームを先に書くのが

一般である。雑誌の No. 号数はしばしば省略する。また、Vol. および No. の代わりに vol. および no. とすることも多い。

これらについては、標準的な図書および雑誌を参照して、もっとも適当と思われるものを選択したうえで、統一して使用する。

さらに、op. cit., loc. cit., ibid., (または Ibid.)<sup>注(2)</sup>等もよく利用される。辞書などで意味を調べて、誤用しないことが必要である。

注(1) 書名、雑誌名についているアンダーラインはイタリックを使用せよという指示である。

注(2) op. cit., loc. cit., ibid., は、引用によってローマン体を使うかイタリック体を使うかによって変わる。

<例> op. cit., (前掲の意味)で前掲が、論文名であればローマン体、前掲が書名、雑誌名であればイタリック体を使用する。

loc. cit., (上記引用文中)、ibid., (同上)も同様である。

なお、ibid については、先頭に来る時は Ibid., のように大文字となる。

#### 参考文献

斉藤孝著『増補学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部、初版1977年、増補1988年)。

米国現代語学文学協会編(原田敬一訳編)『MLA 新英語論文の手引』(北星堂書店、第2版、1986年)。

トラウビアン著(高橋作太郎訳)『英語論文の書き方』(研究社出版、1982年)。

原典白澤の語彙に「」を代る。

「」(または「')に代える。  
必要に応じて、出典と引用箇所を(例)として、  
で、当該箇所を括弧で囲む。必要に応じて、  
記す。

引用文献、参考文献の

6巻既刊論文の目録

と編纂料(例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

著者名「例)として、

## VI 平成6年度開講科目(昼間コース)の講義要目

### 目 次

1 一般教育科目	43
2 外国語科目	50
3 保健体育科目	75
4 基礎教育科目	79
5 専門教育科目	88
6 教職科目	136
7 研究指導	143
8 一般教育ゼミナール	171

# 1 一般教育科目

## 哲 学

助教授 久保田 顕 二

哲学が取り組む数々のテーマの中から、特に「主要問題」と呼べるようなものをいくつか選んで論じる。それによって、哲学の基本概念・考え方を習得する。話の順序としては、まず、問題の所在（そもそも、なぜそういったことが問題になるのか）を、具体例をも挙げながら説明し、次いで、その問題についての過去および現代の諸学説を紹介する。取り上げる予定のテーマは次の通り。

(1) 人格の同一性, (2) 心身問題, (3) 行為論, (4) 科学哲学の諸問題, など。

「哲学」の特徴、および勉強の仕方について、あらかじめ以下の諸点に注意を喚起しておきたい。

- (1) 哲学では、関心は自ずと「根本的なもの」のほうへと向かい、従って、例えば、他の学問分野では「自明」とされているような基本的な前提事項が敢えて取り出されて疑問に付される。
  - (2) しかし、哲学とは決して高遠で現実離れた学問なのではなく、むしろ、哲学問題の所在は、多くの場合、日常卑近なごく普通の場面にある。
  - (3) 哲学では、同じ問題や、問題の同じ局面についてもいろいろな見方、考え方があり、しかも、後の時代に現われるからといって、必ずしも、よりすぐれていたり正しかったりするとは限らない。
  - (4) 哲学問題の処理においては「論理」ということが非常に重要であり、一見、屁理屈や詭弁と見えても、筋の通った主張はこれを尊重せねばならない。
  - (5) 訳本でもよいから、大哲学者と呼ばれる人々の書いたものにじかに触れることが大切であり、また、そのほうが却って理解が容易であることが多い。
- なお、教科書は特に指定しないが、講義の中で参考文献を随時紹介する。

## 倫 理 学

助教授 久保田 顕 二

倫理学とは、人間にとって何が「善い」ことであり、いかに行為をするのが「正しい」ことであるかを突き詰めて考察する学問であり、広い意味での「哲学」の一部門である。そういった事柄については、通常、社会生活を送っていれば、ある程度の基本的な理解は誰にでも自然に身につくものである。しかし、より精緻で一貫した理解に到達するためには、私達は「倫理学」を学び、自らのうちにすでにある、漠然とした先行理解を反省的・自覚的に研ぎすましてゆかなくてはならない。

本講義では、倫理的な諸問題を、具体的・実証的な側面と、抽象的・原理的な側面との両面から検討する。すなわち、

- (1) 現代の代表的な倫理問題である、「生命倫理（バイオエシックス）」並びに「環境倫理」の諸問題（例えば、安楽死・尊厳死問題、脳死問題、人工妊娠中絶など）を取り上



げて論じる。

- (2) 倫理学の基本概念（例えば、自由、責任、功利性、徳、権利、義務など）を取り上げて説明する。さらに、それらの概念をめぐる、過去および現代の学者らの努力を跡づけてゆく。そのことを通して、問題を理論的にしっかりと捉え、分析するための「視座」ないしは「枠組み」を身につける。

(1)と(2)の作業を交互に行ってゆく。

なお、数回ごとに、簡単なアンケートをとって、論じられている問題に対する意見や感想を書いてもらう予定であり、また、成績評価の方法（の一環）として、必ずレポートの提出を求める。

教科書は特に指定しないが、講義の中で参考文献を随時紹介する。

## 心理学

教授 和田 完

現代心理学の特質を、歴史的な成立の過程を通して検討する。行動主義的な方法の導入、力動的な考え方などが特に強調されよう。また、動機づけ、学習実験、認知、ことに知覚の問題、パーソナリティ論等が話題とされる。

なお、精神病理学、文化人類学等の隣接領域について、しばしば触れるであろう。

テキスト：和田完・馬場雄二著『人間行動の諸相』明玄書房

## 歴史学 A

教授 荻野 富士夫

大教室の講義です。

今年度の前期は、「日本近代における差別の諸相」として、「差別」の観点から、人権や民主主義の問題を考えます。具体的には、被差別部落の問題、朝鮮人・中国人に対する民族差別、アイヌ民族の問題、女性に対する性差別、身体の病気や障害にもとづく差別など、現代においてもまだ進行形の問題です。

後期は、来年の「敗戦50年」をみすえて、あらためて「15年戦争」——満州事変・日中戦争・アジア太平洋戦争——の意味を、多面的に論じます。前期の「差別」の問題が、この戦争の段階でどうであったのかも視野に含めます。また、「戦後50年」の意義を考えることにもなるでしょう。

いずれも、前・後期の最初の時間に、詳しい日程表を配付します。

評価の方法は、④日本近現代史に関する自由研究——400字詰原稿用紙30枚以上、⑤日本近現代史上における古典的著作ないし研究書（新書程度）に対する批評的レポート——同30枚以上、のいずれか選択と定期試験、および月一回程度実施するアンケートの提出状況とします。いうまでもなく、レポート類はオリジナルなものに限ります。

## 歴史学 B

教授 荻野 富士夫

少人数による日本近代史の演習形式の授業です。

今年度も昨年度に引きつづき、「『小樽新聞』の研究」をテーマとします。『小樽新聞』

は1894（明治27）年創刊の新聞で、1942年、『北海タイムス』などと合併して現在の『北海道新聞』になるまで、道内の有力新聞として、政治・経済・文化面で大きな影響力をもっていました。図書館所蔵のマイクロ・フィルムを用い、参加者が各自の課題を設定し、調査・考察のうえで発表・討論をおこないます。

今年度は1918（大正7）年9月からで、米騒動や第一次世界大戦の終結などがどのように報道されているのか、が大きな関心事となるはずですが、大正デモクラシーや社会運動の高まりが紙面にどのようにあらわれるのかも、今年度の注目点です。

10人程度が好都合なので、第1週目と第2週目に連続して出席することを科目登録の条件とします。この授業の評価は、発表内容と毎回の討論への参加状況によって判断します。

## 日本文学 A

教授 村山 出

万葉歌人のなかでもっともユニークな山上憶良の文学を中心に講義します。

奈良時代文化が最も栄えた神亀・天平期は万葉歌も題材の多様性と抒情の質において大きな展開を見せました。なかでも、筑紫でめぐりあった大伴旅人と山上憶良は、交流を通じてめいめいが大いに独自性を発揮し、万葉歌の世界を豊かなものにしました。

講義はまず憶良以前の代表的な歌人の作品、ついで同時代の主な歌人たちの作品に触れ、万葉歌風の変遷を抑えることによって旅人と憶良の作品の特質を浮き彫りにし、究極的には異彩をはなつ憶良の文学的な営みが私たちに訴えてくる意味を考えたいと思います。

1年間の授業計画は以下のとおりです。1講時に一つのテーマを進める予定ですが、何らかの事由のために若干変更することもあるかと思えます。あらかじめ含んでおいて下さい。

### I 宮廷詞人二代——飛鳥藤原期

- 1 従駕儀礼と宴の歌（額田王） 呪と恋の才気
- 2 宮廷儀礼歌の確立（人麻呂） 鎮魂と讃仰性
- 3 愛の歌物語（人麻呂） 別離のロマン

### II 下級官人作者——奈良前期(1)

- 1 従駕歌の変質（金村） 宮廷歌の私情
- 2 自然歌の成立（赤人） 讃美性の変容
- 3 伝説歌の世界（虫麻呂） 旅愁と幻想美

### III 筑紫の貴族作者——奈良前期(2)

- 1 報凶問歌（旅人） 亡妻の嘆き(1)
- 2 悼亡詩（憶良） 亡妻の嘆き(2)
- 3 日本挽歌（憶良） 亡妻の嘆き(3)
- 4 令反感情歌（憶良） 惑いに生きる
- 5 思子等歌（憶良） 愛苦を越える
- 6 哀世間難住歌（憶良） 老いを嘆く心
- 7 帯比売顕彰（憶良） 永遠への希求
- 8 歌詞両首（旅人） 隔漠の恋の夢

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| 9 讃酒歌 (旅人)      | 酒と酔狂願望 |
| 10 淡等謹状 (旅人)    | 房前との風雅 |
| 11 梅花歌 (憶良と旅人)  | 梅花の宴の歌 |
| 12 遊於松浦河序 (旅人)  | 松浦河の仙女 |
| 13 志賀白水郎歌 (憶良)  | 白水郎の追慕 |
| 14 熊凝歌 (憶良)     | 熊凝少年哀悼 |
| 15 恋男子名古日歌 (憶良) | 亡き児を恋う |
| 16 貧窮問答歌 (憶良)   | 問民苦の慨き |
| 17 好去好来歌 (憶良)   | 遺唐使の讃歌 |
| 18 沈痾自哀文 (憶良)   | 自己の診断書 |
| 19 悲嘆俗道詩 (憶良)   | 近づく死の影 |
| 20 老身重病歎 (憶良)   | 老病辛苦と愛 |
| 21 世間苦の文学 (憶良)  | 愛と無常の歌 |

テキストはありませんので、毎回プリントを配布する予定です。また、参考書や出席調査などについては、最初の時間にお話しします。

## 日本文学 B

教授 村山 出

少人数のゼミ形式のクラスです。課題は「万葉歌人の研究」とし、年度末にレポートを提出してもらいます。ふだんの報告とレポートの内容によって評価しますが、出席も重視します。

まず自分で任意の歌人を選んで作品（歌数が多い場合は抜粋）のプリントを作ってもらい、それをみんなのテキストとして1年間使用します。

めいめいが担当する歌人の作品について、註釈書や参考文献にあたって解釈・鑑賞・評価をまとめ、さらに作品の作られた事情や背景も調べて報告をし、質疑応答を通じて内容の理解を深めます。この過程で自分の作ったノートが、レポート作成の土台になります。

ゼミクラスの良さは、自分が意欲的に臨めば、新しい知識を得ることはもちろん、自分自身で問題を解決する喜びを味わえること、お互いに交流をもてることです。しかし一方で、自分が積極性を失うと、その時どきをおさなりに過ごし、虻蜂取わずになるという危険もあります。

大学に入ったからには早く自力で学び、自分を磨きたいと考えている人は履修して下さい。勉強の方法や参考文献などについては随時お知らせします。

## ドイツ文学

教授 中川 勇 治

本学年は、前期、後期のゼミマスターで講義テーマを別にします。前期は(1)文学研究の基礎的概念の説明、(2)Goethe以前のドイツ文学の史的展開を概略紹介すること、(3)特に作品としては、『ニーベルンゲンの歌』、中世盛期三大叙事詩人の主要作品(ハルトマン・フォン・アウエの『哀れなハインリヒ』、ゴットフリート・フォン・シュトラースブル

クの『トリスタンとイゾルデ』、ヴォルフラム・フォン・エシェンバハの『パルツィファル』)およびバロック時代の民衆出身作家グリムメルスハウゼンの『ジムプリツィシムス』を論考すること、それが講義内容となります。

後期は、第二次大戦以降の現代文学の中から、Heinrich Boll, Gunter Grass, Christa Holf 等の主要作品を取りあげ、今日のドイツ文学に見られる問題意識を探ってみます。

なお、私の講義の目的は、一般に我国にはあまり愛好されないドイツ文学を若い知識人に紹介すること、またこれがきっかけになり、自ら作品を読んでみようとする人々が出てくることでもあります。従って、私が受講者に望むことは、文学史的知識を得て満足することではなく、自分で実際に作品を読んで、精神の新しい地平をひらくことでもあります。

なお、参考文献その他については、講義の際に逐次、説明、紹介します。

## 社会学

助教授 宝福 則子

現代の社会で日々、身近に起こっている様々な現象や出来事(例えば「不況と失業」「環境破壊」「核家族」「高齢化社会」「民族紛争」「外国人出稼ぎ労働者」等の具体的な問題)を通して社会学的な物の見方を養ってもらおう。

「社会学とはどのような学問か?」という問いをしばしば受けるが、これについて第一回目の講義で簡単に説明する。一年間を通じて「社会学」の基礎理論や学説の解説のみをするつもりはない。

実際に私達が日常、見聞きするひとつの現象を、ビデオや新聞・雑誌等のメディアも使用しながら、それを大きな社会的連関から分析する「マクロ」レベルの分析と、より小さな「社会」の中で分析する「ミクロ」レベルの視点を身につけることを目標とする。最終的にはこの両レベルの間の関係についても考えてみる。

暗記式の勉強をするのではなく、「履修者自身が考える」社会学の講義を実践する予定なので、ノートをとるだけでなく、積極的な授業への参加を望む。

前期の筆記試験と、後期のグループないしは個人単位の発表・個人の学術小論文の提出によって成績評価する。

参考書は下記に挙げるが、各テーマ毎にその都度、参考資料を挙げる(テーマ内容は、第一回目の講義時に報せる)。

参考書: 中野秀一郎編「ソシオロジー事始め」

有斐閣ブックス 1990年

鈴木・木下・友枝・三隅編「社会学と現代社会」

恒星社厚生閣 1993年

## 社会思想史 A

教授 倉田 稔

講義形式の授業である。自主研究を望む人は、Bを選んで戴きたい。

今年度は、主に20世紀後半の社会思想を講ずる。ただし、初めの第1章は、ペーベルと女性論とし、その後始める。

途中で、文章、原稿、論文の書き方、その他を喋る、あるいは指導する。適宜ビデオなども見ていただくつもりである。また他の講師を呼んで話を聞くこともありうる。

受講者には、古今東西の大思想を1つ選んでいただいて、論文を書いてもらう。参考テキストは『社会思想史ノート』（丘書房）である。

## 社会思想史 B

教授 倉田 稔

少人数クラス制の自主研究の場である。講師の側からの講義はほとんど行わず、参加者の研究発表・報告が主になる。従って講義を望む方は、Aを選択願いたい。

1年を通じて学術小論文を書いていただく。ただしテーマは自主的に決めて戴く。

多い人数ではクラスが成り立たないので、適宜、人数を制限することもありうる。ただしその場合でも、先着順とか、適当数になるまで出席で考えるとかによって決める。

## 政治学

非常勤講師 坪井主税  
(札幌学院大学助教授)

政治とは、「島原の火山爆発」や「釧路の地震のような自然現象ではなく、「湾岸戦争」や「ユーゴの紛争」のような人為的現象である。されば、政治を良くするも悪くするも、その主体は、神・仏ならぬ人間である。人間には、一方に、権力と暴力（すなわち、銃と抑圧）そして金に物言わせて政治を左右する者がいる、が他方に、連帯と非暴力行動と（平和や人権などの）人類的・普遍的価値（観）を“武器”に政治を変革せんとする者もいる。本講座は、後者の人間の挑戦に光を当てる。誰が、いつ、どんな政治課題をどんな風に挑戦したのか。そしてその結果から、私達はどんな教訓を学べるのか。ペトラ・ケリー、エルンスト・フリードリッヒ、トレバー・ハダラストン、そしてジーン・シャープが登場人物である。出欠・評価方法については、第1時間目に。

## 社会科学特別講義 I (夏季集中)

非常勤講師 榊原清則  
(ロンドンビジネススクール)

この講義では「国際経営」の諸問題を、以下の順序で考えてみようと思います。

- (1) いわゆる「日本的経営」について
  - 終身雇用、年功制、企業別組合
  - 「日本的経営」の意義と限界
- (2) 日米欧の企業経営比較
  - 戦略および組織の違い
  - それぞれの強みと弱みの分析
- (3) 企業経営の国際化
  - 国際化とはなにか
  - パーノン仮説
  - 日本企業の国際化の現状と課題

## (4) 研究開発 (R&D) の国際化

- 日本のR&Dの特徴
- 企業のR&Dの国際化

## 物理学

教授 原田 稔

「現代の物理学の基盤となっている考え方はどのようなものなのか?」、「現在どのようなことが問題となっていて、どの方向に進もうとしているのか?」という観点から物質・宇宙をテーマにとりあげ、現代物理の考え方の本質にせまりたい。

テキスト: 広瀬立成著「現代物理への招待」(培風館) ¥1,800

## 化学 A・B

教授 片岡正光

科学技術の発展によって私達は、人類がかつて経験したことのない豊かな暮らしをしている。私達の身の回りの化学技術を利用した製品はもとより、自然界に存在しているものはすべて化学物質である。化学は衣・食・住や生物・医学等の分野に深くかかわっており、私達の日常生活と密接に関係している。化学に関する基礎的な知識は、化学とは縁遠い分野で活躍しようとする人であっても、現代社会を生きてゆく上で必要である。講義では化学の基礎を平易に解説するとともに、学生諸君が興味を有しているであろうと思われる、地球規模の環境汚染の問題やエネルギー問題、超伝導物質、新素材、化学センサーなどの現代化学のトピックスについても解説する。またビデオを使って最新の化学分析法を紹介する。なお、出席を重視するので、履修者は毎回出席のこと。

教科書: 多賀光彦・片岡正光・金谷憲一著

「教養の現代化学」(三共出版) 予価 ¥2,100

## 生物学 A・B

非常勤講師 金沢 甫

いまや大腸菌も人も木や草も基本的には同じようなしくみで子孫をのこし、生命を維持し生活していることが明かになってきている。生物学はこのしくみをより詳細に、より深く解明しようとして、多種多様の方面と方法から取り組んでいる。

限られた時間のなかで、それらの全体像を概観することだけでも容易ではない。そのため、ここでは、われわれの身体をはじめ、身近にみられる生命の営みの基礎的な現象や遺伝のしくみを中心にして、「人間の生物学」とでもいうことを述べていく予定である。それを通じて、自然科学の思考性や論理性もつかいがい知ってもらいたいとも思っている。

なお、臨海実習を行って、ウニ胚の初期発生を観察することを予定している。

## 2 外国語科目

### 英語 I

#### 講読A

- E101A 非常勤講師 坪谷 雍子

Text: Elenore Smith Bowen, 'Return to Laughter' Read and enjoy the world of a primitive people in Africa. This course will explore your rapid reading and creative writing. Class attendance is "must". Your grade will be damaged by excessive absence from class and your poor weekly reports.

- E102A 助教授 津曲 敏郎

K. Shimizu & R. J. Shorter: *Twenty-three Short Essays on English*  
(英宝社 ¥1,680)

英語および言語一般について基本的な知識を与える入門的エッセイを速読する。聞き取りを含む豊富な練習問題をとおして英語力向上をはかるとともに、英語そのものへの認識を深めることができよう。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や予習不足、授業への実質的不参加も欠席に準ずる扱いとなる。

- E103A 教授 大島 稔  
◦ E111A

テキスト: J. B. Alter et al. (1992), *Listen and Talk, Book II: International Understanding*, 金星堂

#### 授業内容:

聴解能力の習得を主たる目的とする授業で、テープ聴き取りによる内容把握テストはもちろん、自分の意志や自国の文化を相手に伝える、いわゆる「発信型」の英語技術の訓練にも役立つように工夫された練習問題も含まれている。テキストの内容は、「日米文化比較」、「世界情勢」である。英語能力訓練の側面でも内容の面でも、英検、TOEIC、TOEFL などの聴解力試験にも役立つクラスである。

全体で20課から成り、最後に小テストにより、その課のまとめを行う。授業は毎週1課ずつ進みます。テープによる予習を前提にしているので受講者には予習が欠かせません。

#### 評価と単位の認定:

評価は、毎回の小テストと定期試験期間中の聴解力試験及び授業中の積極性によって総合的に評価します。

- E104A (前期) 非常勤講師 片山 厚  
(北海道大学教授)

環境問題を扱った英文を読んで、現代英語の用法についての常識を深めることに努める。  
使用テキスト: Anne Pedersen, *Environment, What's Awry and Why*  
ピール出版 (発売元: 好学社)

- E104A (後期) 教授 永原 和夫

Ernest Hemingway, *The Killers and Other Stories* (南雲堂), ¥1,100  
Hemingway の短編小説を分析的に読む。よく予習し欠席しないこと。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しないものは受験資格を失います。

- E105A 非常勤講師 宮町 誠一  
(札幌学院大学教授)

20世紀末に至って世界は大きな転換期を迎えている。アメリカ合衆国も国際社会における新たな立場を模索していると言える。現代のアメリカを問い直す意味で、若い気鋭の研究者によるアメリカ文化論を精読し、その未来への展望も理解したい。一部コンピュータ上で作動する英語教材も使用する。

著者名 Joseph Lauer

作品名 *The United States: Now and in the Future*

出版社 南雲堂

- E106A 教授 豊国 孝  
◦ E101B

テキスト: D. H. Lawrence, *The Shadow in the Rose Garden & Other Stories*  
(南雲堂)

D. H. Lawrence, *Second Best & Another Story* (北星堂)

イギリスの小説家 D. H. ロレンスの短編小説を読む。彼の作品は詩情あふれる美しいものである。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

- E107A 講師 吉田 直希

驚くべき推理力により、次々と難事件を解決する名探偵シャーロック・ホームズを調査する。

テキスト: Arthur Conan Doyle, *Sherlock Holmes* (Oxford UP, 1951)

最初のクラスで授業の進め方、評価等について具体的に説明する。

◦ E108A

非常勤講師 宮町 誠一  
(札幌学院大学教授)

アメリカの雑誌に掲載された広告を素材に、その映像とコピーによる宣伝媒体に関する解説文を精読し、それぞれの広告に反映されている現代アメリカ人の人生観、価値観の理解を深めたい。一部コンピュータ上で作動する英語教材も使用する。

著者名 K. I. Lacktorin

書名 *Ads Speak American Culture*

出版社 成美堂

◦ E109A

助教授 杉村 泰教

Marvin Harris, *America Now* (研究社 ¥1,300)

アメリカ社会の変貌に関する文化人類学者の評論を読むことにより、読解力の向上に努める。実施授業数の $\frac{2}{3}$ 以上出席しなければ定期試験を受けることはできない。原則として遅刻は欠席と同等に扱う。

◦ E110A

非常勤講師 坪谷 雍子

Text: Edward T. Hall, 'Hidden Differences: Studies in Doing Business with the Japanese'.

Read, study and enjoy the world of Darwin. This course will explore your rapid and creative writing. Class attendance is "must". Your grade will be damaged by your excessive absence from class and poor weekly reports.

◦ E112A

非常勤講師 片山 厚  
(北海道大学教授)

日常生活の中の重要な問題を扱った英文を読み、基礎的な語彙を確認しながら、現代英語の運用に習熟するように努める。

使用テキスト: Betty Miles, *Save the Earth* 北星堂書店

◦ E161

教授 大島 稔

テキスト:

Geoffrey Leech & Jan Svartvik, (1975), *A Communicative Grammar of English*, Longman

授業内容:

英語の文法をコミュニケーションに役立てるための文法という視点から解説を加えたもので、話し言葉で使うかそれとも書き言葉で使うか、どの程度丁寧かなどのスピーチ・スタイルが明示されています。

テキストの第3部を毎回7~8ページずつ解説を加えて読み進みます。

評価と単位の認定:

年に数回小テストをします。また、定期の筆記テストは実施せずに、年2回前期と後期につきのテーマでレポートを作成してもらいます。

1. 「既習の文法事項について、自分が他の英語クラスで用いている教科書から該当する語例、文例をさがし、説明を加えなさい」

2. 「第3部に現れた英語のスピーチ・スタイルによる変異について具体例をあげて整理しなさい」

小テストとレポートにより総合的に成績を評価します。

講読B

◦ E102B

助教授 高井 収

◦ E112B

This is a course to develop students' listening comprehension strategies in both dialogues and lectures. Emphasis will be placed on both listening comprehension and speaking. Class activities vary from individual based question-and-answer practices to small group discussions. More than three unexcused absences are not allowed. A pre-test of listening comprehension is scheduled at the first class and a complete course syllabus will be given then, so DON'T MISS THE FIRST CLASS!

教科書: *LISTEN AND TALK: BOOK II International Understanding*

著者: J. B. Alter, 神山正人, 他

出版社: KINSEIDO

◦ E103B

教授 君羅 久則

Muriel Spark, *Voices at Play*. 松柏社

Muriel Spark, *The Dark Glasses and Other Stories*. 鶴見書店

現代イギリスの作家ミュアリエル・スパークの作品を利用し、読解力、リスニング、語彙力、文法等の鍛錬を目標とする。評価は平常時間内に随時行う小テストと、前・後期の試験それにクラスワーク、出席を加味して総合的に行う。授業実施時数の $\frac{2}{3}$ 以上出席しなければ単位認定はしない。

◦ E104B

助教授 津曲 敏郎

◦ E109B

J. Knudsen: *Saving Our Planet* (南雲堂 ¥1,800)

環境問題を論じたエッセイを速読しながら、聞き取りを含む豊富な練習問題をとおして英語の総合力向上をめざす。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や予習不足、授業への実質的不参加も欠席に準ずる扱いとなる。

- E105B
- E110B

非常勤講師 上野之江  
(北海学園大学講師)

テキスト: Miyahara, Kinoshita & Nakamura, eds, *BBC Read and Learn in English* (松柏社) ¥1,450円

(目標)

1) 今まで培ってきた文法知識, 語彙を駆使し実際の英語を読み, 英語を使って作業をしながら, 英語を学ぶ。

2) 語彙の増強

(授業内容)

毎時間テキストを読む。読んだ内容について, ノートを取る, まとめる, 質問に答える, 英文を書く等の作業を通じ, 英語の実用力をつける。毎週単語テストをする。プロジェクトワークとして海外との通信をし, 報告しなければならない。手紙文や履歴書の作成も行う。

(評価方法)

中間試験: 30%, 期末試験: 30%, リーディングプロジェクト: 15%, 単語テスト: 15%, 作業: 10%。

(留意事項)

毎回の授業での作業が評価される。出席時間数が $\frac{2}{3}$ 未満の者は定期テストは受けられない。初回に詳しいシラバスを渡しますので, 欠席しないようにして下さい。

- E106B
- E111B

非常勤講師 佐藤幸子  
(小樽女子短期大学教授)

本書は大学に入学して, はじめて時事英語を学ぶ学生のための, やさしい新聞英語の入門書である。内容はニュース, 社説, コラム(天声人語)などから成り, 脚註のほかに, 原文の理解を助けるための問題と解説が付されている。1年間で英字新聞をある程度よみこなせる方向にもっていきたい。

"Newspaper English 1994 Edition" Asahi Press ¥1,300円

- E107B

非常勤講師 横尾元意  
(北海道武蔵女子短期大学教授)

アメリカにおける今世紀の短篇の名作として知られているもので, 「人生や愛」を取り扱った6篇から成るテキストを講読していきます。この中には, 『最後の葉』などで有名な O. Henry, 『老人と海』でなじみの E. Hemingway, 近年評価されるようになった E. Caldwell, 南部に取材したノーベル賞受賞作家 W. Faulkner, ユダヤ系作家である B. Malamud などの作品が入っています。

テキスト名: *American Stories of Love and Life* 岩元巖・森田孟編注, 朝日出版

- E108B

非常勤講師 西村千穂  
(小樽女子短期大学教授)

大学で学ぶ方法論のうち, ニョークリティシズムの context と contrast の習得を授業の目的として, テキストを分析します。

注意事項: どのような理由があっても, 実施授業時間数の三分の二以上出席しなければ, 定期試験の受験資格を失います。遅刻3回で欠席1回とみなします。

テキスト: 『現代アメリカ名作選』朝日出版社 ¥1,300円

英会話・作文

- E141C
- E142C
- E143C
- E144C
- E145C

外国人教師 Michael Carr

Richards, *Interchange 1 and Interchange 1 Student Activity Book*,  
(Cambridge University Press)

This course will emphasize functional communication in English. Attendance and participation are strictly required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades will be determined from weekly tests in the language laboratory, role-plays, and other activities.

- E146C
- E147C
- E148C
- E149C

外国人教師 Diane Cammarata-Charlesworth

Materials will be supplied by instructor.

Students will use pair and group technique to make improvements in every day communication in the English language. Students must expect to actively participate in class using imagination and interaction skills. Grades are based upon class participation, projects, individual improvement and weekly tests. No more than three absences allowed.

- E150C
- E151C
- E152C

非常勤講師 Stephen Toskar  
(小樽女子短期大学助教授)

The purpose of this class is to develop better listening and speaking skills. Good attendance and active class participation are necessary. In addition to textbook study, there will be a number of creative group projects, as well as individual presentations.

Book: *New English Firsthand*

Author: Helgesen, et al

Publisher: Lingual House

- E153C
- E154C
- E155C

非常勤講師 Gordon Kent Ens

The aim of this course is to refresh and build on the English language skills acquired in junior high and high school and allow the student to become comfortable with basic conversational English.

Skills covered will include speaking, listening, reading, writing, pronunciation and grammar.

Specific functions will also be taught such as introductions and greetings, describing likes and dislikes, discussing activities, asking for information, describing locations, discussing health and giving and accepting invitations.

Students will be evaluated based on a combination of individual effort, group participation and attendance.

TEXT: *Interchange* English for International Communication.

Jack C. Richards

Cambridge University Press

- E156C
- E157C

非常勤講師 Wendy Schwartz

Helgesen, Brown, and Venning, *FIRSTHAND SUCCESS* (Lingual House)

This course is designed to promote creative English conversation. Emphasis will be placed on dialogue through pair work and small group work. No more than three unexcused absences will be accepted. Grades will be based on attendance, class participation and quizzes.

## 英 語 II

- E201

教授 永原和夫

Carson McCullers, *The Heart is a Lonely Hunter* (Penguin Modern Classics)  
¥1,450

現代人の孤独を描いた Carson McCullers (1917-67) の処女作の講読です。できるだけ速読に努めるので、よく予習すること。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しないものは受験資格を失う。

- E202

教授 豊国 孝

テキスト: H. E. Bates, *The Lighthouse* (北星堂)

H. E. Bates, *Death in Spring* (北星堂)

イギリスのチェホフと呼ばれる H. E. ベイツの短編小説を読む。ベイツは素朴な人間性と美しい自然とが織りなす世界を描く。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

- E203

教授 永原和夫

Carson McCullers, *The Heart is a Lonely Hunter* (Penguin Modern Classics)  
¥1,450

現代人の孤独を描いた Carson McCullers (1917-67) の処女作の講読です。できるだけ速読に努めるので、よく予習すること。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しないものは受験資格を失う。

- E204

助教授 杉村 泰 教

Joseph S. Fletcher, *Fear* (成美堂, ¥980)

英国の短篇小説家フレッチャーの作品を読むことにより、読解力の向上に努める。実施授業時数の $\frac{2}{3}$ 以上出席しなければ定期試験を受けることはできない。原則として遅刻は欠席と同等に扱う。

- E205
- E207

非常勤講師 三浦京子  
(北海学園大学助教授)

20世紀イギリスの作家 D. H. ロレンスの作品にみられる宇宙理論を究明する。遅刻は減点の対象とし、授業時数の $\frac{1}{3}$ 以上欠席した場合は単位を認定しない。

テキスト: D. H. Lawrence, *Odour of Chrysanthemums and The Princess*  
(松柏社)

- E206

助教授 高井 收

This is a course to develop listening and reading comprehension strategies with topics in the newspaper. Emphasis will be placed on listening and reading comprehension. Class activities vary from individual based question-and-answer practices to small group discussions. More than three unexcused absences are not allowed. A pre-test of listening comprehension is scheduled at the first class and a complete course syllabus will be given then, so DON'T MISS THE FIRST CLASS!

教科書: IN THE NEWS (HERALD INTERNATIONAL TRIBUNE)

著者: Ethel Tiersky, Maxine Chernoff

出版社: National Textbook Company

教科書: 5-Minute Quizzes For TOEFL (Listening)

著者: Milada Broukal, Enid Nolan Woods  
出版社: Macmillan Language House

◦ E208

非常勤講師 横尾元意  
(北海道武蔵女子短期大学教授)

*Gesta Romanorum* は13世紀、イギリスにおいてラテン語で書かれた教訓物語集である。庶民にも理解されるような世俗的題材を扱っているため、中世以来、西洋では広く読まれ続け、ショーサーやシェイクスピアなども、この中に素材を求めたものである。講義では、現代英語に訳した text をもちいて、順次、講読していく。

—テキスト—

書名: *Gesta Romanorum*

著者名: Charles Swan 訳, 安川・和田編注

出版社: 弘プレス

◦ E209

非常勤講師 西村千稔  
(小樽女子短期大学教授)

別れと成長

気が付かないうちに成長しているという人たちが多く日本と、何かの出来事や事件をきっかけにして、自分の成長を画策しようとするアメリカ人の生き方を、作品探究を通して学んでみたいと思う。

大学で学ぶ方法論のうち、ニュークリティシズムの context と contrast の習得を授業の目的として、テキストを分析します。さらに作品の構成方法も学びます。

注意事項: どのような理由があっても、実施授業時間数の3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験資格を失います。遅刻3回で欠席1回とみなします。

テキスト: 『ヘミングウェイ短編集』大庭 勝注解, 成美堂

◦ E210

講師 吉田直希

18世紀イギリスの諷刺画家ウィリアム・ホガース (William Hogarth) の黒人描写を対象にした研究書を読む。著者デイヴィッド・ダビディーン (David Dabydeen) は、ホガースの版画に数多く描かれている黒人像に注目し、現代的視点からイギリス社会史の再構築を試みている。

テキスト: David Dabydeen: *Hogarth's Blacks: Images of Blacks in Eighteenth Century English Art* (University of Georgia Press, 1987)

[絵がたくさんあっておもしろい]

テキストはさしあたりプリントとして配布する。最初のクラスで授業の進め方、評価等について説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

◦ E211

(前期) 助教授 津曲敏郎

P. McLean: *The 21st Century: Problems and Issues*

(マクミラン・ランゲージハウス ¥1,350)

21世紀の日本と世界が直面するさまざまな問題を簡潔に取り上げたエッセイを速読する。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や予習不足、授業への実質的不参加も欠席に準ずる扱いとなる。

◦ E211

(後期) 教授 大島 稔

テキスト:

Bantock, Gavin (1994), *Asking and Answering: Model for Active Communication*, 金星堂

授業内容:

中級程度の聴解力・表現力の習得を主たる目的とする授業で、テープ聴き取りによる内容把握テストに加え、質問の仕方・話題の転換・速回しの表現・回答までの時間稼ぎ・回答の回避などのインタビュー・テクニックを具体的に習得することも目標にしています。

内容は、小説家・映画スター・環境問題活動家・政治家などさまざまな職業分野にわたり、架空のインタビューを書き下ろしたものです。

相手の反応を察知しながら情報を引き出す技術の習得は、生活のさまざまな面で必要だと思います。英語を使って話し上手・聞き上手になるコツをこの授業から学んで下さい。

英検、TOEIC、TOEFL などの能力検定試験における聴解力増強にも役立つ内容です。

全体で20課から成りますが、その中から12課ぐらいを選んで、毎週1課ずつ進みます。テープによる予習を前提にしているため受講者には予習が欠かせません。

評価と単位の認定:

評価は、定期試験期間中の聴解力試験及び授業中の積極性によって総合的に評価します。

◦ E212

◦ E213

非常勤講師 上田雅信  
(北海道大学助教授)

1985年のアメリカ映画 *BACK TO THE FUTURE* を見ます。書かれた英語の学習では学べないような、口語英語に特有の英語の表現を学びます。語彙力とヒアリングの能力を高めることを主な目的とします。授業では、語句の意味の、ある程度細かいニュアンスを英英辞典を使って解説します。

◦ E214

非常勤講師 浪田克之介  
(北海道大学教授)

英語の読解力と基本的な運用能力の習得を目標とする。

テキスト: 「ことば・人・社会」 成美堂



◦ E215

非常勤講師 根本 慎  
(札幌医科大学助教授)

テキスト : John M. Roberts, *The Triumph of the West* (Macmillan Language House)

英文読解力の養成を主な目標とする。予習の際に英英辞典を必要とする。授業時間の1/3以上の欠席がある学生は受験資格を失う。

◦ E216

非常勤講師 根本 慎  
(札幌医科大学助教授)

テキスト : P. Milward, *Creative English* (研究社)

英文読解力の養成を中心としながらテキストに見られる英語表現にも注意を向けたい。予習の際に英英辞典を必要とする。授業時間の1/3以上の欠席がある学生は受験資格を失う。

◦ E217

非常勤講師 下宮 英治  
(北海道武蔵女子短期大学教授)

現代の市民生活にかかわる問題をトピックスとした英文内容理解とともに、音声面の訓練もあわせて行う。

テキスト : Norma Reveler, *Freedom, Rights and Responsibility*, 金星堂

◦ E218

講師 吉田 直希

日本でも最近さまざまな場面で語られるエイズについて考える。エイズがどのようにして病気として発見されたのか、またエイズという言葉に対していかなる意味づけがなされてきたのかを現在アメリカで発行されている雑誌記事を題材に調べる。最初のクラスで授業の進め方、評価等について説明するので、受講希望者は必ず出席すること。なお、テキストはプリントとして配布する。

◦ E219

非常勤講師 坪谷 雍子

Text: Charles Darwin, Edited by Leonard Engel, 'The Voyage of the Beagle.'  
Read, study and enjoy the best writing of Hall.

This course will explore Your rapid reading and creative writing. Class attendance is "must". your grade will be damaged by excessive absence from class and your poor weekly reports.

◦ E220  
◦ E221

非常勤講師 鈴木 良克  
(小樽女子短期大学教授)

Man & Culture (研究社 ¥1,850)

◦ E222

非常勤講師 布施 英憲  
(藤女子大学教授)

西村満男編『オー・ヘンリ傑作編』 南雲堂

(1) O. Henry の短篇小说「最後の葉」をゆっくり丁寧に講読する。

(2) 英語の Idiom の構造とその特徴について、理解と知識を深める(『英語教育小冊子』を使用する)。

(3) TOEFL のテープを使用して、英語聴解力について理解を深める(年間、数回実施)。

(4) 英語らしい生きた口語表現形式の理解と習得につとめる(75題)。

(5) テキストの Reading を、特に重視する。

(6) 夏期・冬期休暇中に自学自修してもらう課題もあります(TOEFL の問題)。

E. Wiechert「童話の世界とは奇蹟や魔法の世界ではなく、究極の偉大な正義の世界である。」

テキストはプリントを配布します。

◦ E223

非常勤講師 小林 敏彦  
(北海学園大学講師)

教科書 : 山村三郎著「楽しいカレントトピックライティング」 金星堂

小林敏彦著「時事英和和英便利辞典」 明日香出版社

本講では地球の環境問題を題材に英作文演習を行う。授業の初めには毎回時事英語に関する単語小テストをするので出席が重要視される。遅刻は欠席扱いとし、5回の欠席で不可とする。かなりの予習が強いられるのでやる気のある学生の受講が望ましい。成績は小テスト30%、前期試験30%、後期試験30%、課題10%とする。

◦ E224

非常勤講師 小林 敏彦  
(北海学園大学講師)

教科書 : 山村三郎著「楽しいカレントトピックライティング」 金星堂

小林敏彦著「時事英和和英便利辞典」 明日香出版社

本講では地球の環境問題を題材に英作文演習を行う。授業の初めには毎回時事英語に関する単語小テストをするので出席が重要視される。遅刻は欠席扱いとし、5回の欠席で不可とする。かなりの予習が強いられるのでやる気のある学生の受講が望ましい。成績は小テスト30%、前期試験30%、後期試験30%、課題10%とする。

### 英語 III

◦ E301

教授 豊国 孝

テキスト : D. H. Lawrence, *The Mortal Coil and Other Stories*  
(Penguin Books)

イギリスの代表的小説家 D. H. ロレンスの短編小説を読む。2/3以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

◦ E302

助教授 津曲 敏郎

*Crisis of Our Earth: Reading TIME* (桐原書店 ¥1,340)

TIME 誌で特集された、地球環境をめぐるさまざまな問題を論じたエッセイを読む。欧米の知識人を対象にした先進的ジャーナリズムの文章なので、読解には相当の準備を要する。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や予習不足、授業への実質的不参加も欠席に準ずる扱いとなる。

◦ E303

教授 大島 稔

テキスト :

Engetsu, Yuko et al. (1990), *A Guide to Taking Notes: Life in Britain and in America*, 英宝社

授業内容 :

上級の聴解力の習得を主たる目的とする授業で、説明・講演・講義をテープで聴き取りその要旨をノートに整理してとるという作業をしてもらいます。

情報をいかに効率よく聞き、効率よく要旨をまとめるかという作業は、講義を聞く際に必須の技術であり、商談や会議などでも必要な技術です。

内容は、イギリスの郵便制度、米国の自動車の役割、会食、フィットネス・ブーム、イギリスの教育制度などさまざまな分野の話題です。

英検、TOEIC、TOEFL など英語の能力検定試験における聴解力増強にも充分役立つ内容である。

全体で5章から成り、各章が解説文と3つの対話文から構成されて、全体で20課である。授業は毎週1課ずつ進みます。テープによる予習を前提にしているので受講者には予習が欠かせません。

評価と単位の認定 :

評価は、定期試験期間中の聴解力試験及び授業中の積極性によって総合的に評価します。

◦ E304

外国人教師 Michael Carr

*Twins* (Screenplay)

Students taking this course are expected to speak and comprehend English at advanced levels. Attendance and participation are strictly required and only three unexcused absences are allowed. Grades will be determined from weekly tests, special assignments, and class participation.

◦ E305

非常勤講師 浪田 克之介  
(北海道大学教授)

読解力と聴解力の養成をめざして、次の2点のテキストを利用する。

テキスト : R. Carson, *Silent Spring* 英宝社

10-minute Listening—An Advanced Course 桐原書店

◦ E306

非常勤講師 下宮 英治  
(北海道武蔵女子短期大学教授)

広告に反映されているアメリカ人の考え方、社会事情や日米文化の違いをエッセイ体の英文を通して理解する。表現上の演習も多様に組み入れたい。

テキスト : Kumi Inoue Lacktorin, *Ads Speak American Culture* (成美堂)

## ドイツ語 I

教科書：『パートナー』（藤井明彦他著，三修社刊，¥2,800）

一般に大学で行われる初習外国語の授業といえば，一年目で大体の文法知識を頭に入れてしまい，二年目になってその知識を駆使してリーダーや会話中心の授業をやるかたちが主流です。ある意味で合理的なやりかたですが，大急ぎで学習した文法知識は定着度も低く，二年目をむかえた学習者はその覚束ない文法力でいきなりレベルの高い読み物に直面させられる苦勞を味わってきました。このギャップの軽減をはかるため，今年度のドイツ語は，2年間で文法を学ぶタイプの教材を統一教科書として選び，ドイツ語I，ドイツ語IIと続けて使っていく予定です。文法／リーダーといった窮屈な枠組みを離れ，読む，聞く，話すといった様々な練習を重ねながら，多面的に言語にアプローチするというのが，今後2年間のドイツ語授業の試みです。

その背景には，言語能力というものを，読む，聞く，話す，書くなどといった技能が有機的に結びついた総合的なコミュニケーション能力として捉える認識がありますから，学習者諸君も，新しい外国語を学ぶにあたり，ぜひこのような認識から出発して欲しいものです。以下に，この授業のその他の特徴，留意点をあげておきます。

- ①94年度のドイツ語Iは，週3回の授業を5クラス開講します。3人のネイティブスピーカーを非常勤講師として迎えることができましたので，全クラスがその恩恵に浴することになりました。通年の担当が困難な場合もありますが，それでも，最低半期，週一回はネイティブスピーカーの授業を受けることができます。今年度ドイツ語Iの大きな特徴だと言えるでしょう。
- ②様々なタイプの練習をひとつひとつ，しかし関連付けてこなしていく授業展開ですから，当然，よく出席し，自らその連関を把握しつつ学習していくことが何よりも要求されます。まずこの点を自覚しておいて下さい。自分の得た知識をつねに頭の中でマッピングし，整理しておくことが上達の鍵となります。特に，授業は日本人教師とネイティブスピーカーの複数の担当となりますので，授業連関に対する参加者の留意も必要です。
- ③何よりも，2年間でひとつの外国語の大筋を知ろうという試み自体，かなり厳しい荒業であることを認識して下さい。授業自体が生易しい訳がありません。受動的，消極的な姿勢では単位取得は困難です。意欲的な参加を期待しています。

## ドイツ語 II

教科書：Themen neu 2(Max Hueber Verlag, 概価¥3,000)

昨年度は学習者の希望を第一に考えてアラカルト方式を採用しましたが，選択肢の多様性が先行しすぎて達成過程・達成内容に統一性を欠いていた嫌いがあり，アンケート調査でもこの点について少なからぬ苦情が寄せられました。この点の反省に立って今年度は以下のように総合性に留意したクラス制を採り入れました。ただし，統一的な総合性を前提にしながら同時に諸君の希望にも配慮して二つのコース（後で説明します）を用意しました。

少し根本に遡って事情を説明した方が分かり易いかも知れません。

本学の外国語教育は，異文化間コミュニケーションを求める立場に立って，これに必要な総合的な外国語能力の育成を図ることを目標としています。「異質なものに対する寛容さと知的好奇心，および自らの文化・社会を他との比較において距離を置いて観察・考察する認識態度」の形成を基本的な共通目標としつつ，6つの個別言語の分野で，コミュニケーション能力を中心とする総合的な言語行動能力の育成を目指して努力しています。ドイツ語教育もやはりこの同じコンセプトに立っています。

昨年度ドイツ語Iを学んだ諸君は，統一教科書を用いた教授陣のシステムティックな協力態勢の下で，ドイツ語の総合的な基礎をかなりしっかりとたたき込まれているはずですが，諸君がこれから学ぼうとしているドイツ語IIは，このIを基礎とする応用の段階です。目標は，「主要な文法規則と語彙の自動化に基づく総合力の育成」に置かれます。平たく言えば，Iで学んだ基礎を，実際に「話し」たり，「聞き」たり，「読み」たり，「書き」たりする作業に当て嵌めてみる様々な練習を通して，臨機応変で迅速な応用力を育成すること，そしてこの応用力を用いて現代ドイツに関する基本的な情報を把握し，出来れば必要な反応を試みることです。

このような総合的なトレーニングをするには，二つの要件が揃っていなければなりません。第一に総合的な枠組を備えた優れた教科書が必要です。今年度は，定評あるドイツの教科書の最新版(Themen neu 2)を共通教材として選びました。いわゆる4技能のバランスの取れた育成によく配慮されており，またタイトルが示すように現代のドイツ社会を知るための盛り沢山の情報が用意されています。最初は日本の教材とは勝手が違い戸惑うかもしれませんが，徐々に慣れて楽しさが分かって来るはずですから，辛抱強く取り組んで下さい。そして第二に必要なのは，学習者たる諸君が，このような総合的な教科書に従って一貫した方針の下でシステムティックにトレーニングされることです。今年度，諸君がクラスに所属し，協力して事に当たる2人の先生に教わるのはまさにこのためなのです。

しかし他方では，総合性という枠組の中で出来るだけ諸君の希望に応えたいという思いも強く，取り敢えず二つのコース(『Sコース』と『Lコース』※)を用意してみました。つまり全5クラスを，比較的「話し・聞く」に力点を置いた『Sコース』(一方の担当者がネイティブ・スピーカー。3クラスを予定。ただしそのうち2クラスは都合によりネイティブ・スピーカーの担当は後期のみ。)と比較的「読む」に力点を置いた『Lコース』(2名とも日本人教師。2クラスを予定。)との2種類に分けるわけです。『S』と『L』はそれぞれ sprechen(話す)と lesen(読む)の頭文字です。とは言っても，全クラスとも総合力の育成を目指す点に変わりはなく，『Sコース』，『Lコース』とも文字通りの『会話コース』や『読解力養成コース』ではありませんので，くれぐれも誤解の無いように願います。

ところで，出来るだけ多くの諸君が，自分の語学力の到達レベルを客観的に測ることが出来る次の二つの機会に挑戦してみることをお勧めします。一つは『ドイツ語技能検定試験』へのチャレンジです。ドイツ語Iにごく普通の意味で積極的に参加していれば，Iの履修者の2割以上は4級に合格するはずですし，同様にIIの履修者の1割以上が3級に合格するは

ずです。昨年ほんの少しサポートしてみただけで、一挙に4級に10名、3級に5名(名乗り出た者のみの人数)が合格しましたが、受験者の増加に比例してこの数字も増えて行くものと信じています。

もう一つの機会は、ドイツの大学での『短期語学研修』(8月)への参加です。昨年はボン大学とブレーメン大学の夏期講習に5名の学生が参加しましたが、今年はこちらにテュービンゲン大学が加わって合計19の席がすでに確保されています。特に強い動機を持つ者には奨励金が支給されますし、また講習で平均以上の成績を残した者には2単位が認定されます。お金や単位は2の次にして、出来るだけ多くの諸君が現地で自分の語学力が使いものになることを是非噛みしめて来て欲しいと願っています。(参加申し込み締め切りは4月28日、申し込みは『学生部学生課留学生担当』。言語センター事務室に資料あり)。

最後に、授業に臨む姿勢について一言要望しておきます。以上の説明の通り、今年度のドイツ語Ⅱはかなりシステマティックな授業態勢になります。成績の評価もペアの先生が合議のうえ総合的に判定します。積極的に参加すれば力が着きやすい反面、消極的な姿勢ではすぐに授業のつながりを見失い落伍してしまう恐れがあります。特にスタートで出遅れることは致命的ですからよく注意して下さい。いずれにしても、今年のドイツ語Ⅱは相当手強いものと覚悟して下さい。

出席については、基本的には全出席を要求します。休んでよい授業など一回もありません。欠席率3分の1までと何回余裕があるか尋ねて来る不届き者が時々いますが、ドイツ語の場合にはそんなことを尋ねただけでも参加資格が危くなるものと思って下さい。もちろん病気や身内の不幸等は話が別です。しかしクラブ活動に伴う欠席は単なる欠席であり、理由のある欠席とは見なしません。

※2月に提出してもらった『ドイツ語Ⅱ志望票』では『Aコース』、『Bコース』と書きましたが、クラス名と似ていて紛らわしいためこのように名称変更しますのでよく記憶して下さい。

### ドイツ語Ⅲ

ドイツ語Ⅲは今年度が初めての試みなので、極くオーソドックスに『読解クラス』(ⅢA)と『総合クラス』(ⅢB)を開設し、今後の模索への試金石とします。『読解クラス』にはドイツ文学の中川勇治先生にご担当をお願いし、『総合クラス』の方は大塚が担当します。後者は後期にはハイケ・パーペンティン先生とのチーム・ティーチングになります。単位を必要とする人もそうでない人も、奮ってご参加下さい(大塚)。

#### ⅢA (読解クラス)

教授 中川 勇 治

受講者がドイツ語の読解力を深めること、それがこの講読の主たる目的です。参加者の数にもよりますが、できるだけ演習方式をとり、各人の積極的な発表を求める予定です。当面、試みにいくつかの文章と取組んでもらい、参加者全体のドイツ語理解力の水準を確かめ、そのうえで、全員の協議により適切な著述を選び、読む力を深めるよう努力しましょう。第一

回目の授業には、履習希望者全員が出席すること。なお、各人がドイツ語で自己紹介できるよう準備しておいてください。

#### ⅢB (総合クラス)

助教授 大塚 譲

教科書: Stufen-Kolleg Deutsch als Fremdsprache-3: Informationsaustausch  
(Klett Edition Deutsch, ¥2,781)

この教科書 Stufen は、外国人のためのドイツ語総合教材として定評があり、特にこれからドイツ語圏の大学などで勉学することを希望している外国人学生のためによく使われるものです。今回取り上げるその第3巻は中級用で、ドイツ語圏ではほぼ普通に日常生活を営むことの出来る言語能力の習得が目標となります。文法的には、日本の常識で言うところの初級文法の後半が扱われ、もちろん社会生活上の様々なテーマと絡めて夥しい量の4技能(「話す」「聞く」「読む」「書く」)をトレーニングする練習問題が用意されています。「聞き取り」はやや程度が高めなので別のものを探してみるつもりですし、「リーダー」も新しい情報を付け加えるつもりです。そんな具合に十分に地均らしをしたうえで後期のチーム・ティーチングにつなげたいと思っています。しかしそれ以前にも、時にはドイツ人のゲストを迎えたり、こちらから尋ねてみるのも面白いと思います。ともかくあまり形式に囚われず楽しく、しかし要所は厳しく共に勉強しましょう。ちなみに、4技能バランス型の授業なので、それがそのまま『ドイツ語技能検定試験』の3級および2級の受験勉強ともなるはずですが、そういった諸君の参加も歓迎します。第一回目の4月20日(水)2講目には所定の場所に必ず集まって下さい。教科書は、参加人数を確かめてからこちらで一括注文します。

### フランス語Ⅰ

#### I-1 (火曜日)

非常勤講師 橋本 征子  
(國学院短期大学助教授)

用書: 安田悦子著『ククー!セ・モア!』(白水社, ¥1,600)

フランス語の発音の規則、基本的文法事項の把握を中心として進めてゆきます。時にはビデオなどによりフランスの若者のものの考え方や状況なども紹介致したいと思います。

#### I-1 (水曜日)

教授 江口 修

用書: プリント配布

インタラクティブに学生諸君の弱点を探し出し、補強する授業です。番号を付したプリントを配布し、定期試験時にチェックしますので、あまり欠席しないこと。

#### I-1 (木曜日)

非常勤講師 梶野 吉郎  
(北海道大学教授)

用書: 植原他著『バリで話すフランス語』(駿河台出版社, ¥1,500)

I-2 (火曜日)

非常勤講師 小林 敬  
(酪農学園大学講師)

用書：滑川明彦著『生きたフランス語12課』（駿河台出版社、¥1,200）  
文法を肉付けすべく、講読と練習を軸に、耳と口の練習も加えつつ、総合的な初級フランス語の習得をめざす。

I-2 (水、木曜日)

助教授 尾形 弘人

用書：川合他著『モザイク』（第三書房、¥2,000）  
初めてフランス語を学ぶ人達のために開発されたビデオ教材を用い、コミュニケーション能力を養います。最初は難しく感じるかもしれませんが、「習うより慣れよ」で根気よく一年間フランス語と付き合ってください。講義の性格上、出席を重視します。

I-3 (火、水、木曜日)

教授 江口 修  
助教授 尾形 弘人  
非常勤講師 H. Abdelfettah  
(北海道大学外国人教師)

用書：『Sans Frontières I』  
ネイティブ・スピーカーとの会話中心の授業です。アブデルフェタ先生とのやりとりを核に発話能力の基礎作りを目指します。やりとりが成り立つ様、最大限35名迄のクラスとします。希望者多数の場合はくじ引きを行います。

## フランス語 II

II-A (講読クラス—文学)

非常勤講師 橋本 征子  
(國学院短期大学助教授)

用書：ル・クレジオ著『未だ見ぬ海』（朝日出版社、¥1,200）  
ル・クレジオは1940年ニースで生まれ（南米への長期旅行はあったにせよ）ニースに住み続けている現代フランスの第一線の作家です。彼はこの作品のなかで、都市生活、物質文明を否定し、秩序と合理にみちた現代社会を、海への憧れを持つ少年の眼を通して批判しています。平易なフランス語で書かれているので、初級文法を終わった段階で充分読むことができます。

II-B (講読クラス—社会科学)

非常勤講師 小林 敬  
(酪農学園大学講師)

用書：石井洋二郎編注『時事フランス語を読む』（白水社、¥1,200）  
新聞等の記事の講読を通じて、文法や表現の学力を伸ばすとともに、社会科学を学ぶ者と

しての視野をも広げてもらえれば幸いである。

II-C (作文クラス—構文練習)

教授 江口 修

用書：青井明著『基本動詞によるやさしいテーマ』（白水社、¥1,400）  
基本動詞こそ構文と連語関係は難しいものです。決して「やさしい」授業ではありません。

II-D (講読クラス—人文科学)

非常勤講師 梶野 吉郎  
(北海道大学教授)

用書：加藤晴久著『やさしく読める人文読み物』（朝日出版社、¥1,300）

II-E (会話クラス—日常会話中心)

教授 江口 修

用書：中村啓裕他著『フランス語全方位』（早美出版社、¥1,800）  
学生諸君の想像力がこの授業を左右する最大の要因です。あらゆるメディアを貪欲に利用し、自分自身の「フランス」を創って下さい。

II-F (会話クラス—ビデオ)

助教授 尾形 弘人

用書：中山他著『ミニ・ボンジュール・パリ』（白水社、¥1,800）  
初級～中級のビデオ教材を用いた会話クラスです。一年次に学んだ文法事項を復習、発展させながら、反復練習を通して会話能力を養います。講義の性格上、出席を重視します。

フランス語 III (上級フランス語会話クラス) 非常勤講師 H. Abdelfettah  
(北海道大学外国人教師)

用書：『Sans frontière』

## 中国語 I

IA (火曜日)

非常勤講師 野澤 俊敬  
(北海道大学助教授)

発音の習得から始めて、基本文法に進みます。1年間で中国語の基礎を固めることを目標とします。外国語学習の入門時には基本の基本を学ぶわけですから、授業を1回も休まないという気構えと真面目な授業態度を期待します。

教科書：「汉语初級課本（中国語初級テキスト）」野澤俊敬著（白水社）

IB (火曜日)

非常勤講師 高 祺

用書：「今日中国」張明遠著（金星堂、¥1,850）

I A (水, 木曜日)

助教授 裴 崢

教科書: 「中国語123」

竹島金吾 児野道子著 (白水社)

日常生活によく使う表現を取り上げているテキストです。声を出して読み、聞き・話すことを身につけながら、中国への関心を強め、中国語に親しんでいきたいと思ひます。

評価は授業への参加態度、前後期試験、出欠状況などを総合的に判断して行ひます。

I B (水, 木曜日)

助教授 萩原正樹

先ず中国式ローマ字による音節表記を学び、中国語の発音が正しく出来るようにする。続いて基礎語法及び基本文型について順次勉強していきたい。入門段階の語学はとりわけ積み重ねが大切であるから、出来るだけ続けて出席することが必要条件である。

また、言葉の学習を通して、ぜひ中国の政治や歴史、文化等について興味を持ってもらいたい。ただ授業を聞くだけでなく、積極的に参加することが、語学上達の近道であろう。

教科書: 「フレッシュ中国語」渡辺晴夫他著 (白水社, ¥1,900)

「20分ドリル中国語」関根謙他著 (同学社, ¥1,236)

上記テキストは後期の前半には終了する予定であるが、以後はプリントを使用したい。他に辞書を購入してもらう必要があるが、詳しくは開講時に説明する。

なお成績は、前期後期の定期試験の点数及び出席状況、平常点等を総合して評価する。

## 中国語 II

II A (火曜日)

非常勤講師 野澤俊敬  
(北海道大学助教授)

1年目に学んだ文法を応用して、中国の新聞で使われた文を平易なものから徐々にレベルアップして読んでゆきます。後期には辞書をひきながら実際に中国の新聞記事を読解します。また、映画の画面を追いながらシナリオを読む授業を設けたいと思ひています。

教科書: 「新・中国の新聞を読もう」三瀧正道著 (朝日出版社)

II B (火曜日)

非常勤講師 高 祺

用書: 「日中生活習慣の違い」張光正著 (金星堂, ¥1,648)

II A (木曜日)

助教授 裴 崢

教科書: 「中国を知ろう」

小川郁夫, 馬鳳如著 (白帝社)

一年次の時には声を出して読み、聞き・話すことを重視しました。二年次でも引き続き聞き・話す力を高めるために、発音にも注意しながら、中国についての知識を深め、中国語の

読解力と応用力を養っていききたいと思ひます。

評価は授業への参加態度、前後期試験、出欠状況などを総合的に判断して行ひます。

II B (木曜日)

助教授 萩原正樹

中国語IIでは、これまでに修得した拼音、声調、基本文型、常用語彙等をもう一度復習しながら、より一層の読解力を養うことを目標としたい。テキストとして選んだ「中国はてな物語」は、中国の文化や生活習慣に対する素朴な疑問を通して、中国と日本の社会のさまざまな違いを浮き彫りにしたものである。テキストを正確に読解していきながら、さらに中国文化全般についての理解を進めていきたい。受講者は必ず事前に音読し、辞書を用いて訳す努力を欠かさぬように。

教科書: 「中国はてな物語」趙賢州他著 (白帝社, ¥1,500)

なお成績は、前期後期の定期試験の点数及び出席状況、平常点等を総合して評価する。

## 中国語 III

助教授 裴 崢

テキストを使用しません。プリントを配布します。会話主体に授業を行ひますが、時々プリントを使って、読解力を高めます。できれば、ティームティーチングの機会も設けたいと思ひます。

## スペイン語 I

I (火曜日)

非常勤講師 守下幸子

会話を中心に学習します。

スペイン語を聞く、話す、書くことを繰り返しながら講義を進めますので学生の活発な参加を期待します。

テキスト: ESPAÑOL EN DIRECTO Nivel 1A

SGEL S.A-Madrid

I (水, 木曜日)

助教授 山田真史

スペイン語の文法、読解、会話の基本を学びます。

授業の進め方などについては最初の授業で話します。とりあえず述べておけば、授業時間数の1/3を超える欠席があれば、受験資格はありませんし、授業への準備が必ず必要ですし、また他の外国語で単位をとれなかった学生のこの授業への志望変更は認めていません。ちゃんとしてくれば、スペイン語のIIのおわる頃には、スペインの新聞、雑誌は読めるようになります。アカデミックな文体も読めるでしょう。

なおついでに。ことばは、詩人や言語学者など一部の限られた人々をのぞけば「目的」ではなく、あくまでも伝達のための「手段」にすぎませんが、習得を目指しているあいだは当面の「目的」になります。また逆接的に響くかもしれませんが、母語が上手にならないかぎ

り、外国語は上達しません。母語すなわち日本語をよく観察してください。日本語で言えないことを外国語で言えるわけがありません。

教科書：Un Paseo por el mundo hispánico (芸林書房)

辞書：現代スペイン語辞典 (白水社)

## スペイン語 II

助教授 山田真史

### II (火曜日)

比較的平易なスペイン語で書かれた物語を読みます。一字一句正確に訳すことを目的にします。物語の舞台はカスティリア、時は夏。現代スペインのゆとりあるバカンスの一端を知ることができるはず。訳読のクラスです。授業の進め方等については「スペイン語 I」の項に書いてあるのと同様です。

テキスト：Pelayo Molinero Gete, Ejercicio Final, Madrid:Coloquio, 1990

### II (火曜日)

非常勤講師 守下幸子

テキスト：ESPAÑOL EN DIRECTO Nivel 1B SGEL S.A-Madrid

### II (木曜日)

助教授 山田真史

小説、エッセイ、紀行文、論文、ジャーナリズムの文章、口語などさまざまなスタイルのテキストに数多くふれることを目的にします。訳読ばかりでなく、作文や会話にも目を向ける予定です。

授業の進め方等については「スペイン語 I」の項に書かれてあるのと同様です。

テキスト：Sánchez, et al. Español en directo, 2B. Madrid:SGEL, 1979.

## スペイン語 III

助教授 山田真史

訳読、会話の力を発展させるのを目的にし、スペイン人が我々外国人向けに編んだテキストを使い、さまざまなスタイルの文章、表現に親しんでいきます。

テキスト：Entre Nosotros, Nivel-2. Madrid: SGEL, 1982.

## ロシア語 I 助教授 Aleksander Borisovich Spevakovsky

助教授 匹田 剛

非常勤講師 松本 忠司

ロシア語の基礎的な文法と会話を学びます。週3コマの内2コマを匹田・松本の担当で文法、1コマをスベヴァコフスキー担当で会話の授業とします。

文法の授業は「ロシア語16課 (新田実著, 白水社)」を中心としてすすめますので各自入手しておいて下さい。会話の授業でも同じ教科書を使用しますが必要に応じてプリントなどを配布する予定です。

## ロシア語 II

### II

助教授 匹田 剛

ロシア語 I で学んだ文法事項等を復習しながらロシア語の読解力を養います。テキストは昨年度使用した教科書「ロシア語16課」の p.68から入り、その後プリントなどを配布する予定です。

### II

助教授 Aleksander Borisovich Spevakovsky

昨年度のロシア語 I に引き続き、ロシア語の会話力を養います。テキストは昨年使用した「ロシア語16課」の他にプリントなどを配布する予定です。週2回行われる授業を2回とも受講することは認められません。

### II

非常勤講師 松本 忠司

文学教材の学習をつうじて、ロシア語の読解力と表現力を養うことを目標とします。前期には詩と小説、後期には戯曲と評論を重点的に取り扱うこととなります。テキストはプリント使用、教室で配付します。なお、文法事項の復習と補足説明を随時行いますので、ロシア語 I で使用した教科書「ロシア語16課」を常に携行すること。

## ロシア語 III

助教授 匹田 剛

一年間かけて学術的な文献をある程度読みこなせる力を養うことを基本的な目的とします。ただし、受講する人数がある程度少なければ受講生の希望に応じて臨機応変に授業内容を変更することも可能であるかも知れませんが、希望のある人は遠慮なく言って下さい。また、実用的な価値のある話学力の育成を目指しますので、受講生諸君にはそれなりの努力と意欲を求めます。

## 日本語 I

非常勤講師 阿部 仁美

授業内容：

この授業は、初めて日本語を学ぶ学生を対象にし、初級レベルのオーラル・コミュニケーション能力、すなわち日常生活場面で日本人と会話をおこなう際の基本的能力の修得に重点を置いたコースである。試験コース終了後に日本語能力試験3級程度の実力をつけるのを目標にしている。

教材：未定

## 日本語 II

非常勤講師 鈴木 理英  
(小樽女子短期大学講師)

授業内容：

この授業は、日本語能力試験3級程度を終了し、2級合格をめざす中級レベルの学生を対

象にし、特にオーラル・コミュニケーション能力の開発に重点を置き、日常会話および本学の専門科目の講義における基礎的発表能力の養成を目標とするコースである。

教材：未定

### 日本語Ⅲ

非常勤講師 木元 てる代

教授内容：

この授業は、日本語能力試験2級程度を終了した学生を対象にし、オーラル・コミュニケーション能力の開発に重点を置き、専門科目の授業を受講できる実力を養成するコースで、さまざまなスピーチ・スタイルに対応できる「聞き・話す」能力の修得を目標とする。

教材：未定

### 日本事情

非常勤講師 木元 てる代  
他、本学教官

教授内容：

この授業は、非常勤講師および本学教官の講義と現地調査とを組み合わせた総合科目として実施する。日本の経済、商業、法律、歴史、伝統芸能、伝統芸術、伝統工芸、風習、衣食住、産業などの多岐にわたる分野について、特に西欧との比較の視点から講義を受け、さらに市内の施設・企業・家庭での見学・実習などを実施し、異文化として日本の自然、歴史、文化についての見識を深めるコースである。

教材：未定

## 3 保健体育科目

人間が直面する健康の諸問題に対する総合的な判断力をそなえ、且つ積極的な身体運動を通して健康の維持・増進と自己健康管理の基礎を養う。

- 保健体育理論**
- ・1年次配当、前期開講、2単位科目、A・Bの2クラス区分
  - ・履修（受講）者は次のとおり指定する。  
Aクラス…学生番号 94001～94250（毎週月曜日5講時）  
Bクラス…学生番号 94251～最終番号（毎週金曜日5講時）
  - ・両クラスともに、2名の教官により講義する。  
Aクラス…浅沼義英、田野有一  
Bクラス…浅沼義英、中川喜直

### 保健体育理論A・B（前期）

教授 浅沼義英

大学生活や将来の健康の保持、増進のために重要な問題を、現代医学の見地から解説する。次のような内容を、各講義に一テーマとしてとりあげる予定である。

◎高血圧、肥満、糖尿病のような成人病の青年期からの予防法について。◎栄養摂取の考え方と現代の弊害。◎アルコール、タバコなどの嗜好品。◎エイズおよび性感染症。◎生活のリズムと睡眠。◎青年期の精神衛生。◎運動と疾患のかかわり。◎環境変化に対する体の適応について。◎温泉医学と保養。◎医学のトピックス。

各講義で小感想文を書いていただきます。出席は成績の評価に加味されます。

### 保健体育理論A（前期）

教授 田野有一

- |                |                          |
|----------------|--------------------------|
| 1. 社会の変貌と健康問題  | ① 社会体育行政の概要              |
|                | ② スポーツ行動の社会的特性           |
|                | ③ レクリエーション活動とレジャー行動      |
| 2. 身体運動の心理的効果  | ① 心理的効果のメカニズム            |
|                | ② 身体運動とパーソナリティ           |
|                | ③ 運動のマイナス効果              |
| 3. 科学的自主トレーニング | ① 体力、トレーニング、プラクティス…のとりえ方 |
|                | ② トレーニングの基本的な考え方         |
|                | ③ 各種のトレーニング理論と実際         |

### 保健体育理論B（前期）

助教授 中川喜直

健康科学領域を中心に健康と運動、栄養、ストレスの関連について論じ、健康増進のステップになるように講義を展開する。

1. 運動不足と健康によい運動について —生理学的アプローチ—



2. 身体の解剖と構造機能
3. スポーツ障害, 腰痛, 肩こりのメカニズム
4. 運動とエネルギー代謝
5. 運動と神経
6. 栄養, 健康食品, 自然食品, ダイエット食品

### 体育実技 I・II

教授 田野 有 一  
 助教授 花 輪 啓 一  
 助教授 中 川 喜 直  
 非常勤講師 杉 山 登  
 (小樽商科大学名誉教授)  
 “ 藤 江 正  
 (小樽商科大学名誉教授)  
 “ 山 田 憲 政  
 (北海道大学助教授)

#### 1. 履修方法について

必修科目。コース別(種目選択別)履修制。毎週1回。所定のクラス(時間)で履修。  
 1年次通年履修…前期「実技①」+後期「実技②」。2年次半期履修…(前期または後期)  
 「実技③」。「実技①, ②, ③」のすべてが合格した場合に『体育実技の2単位認定』がな  
 される。なお, 1年次分終了時点での分割単位認定はしない。

#### 2. 共通実施種目と内容

- ①共通種目…「オリエンテーション」「体力診断テスト」(通年授業で)  
 「水泳」「スキー」(集中授業で)
- ②体力テスト…反復横跳び・垂直跳び・背筋力・握力・伏臥上体そらし・立位体前屈・踏  
 み台昇降運動…の7種目。春・秋の二期に実施。
- ③集中授業…1・2年次とも「水泳」「スキー」の二者択一制。

	水 泳	ス キ ー
実施期日 (予定)	6/ 11・6/ 18…1年次生 6/ 25・7/ 2…2年次生	1/ 17・1/ 21…2年次生 1/ 28・2/ 4…1年次生
履 修 日	指定の1日間(全日)	指定の1日間(全日)
会 場	本学;室内(温水)プール	天狗山;スキー場
履修方法	夜間主コース(学生)合併授業	
指導体制	班別(技能別)…非常勤講師が加わる	

#### 3. 種目(選択)別『開設コース』について

[コースの実技内容]

##### ☆バスケットボール

ボールを扱う基礎的技術であるジャンプショット, セットショットなどやチェストパス, ドリブルパスを正確にマスターする。また, 攻撃防御のフォーメーションとステップ, フットワークの基礎練習を積みゲームへと展開する。

##### ☆バレーボール

ネットを境にパス(オーバーハンド, アンダーハンド)だけのゲームではなく, バレーボールの技術のレベルが低くても, トス, スパイク, クイック及び高度な攻撃技術もそれなりにあり, お互いにラリーの続くようなゲーム展開の技術を習得するようにしたい。

##### ☆バドミントン

老若男女が楽しめ, しかもその技術が奥深いバドミントン。球質別による各種ストローク方法や, 正しいゲームの展開方法(シングルス, ダブルス)とルールを知るとともに, ゲームにおける基本的なフォーメーションと応用動作・技術を学ぶコース。

##### ☆卓 球

初歩的な知識としてのラケットの種類, グリップなどについての理解と, 基本打法のフォアハンド, バックハンド, ストロークがある程度正確にできるよう実習を進める。後半では, シングルス, ダブルス・ゲームと審判法も身につけたい。

##### ☆トランポリン

注目の新スポーツ。安全に, かつ楽しさを満喫しながら, ボディー・コントロールを体得しようとする初心者コース。垂直跳びの第一段階から, 基本技を中心に展開されるので, 全くの初心者も安心して履修できる他大学にはみられないユニーク・プログラム。

##### ☆テ ニ ス

初心者を対象に基礎を中心に実習を進める。内容はグラウンドストロークのフォアハンド, バックハンドストロークを正確にラリーが続けられることを第一段階に, 次はボレー, サーブへと展開する。最終的にはゲーム(シングルス, ダブルス)ができるようにしたい。

##### ☆ソフトボール

ゆっくりした投球で楽しむスロー・ピッチ・ソフトボールから真剣勝負でスポーツ性の高いファースト・ピッチ・ソフトボールを体得する。特に本格的なピッチング(スイングショット及びウインドミルなど)を習得したゲーム展開ができるようにしたい。

##### ☆軽 ス ポ ー ツ

さまざまなスポーツを体験し, 生涯に亘って楽しみながら続けられる生涯スポーツの習得を目指している。具体的にはソフトボール, バレーボール, サロンフットボール, バスケットボール, ユニホック及びユニークなスポーツ種目なども取り入れたい。

##### ☆スポーツ・トレーニング

体力増進をテーマに心拍数を指標におき, 適度な運動を屋外で体験する。健康づくりに良いウェイト・トレーニングを基礎から応用まで実践する。また, スポーツマッサージや心と体のリラクゼーションなど体のコンディショニングを整える内容まで幅広く実習する。

#### ☆基礎トレーニング

目的別トレーニング方法をはじめ、各種トレーニングの実際、器具（バーベル、マシン）の利用方法などを体得し、自主トレが組めるまでを学ぶ。体力低劣者やスポーツの競技力向上に役立つトレーニングを模索している者にとっては最適なコース。

#### ☆レクリエーション

鬼ごっこ形式のゲーム、グループゲーム、ウォークラリー、軽スポーツなどを通して、ただ単に笑いを提供するのではなく、お互いに協力して、人と人とが接し、交わり、お互いに作用しながら自然に人間交流を深めていく過程で自分の心身に気付くようにしたい。

#### ☆健康運動

体力の向上に役立つと考えられる各種トレーニング方法の理論と実際を学ぶとともに、手軽に行える健康保持・増進運動（動き）を模索し、あわせて「生涯スポーツ」の観点から幾つかのスポーツ種目を取り上げこれを実施する。

## 4 基礎教育科目

### 経済学概論

(前期) 助教授 船津 秀樹  
(後期) 助教授 渋谷 浩

経済学は、社会科学の中で最も「科学的学問」として確立している学問分野です。この点は、社会科学の中でただ一つ「ノーベル賞」の対象となっているのが経済学であるという事実からも明らかでしょう。しかも、毎日、新聞やテレビニュースで報道されている、日米貿易摩擦、資産バブル、不況と失業、企業組織のリストラクチャリング、規制緩和、不良債権と金融危機、老後と年金問題、環境破壊などの政治・経済・社会問題を科学的に分析でき答えを見つけ出すことができるのであれば、とてもすばらしいとは思いませんか。この経済学概論の講義を通じて経済学的思考方法を身につけ、みなさんにも「科学的学問」としての経済学の醍醐味を味わってほしいと思います。

より多くの人々が経済学的思考を身につけ政治・経済・社会問題に関する正しい理解を持つということは、実は社会科学にとって本質的に重要なことなのです。なぜならば、自然現象とは違って社会現象は、社会の構成員である人々の社会についての理解と知識内容が変われば、人々の行動自体が変わり、その結果社会現象そのものが変わるからです。すなわち、社会現象は我々の知識に依存するのです。見方を変えると、このことは、政治・経済・社会問題を解決するためには、より多くの人々がこれらの問題についての正しい理解と知識を持つことが必要であることを意味しているのです。

以上のことを念頭に、この経済学概論の講義では、世界で最も優れた教科書から経済学の考え方と知識を学ぼうと考えています。そこで、市場の失敗、情報とインセンティブ、時間とリスク、技術革新、金融市場の役割、政府の役割、官僚制、規制緩和、などの新しいトピックを真正面から取り組み、ミクロ経済学に基礎を置いたマクロ経済学を目標とした、スティグリッツ教授の最新の教科書にみなさんといっしょに挑戦してみたいと思います。かれは、アメリカ経済学会の前副会長であり、同学会が40才前の最も優れた経済学者に与えるジョン・ベイツ・クラーク賞を授賞し、現在世界で一番活躍している経済学者のひとりです。

Bon Appetit!

教科書：(1) Joseph E. Stiglitz, *Economics*, W. W. Norton & Company, 1993.

(2) 同 Study Guide.

学生諸君は、スタディ・ガイドを教科書とともに購入し、その中の練習問題を自主的に多くこなすことによって本当の経済学の知識と理解力を身につけることができます。

学習方法：大学では自主的学習が基本となります。能動的に予習・復習を行うことなしに、講義に出席するだけでは経済学を理解することはできません。自ら事前に教科書を読み、スタディ・ガイドを利用して予習・復習を欠かさないようにしてください。講義では教科書の全ての章をカバーすることはできませんので、優秀な学生は、自分のペースでどんどん先に進んで行ってください。早く、小・中・高校で身につけた受動的学習態度を脱脚して、能動

的学習態度を身につけることが大学ひいては社会で成功するための鍵です。

講義内容：

(前期)

Chapter 1 : The Automobile and Economics

Chapter 2 : Thinking like an Economist

Chapter 3 : Exchange and Production

Chapter 4 : Demand, Supply, and Prices

Chapter 5 : Using Demand and Supply

Chapter 6 : Time and Risk

Chapter 7 : The Public Sector

Chapter 8 : The Consumption Decision

Chapter 9 : The Savings Decision

Chapter10 : A Student's Guide to Investment

Chapter11 : The Labor Supply Decision

Chapter12 : The Firm's Costs

Chapter13 : The Firm's Production Decision

Chapter14 : Competitive Equilibrium

Chapter15 : Monopolies and Imperfect Competition

(後期)

Chapter17 : Government Policies toward Competition

Chapter18 : Technological Change

Chapter21 : Financing and Controlling the Firm

Chapter22 : Managing the Firm

Chapter23 : Externalities, Merit Goods, Public Decision Making

Chapter25 : Macroeconomic Goals and Measures

Chapter26 : An Overview of Macroeconomics

Chapter28 : Aggregate Demand

Chapter30 : Government Expenditures and Trade

Chapter31 : Aggregate Demand and Supply

Chapter33 : Money, Banking, and Credit

Chapter34 : Monetary Theory and Policy

Chapter35 : Monetary Policy: The International Side

Chapter37 : Growth and Productivity

Chapter38 : The Problem of the Twin Deficits

## 商学概論

(1) 受講対象

	平成6年度入学生	平成5年度以前入学生
商学概論A	第1クラス～第6クラス	学生番号 **001～**300
商学概論B	第7クラス～第12クラス	学生番号 **301～最終番

(2) 成績評価

成績評価は、3部門の成績の平均値によって行う。

(3) 講義内容

商学科は大別して、商学・経営学・会計学の3部門より成り立っている。これら3部門は、歴史的・理論的に互いに関連性を有している。商学概論なる授業科目は、商学科で準備されている3部門のうち、いずれを選んで主要研究対象にするのかを決定する際の予備知識を与える任務を負っている。しかし、商学概論の役割はそれだけではない。現代資本主義の生成・発展の過程で、商学、経営学および会計学の各部門の学問体系がどのような必然性をもって生まれ、発展させられて今日の姿なり体系を有するようになったのかを解明することが、むしろ本来の役割であろう。

時代の要請に応じて、各部門はそれぞれが主となり従となって、互いに影響し合いながら発展してきた事実を念頭に置きながら、部門別に以下の内容をもって講義を行うことにする。

### 商学概論 A

(前期) 教授 片桐誠士

(中期) 教授 久野光朗

(後期) 助教授 高橋正泰

I 商学部門 (4月～6月下旬)

担当 片桐誠士

自然発生的な分業を基礎とする社会では、経済の発展にともない生産と消費の懸隔はますます拡大する。商業は、ともかく生産と消費の懸隔をうめ、需給調整機能を果たしてきたのである。資本制経済社会のもとでは、こうした流通の機能を遂行するいくつかの流通活動が、それを専門的に遂行する専門業者として自立化する。すなわち運送、保管、包装、保険、広告等々が、商業の分化として専門化し独自の部門を形成する。商業の分化と純化が進展する。ひいては資本制経済の生成発展の過程に照応して、広義の商学各部門の学問体系が、いかなる必然性をもって生れきたり、発展せしめられて今日の体系をなすようになったかを明らか

にしたい。

講義内容は、ほぼつぎの如くなる。

1. 経済生活と商業——交換ないし商品流通の展開——
2. 商業学説
3. 資本制経済と商業
4. 商業の分化と純化

(参考文献は随時指示するが、講義はプリントを配布し、それにそって行なう)

## II 会計学部門 (6月下旬～11月上旬)

担当 久野光朗

会計は、すくなくとも制度会計を前提とするかぎり、時間という歴史的次元と空間という経済社会からなる準拠枠に規定された情報の提供・受領に関する人間サービス制度であるといえよう。かかる規定を小生は「会計3間論」と称している。なかならず、会計を歴史的存在として理解している。このような観点から、10回前後にわたる授業は次の順序で進めていく予定です。

1. 会計情報の生産と利用——序論
2. 会計情報の利用方法——財務諸表分析論
3. 会計情報の生産方法——複式簿記原論
4. 会計情報の人為性——会計原則論
5. 会計情報の歴史

テキスト：久野光朗編著『簿記論講義』(同文館)

## III 経営学部門 (11月中旬～2月末)

担当 高橋正泰

経営学とは、どの様な対象を、どの様に扱うのかを、以下の要領で講義する予定です。

1. 経営学の対象と方法
2. 経営学の歴史
3. 企業論と経営者論
4. 経営組織論
5. 経営管理論
6. 経営戦略論
7. 経営の国際化と文化

参考文献

大月博司・高橋正泰『経営学—理論と体系—』同文館

車戸 實編著『現代経営学』八千代出版

岡本康雄『経営学入門』日本経済新聞社

## 商学概論 B

(前期) 助教授 高宮城 朝 則

(中期) 助教授 李 濟 民

(後期) 助教授 松 本 康一郎

### I 商学部門 (4月～6月末)

担当 高宮城 朝 則

商学に関わる学科目は流通、マーケティング、貿易、保険、交通、証券、銀行など、一見すると無関連に見えるほど多岐にわたっている。しかしこれからの根底には共通した視座がある。それは財の社会的移動とそれに関わる人間行動を解明しようとするのである。

本講の商学部門では、商学の関連学科目を学習する上で必要な基礎知識として、まず財の社会的移動の核心である取引について、次に専門分化した各学科目の研究内容・方法・課題について説明し、最後に商学研究の現代的課題について検討する。

講義項目は以下のとおりである。なお、テキストはとくに指定しないつもりである。また商学概論Bの商学部門の試験は前期定期試験中に実施する予定である。

1. 商学の認識対象と研究体系
2. 取引の基礎的考察：交換と商業、取引の分析
3. 商学の諸学の基礎：研究課題と研究方法
4. 社会科学の研究方法 (時間的に余裕がある場合に講述する。)

### II 経営学部門 (7月上旬～11月上旬)

担当 李 濟 民

<講義内容>

日本の経営を論ずる時、「三種の神器」というものがある。いわゆる終身雇用、年功序列、企業内組合がそれである。しかし、バブル時代の崩壊後、長引く景気沈滞、高齢化社会の到来等、日本企業を取りまく構造的な環境変化の前に、こうした「従業員尊重」や「集団主義」中心の日本の企業経営の仕組みが大きく崩れようとしている。

また、一方では高度情報化と国際化の波が押し寄せてきているので、新たなリストラを余儀なくされている。したがって、こうした現状をむかえて、経営学の主要課題も大きく変わってきている。

本講義では、経営学上現在おきている重要関心事について問題提起しながら、それを体系的に分析・研究する経営学の諸領域についてかい摘まんで紹介する。

<講義概要>

1. 日本の経営の新たな展望
2. 企業経営の国際化
3. 規模の経済と範囲の経済
4. 系列と下請

テキスト：未定

参考文献：日本経済新聞社編『テラスで読む日本の経営』

なお、試験は最終講義の時間(11月8日)に行ないます。

今日の企業会計は、企業の経済的活動を、複式簿記という計算メカニズムに基づいて、企業内外の各種利害関係者に、彼らの意思決定に有用な財務的情報として伝達することを主な目的としている。本講義では、そうした企業会計のうち、企業外部の利害関係者への報告会計としての「財務会計」について、大略以下のテーマを対象として、それらの内容を明確にし、かつ、問題点を抽出することにします。なお、その際には、企業(会計)の国際化が進展していることを十分に考慮して、とくに後半において、わが国の現行の会計制度にとらわれることなく講義を進めます。

商学概論Bの会計学部門に関する試験は、後期定期試験の日程の中で行います。

1. 企業会計の意義と役割
2. 会計(学)の対象領域
3. 企業会計の前提
4. 企業会計の法制度
5. 財務諸表の作成
6. 会計の国際化

※参考文献：久野光朗編著『簿記論講義』同文館

### 法学概論

(前期) 教授 結城 洋一郎

1年を通して後携のテキストを用い、前期は1～9章を、後期は10～18章を中心に講義する。但し、前期の講義内容は必ずしもテキストに準拠しない場合がある。

テキスト：末川 博『法学入門〔第三版〕』(有斐閣)

六法：種類は問わないが、受講に際しては必ず持参すること。

参考書：講義の中で紹介する。

法学は、一般に誤解されているような、堅苦しい法律条文の暗唱を目的とする科目ではない。条文は「六法」(基本的な法律の条文を掲載した法令集を「六法」と呼び習わしている)に書いてあるのだから、必要に応じてこれを見ればよいし、また、法律問題を厳密に議論しようとする場合には六法で確かめなければならない。(従って、六法なしで法学を学ぼうとする者は、基本的態度からして間違っている。)

法律は、複数の人間が共同して生活してゆくために人間が考え出したルールだから、多くは大変常識的な考え方を基本にしている。一方、それは不完全な人間の創作物だから、しばしば多くの矛盾を孕むものとなっている。それでは、これらの矛盾をどう解決し、どのようなルールの下に生きることが私達全ての人間の幸福につながるのか。こうしたことに想いを馳せることが、法学の任務であろう。

### 法学概論

(後期) 教授 久々湊 伸一

1. 講義内容

後期では、テキストの主として第10講以下について講義する。各種法分野の内私法関係を取扱うことになる。法律は社会常識と一致することが理想であるが、実際はそうっておらず理解しにくいものにされがちである。その理由が解明できれば法律が我々の身近かなものになる筈である。

2. テキスト

末川 博編『法学入門(第三版)』(有斐閣) 前期と同じテキスト

3. その他

六法全書は講義のさいに必ず持参して下さい。

### 社会情報概論

(前期) 教授 杉本 英二

(前期) 助教授 山本 清

(後期) 教授 沼田 久

社会情報学科の英語名は、Department of Management and Information Scienceです。つまりこの学科の2本柱は、マネジメント・サイエンス(経営科学とインフォメーション・サイエンス(情報科学))です。この2つの分野には密接な関係があります。前期の授業では、情報をめぐる人間と社会のシステムについての概論を行います。後期には、マネジメント・サイエンス関係に重点をおいた講義です。

(前期の講義の進め方について)

前期はA、B 2クラスで講義します。クラス分けは学生番号で次のようにします。

Aクラス：学生番号が奇数の学生(前半の講義杉本、後半の講義山本)

Bクラス：学生番号が偶数の学生(前半の講義山本、後半の講義杉本)

2つのクラスの講義は同じ内容になります。前期の試験問題も同じ問題です。

(前期) 教授 杉本 英二

人間と知識をテーマに、コンピュータが支える人間の知識処理について講義します。

1. 記号と人間(情報理論とコミュニケーション)
2. 機械と人間(人工知能)
3. 知識の生産道具としてのワープロ
4. 言語と機械翻訳
5. 法律とコンピュータ
6. コンピュータ・ネットワーク
7. コンピュータの応用例

希望者には、夏休み期間中に情報処理センターでワープロの使い方を教えます。

(前期) 助教授 山本 清

現在我々が生活していく上で情報及び情報システムなしで暮らすことは考えられなくなっています。たとえば、コンビニエンス・ストアで買物をする時はPOS(販売時点管理)システムが使われていて、常に新鮮で暖かい弁当等が提供されたり深夜でも公共料金の支払い

が可能になっていますし、本学内にも設置されているCD（現金自動預金支払機）で現金の預け入れ、引出し等のサービスを受けています。

このように、情報システムは我々の社会や組織とのかかわり合いの中で機能しているわけですが、コンピュータ及び通信ネットワークというハードウェアを介在することから、それを利用する人間及びその集合としての社会と適切な関係（インターフェイス）が保たれる必要があります。情報システムが現実の社会生活、企業活動等にどのように活用され、同時にどのような課題を有しているかを具体事例を通じて説明します。その意味で「情報」を核にした経済学概論、商学概論及び法学概論ともいえます。主な講義項目は以下のものを予定しています。

1. 情報及び情報化の歴史（OA→MIS→SIS→?）
2. 情報システムと日常生活とのかかわり合い（利用者側の視点から）
3. 企業における情報システム活用の実態
4. 政府における情報システム
5. ヒューマン・インターフェイスの問題（システム開発上の問題）
6. ネットワークの進展とその影響
7. 国際化時代における情報セキュリティと知的財産権の問題と対応策 参考書：仲本秀四郎「情報を考える」丸善ライブラリー 外

（後期）教授 沼田 久

社会情報学科で考えるマネジメント（経営）は、単に会社の経営のことだけではなく、人間の作るあらゆる組織、人間のあらゆる活動を対象とします。

現代社会は、複雑にからみ合い、相互に影響を及ぼし合う、様々な下部システムから成る大きなシステムです。企業、政府、地方自治体、都市、農村、学校、病院、鉄道、道路網、電話網、スポーツチーム、金融制度、法律体系、教育制度、著作権制度……等々は、すべて現代社会を構成する下部システムであると同時に、それら自体がまた多くの下部システムから構成される上位システムと考えられます。

このようなシステムがシステムとしての整合性を保持するためには、情報の獲得・伝達・蓄積や処理や活用が円滑になされなければなりません。そこにシステムのマネジメントが、情報科学と密接に関連する理由があります。

システムが存立するためには、その performance の効率が良くなければなりません。そうでないと「努力」に比して「得るもの」が少なくなり、資源の無駄を生じ、「採算」が合わず、崩壊（倒産）してしまいます。それは旧ソ連の崩壊・ロシアの苦境に見られる通りです。後期では、システムの performance を高めるための考え方や、いくつかの手法を取り上げます。経営科学の中核をなす「オペレーションズ・リサーチ」の入門的な話です。

学生さんの中には、社会情報学科はコンピュータばかりガチャガチャいじっている学科だとか、数学ばかりやっている学科だとかいう、誤った先入観を持っている人もいますよ

うですが、そのような偏見・先入観は、自分自身の勉学・進路選択に誤りをもたらすだけです。この講義は諸君にとって、新たな視野と、世の中の役に立つ学問とはこういうものなのか、という新鮮な驚きとを与えてくれるものになるはずですよ。

教科書：沼田 久『増訂 マネジメント・サイエンス』（富士書院，1991）

数 学（S1～S3，SR）

教授 兼 岩 龍 二  
助教授 池 田 薫

数学の授業は下記のクラス編成により行われる。1年生のクラス所属は備考欄をみること。2年生以上のクラス所属は自由である。

	クラス	前 期	後 期	コース	備 考
3 講 目	S 1	兼 岩	池 田	微積 コ ー ス	学生番号94001～94249で3講目受講を希望するもの。
	S 2	池 田	兼 岩		学生番号94250～94***で3講目受講を希望するもの。
S 3	兼 岩	池 田	4講目受講を希望するもの。		
4 講 目	S R	池 田	兼 岩	微積・論理 コ ー ス	微積・論理コースの受講を希望するもの。

#### I. コース

##### (1) 微積コース（S1，S2，S3）

一変数および多変数の微分積分を行う。テキストは下記の「解析入門」を使用。

##### (2) 微積・論理コース（SR）

前期は微積コースと同じテキストを使い、同様の内容を手短かに済ませ、後期は配布プリントにより記号論理を扱う。論理はものを考えるための基本である。現代においてはいろいろの論理学があるが、古典論理はいろいろの論理学の中で基本的位置を占めている。のみならず現代情報社会のデジタルな部分はこの考え方にしたがって動いている。現代をよりよく生き抜くためにもこの考え方を修得することが必要となってきている。後期は定期試験なしでレポートを課す。

#### II. テキスト

渡部隆一著 解析入門（シリーズ：経済・経営のための基礎数学②） 培風館

このテキストは高校の「数学I」を予備知識として理解できるように書かれている。

目次：1. 数列 2. 初等関数 3. 微分法 4. 積分法 5. 曲線と曲面

6. 多変数の関数 7. 複素数とその関数

## 5 専門教育科目

### マクロ経済学 (前期)

(前半) 助教授 山本賢司  
(後半) 助教授 加藤睦洋

中級マクロ経済学を平易に講義していく。具体的な内容は以下のとおりである。

1. マクロ経済学とは何か
2. 国民所得の決定メカニズム
3. 労働市場と完全雇用
4. 不完全雇用経済と有効需要原理
5. 家計の消費・貯蓄行動
6. 企業の投資行動
7. 貨幣需要
8. 貨幣供給
9. マクロ経済の一般均衡
10. 古典派経済学の体系
11. ケインズ経済学の体系
12. マクロ・モデルの比較
13. インフレーション
14. 景気循環
15. 政府の経済活動
16. マクロ安定化政策
17. 資本蓄積と経済成長

教科書：浅子・加納・倉沢『マクロ経済学』（新世社，1993年）

成績評価：各教官がそれぞれ試験を行い、結果を合計する。

### ミクロ経済学 (後期)

助教授 山本賢司

この科目では、市場機構による資源配分を分析するミクロ（マイクロ）経済学（micro economics）について、以下に示した主要な内容を中級レベルで解説します。

1. 単純な部分均衡分析と比較静学  
需要曲線，供給曲線，弾力性，市場均衡，比較静学，安定条件（ワルラス，マーシャル），生産可能性集合，応用：貿易の利益
2. 消費者行動の理論  
予算制約式，選好関係と無差別曲線，需要関数（マーシャル，ヒックス）と需要の4法則，所得効果，応用：エンゲルの法則，代替効果，スルツキー方程式，顕示選好理論，応用：所得補助と間接補助，応用：指数（ラスパイレス，パーシェ）

と厚生水準，消費者余剰，市場需要曲線

### 3. 企業行動の理論

生産関数，等量曲線，規模に関する収穫，応用：コブ＝ダグラス生産関数の計測，利潤最大化と費用最小化，短期供給曲線，代替の弾力性と要素間の所得分配，CES生産関数，生産関数と費用曲線，限界費用曲線と企業の（短期）供給曲線，短期と長期，市場の短期供給曲線

### 4. 生産物市場における価格の決定

短期市場均衡，企業の長期供給曲線，長期市場均衡，応用：産業の成長と衰退，産業（市場）の長期供給曲線と金銭的外部（不）経済

### 5. 生産要素市場における価格の決定

要素需要，代替効果と拡張効果，要素供給（労働供給），応用：課税と労働供給，要素市場均衡，応用：最低賃金法，応用：労働移動，（準）レント

### 6. 不確実性のもとでの経済行動

セント・ペテルスブルクの逆説，期待効用仮説，危険回避と危険愛好，保険への需要，応用：保険市場での逆選抜

### 7. 資産価格の決定

貯蓄と借入（2期間モデル），貯蓄関数，現在価値と将来価値，資産価格

### 8. 一般均衡分析

完全競争，純粋交換モデル（ $2 \times 2$ モデル），超過需要関数，0次同次性とワルラス法則，選好の非凸性と均衡の不存在，生産可能性フロンティア，応用：ストルパー＝サミュエルソン定理，応用：リプチンスキー定理，生産を含む一般均衡モデル，一般均衡の存在と安定性（粗代替性）

### 9. 市場均衡と経済的厚生

消費者余剰と生産者余剰，厚生損失（死重的損失），パレート効率性，厚生経済学の第1，2定理，応用：直接税と間接税

### 10. 市場の失敗

独占による失敗，平均費用逓減による失敗，技術的外部（不），経済による失敗，コースの定理，公共財

### 11. 競争的均衡分析の限界…不完全競争の理論

独占，自然独占と規制，価格差別，寡占（クールノー＝ナッシュ均衡），囚人のジレンマ，カルテルとその不安定性，独占的競争

### 12. 情報の経済分析

レモン市場，モラル・ハザード

なお，講義内容と文献に関するより詳しい紹介を，開講時に配付する予定です。

教科書：西村和雄『ミクロ経済学入門』（岩波書店，1986年）

成績評価：2回の試験と約6回のクイズの合計点によって，成績評価を行いません。

注意：経済学の基礎的な理解を前提として，講義を進めます。たとえば今・鶴沢・山

本『基本現代経済学』（中央経済社，1991年）で扱われている内容（第1-7章）については、理解していること。

## マルクス経済学

助教授 花田 功 一

マルクス経済学の立場から戦後の日本とアメリカの経済について解説していきます。途中できるだけ関連する基礎理論についても触れていくつもりです。

テキストは使わず私のノートによって講義を進めます。参考文献についてはその都度指示しますが、さしあたり、以下の文献を挙げておきます。

第1編 国家独占資本主義の成立とその政策体系

第2編 IMF体制の崩壊・スタグフレーションの発生と高度成長の終焉（1945-75年）

第1章 IMF体制の成立とその崩壊

第2章 日本における高度成長の終焉とスタグフレーション

第3章 戦後アメリカ経済とスタグフレーション

第3編 スタグフレーションからの脱出過程と資本主義の危機の深化（1975-87年）

第1章 日本におけるスタグフレーションからの脱出過程と財政危機、貿易摩擦の拡大。

第2章 70年代後半のアメリカ経済の深刻な低迷とレーガン政権によるアメリカ経済の「再建」

第4編 新たな出発と危機の一層の深化（1987年以降）

第1章 平成景気の特徴とその終焉にともなって発生した困難の根本的性格

第2章 ブラック・マンディ以後のアメリカ経済

参考文献

横山正彦・金子ハルオ編『マルクス経済学ヲ学ブ』有斐閣

林 直道『経済学 下 帝国主義の理論』新日本出版社

林 直道『国際通貨危機と世界恐慌』大月書店1972年

井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣1993年

石崎昭彦・佐々木隆夫・鈴木直次・春田素夫著『現代のアメリカ経済 改訂版』

東洋経済新報社1992年

## 現代経済理論（夏季集中）

非常勤講師 武 隈 慎 一  
（一橋大学教授）

理論経済学の分野からいくつかの問題を選んで講義をします。取り上げるテーマは、市場機構と経済厚生、不確実性と経済行動、国際経済と貿易パターン、経済成長の最適性などの予定です。現実の経済現象を直感的に理解するのではなく、理論的に理解する思考力を身につけることがこの講義の目標です。

講義の内容は他の様々な経済学の分野に関係しますので、受講生は他の経済理論に関する科目、例えば、ミクロ経済学、マクロ経済学、経済政策、金融経済論、国際経済論などの科

目も同時に履修するようにしてください。

講義では特定のテキストは用いません。参考文献として以下の自著の文献を挙げておきます。

『ミクロ経済学』，新世社1989年

市場と価格をみる眼、『経済セミナー5月号』，日本評論社，1993年

不確実性と経済、『やさしい経済学』，日本経済新聞，1992年7月

レオンチェフの逆理、『数理科学8月号』，サイエンス社，1990年

数理経済学：最適成長の理論、『数理科学4月号』，サイエンス社，1992年

## 統計学（後期）

教授 本間 正義

統計とは何か、統計的な考え方とは何か、といった基本的な問題から出発し、まず大量の情報を整理する手段としての記述統計学について講義する。さらに、情報が母集団の一部にすぎない標本から得られたものである場合、その標本に基づいていかに母集団の情報をとらえていけばよいのかを確率論と合わせて講義する。これは推測統計学と呼ばれる。講義は統計的手法が経済分析にどのように用いられているかを主眼にして進められる。具体的な内容は、次の通り。

講義内容：統計集団と統計指標一度数分布、平均値と分散、集団の比較

関係の分析—2変数データの要約、相関分析、回帰分析、重回帰分析

時系列分析—基本的統計指標、トレンドの分析、時系列の関係分析

確率と統計—順列と組合せ、各種の確率分布、標本理論

推定と検定の理論—点推定と区間推定、母数の推定、統計的仮説と検定方法

予測と決定—回帰関係の推定と検定、予測と予測誤差

教科書：(1)森田優三・久次智雄『新統計概論（改訂版）』日本評論社，1993年

(2)森田・久次・本間『スタディガイド統計概論』日本評論社，1994年

上記の(1)は講義中に使用するので持参のこと。

## 数理統計学

助教授 西山 茂

2年次で扱った各種の統計的手法の根底にある数理を明かにする。本年は、昨年に引き続き、標準的な検定理論を中心に講義を進め、併せて統計的意思決定理論の観点からベイズ統計学への導入までをカバーする。講義は毎回配付するプリントを用いて行い、必要な数学的知識はその都度講義の一環として概説する。

講義内容：確率論の基礎、二項分布と簡単な仮説検定、大数の法則と正規分布、母数推定の基準と様々な推定量について、一標本検定問題、二標本検定問題、統計的意思決定理論とベイズ統計学

参考書：副読本としては、竹内啓「数理統計学」東洋経済新報社、を良書として推薦しておく。本書が簡潔に過ぎると感じる場合は、多少「科学少年」向きではあるが、小針現宏「確率・統計入門」岩波書店を薦める。



その他:

- (1) プリントは例題をテーマにして会話版, 事例研究風に書かれている。上記参考書を併読し知識を整理しておくことが確実な現解を得るためには望ましい。
- (2) 統計学は本を読んだだけでは問題ができない。学期末になって猛勉強する代わりに、プリントに掲載されている練習問題を講義に習って自分で早目にやっておくことが時間の節約につながる。分からなくなったら早期に質問をしておくことが近道になる。
- (3) 評価は前後定期試験のほか、何回かの小テスト(30分程度のクイズのようなもの)を基礎に行う。

### 経済統計学(前期)

教授 本間正義

経済統計学とは経済理論が現実をどのように説明できるかを統計データを用いて検証したり、また逆に現実のデータの分析から新たな経済理論を導いたりするための学問である。いわば理論と現実の橋わたしの役割を担っている。経済現象をマクロ的、ミクロ的にとらえる場合、どのようなデータが存在し、どのように用いるのか、またどのような注意が必要か、といった経済データの説明から出発し、経済理論がどのように実証され、また現実に合わない理論が統計分析を通じてどのように修正されていったか、などについて講義する。

講義内容:

- (1) 経済変数と統計データ(統計の種類, 統計の作成手順, 統計の分類方法)
- (2) 標本調査(標本理論, 標本調査の実際, 標本調査の誤差)
- (3) 指数と統計(価格指数, 数量指数, 指数の経済理論, 指数の実際)
- (4) 日本経済の統計的把握(国民経済計算, 産業連関分析, 賃金と労働市場, 景気変動, 金融と国際収支, マクロ計量経済モデル)
- (5) 家計の分析(家計費調査, 家計の消費構造, 所得と資産の分析)
- (6) 経済理論と統計分析(消費関数, 生産関数, 技術進歩)
- (7) その他(地域分析, 経済データの国際比較など)

教科書: 中村・新家・美添・豊田『経済統計入門(第2版)』東大出版会。

参考書: 津村・淵脇・築林『社会統計入門(第2版)』東大出版会。

### 計量経済学(後期)

教授 遠藤 薫

計量経済モデルのパラメタの推定と検定について理解することを目的とする。

計量経済ソフトウェアの利用について、情報処理センターでの実習を5回程度おこなう。

講義内容

1. 線形回帰モデル
2. 攪乱項の分散不均一
3. 攪乱項の系列相関
4. 連立方程式モデル

教科書

伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣, 1988

参考書

佐和隆光『増補数量経済分析の基礎』筑摩書房, 1979

養谷千鳳彦『計量経済学』東洋経済新報社, 1988

### 経 済 史

教授 井 上 巽

講義はイギリス資本主義発達史をテーマとします。このなかで、適宜、フランス・ドイツ・アメリカなどの史実にも比較経済史的視角から関説し、西洋経済史の基礎理論を論述する予定です。講義の章別編成は以下のとおりですが、進行過程で若干の変更がありえます。

I. 序論

II. イギリス資本主義の形成と封建的危機

III. イギリス市民革命の経済的変革

IV. イギリス重商主義の理論と政策

V. イギリス産業革命の世界史的位

テキストは使用せず、講義ノートを中心に論述します。したがって、講義に出席することが何よりも肝要です。参考文献は必要に応じてそのつど指示しますが、さしあたって、大塚久雄編著『西洋経済史』(筑摩書店)をあげておきます。

### 日 本 経 済 史

助教授 今 西 一

近年、社会主義世界体制の崩壊、自由主義市場経済の行き詰まりといった、19-20世紀システムの終焉を前にして、あらためて「近代」とは何か、ということが問いなおされている。これは、従来の「ヨーロッパ近代をもって進歩と発展の普遍モデルとする『大きな物語』」の解体であり、今日、ヨーロッパ近代を「普遍モデル」としてきた歴史観そのものが、批判にさらされているのである。

フランス史の二宮宏之氏は、アラン・フィンキェルクロートの『思考の敗北』(1987年)の次の言葉を引用する。

“すべての人間科学は、構造主義人類学に倣い——それぞれの個有の領域において——自文化中心主義etho-centrismeの一掃をはかる。まず第一に、歴史学の場合がそうである。現在をあらゆる文化帝国主義から浄化するため、歴史家たちは、もはや、時間の糸をそのまま巻き戻そうとはしない。彼らは、その糸を切断し、われらの祖先のうちに自らの似姿や素描を見出したりしてはいけないという。歴史家の伝統的任務は、過去についての記憶をわれわれに返してくれることにあったのだが、いまや彼らは、その過去をわれわれの支配から引き離し、過去とわれわれを隔つ断絶を浮き立たせ、過去をその根源的な他者性のうちに示そうとする。こうして、すべてを自らのうちに取り込もうとするわれわれの野望に幻滅をもたらすのだ。ミシェル・フーコーの強烈な表現に従えば、「己の姿の再確認という気休めの戯れを許す一切のものを破碎すべく」努めているので

ある。存在の恒久性や精神の自己展開、人間本性の不変性、成熟であるいは持続的成長といった単線の発展の図式、それらの一切をである。こうして歴史的知は、セクシュアリティ、感情、家庭生活、生き方、食のとり方、死に方といった、一見恒久的と見える領域を好んでとりあげ、そこに、消し去ることのできない差異を浮き立たせようとする。こうして、われわれが不変の現象を相手にしていると思いついていたまさにその場に、まったく質を異にするさまざまな行動が姿を現すのだ。われわれが歴史とはそのようなものだと思いついていた、過去へとどこまでもひとつならに遡っていく過程に代わって、いまや差異の万華鏡が眼にとびこんでくる。われわれが、自然的なものとみなしてきた現実が、歴史的なものとみなされ、時間的推移そのものが、一切の進歩の展望から解き放たれる。約言すれば、歴史家たちは、人間の歴史的営みを単一の型に押しこめたり、同一の進化の路線上に位置づけたりするのではなく、どこまでも、その多様な姿のうちに提示するのである。このように、不連続性に注目し、過去・現在・未来を一つの方向へはめこむことを拒否し、本質的な意味での「歴史の脱方向化」*désorientation de l'histoire* を主張することによって、歴史家たちは、民族学者が空間において行ったのと同じ目的を、時間において追求しているといえる。すなわち、「人間存在には、時間・空間に応じてさまざまなありようがあるにもかかわらず、そのなかのただひとつの型のうちに、人間はまるごと身を委ねているかのよう」(レヴィ=ストロース) 考える、自己中心的であると同時にいたって素朴な観念の誤りを、決定的に正すことがそれである。

本年は、日本経済史の方法を考えながら、具体的な史実の問題を使って、近代日本の「文明化」とはなにか、という問題を考えたい。

テキスト 今西 一『近代日本の着別と村落』(雄山閣出版)

参考文献 二宮宏之「歴史的思考の現在」(岩波講座『社会科学の方法』第IX巻、岩波書店)。

今西 一『近代日本成立期の民衆運動』(柏書房)

## 国際経済史(後期)

教授 井上 巽

19世紀末から両大戦間期(1920・30年代)におけるイギリスとアメリカの対外経済関係に主たる視点を置いて講義を進めます。この時期は、19世紀的な「パックス・ブリタニカ」の世界から20世紀の「パックス・アメリカナ」の世界への巨大な歴史的転換期であり、19世紀的世界と20世紀的世界がせめぎ合う世界史的激動の時代であったといえます。この世界史上の大転換は資本主義世界体制のヘゲモニーがイギリスからアメリカに移行したという単なる歴史の主役の交替にとどまるものではなく、19世紀的な経済システムから20世紀的なシステムへの国際経済システムの質的転換の時代でもありました。

講義では、こうした視点に立って、この時期を①第1次大戦前、②1920年代、③1930年代、④第2次大戦後に区別しながら、イギリスとアメリカの貿易構造および国際収支の動向を時系列的に追究して、各々の時期の特徴を明らかにします。

講義の章別編成は以下のような予定ですが、若干の変更があります。

- I 序論——20世紀末における世界史的激動の諸相
- II 第1次大戦前の多角的貿易・決済網とポンド体制
- III 1920年代における多角的貿易・決済網の復活
- IV 1930年代における多角的貿易・決済網の崩壊とブロック経済体制
- V 展望——第2次大戦後の「パックス・アメリカナ」の世界

テキストは使用せず、講義ノートを中心に論述します。図表などを多く用いる予定で、講義時間中に配布します。したがって講義に出席することが何よりも肝要です。参考文献は必要に応じてそのつど指示しますが、さしあたって、桑原莞爾・井上巽・伊藤昌太編『イギリス資本主義と帝国主義世界』(九州大学出版会、1990年)および浜田正行編『二〇世紀的世界の形成』(南窓社、1994年)をあげておきます。

## 経済政策(後期)

助教授 板谷 淳一

今日、市場経済は地球規模でその普遍性を獲得してきたが、他方、環境問題や所得分配の不平等といったいわゆる『市場の失敗』が起きている。また、多くの先進資本主義国では公的部門の比重が高まっているがしばしば、民間部門に比較してその経済的非効率性が問題にされたり、場合によっては、規制緩和や公企業の民営化が行われている。本講義ではこのような市場の失敗の原因とその処方箋及び公的部門の規制のあり方について解説する。厚生経済学、公共経済学、産業組織論の一部をカバーする予定。具体的には次のような内容になる。

- (1) 競争均衡とパレート最適
- (2) 厚生経済学の基本定理
- (3) 社会的厚生関数と最適所得分配
- (4) 外部性と市場の失敗(公害規制のための経済的手段)
- (5) コースの定理
- (6) 公共財の配分メカニズム(リンダール、クラーク、投票メカニズムなど)
- (7) フリーライダーの問題
- (8) 費用逓減産業と市場の失敗
- (9) 公益事業の料金規制(限界および平均費用価格形成原理、2部料金制など)
- (10) 民営化および規制緩和の経済分析

初歩的なミクロ経済学の知識を前提とする。必要な数学的知識は講義の中で解説する。敗政学とペアで履修することが望ましい。試験は中間試験および期末試験を2回行う予定。成績は両者の合計点より決める。

(テキスト及び参考書)

常木淳『公共経済学』新世社、1990

柴田弘文、柴田愛子『公共経済学』東洋経済新報社、1988

植草益『公的規制の経済学』筑摩書房、1991

J.E. ステイグリッツ著/藪下史郎訳『公共経済学(上、下)』、マグローヒル社、1989

R.H., コース著/宮沢健一他訳『企業、市場、法』東洋経済新報社, 1992  
D.C. ミュラー著・加藤寛監訳『公共選択論』有斐閣, 1993

## 社会政策

助教授 中村 健一

応用ミクロ経済学としての労働経済学の講義を行う。講義は出来るだけ部分均衡分析の枠組みで行い、経済学的議論の直観的理解を重視した方法を取る。まずミクロ経済学の復習からはじめ、その理解との対比で様々な不完全市場としての労働市場の特性を講義する。また所得分配の公正の観点から、教育訓練・雇用慣行等の経済分析を紹介し、我々の属する日本の労働市場の諸問題についても考察する。

### 講義内容

1. 完全市場の理論
  - ①最適化行動と均衡
  - ②限界原理
  - ③需要と供給
  - ④完全市場と価格競争
  - ⑤競争均衡の最適性
  - ⑥市場経済の社会哲学
2. 不完全市場としての労働市場
  - ①非自発的失業
  - ②フィリップス・カーブ
  - ③効率賃金仮説
  - ④インサイダー・アウトサイダー
  - ⑤労使関係とゲーム理論
3. 学歴社会と雇用慣行
  - ①効率と公正
  - ②人的資本と賃金格差
  - ③シグナリング
  - ④学歴競争の社会的費用
  - ⑤企業の理論と特殊人的資本
  - ⑥日本的雇用慣行

### 教科書および参考文献

教科書は用いない。参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

## 産業組織論

教授 鶴 沢 秀

現代の産業組織の特徴を理解し解明するため、この授業では主として、理論的側面に重点を置きながら講義を進めていく予定である。

具体的には、

- (1) 独占や寡占状態を判断する際の指標である産業の集中度についての定義と意味
- (2) 独占企業の行動分析
- (3) 寡占企業の行動分析
- (4) 規制(緩和)の経済的意義と政府の経済政策
- (5) ゲーム論による寡占企業の分析
- (6) カルテルの弊害

などの講義を中心にする。

できる限り、具体例、数値例を利用して、十分な理解力と応用力を付けさせたいと思う。

## 財政学(前期)

助教授 角 野 浩

財政学は、財政の制度、財政の理論、財政の実証から構成され、守備範囲は広いといえる。

また、最近の財政に関わる時事問題は事欠かず、毎日のように新聞・TV等をにぎわしている。例えば、景気対策としての所得税減税と消費税増税のような税制改革、さらには財源確保としての赤字国債発行のような深刻な問題がクローズ・アップされてきている。また、21世紀に向けて急速に進展する高齢化社会は、租税、社会保障、医療および教育等のさまざまな問題も引き起こしている。そこで、本講義では、財政学で取り扱うテーマを伝統的な制度的な側面だけでなく、理論的な側面まで考慮し、的確に現実を見据えてゆける視点を身につけることを目標とする。本年度は以下の講義項目を予定している。

1. 市場経済と公共部門
2. 現代日本の財政
3. 公共財と公共投資
4. 公共料金と財政
5. 租税の経済分析
6. 日本の税制—制度と問題点—
7. 社会保障
8. 公債の経済的効果
9. フィスカル・ポリシー

### テキスト

浅井 勇・入谷 純編著『現代財政の基礎』八十代出版, 1993

### 参考文献

- 牛嶋 正『財政』(第2版) 東洋経済新報社, 1990。  
本間 正明編著『ゼミナール現代財政入門』日本経済新聞社, 1990。  
山田・中井・岩根・林編著『敗政学』有斐閣, 1992。

## 地域経済学

非常勤講師 望月喜市  
(北海道大学名誉教授)

市場経済化過程にあるロシア経済の現状をつぎの項目に沿って講義します。

- ①ソ連経済の興亡： ソ連は1917年に生まれ、1991年に15の独立国家に分裂しました。この間の歩みを跡付け、その歴史的意味を考えます。
- ②ロシア国家の誕生： 1992年から、ソ連邦の法的継承国家として誕生し、市場経済化への政策を実施しはじめましたが、荒波に翻弄される船のように危機的航海を続けています。
- ③経済改革の展開： 価格自由化、開放経済、民営化、軍民転換、マクロ財政・金融政策など市場経済に対応する制度を創り、機能させることに懸命ですが、思うような成果をあげるに至っていません。
- ④極東経済の現状： 極東経済は、北海道経済に多くの点で類似しています。アジア・大平洋への国際分業に参加することで、経済の自立化を目指しています。
- ⑤環日本海経済圏の動向： 日本海週辺の諸国、地域が生産要素を補完しあう形の経済関連のネットワークを広げようとしています。この激しい動きを追跡し日本への影響を考えます。
- ⑥日露経済関係： 日露経済関係は冬の時代です。この状況のなかで何をすべきでしょうか。どのような展望があるのか考えます。

講義は、上述の順序で行いますが、毎回その時点でのロシアの動きを紹介し、評論します。講義参加者は、新聞を能動的に読む習慣を付けられるよう希望します。今世紀2度にわたって世界を震撼させたロシアは、引越しのできない日本の隣人です。講義がその隣人とのあり方を考える契機にしたいと考えています。なお参考文献は適宜指示します。

- 1) S. ブラギンスキー、V. シュヴィドコー著『ソ連経済の歴史的転換はなるか』講談社現代新書、1991. 1.
- 2) S. メンシコフ著『ソ連経済 破局からの出発』渡部敏訳、サイマル出版会、1991. 8.
- 3) G. ヤプリンスキー著『ロシア経済の真実』松本幸重訳、東洋経済、1992. 9.

## 金融経済論(後期)

助教授 和田良介

この科目では、(1)個別主体の消費と貯蓄の意志決定と資金市場の均衡、(2)貨幣及びその他の資産に対する需要、(3)日本の金融機関とその役割、(4)資産価格の変動とそのリスクの回避手段、という4つを取扱います。

(1)と(2)では均衡利子率や貨幣需要の決定要因を説明しようとするマイクロやマクロ経済学のモデルを取扱います。バブル現象は株式や土地といった資産の価格や、あるいは17世紀のオランダではチューリップの球根という資産の価格が上昇すると皆が予想するので実際に価格が上昇するものです。ではバブルがない時の価格はどうあるべきなのでしょう。 (2)ではこのようなバブル現象も含めて、資産価格の決定についても考えます。

(3)では金融仲介機関の役割や貨幣供給のメカニズムを概説します。

(4)ではforward取引や派生的証券と呼ばれるfuturesやoption取引の仕組みを紹介します。

ドル、株式、債券の価格は毎日変動しています。例えば、1ヶ月後に受取る予定のドルの円貨換算額が予想外に少なくなってしまうリスクや、あるいは保有する株式の価格が将来下落するリスクを回避するために、上記の取引を利用することができます。

オプション市場では、対象となる資産そのものではなく、その資産をあらかじめ定めた価格で売ったり買ったりするための権利が取引されます。

質問受付時間 (office hour) には研究室で質問を受付けます。授業で説明不足だったのに気が付かないことがあります。質問を受ければ、次の授業で補足説明を行なえます。質問した人ばかりでなくクラス全体の理解に役立ちますから質問は歓迎です。

リーディング・リストを1回目の授業で配付します。試験は4回行ない、内容は計算問題40%、グラフを用いるものも含めて記述式が60%の予定です。宿題が7回程度あります。4、5人でグループを作り、共同で宿題に取り組めます。

教科書：堀内昭義、「金融論」、東京大学出版会、1990

(James C. Van Horne, Financial Market Rates & Flows, 4th Edition, Prentice Hall, 1994も検討中)

## 国際経済論(前期)

助教授 船津秀樹

国際経済をめぐる諸問題について適切な理解を深めるために、現代経済学の基礎的概念に基づいて講義します。新聞の経済記事などを通して、国際経済に関するニュースに常に関心を持つようにして下さい。講義は、必ずしも理論分析ばかりでなく、歴史的視点、国際経済データの見方、政策含意もふまえて展開されます。

1. 独占企業と重商主義
2. アダム・スミスの自由貿易論
3. 絶対優位とリカードの比較生産費の原理
4. 誰のための自由貿易論か?
5. 消費者主権と消費者余剰
6. 関税の部分均衡分析 I (完全競争企業)
7. 関税の部分均衡分析 II (独占企業)
8. 国際貿易の二部門分析
9. 関税の一船均衡分析
10. 自由貿易の利益と産業調整
11. 国際収支と所得分析
12. 為替レートと国際収支の調整
13. 直接投資と労働の国際間移動
14. 経済発展と南北問題
15. 経済統合と世界経済

テキスト：所・林原・佐竹・船津著『国際経済学入門』中央経済社、1991年

W. J. イーシア『現代国際経済学』多賀出版、1992年

## 国際金融論 (前期)

助教授 渋谷 浩

今日の国際経済情勢を正しく理解するために必要な国際金融論 (国際マクロ経済学) の基礎知識修得を目的とする。講義では、貿易不均衡問題、日米包括経済協議、国際政策協調、EC経済通貨同盟への動きなど、現実の国際経済問題を念頭に理論を展開・応用していく。

講義内容

### I. 国際金融・貿易システムと国際収支

- (1) 国際金融・貿易システム (IMFと国際通貨体制, GATTと自由貿易体制)
- (2) 国際収支表 (貿易収支, 経常収支, 資本収支, 基礎収支, 総合収支)
- (3) 開放経済における主要マクロ経済変数間の基本的関係
- (4) 経常収支 = 民間純貯蓄 + 政府財政黒字 = 国民所得 - 国内支出

### II. 貿易収支 (経営収支) 決定理論

- (1) 貿易収支調整へのアブソーブション・アプローチ
- (2) 貿易収支調整への弾力性アプローチ (Jカーブ効果, パススルー, 履歴効果)
- (3) 国際貿易と資本移動の経済学的意味 (異時的アプローチ)
- (4) 日米貿易不均衡問題 (プラザ合意, 戦略的貿易政策, 日米包括経済協議)

### III. 資本収支と為替レートの理論

- (1) 国際資金決済と外国為替市場 (直物, 先渡, 先物・オプション) (2) 直先為替レートと金利裁定メカニズム (カバー付きの金利平価, スワップ)
- (3) 為替レートの短期的変動 (アンカバーの金利平価, 情報と市場の効率性)
- (4) 為替レートの長期的変動 (購買力平価, マネタリ・アプローチ)
- (5) 貿易財・非貿易財相対価格と実質為替レート (バラサ・サムエルソン効果)
- (6) 為替レートの中期的変動 (オーバーシュート・モデル)

### IV. 開放経済における金融政策と財政政策

- (1) 為替レートと所得の同時決定モデル (財市場・通貨市場・為替市場の均衡)
- (2) 変動相場制下と固定相場制下の金融政策と財政政策の効果
- (3) 対外均衡と国内均衡へ向けての金融・財政政策 (ポリシー・ミックス)
- (4) 貿易不均衡をめぐる政策論争 (「ドル安定推進派」対「財政調整派」)

### V. 国際通貨制度と国際政策協調

- (1) ブレトン・ウッズ体制 (戦後の米ドルを基軸とした固定相場制)
- (2) 管理フロート制 (ブレトン・ウッズ体制崩壊後の変動相場制)
- (3) 欧州通貨制度 (EMS) と EC通貨統合の展望 (ECU, ERM, ECB)
- (4) 国際政策協調と国際機関の役割 (G7, OECD, IMF)

教科書: 高木信二『入門国際金融』, 日本評論社, 1992。

辻正次・田岡文夫『入門国際マクロ経済学』, 多賀出版, 1993。

前者は広範囲にわたる内容のバランスのとれた国際金融論の標準的テキスト。後者は国際金融論の内容を十分理解するために必要な国際マクロ経済学の基礎的テキスト。特に、後者

は解答付きの練習問題があり、それを自主的に解いていくことによって相当な実力をつけることができる。両者合わせ持てば、準備万端。他の参考文献は必要に応じて講義中に紹介する。

## 経済学特別講義 II (後期)

助教授 船津 秀樹  
助教授 和田 良介

Special Lecture in Economics II (Introduction to Japanese Economy)

by Ryosuke Wada & Hideo Funatsu

The purpose of this lecture is to discuss the distinctive features of the Japanese economy within the framework of modern economic analyses. We use the textbook written by Takatoshi Ito which is widely used in the English speaking countries.

This class is taught in English. Exchange students from the sister universities as well as students who are interested in studying abroad are welcome to participate into this class.

1. Introduction to the Japanese Economy
2. Historical Background of the Japanese Economy
3. Economic Growth
4. Business Cycles and Economic Policies
5. Financial Markets and Monetary Policy
6. Public Finance and Fiscal Policies
7. Industrial structure and policy
8. The Labor Market
9. Saving and the Cost of Capital
10. International Trade
11. International Finance
12. US-Japan Economic Conflicts
13. The Distribution System
14. Asset prices: Land and Equities

Textbook, Takatoshi Ito (1992) *The Japanese Economy*, The MIT Press.

Students are expected to read thoroughly an assigned chapter of the textbook before attending each class. Wada will teach the first part and give the midterm exam and Funatsu will teach the second part and give the final exam.

## 経済学特別講義 III (後期)

未 定

## 流通組織論

教授 片桐 誠 士

流通と商業にかかわる基礎的な理論をわかりやすく解説するとともに、流通組織の歴史的な流れを把握することに講義の主眼を置きます。前半では流通ないし商業を見る視角と理論フレームを学び、後半では流通ないし商業を、歴史的展開の上に位置づけて理解するとともに、その展開過程のなかから流通ないし商業の形態を具体的に規定する要因を見いだすようにしたい。

主要な講義項目として以下のことを予定している。

### 序. 現代経済と流通

1. 商業の機能と構造
2. マーケティングと商業
3. 小売業態の展開と小売構造
4. 消費者行動と小売競争
5. 卸売商業の機能と構造
6. 商業政策の構造

テキスト：石原武政・池尾恭一・佐藤善信著「商業学」（有斐閣Sシリーズ）

なお、参考文献は追って指示する。

### マーケティング（前期）

助教授 黄 磷

#### I. 講義内容：

絶えず変化する市場環境に適応し、競争優位性を創造・維持する企業の戦略と行動という視点よりマーケティングについて講義します。教科書やプリントをもとに講義し、次のテーマを中心に授業を進めます。

- ・現代マーケティングの性格、
- ・マーケティング戦略と競争、
- ・マーケティングと消費者、
- ・マーケティングミックス、
- ・現代マーケティングの課題、
- ・マーケティングの発生と展開、
- ・マーケティングチャンネルと流通、
- ・マーケティングの組織、
- ・グローバルマーケティング、

#### II. 成績の評価方法：

- |               |     |
|---------------|-----|
| ① 中間試験        | 40% |
| ② 期末試験またはレポート | 40% |
| ③ 出席          | 20% |

#### III. 教科書と参考図書：

- |      |                  |      |       |
|------|------------------|------|-------|
| テキスト | 黄 磷『流通空間構造の動態分析』 | 千倉書房 | 1992年 |
| 参考図書 | 吉原英樹編『外資系企業』     | 同文館  | 1994年 |
|      | 嶋口・石井『現代マーケティング』 | 有斐閣  | 1987年 |

## 流通政策

助教授 伊 藤 一

### (1) 授業内容

本講義では企業環境条件である法的規制に対する流通企業経営上の対応を中心として授業を進める。まずマクロマーケティング論の視点から、流通システムの概要を解説し、流通業全体への法的規制の概要・歴史的成立過程・今日的課題等に関して解説する。さらにミクロマーケティング論の視点から、当該法規制への個別流通企業の対応現状に関し法的マーケティング論に基づいて解説する。

### (2) 授業形式

授業形式は法規制問題に関する基礎的知識の習得を目的とした講義を中心とし授業を進める。

履修者は2年次配当の流通組織論を履修済みであることが望ましい。

### (3) テキストおよび参考書、その他

テキスト：石原武政 他『商業学』 有斐閣第5、6章部分

参考文献：久保村隆祐・田島義博・森宏『流通政策』中央経済社 他適時指示。

## 貿易論（後期）

助教授 穴 沢 眞

貿易に関する理論、政策、実務について基本的な事柄を講義する。さらに企業の多国籍化に伴ない生じて来たロジスティクス戦略の変化を主に日本企業を中心に考察し、物の流れの変化を把握する。また、必要に応じて時事的な問題についても説明する。

授業の概要は以下の通りである。

- (1) 貿易理論の系譜
- (2) 貿易政策
- (3) 貿易実務
- (4) 日本企業の行動（企業内及び企業間取引等）
- (5) ケース・スタディー

## 保険論（後期）

非常勤講師 本 間 照 光  
(北海学園大学教授)

保険は、現代の社会と生活を映し出す鏡である。しかも、鏡の中にいる人びとには、鏡も映し出されている自分自身もみえないという不思議な世界がひろがっている。保険のハウツーものは世にあふれていながら、これまで人は、保険という視点から鏡の中をみてこなかったし、社会科学や経済学においても、その視点はみおとされてきた。

わたくしたちは、いわば「保険増殖社会」のただなかに生まれ、生きているのであり、保険には、人生、生活、生命のあり方、「社会」のあり方が、深く投影されている。たとえば、高齢化社会対策の切り札とされる民間活力の導入、日本型福祉社会とは、「日本型私的保険化社会」にほかならない。はたして、私的保険は社会保険に代りうるのだろうか。そして、

社会保障・社会保険の私的保険化は、医療、年金、福祉になにをもたらすのであろうか。

本講では、没後50年を迎える小林北一郎(1899—1944)[注]の樹立した、先駆的で今なお新しい、「歴史的範疇としての保険」論に学びつつ、保険を通じて現代「社会」と生活の諸問題を、受講生とともに考えていきたい。したがって、出席が単位修得の必要条件となります。

テキスト：本間照光・小林北一郎『社会科学としての保険論』、1983年、汐文社。

本間照光『保険の社会学——医療・くらし・原発・戦争——』、1992年、勁草書房。

[注]「私の幼年時代からの知人であった小林北一郎という青年は、私がこの学校に入ると入れちがいにこの学校を卒業して、東京の商科大学へ入った。私の村出身の最も目立った秀才と言われたこの青年は、この年に、中学五年生の私に、ブルジョアとプロレタリアという新しい言葉を教え、この二つの言葉を覚えておかないとこれからの世の中に遅れる、と言った。そしてその年、即ち私が入学する前の年に軍事教練が実施された時、この高等商業学校の生徒たちは軍事教練への反対運動を起した。それに続いてその運動は各地の高等学校や大学に飛び火し、全国的な運動になった。北国の港町の、この名もない専門学校は、その事件のために存在を知られるようになった。」「私は中学校へ入った始め、同村出身の小林北一郎が母と二人緑町に暮っていた家に同居し、その次に姉と自炊生活をしていたが、その中学校の三年生になった時から、隣の塩谷村の自家から汽車で通学しはじめた。」(伊藤 整『若い詩人の肖像』)。

## 証券市場論

助教授 井村進哉

商学としての証券市場論は、交通・保険業、金融業などとならぶ広義の商取引部門を取り扱う研究領域として出発した。すなわち穀物などの商品取引所、あるいは国債、株式、および社債などの証券取引所を対象としながら、そこにおける技術的・制度的側面を論ずる実学としての研究が出発点であった。

こうした証券市場論は、戦後次第に金融論や財務論などの視角を導入しながら証券経済論、証券経営論として独自の発展をみることになる。本講義担当者もまた、このような研究の発展に即してその体系的に理解しようと努める一人であるが、今日の証券市場をめぐる以下のような状況を考慮しながら、講義の当面の重点を証券経済論におくことにする。

今日の日本経済は、依然として深刻な不況下にある。この不況は、1990年以降の株価と不動産価格の下落・低迷を引き金にして生じており、これらが証券業や不動産業の不振にとどまらず、金融システム全体の機能を低下させ、これがまた不況をいっそう深刻にしている点に特徴がある。

中でも証券市場は、80年代後半のバブルの形成・膨張期に、その本来の役割から逸脱して著しく投機化した。本来証券市場は、社会に散在する資金を直接に動員、集中し、この資金を巨額で長期・固定的な投資資金に転換する機能をもっている。ところが80年代後半の日本の証券市場は、低金利下で異常な株価成長を生み出した。また企業や金融機関が株式などを通じて低コストで調達した資金は、生産活動に使われるのではなく、値上がり益(キャピタ

ル・ゲイン)だけを期待して再び株式や土地に運用される状況が生じた。まさに証券市場の投機化がバブル膨張の主役となったのである。

その意味で今日の「バブル不況」ほど、証券市場が投機化がなぜ異常なまでに進展したのか、またその崩壊が実態経済にどのような影響を及ぼしているのか、さらには証券市場本来の役割を回復させるための政策は何か等々、証券市場と金融システムをめぐる問題を鋭く提起している時期はないように思われる。しかしこうした問題に答えるためには、少なくとも以上のような証券市場と金融システムに関する基礎的な理解が不可欠である。

そこで本年度の講義では、まず前半でマクロ的な(巨視的な)視点から証券市場の経済的な機能を概説する。そこではまず証券市場の金融システム全体の中での地位を概観した上で、有価証券を中心とする種々の金融手段の生成論理を明らかにし、これらの経済的機能と運動の特質を経済主体との関連で位置づける。

続いて後半では、戦後日本の証券市場をとりあげ、そこにおける株価形成メカニズムの特質を検討した上で、バブルを生み出した株式市場の変貌の特質を構造的、機構的に明らかにする。また今日の金融システム不安のもとで実施され、検討されている金融・証券政策を取りあげ、その有効性と問題点を明らかにすることにしたい。

テキスト：

佐藤昇／高橋元／相沢幸悦『入門 現代の証券市場』(東洋経済新報社、定価3,200円)

東京証券取引所『Fact Book 1994 東証要覧』(東京証券取引所調査部、定価900円前後)

参考文献

中村孝俊編『証券市場論読本』(東洋経済新報社、定価1650円)

履修上の注意

本年度は、6月20日前後から海外出張などを予定しており、夏期休暇前の講義は6月の第2週か第3週で終了とし、補講を8月末に予定しております。あらかじめお知らせします。

また本年度から、従来随時配布しておりました講義レジュメ・資料をできるだけ簡略化し、OHPなどを多用することにいたします。従来以上に出席が重要な意味をもつこととなりますので、十分留意して履修して下さい。

銀行論(後期)

未定

経営学原理

教授 篠崎恒夫

I 講義内容

経営学は、企業経営を研究対象とする学問である。企業経営は、資本と労働の動きを軸とした運動であるが、現実には様々な利害関係の動きが制度的に蓄積されて今日の企業経営の姿を形成している。講義では、企業経営の歴史的蓄積がどのような法則性の下に現象化し、現実の姿となっているかを明らかにする。

1. 経営学の認識課題

2. 経営学の基礎概念

3. 企業形態の展開
4. 経営管理論の形成
5. ドイツ経営学の生成
6. 近代管理論の展開
7. 人間関係論
8. 経営者行動と経営戦略
9. 管理組織論の展開と今日の企業経営

## II 関連科目

以下の諸科目をすでに履修しているか、または、同時履修することが望ましい。

心理学, 哲学, 歴史学, 社会学, 社会思想史, 商学概論, 経済原論Ⅲ, 経済史概論,  
経営管理論, 流通組織論

## III 参考書

今年度も学生の便宜を図ってノートプリント『講義要録』を用いるが、以下に主たる参考書を掲げておく。

稲葉襄『企業経営学要論』中央経済社  
橋・大橋編著『経営学へのアプローチ』ミネルヴァ書房  
馬場克三『経営経済学』改訂増補版, 税務経理協会  
中村常次郎・高柳暁編『経営学』第3版, 有斐閣  
宮川宗弘『経営管理基礎論』日本評論社

## IV 単位認定

1. 2年次生および3年次新規受講生  
原則として2回の定期試験により単位認定する。ただし、希望者には、レポート提出により前期試験を免除する。
2. 3年次再履修者にはテーマに沿ったレポート提出を求める。
3. 卒業年次生には教室でのレポート報告を要求する。
4. 上記1-3につき、詳細は年度当初に掲示する。

## 経営学説史(後期)

助教授 高橋正泰

経営学の系譜を、特にアメリカを中心として展開されてきた経営管理論・組織論を軸として、その歴史的・社会文化的・政治的背景に注目しながら、経営学成立の過程から科学的管理法、人間関係論、近代組織論、およびコンティンジェンシー理論までを講義する予定です。

テキスト：國島弘行 他『経営学の組織論的研究』白桃書房

参考文献：車戸 實編『新版 経営管理の思想家たち』早稲田大学出版部

権 泰吉『アメリカ経営学の展開』白桃書房

北野利信編『経営学説入門』有斐閣新書

バーレル&モーガン『組織理論のパラダイム』千倉書房

## 企業形態論(後期)

教授 小田福男

現代企業の「所有一支配一経営」の構造を解明する。

講義内容

1. 基礎的考察
2. 企業の重層的構造
3. 株式会社
4. 現代企業の所有・支配構造の特徴
5. ロシアの企業形態

テキスト：片岡信之『現代企業の所有と支配』(白桃書房, 1992年)

参考文献：講義の中で紹介する

## 経営管理論(後期)

教授 鶴野好文

本コースでは、3年次以降の経営諸科学への理論的準備を与えることを目的として、中級レベルの経営管理の基礎を解説します。したがって、planning(経営戦略), organizing(経営組織), leading(リーダーシップ, 動機付け), controllingの管理過程全般が論じられます。また、トピックスとして、organizational planning, strategic planning, organizational design, organization-environment interface, leadership, group dynamicsがとりあげられます。

テキスト：John R. Shermerhorn, Jr., *Management for Productivity* (Third edition), John Wiley & Sons Inc.: New York, 1991.

## 労働管理論

非常勤講師 平尾武久  
(札幌大学教授)

今日、日本の「企業社会」を支える労務管理は大きな転換期を迎えている。すなわち、雇用形態の多様化にもとづく大企業正規従業員とりわけホワイトカラー労働者の相対的減少をテコに能力主義管理体制が強化され、終身雇用制、年功賃金、企業別組合という日本企業のいわゆる「三種の神器」は崩壊しつつあるといわれている。

そこで、本年度は、前期の講義で、現代日本の労務管理について、職務編成、雇用・賃金、労使関係の柔軟化(Flexibility)とそれを可能にした労働者・労働組合の積極的関与(commitment)に焦点を据えて、その全体像を明らかにする。同時に、その労務管理の「日本モデル」と欧米諸国の雇用・労働慣行との国際比較分析をとおしてその特質を浮き彫りにしてみたい。その際には、日米欧の自動車諸企業、例えばトヨタ、日産、GM、ベンツ、ボルボなどの工場・職場の実態に焦点を据えることとする。

また、後期では、こうした実態把握を踏まえて、労務管理の歴史と理論を学ぶ。ここでは、特に人的資源管理とその理論の展開過程に主眼をおきながら、日米欧におけるその歴史的な性格にアプローチしてみたいと思う。



※なお、イギリス、ドイツ、スウェーデンなどの労務管理にかんしては関連資料を配布する。  
テキスト：熊沢誠著『働き者たち泣き笑顔』有斐閣1994年。

D・ネルスン編著（アメリカ労務管理史研究会訳）『科学的管理の展開』税務経理協会 1994年。

参考文献：森 杲著『アメリカ資本主義史論』ミネルヴァ書房 1976年。

S・Mジャコービ著（荒又・森・木下・平尾訳）『雇用官僚制』北大図書刊行会 1989年。

## 財務管理論（前期）

助教授 中村 竜 哉

企業を、資金のフローとストックとから成るシステム（財務システム）としてとらえ、この財務システムの側面から企業経営の構造を明らかにすることが、企業財務の研究である。当講義は、財務担当者の立場からの企業財務への接近を主題とする。講義項目は以下の通りである。

1. 企業財務の基本知識
2. 企業財務への接近方法
3. 資金調達手段と最近の動向
4. 資金運用手段と最近の動向
5. 資本コストとCAPM
6. 設備投資決定
7. 最適資本構成
8. 配当政策
9. 運転資本管理

教科書、参考書は第1講において紹介する。定期試験は学期末の1回行い、出席点を加えて成績を決定する。

## 産業心理学

教授 和田 完

産業心理学の成立課程を検討しながら、その無体系的できわめて広範囲な研究領域を総括的に概観する。われわれは、これらの多岐に及ぶ領域から、産業精神衛生と呼ばれる分野が、なぜ近年問題となってきたかを研究し、その具体的な話題をいくつかとりあげる。とくに臨床心理学的テーマ、適性検査、社会病理学的問題等が強調されるだろう。

参考文献等については講義中に指示されよう。

## 経営史

助教授 高田 聡

企業活動の史的展開を日米を軸に論じます。おおまかな目次は以下の通りです。

- I 19世紀の企業経営
- II アメリカ企業の台頭：20世紀(1)
- III 日本企業：20世紀(2)

本年はIIにおけるアメリカ自動車産業の歴史、なかでも経営と労働の関係についてとくに具体的なケース・スタディを行います。

特定のテキストは用いません。参考文献については講義初回に紹介します。

## 国際企業論（前期）

助教授 李 濟 民

最近では多くの企業活動が国境を越えて地球規模で展開され、まさにグローバル化されている。この様なボーダーレス時代における主体としての国際（超国籍）企業をとりまく諸環境要因を多方面から分析することによって、そのグローバル経営戦略の実態についての理解を深める。

<講義概要>

- I 国際貿易とグローバル企業
- II 経営国際化とグローバル企業
- III 国際金融とグローバル企業
- IV グローバル企業と公的規制
- V グローバル企業の戦略とマネジメント

<テキスト>

Daniels & Radebaugh, International Business : Environment and Dperations, 4thed, Addison-Wesley, 1986

<参考文献>

竹田志郎/島田克美編著『国際経営論』ミネルヴァ書房, 1992

## 簿記論 A（前期）

教授 山本 真樹夫

[講義内容]

諸君は「簿記」という用語からどのようなイメージを抱くであろうか。帳簿と算盤とペンとインクを使う地味で根気のいる仕事であるとか、コンピュータによって無用になりつつある、といったイメージを抱いているかもしれない。

しかし簿記は、現代の企業のきわめて複雑な営業活動、投資活動そして財務活動に関する情報を適切に組織化し、経営管理に役立ち、企業内外のさまざまな利害関係者の意思決定に有用な情報を作成するもっとも重要な企業情報システムである。企業および社会の経済活動が拡大し複雑化するにつれ、簿記の重要性はますます高まっている。

こうした簿記を学ぶためには、当然、その基本原理を理解しなければならないが、同時に基本原理に従った技術の修得も必要である。そのためには、講義を聞き教科書を読むばかりでなく、自ら帳票に向い、電卓を打ち、ペンを走らせるという地道な努力も必要である。

また、簿記が経済社会の動きとダイナミックに連動していることを意識し、簿記が個人にとって、企業にとって、そして社会にとっていかなる役割をはたしているのかを常に考えて欲しい。

[評価]

定期試験のほか講義中に随時クイズを行い、それらを総合して評価する。

[テキスト]

久野光朗編著『簿記論講義』(同文館)。左記テキストに準拠した演習書、久野光朗編著『簿記論演習』(同文館)も用意すること。

[その他]

テキストおよびノート以外に、電卓(使い易い大きめのもの)ないし算盤、長めの定規、赤のボールペンおよびプリント教材を整理するバインダーを用意すること。

簿記論 B (前期)

教授 渡辺和夫

(1) クラス編成

簿記論Bに所属する学生は、各学年とも学生番号251以降の者になります。

(2) 講義内容

この科目では複式簿記の基本原則を学びます。複式簿記は体系的な記録方法であり、順序立ててひとつずつ確実に理解することが大切です。原理そのものはそれほど複雑な内容ではないのですが、例年、よくわからないという人がかなりいるようです。その原因はおそらく安直に理解しようとするためではないかと思われます。時間をかけて根気よく学習すればだれにでもわかるのが簿記です。繰り返し練習し、会計学の基礎となるこの技術をマスターして下さい。

(3) 成績評価

練習問題の提出20%, 第1回試験30%, 第2回試験50%。

(4) テキスト

久野光朗編著『簿記論講義』(同文館)

(5) 参考書

久野光朗編著『簿記論演習』(同文館)

財務会計論

教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、授業内容を大別すれば次のとおりです。

§ 1 総論

§ 2 測定論

収益, 費用, 資産, 負債, 資本

§ 3 伝達論

§ 4 各論

テキスト: 太田・飯野, 『会計学』(千倉書房, 1983)

参考書—現在入手可能な標準的参考書:

黒沢 清『近代会計学』(春秋社)

山下 勝治『会計学一般理論』(千倉書房)

飯野 利夫『財務会計論』(同文館)

武田 隆二『会計』(税務経理協会): 『会計学一般教程』(中央経済社)

青柳 文司『会計学の原理』(中央経済社)

黒沢 清(主編)『体系近代会計学』(中央経済社)

神戸大学会計学研究室編『第4版会計学辞典』(同文館)

森田・宮本編著『等2版会計学辞典』(中央経済社)

原価計算論

助教授 福島吉春

1. 科目の概要

原価計算は19世紀の末、イギリスにおいて生産物の実際製造原価を計算する方法として、また同時期に、アメリカにおいて標準-実績比較を可能にする経営管理手段として成立した。それ以来、標準原価計算、直接原価計算などの各種計算技法を産みだし、1930年代には財務諸表作成のための棚卸資産評価を担うようになるなど、現在では企業、とりわけ製造業における情報システムの中核として機能している。

原価計算は財務会計と結びついて常時継続的に実施される「原価計算制度」と、必要に応じて必要な計算をおこなう「特殊原価調査」とに分けられる。

本講義ではそのうち、主として原価計算制度を扱う。

2. 講義内容

授業では、テキストの順序にしたがい、以下の内容について講義する。

第1章 基礎概念

第2章 原価の分類と原価計算の種類

第3章 原価計算と工業簿記

第4章 原価の費目別計算

第5章 原価の部門別計算

第6章 原価の製品別計算 1 個別原価計算

第7章 原価の製品別計算 2 総合原価計算

第8章 販売費と一般管理費

第9章 標準原価計算

3. 使用テキスト

小林健吾『原価計算総論(増補改訂版)』創成社, 1992。

4. 参考書

岡本 清『原価計算(四訂版)』国元書房, 1990, その他、授業の中で適宜指示するほか、最初の授業で、年間を通して使えるものをいくつか紹介する。

管理会計論(後期)

教授 中 善 宏

会計は、管理会計と財務会計の2つの領域に大別される。管理会計は、企業内部において

経営管理者が担当する計画・統制機能のために必要な情報の提供を目的とする会計である。この会計は、意思決定会計と業績管理会計に区分されている。前者は、戦略的な、長期に渡る企業の基礎構造の決定に関わる問題を対象としており、典型的には設備投資計画や長期利益計画などを取り扱う。後者は、短期の企業目標の設定と管理者業績の評価に焦点がある。今年度の講義は、最初に短期利益計画および予算管理を取り上げることにする。これらは、業績管理会計の主たる構成分野である。次いで設備投資の経済性評価にも触れる予定である。講義内容はおよそ次のようになる。

1. 管理会計の体系
2. 短期利益計画
3. 予算管理
4. 設備投資計画

教科書：溝口一雄編著「管理会計の基礎」(中央経済社 昭和62年)

### 会計学特講 I (前期)

教授 田中良三

講義では商業簿記を中心とし、会社が社会に開示する財務諸表(貸借対照表と損益計算表)を作成することができるぐらいの理論と技術(少くとも日商検定簿記一級程度)の習得を目的とする。したがって、講義は理論と演習の両方を重視し、実社会においても通用するものにしたい。講義の進め方は簡単なものから複雑なものへというプログラム方式であるが、具体的には、商業簿記3級(5月中旬)、商業簿記2級(9月下旬)そして商業簿記一級(1月下旬)としその都度、検定問題程度の試験を授業時間内で実施する。また講義内容を示すつぎのようになる。

#### I. 講義内容

1. 簿記一巡の手続と財務諸表
2. 現金・預金取引, 有価証券取引
3. 債権・債務取引, 手形取引
4. 商品売買取引, 特殊商品売買取引
5. 固定資産取引, 損益取引
6. 決算と財務諸表
7. 株式会社会計
8. 本支店会計
9. 帳簿組織, 伝票式会計, 行列簿記

#### II. テキスト

井上達雄・新井清光編著「検定簿記講義」(商業簿記3級)中央経済社650円  
井上達雄・染谷恭次郎編著「検定簿記講義」(商業簿記2級)中央経済社650円  
TAC簿記研究会編「100万人の簿記・個別問題特訓」TAC出版2,400円  
大原簿記学校編「PASS I」(1級課程商業簿記) (株)オービーエス・アカデミー1,500円  
井上達雄・新井清光編著「検定簿記ワークブック」(商業簿記3級, 2級)中央経済社580円

## 商業英語

非常勤講師 相川謙二郎  
(小樽女子短期大学教授)

What sort of ambitious study plans do you have for 1994? During the last recession period of the U. S. and Japan the major structural changes seems to have taken place respectively. In fact, many Japanese corporations-big and small-are proceeding due downsizing &/or restructure having pared their workforce to a greater extent.

Now, 1994 may be another year for further opening of the Japanese market through the so-called extended frame-work talk with the U. S. and for coming back of consumers demand through another tax-cut program of this year.

This may lead to an upward of economy and subsequently a recovery stage toward the end of 1994.

So why not be well prepared for doing business with overseas? Be sure to note, however, Business English is a very demanding subject and so you are required to make strenuous efforts and to keep it.

The study program is;

- 1) Approach to possible business partners
- 2) Credit Inquiry, Information and Rating.
- 3) Creation of Business.
  - a) Business Proposal-Inquiry and Offers
  - b) Conclusion of Business-Commitment and Contract
- 4) Execution of Contract
  - a) Shipment, Marine Insurance and Payment-Without L/C, B/C-and Shipping Documents
- 5) Complaints and Adjustment
- 6) Follow-up
- 7) Ads. and Market Report
- 8) Telecommunications

Text: "English for International trade" By Saburo Haneda & Hirosuke Shima  
(森北出版(株))

## 憲法総論

教授 結城洋一郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び、わが国の憲法については、基本的人権を中心に具体的裁判例を参照しながら講義を行う。

講義内容

### I 総論

- (1) 憲法とは何か
- (2) 自然権思想と国民主権原理

## II 日本国憲法

- (1) 基本的人権の保障
- (2) 平和主義

テキスト：野中俊彦他『憲法Ⅰ』有斐閣

参考書：総論については、杉原泰雄編『憲法学の基礎概念Ⅰ』、同『憲法思想』（講座・憲法学の基礎1、4）勁草書房  
基本的人権については、小林孝輔編『新版判例教室 憲法』法学書院

## 統治機構論

助教授 猪股弘貴

統治機構論は法学科目としての「憲法」の一部を構成するものである。有名なフランス人権宣言（1789年）の第16条に「権利の保障が確保されず、権力の分立が定められていないすべての社会は、憲法をもつものではない」と謳われているように、近代憲法は、権利の保障（人権）と権力分立（三権分立）を構成要素としている。統治機構論は、このうちの権力分立を対象とするものであり、比較憲法的な要素も多少は取り入れるとはいえ、時間の制約から、主に日本国憲法の権力分立をその対象とするものである。なお、人権の部分は、本学では憲法総論という科目で扱われることになっている。

年間の授業計画のあらましは以下のとおりである。

### 序論

1. 立憲主義と統治機構
2. 近代統治機構の諸原則
3. 明治憲法における統治機構の特色
4. 近代統治機構の現代的変容

### 第一章 国会

- 第一節 選挙
- 第二節 政党
- 第三節 国会

### 第二章 内閣

### 第三章 裁判所と憲法訴訟

### 第四章 財政

### 第五章 地方自治

これらをもて、関心があったか否かは別にして、高校までの社会科で習い知ったことであるとして、高を括るのは大変な間違いである。そこで得た知識を基礎とすることは勿論であるが、憲法も法の一つであるから、さまざまな解釈が存在するのであり、授業の主な目的はそのような考え方を習得してもらうことにある。授業では、その時々政治・社会問題（たとえば政治改革等）をも積極的に取り上げ、できるだけ親しみがもてるよう、工夫をこらし

ていきたいと思っている。なお、本学においても公務員志望の者が増加しているが、憲法についての考え方の育成に主眼を置くとはいえ、この対策としても十分役立つものとなるよう配慮するつもりである。

関連科目：憲法総論、行政法総論、行政機構法

教科書・参考書については、最初の授業の際に取り上げ、詳しく説明するが、教科書的存在のものとして、野中俊彦他著『憲法Ⅱ』（1992年、有斐閣）を挙げておく。ただし、それに則して授業を進めるものではないことをお断りしておく。

## 行政法総論

教授 秋山義昭

具体的な事例を素材にしながら、行政法の一般理論、行政行為、行政救済法を体系的に講義する。行政法は、憲法・民法等の知識を不可欠とするので、受講者はこれらの科目についてすでに相当の成績で履修済みのこと。

テキスト：遠藤・熊本・秋山・畠山『教材行政法判例』（北大国書刊行会）

参考書：今村成和『行政法入門（第5版）』（有斐閣）

田中二郎『新版行政法上（全訂第二版）』（弘文堂）

原田尚彦『行政法要論（全訂第二版）』（学陽書房）

秋山義昭『国家補償法』（ぎょうせい）

## 行政機構法

助教授 石黒匡人

いわゆる行政法各論のうち、行政組織法、地方自治及び公務員法を中心に講義する。

憲法、民法及び行政法総論についての知識が必要であり、それらの科目を履習していることを前提に、進めていく。

テキスト：田中二郎『新版 行政法 中巻（全訂第二版）』（弘文堂）

参考書等は講義の際に紹介する。

## 民法総論（前期）

助教授 渡辺達徳

民法とは、家庭生活を営み、財産を所有し、取引を行うといった市民の日常生活を規律する法である。本学では、この民法を学ぶために、「民法総論」「契約法」及び「担保法」という講義科目が用意されている。そのうち、民法総論では、民法典の「総則」編をはじめ、物権変動、不法行為、相続法の基礎といった権利変動の基本的なしくみが講義の対象とされる。したがって、ここで扱われる諸制度・概念は、契約法以下の民法科目を学ぶために不可欠の前提となるほか、民法が私法の原則法・一般法であるという性質上、他の法律科目を履修するための基礎を形成するともいえよう。

なお、この講義で扱われる民法典の「総則」は、民法全般にわたる基本的な、しかし反面において抽象的な諸概念により構成されているため、その理解はさほど容易でない。むしろ、民法典の「総則」編をはじめ、民法総論で学んだ様々な抽象概念は、契約法に至って具体的に開花するともいえるから、この講義に出席する際は、後期開講の契約法も併せて履修する

予定で臨んでいただきたい。

講義では特定のテキストに沿って解説するかたちは採らないが、開講時に参考図書を紹介を行うとともに、具体的な講義スケジュールを配布する。

## 契 約 法 (後期)

助教授 藤 原 正 則

主に債権法の部分を対象とする。但し、多数当事者間の債権（保証債務、連帯債務等）、及び債権担保機能を果している契約類型については簡単にふれるにとどめる（「担保法」に出席されたし）。だから主なテーマは契約上の請求、各種の契約である。

テキスト：開講前に指示する。

## 担 保 法

教 授 神 田 孝 夫

大略、以下の諸点につき講義する。

1. 債権・債務の帰属の変更（債権譲渡、債務引受など）
2. 債権の実行（履行強制の問題を中心に）
3. 責任財産の保全（債権者取消権、債権者代位権など）
4. 多数当時者の債権関係（いわゆる人的担保を中心に）
5. 担保物権（民法典上のそれ、特別法上のそれ、判例法上のそれ）

教科書：我妻栄・川井健「民法Ⅰ」、我妻栄・水本浩「民法Ⅱ」（いずれも一粒社）

参考書：開講時に紹介する。

## 刑 法

助教授 白 木 豊

刑法は犯罪と刑罰に関する法であり、いわゆる刑法典だけではなく数多くの特別刑法も含まれる。その刑法を扱う学問である刑法学には、大別して、犯罪全てに共通する一般的成立要件を考察する刑法総論と、個々の犯罪の成立要件をそれぞれ考察する刑法各論とがある。この講義は、主に刑法総論を扱い、およそ犯罪はいつ成立し処罰はいつ成立し処罰はいつ許されるかという基本的視点を養うことを目的とする。刑法各論は必要に応じて触れる予定。

教科書：大越義久『刑法総論』（有斐閣）

教 材：平野龍一他編『刑法判例百選Ⅰ総論（第三版）』（有斐閣）

参考書：中山研一『概説刑法Ⅰ』（成文堂）

大谷實『刑法講義総論（第三版）』（成文堂）

曾根威彦『刑法総論（新版）』（弘文堂）

前田雅英『刑法総論講義（第2版）』（東京大学出版会）など。

※上記の教科書・教材は暫定的なもので、変更もありうる。詳しくは初回の講義の際に指示する。

## 国 際 法 (前期)

助教授 中 村 恵

### 1. 講義内容

今年度の講義は、講義を前半と後半の2期に分け、前半は、「国際司法裁判所」における国際裁判の仕組みについて解説した後、いくつかの判決例を紹介しながら、国際法の基本原則について検討します。後半は、前半でのケーススタディーを踏まえて、国際法の総論的な部分、すなわち「国際社会と法」、「国際法の法源」、「国際法主体としての国家」等について、理論的な検討を行います。

### 2. テキストおよび参考文献

特定のテキストは、使用しません。参考文献については、その都度指示します。なお、講義中多数の条約を参照しますので、条約集を必ず持参して下さい。小田・石本編『解説条約集』（三省堂）、または、山本編『国際条約集』（有斐閣）を、推薦しておきます。

### 3. その他

講義への積極的な参加を希望します。「過去問」や「模解」等で安易に単位を取得したい諸君には、不向きな講義ですので念のため。

## 国 際 機 構 論 (後期)

助教授 中 村 恵

### 1. 講義内容

今年度の講義は、講義を前半と後半の2期に分け、前半は、「国際連合憲章」上の主要問題について検討します。具体的には、憲章の解釈論を中心に講義を行います。後半は、前半での検討を踏まえて、国際機構論の総論的部分、すなわち「国際機構の分類」、「国際機構の法源」、「国際機構の構造」、「国際機構の表決制度」等について検討します。

なお、「国際機構論」の講義は隔年開講のため、平成7年度は非開講の予定です。

### 2. テキストおよび参考文献

特定のテキストは、使用しません。参考文献については、その都度指示します。なお、講義中多数の条約を参照しますので、条約集を必ず持参して下さい。小田・石本編『解説条約集』（三省堂）、または、山本編『国際条約集』（有斐閣）を、推薦しておきます。

### 3. その他

講義への積極的な参加を希望します。「過去問」や「模解」等で安易に単位を取得したい諸君には、不向きな講義ですので念のため。

## 比 較 法

非常勤講師 伊 藤 知 義  
(札幌学院大学助教授)

欧米諸国の法律事情がどうなっているのか、つれづれなるままに話をしていきたい。現代日本法は欧米の法律をモデルにつくられたものであるが、同じような法律問題に対して日本と欧米の間で、また欧米諸国の中でも解決法が違っていることは珍しくない。そういった、日本との比較で皆さんの興味を惹きそうな話題を選んで講義したいと考えている。英米の民

事法を中心として話をし、ドイツ、フランス、ロシア・東欧の法についても触れる予定である。出席はとらないが、復習を兼ねて日本法についてごく簡単な質問をし、それに対する発言を評価に加えるので、単位を取得したい者は講義に出席して発言することが必要である(質問内容は本当に簡単なものなので、発言点をとるのは容易である)。但し、私語をするなど受講態度が不良と判断した学生には以後の受講は認めないので注意されたい。

テキストは使わない。

## 会 社 法

教授 青 竹 正 一

会社法は、共同企業の典型的形態である会社組織の成立から消滅に至るまでの利害関係者(会社・出資者・会社債権者)の利益調整を行うことを主たる目的としている、企業法に関する重要な法律です。講義は、このような会社法のうち最も重要な株式会社法を中心に、会社法が現実の企業活動においてどのような役割を果たしているのかを知ってもらうため、判例、書式、公告などの具体的素材を取り上げながら進めることにします。

テキスト：上柳克郎ほか編『会社法Ⅰ・Ⅱ・商法講義(2),(3)』(有斐閣)

別冊ジュリスト『会社判例百選(第5版)』(有斐閣)

田村諄之輔ほか編『目で見える商法教材』(有斐閣)

## 商 取 引 法

助教授 田 邊 宏 康

商法典は、①総則、②会社、③商行為、④海商の4編に分かれており、商取引に関する法規範は、その全編に含まれていますが、本講義においては、商業登記、商号、商業使用人などについて規定している商法第1編総則、および商行為に関する通則、商事売買、仲介・問屋営業、運送・倉庫営業などについて規定している同第3編商行為を中心として、商取引に関する法的な知識と考え方を養うことを目的に講義します。

教科書：落合誠一・大塚龍児・山下友信著『商法Ⅰ総則・商行為(第2版)』(有斐閣)

参考書：別冊ジュリスト『商法(総則・商行為)判例百選(第2版)』(有斐閣)、田村諄之輔・戸塚登・落合誠一編著『目で見える商法教材』(有斐閣)

## 有 価 証 券 法

教授 飯 田 勝 人

有価証券というのは、財産価値のある権利を表章する証券であって、その権利の移転・行使のためには証券の占有が必要であるもの、とされており、手形、小切手、株券、債券、船荷証券などが有価証券の例です。

講義は、このうちから完全有価証券といわれる手形・小切手を取りあげ、手形、小切手についての理論的な知識を身につけてもらうことを目的として進めることにします。また、手形、小切手の実際にも関心を払ってもらうために、銀行が定めている当座勘定規定や手形・小切手の用法についても話をすることにしたいと思います。

教科書：大隈健一郎『新版手形法小切手法講義』(有斐閣ブックス)有斐閣(1989年)

参考書：鴻常夫・竹内昭夫・江頭憲治郎編別用ジュリスト『手形小切手判例百選(第4版)』

有斐閣(1990年)

## 民 事 手 続 法 (前期)

非常勤講師 原 強  
(札幌学院大学助教授)

民事手続法は、民法や商法などの民事実体法と対をなして民事法を構成している。民事手続法の学修は、民事実体法の理解にも必要不可欠であり、また民事手続法を真に理解するには、民事実体法の知識が必要不可欠であり、民事実体法と民事手続法は一体不可分の関係にあるといっても過言ではないだろう。

本講義では、民事手続法のうち、判決手続、執行手続を中心に解説するが、適宜倒産手続についても触れる予定である。具体的には、以下の順序に従って講義を進めていく予定である。

1. 民事訴訟の目的と構造、民事裁判権・国際裁判管轄
2. 裁判外紛争処理・訴訟と非訟、民事審判権の限界
3. 訴訟の三類型、訴訟物
4. 当事者、裁判所
5. 訴えの利益、訴えの提起
6. 弁論主義、訴訟行為
7. 証拠、裁判以外の訴訟終了方式
8. 裁判による訴訟終了
9. 多数当事者訴訟
10. 上訴・再審
11. 民事執行の構造と機能、強制執行と担保権実行その他
12. 民事保全手続

なお、テキスト・参考書については、開講日に指示する。

## 倒 産 処 理 法 (前期)

非常勤講師 佐 藤 鉄 男  
(北海道大学助教授)

経済的に破綻した債務者をめぐる法的処理に関する破産、和議、会社更生などの手続について学ぶ。大型の国際倒産から、クレジットカードの使いすぎによる消費者破産まで広く対象になるが、限られた時間数なので破産法を中心に説明することになる。

テキスト：井上治典・河野正憲・佐上善和編『現代民事救済法入門』(法律文化社)

別冊ジュリスト『新倒産判例百選』(有斐閣)

参 考 書：伊藤眞『破産—破滅か更生か—』(有斐閣)(入門者向け)

判例タイムズ830号『破産・和議の実務と理論』(判例タイムズ社)

霜島甲一『倒産法体系』(勁草書房)

## 経 済 法

教授 和 田 健 夫

「経済法」は市場の失敗に対する公的規制の法を対象としている。講義は、数多くあるこ

の種の法のうちから、独占禁止法を中心に展開される。内容は、だいたい次のとおりである。

- 第1章 競争の機能と競争政策の目的
- 第2章 独占禁止法の目的と手段
- 第3章 独占禁止法の運用体制
- 第4章 独占の規制
- 第5章 カルテルの規制
- 第6章 取引の公正の確保
- 第7章 国際取引と独占禁止法
- 第8章 独占禁止法の適用除外
- 第9章 独占禁止政策の実効性
- 第10章 経済規制法
- 第11章 技術と法

※最初の講義の時間に講義の具体的な内容、進めかたを話し、講義テキストを配付する。

テキスト

- ①和田健夫, 1994年度経済法講義 (unpublished. 非売品)
- ②実方・厚谷・向田・稗貫・和田, 教材独占禁止法 (第四版) 青林書院

参考書

- ①実方謙二, 独占禁止法 (新版), 有斐閣
- ②今村成和, 独占禁止法入門 (第4版), 有斐閣
- ③正田彬, 全訂独占禁止法 I, II, 日本評論社
- ④丹宗・来生・畠山・稗貫・向田・和田, 論争独占禁止法, 風行社

## 知的財産権法

教授 久々湊 伸 一

無体財産法から科目名が変更された。それに伴って中味も新しくなくてはいけないが、ともかく著作権法と工業所有権法が2本の柱である。後者は特許法, 実用新案法, 意匠法, 商標法からなる。著作権法は文芸, 学術, 美術の分野の創作者を保護し, 工業所有権法は, 商品に価値を付与する諸層 (機能, 外観, 標章) の創作者等を保護する。前者はコンピュータ・プログラム, ビデオレンタル, 文献コピー等の問題があり, 後者にはバイオ・テクノロジーの特許, 欧州特許, サービスマークの保護などの問題がある。両法制は近年法改正が頻繁で問題の多いことを示している。

前期に著作権法, 後期に主として特許法についてその問題点を探りたい。

テキスト: 久々湊ほか著『著作権法』学陽書房; 橋本良郎著『特許法』有斐閣。

参考書: 別冊ジュリスト『著作権判例百選』有斐閣

齊藤博『概説著作権法』[第2版] 一粒社

半田正夫『著作権法概説』[第6版] 一粒社

紋谷暢男『無体財産権法概論』有斐閣

## 労働法

助教授 島田 陽 一

労働時間短縮, 過労死問題, 外国人労働者問題, 単身赴任雇用調整等, 日常生活のなかに多様な形態で存在している労働法をめぐる諸問題をできる限り実例に即して解説する。内容は以下のとおりである。なお, 本年度は個別的労働関係に重点をおいて講義する。

第一編 総論

第一章 市場経済と労働法原理

第二章 労働法の歴史と労働者の権利

第三章 現代労働法の大系

第二編 個別的労働関係と法

第一章 個別的労働関係法の基本的仕組

第二章 労働関係の終了と法

第一節 解雇

第二節 有期労働契約

第三節 退職

第四節 定年制

第三章 労働関係の成立と法

第一節 使用者の採用の自由

第二節 労働契約締結に関する労基法の規制

第三節 採用内定・試用期間

第四章 労基法における基本原則

第一節 平等取扱い

第二節 労働憲章

第五章 人事異動

第一節 配転

第二節 出向

第六章 就業規則

第七章 懲戒制度

第八章 非典型的労働関係

第一節 パートタイマー

第二節 労働者派遣

第三節 その他

第九章 賃金

第十章 労働時間・休日・休暇

第十一章 安全衛生・労災

第三編 集团的労働関係と法

第一章 労働組合

第二章 不当労働行為制度  
第三章 団体交渉と労働協約  
第四章 争議行為

教科書は使用せず、適宜講義レジメを配布する。教科書がないと不安な学生諸君のために、第一回目の授業で各種の労働法教科書を紹介するが、さしあたり以下を参考文献として掲げておく。

参考書：菅野和夫『労働法第三版』弘文堂  
外尾健一『労働法入門第三版』有斐閣  
別冊ジュリスト 労働判例百選第五版（有斐閣）  
ジュリスト増刊 労働法の争点（新版）（有斐閣）

環 境 法（後期）

非常勤講師 畠山 武道  
（北海道大学教授）

①環境法入門、②日本の環境法問題と法の発達（戦前、戦後）、③国土総合開発法とその成果（全総から五全総まで）、④バブルとリゾート、⑤環境基本法、⑥環境アセスメント法、⑦大気汚染防止法、⑧水質汚濁防止法、⑨化学物質の氾濫と健康、⑩公害健康被害の救済、⑪河川と法、⑫森林と法、⑬ナショナル・パーク、⑭海辺、⑮干拓、⑯無価値な土地（湿原）、⑰野生生物、⑱公害輸出、⑲アメリカ・アメリカ、⑳環境倫理

講師の都合で、順序・内容が変わることがあります。教科書は使用しません。講義案・資料集（有料・400円程度）の作成を考えています。参考書は、講義の冒頭または各講義の中で紹介します。

講義は、前半を講義、後半をケース研究と討論にあてます。講義に出席して、発言するのが、単位取得への最大の近道（早道）です。

国 際 経 済 法（夏季集中）

非常勤講師 清水 章 雄  
（早稲田大学教授）

国際法のなかで国際経済関係の調整を目的とする部分及びそれと関連する国内法について、おおむね次の範囲で講義を行います。ただし、現在の国際経済法における重点と考えられる第2項目について主に講義する予定です。

- 1 国際経済法総論
- 2 国際通商法
- 3 国際投資法
- 4 国際通貨法
- 5 開発の国際法
- 6 国際租税法

テキストとして、ロング著『ガットと経済摩擦』（敬文堂）を使います。参考書としては、松下満雄著『国際経済法』（有斐閣）及び丹宗昭信・山手治之・小原喜雄編『国際経済法』

（青林書院）が役に立ちます。

国 際 取 引 法

助教授 桑 原 康 行

1 講義内容

国際的売買およびそれに附随して行われる国際的支払、国際的運送、国際的保険の各取引に関する法的問題を中心として講義するが、国際私法・国際民事訴訟法についても講義することとする。講義の順序は以下の通り。

- (1) 国際私法
- (2) 国際的売買
- (3) 国際的支払
- (4) 国際的運送
- (5) 国際的保険
- (6) 国際民事訴訟法

2 テキスト

山田・佐野著『国際取引法』（有斐閣）

3 その他

参考文献については最初の講義のさいに指示する。

管 理 科 学

助教授 奥 田 和 重

管理科学（マネジメント・サイエンス）という学問は、これまでに出版されたいくつかの書物を見ると、おおよそ次のようである。

管理科学とはシステムの研究のために科学的方法を適用することである。そこで用いられる方法論は、考察の対象となるシステムを定義し、そのモデルを構築し、モデルに含まれる変数をいろいろ操作することによって対象とするシステムの目的にとって最適な解を導出するという手順からなっている。それは単に数学的手法の寄せ集めではなく、数量化の哲学であるともいえる。

本講ではこのような視点から、システムの概念を正確に把握し、システムの定義を行い、最適な決定を行なうための数学的方法論について講義する。講義は昨年度までとは異なり、数理計画法を中心に行うので注意されたい。講義の詳細は開講時に行うガイダンスで説明する。

開講時のガイダンスで講義に関する資料を配布する（資料は講義時以外では配布しない）ので、履修希望者は必ず出席するように。

教科書：ガイダンス時に指示する。

参考書：資料参考



## 計画科学 I

教授 若林 信夫

- なにを学ぶか  
数理計画法 (Mathematical Programming) の基礎と応用をコンピュータ上で学ぶ。
- 数理計画法とは何か  
経済学の言葉では、希少資源の最適利用をはかることであり、数学の言葉では、
$$\text{Maximize } f(x)$$
$$\text{Subject to}$$
$$g(x) \in C$$
と表される。
- どんな応用例があるか
  - ・輸送問題
  - ・積み替え問題
  - ・生産在庫雇用問題
  - ・巡回セールスマン問題
  - ・ゲーム理論
- 時間の配分は  
月曜日の2講目、前半 (10時半-11時20分、102番教室で講義、後半、情報処理センター実習室で実習)
- Lotus 1-2-3を使うのか  
使いません。Excelや、LINDOを使う予定。
- 出席をとるか  
重視する。名前と顔が一致する方が重要。
- 試験、レポート  
試験は前期試験、後期試験がある。持ち込みは自由である。  
レポートは、夏休み明けと冬休み明けに提出する。LATEX (ラテック) で書けるのが望ましい。
- 教科書、参考書  
未定。先輩より、講義ノートと、プリント、過去問を入手することが望ましい。

## 計画科学 II

(前期) 教授 戸島 熙

数理科学の各局面に共通していえることは数式 (formula) があらわれそれをさまざまに処理 (manipulation) して得られた結果を用いて数値計算などを行うということである。従来、科学・技術計算といえばこの数値計算を意味しており、それをいかにして計算機で高速に行うかが問題にされた。その前段階である数式処理 (formula manipulation) は依然として手計算でやられることが多かったのである。しかし今や事情は一変した。現在では数式処理も計算機が行うようになっている。そして「数式処理」といえば計算機を用いた数

式処理を意味するものとされる。

この講義ではこうした状況を反映されて主として文科系の数理科学 (たとえば数理経済学、数理統計学など) にあらわれる特異な数式に焦点をあわせ「数式処理」を解説する。講義は演習重視です、めるため毎時間情報処理センターの実習室で行う。テキストとして使用はしないが手元があれば便利な参考文献として

A. C. ハーン, REDUCEユーザーズ・マニュアル, マグロウヒル出版, 1989がある。

## 計画科学 II

(後期) 助教授 中村 隆志

後期は確率システムの性能評価、信頼度評価等に用いられる

- ・マルコフ連鎖
- ・待ち行列理論
- ・信頼性理論

について講義する。

[テキスト] 森村英典, 高橋幸雄: 「マルコフ解析」, 日科技連

## 社会計画 I

教授 加藤 修一

私達は、日常生活の中で絶えず意志決定を繰り返し、重ね積み上げその多くの行動のなかから共通した意志決定の手順をモデル化して、自分なりに有る程度の意志決定の手順-「法」を見だし、効果的な処理をおこなっている。過去と似たような意志決定問題の場合には、蓄積された情報 (これは、いわゆる経験則であり、カンといわれるもの) にてらし合わせて、決定しているわけである。これは、一個人のケースであるが、集団として種々のシステムからなる企業、社会、地域、国などは、より効果的、より幸福的な (?) 状況の形成のための意志決定の問題群の解決機会、すさまじく多い。管理科学は、この意志決定を行う場合にできるだけ科学的成果を援用する方法論で、その成果を学習することにより、究極的には、経験則に潜むと思われる法則性の抽出、個人のレベルにおわっているカンから普遍的要因を探り出すなど、意志決定の確実性を高めることにある。本講義では、ORなどに適用されている計量的な方法について、生活環境の質、地域計画学的な視点から進める。たんなる理論の紹介に終わらずできるだけ事例学習についても行う。

夏・冬休み前にレポート提出をしてもらう。前・後期定期試験がある。

主な講義内容

1. わが国の都市、地域問題と21世紀への基本戦略
2. 地域人口推定法
3. 産業立地分析
4. 地域産業連関分析 (事業の波及効果: 波及生産、波及所得、雇用効果など)
5. 地域計量経済分析
6. 事例紹介 (リニャモーターカー導入可能性調査、新千歳空港周辺開発調査、アフリカM

国プロジェクト調査, 河川環境整備事業と地域効果, 観光行動と経済効果, …)  
教科書(前期, 後期): 山村悦夫「地域計画(1)-計画の分析-」, 技報堂。

### 計画数学 I

(前期) 教授 沼田 久  
(後期) 助教授 行方 常幸

経済学, 管理科学, 情報科学, 統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間, 行列, 行列式, 線形不等式, 凸集合等々の諸概念に慣れること, 行列やベクトルを含む演算に慣れること, 線形計画問題の解法の初歩に慣れること, 線形代数学が経済学や経営科学などにどのように応用されているかを知ることなどである。

まず, 高校時代でおもに学習した2次元ベクトル, 2行2列の行列を一般のn次元ベクトル, m行n列の行列に拡張し, これらの計算を通じてベクトルの1次独立, 行列の階数, ベクトル空間の次元, 行列式等の概念を説明し, 連立1次方程式の解の構造を調べる。

次に, 行列の固有値という一見何の役にも立ちそうもないもの(高校時代から解き慣れている方程式[特性方程式と呼ばれる]の解)を導入する。その後その固有値の数々の利用法を行列の三角化, 対角化, 非負行列のフロベニウス根等の話題を通じて体験する。この講義の締めくくりは経済学, オペレーションズ・リサーチ等で理論, 計算の両面で重要で基本的な線形計画法である。これを解くシンプレックス法を紹介し, 数値例を解くことよりこの解法の基本的な考え方の理解を目指す。

高等学校的な数学の得手・不得手とはあまり関係はないが, 論理的能力または, ある程度の根気が必要である。講義すべき事柄が多く, 講義中に十分に演習する時間がないので, 復習を各自で行なっていただきたい。行列式, 行列の階数, 行列の固有値(固有ベクトル)を求めること, LPをシンプレックス法で解けること, 等は単位取得の必要条件である。この必要条件を満たさないで, 試験を受ける等のいい加減な態度は慎んでいただきたい。単位取得への最短経路は講義に出席し, その都度計算問題を解き(復習を含む), 分からないところを質問することである。なお, 昨年度の前期の評価と講義の出席率の関係を下表1に示す。

表1

試験受験者総数	60点以上		80点以上	
	157名	94名		44名
	出席率50%以上	62名	出席率50%以上	35名
	出席率50%未満	32名	出席率50%未満	9名

試験の受験者総数157名, そのうち60点以上のもの94名。94名中62名が出席率50%以上で, 32名が出席率50%未満。更に, 80点以上の者44名の中35名が出席率50%以上で, 9名が出席率50%未満である。また, 学年末試験を受験した2年生(88名)について調べると, 最終的に優で合格した者の後期における出席率は表2のようにになっている。2年生88名中優で合格したのは27名である。その27名中85%以上の23名の出席率が50%以上である。試験は通常の

年2回に加えて, 前期と後期に中間試験を1回ずつ行う予定である。掲示などに注意して受験もれのないように注意すること。

表2

	後期出席率	
	50%未満	50%以上
優で合格した 2年生27名	4名	23名
注: 学年末試験を受験した2年生88名		

社会情報学科の学生はソフトウェア科学I・II, 計画数学IIと共に必ず履修することが望ましい。

教科書: 沼田 久, 行方常幸ほか著『線形数学(改訂)』(富士書院)

### 計画数学 II

助教授 行方 常幸

前期の前半に差分方程式を講義し, 前期の後半と後期にゲーム理論の講義を行う。前期の前半の差分方程式は下記の参考書を用いるが, 講義する部分は差分, 和分, 定係数線形n階差分方程式である。前期の後半以降のゲーム理論では, 先ず拘束力のある取り決めを行えない非協力ゲームを, 次に拘束力のある取り決めを行える協力ゲームを取り上げる。講義に出てくる主な用語は

ゲームの表現方法である, 展開形, 戦略形, 特性関数形。

自分の手番で知っている情報を表す, 情報集合。

非協力ゲームの解概念であるNash均衡等。

囚人のジレンマとくり返しゲーム。

特性関数形の協力ゲームの色々な解(シャープレイ値, コア, 仁,  $\tau$ 値等)である。また, ゲーム理論に関係のある範囲で, (条件付き)確率, 期待値についても解説する。時間の許す限り講義時間中に簡単な数値例を用いた演習を行なう予定であるが, その際, 分からないことは質問すること。分からない, 離しすぎる, 講義のスピードが速すぎる等の声を耳にする時もあるが, 難しい分からないことであるから皆で学習するのではないかと, 私は思っている。また, 講義のスピードを遅くする方法は私が困るほど講義中に質問することである。

講義に出席することの利点を少しばかり列挙してみる。

出席をとった場合, 出席点がもらえる。昨年度は後期9回, 後期13回とった。

参考書のどこに重点をおいて学習を進めていけばよいか分かる。

参考書のなかで試験に出ない部分, すなわち, 講義で省略した部分分かる。

計画数学Iの共に履修することが望ましい。

参考書: 須田宏著『差分方程式・微分方程式』(培風館)

鈴木光男著『ゲーム理論入門』(共立出版)

## 応用統計 I

助教授 清水川 緋紗子

テキスト：「基礎統計学Ⅰ 統計学入門」 東京大学出版会

テキスト：「基礎統計学Ⅲ 自然科学の統計学」 東京大学出版会

「基礎統計学Ⅲ 自然科学の統計学」を重点的に学ぶ。

## 応用統計学Ⅱ

助教授 清水川 緋紗子

テキスト：塩谷 實著「多変量解析概論」 朝倉書店 統計ライブラリー

## 計画科学特講Ⅰ（前期）

非常勤講師 浅利 英吉

物事の計画は、それに携わる多くの側面からなされるが、そこに数学を土台とする科学（数理科学）と人智の機微を必要とすることは確かである。計画者は、計画が良く実現し、起こりうる諸々の事態に効果的に対応できるように、工夫をこらさねばならぬ。

本講義では、これに適用される数理科学手法の概要をまず説明し、それらの中から社会的によく利用される手法をふたつとりあげて論ずる。今年度は、過去と現在の状況に照らして将来の姿を予想する予測理論と、実地調査によって得たデータを分析して計画のための方策を導く実験計画法を講義のテーマとする。テキストとして講師執筆のプリントを配布して講義し、適宜演習を行なう。

## 組織と情報総論

（前期）助教授 持田 泰昭

（前期）助教授 酒井 弘一

（後期）助教授 近 勝彦

本講義は、3年次以上の専門課程で組織における意思決定、情報システムのデザイン、評価、セキュリティ対策を学ぶための基礎的知識を得ることを目的とします。組織における資源は「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」であると言われて久しいが、情報を明示的に扱った組織論は未だ不十分です。概念としての取り組みに止まっていてオペレーショナルな段階に到達した経営理論の確立はまだまだですし、意思決定要素に定量的ファクターとして組み入れた情報の経済学も組織文化・規範とか人的資源バラエティーをモデルに内生化しおらず、個々人の合理的（各自の効用最大化）を基本的な前提にしています。したがって、依拠すべき標準理論はありませんが、情報が企業、官庁等の組織で重要な役割を果たしているのは事実ですし、単なる取引記録以上の機能を担っています。しかし、組織と情報の関係を分析し、理解するという目的からは、大きく組織内部における情報（たとえばある投資案件についての分析情報など）の役割は何か、および組織から発せられたり、受け取られたりする情報が外部環境である社会とどのような相互作用をしていくかという二つの側面から把握する必要があります。そこで、組織内部の活動・意思決定を情報分析の観点から説くとともに、組織間および対社会との活動についても情報の社会的機能に着目して解説していくことにします。具体的には次のような内容を予定しています。

## 【前期】

- (1) 企業組織と情報
- (2) 経営戦略、組織戦略と情報の変遷
- (3) 企業組織の特性と情報
- (4) 企業組織のダイナミクスと情報
- (5) 近未来の情報環境と企業組織
- (6) 高度情報社会（ネットワーク組織）における情報システムの特徴と問題
- (7) 情報システムの安全性・信頼性（セキュリティ）・効率性、定義、事例に基づく阻害要因分析と向上対策等

## 【後期】

- (1) 組織理論と情報との関係（経営学における情報の位置づけ）
- (2) 情報の経済学にみる組織（経済学における情報の位置づけ）
- (3) ヒエラルキーにおける情報伝達
- (4) 分権的組織における情報伝達
- (5) 情報シェアリングの組織効率
- (6) 日本企業における組織と情報
- (7) 官僚制における情報伝達と機能不全の可能性
- (8) 情報システム部門（システム開発、運用、保全）の組織戦略と経営
- (9) ナショナル・カルチャーと情報・組織

教科書：未定

## 経営情報論

助教授 酒井 弘一

皆さんの多くが卒業後企業に関わりを持つことになると思います。またそのうちの多くの方が企業経営と何らかのかたちで結びついていくことになるのではないかと考えています。

企業経営に求められるのは、自ら課題を設定し、解決していく過程を具体的に作っていくことです。この講座では将来必要になるであろう課題解決の一助として、（本当の課題は皆さん自身の力で解かねばなりません）企業経営の様々な局面を理解し、課題解決のための情報活用の観点を考察、構築することを目的に進めていきたいと考えています。

検討の予定項目は、

### I. 企業経営の諸側面の理解

問題の構造把握

活動の目的

目的と課題と手段の検討

集団、組織による問題解決の特性

### II. 経営と情報の結合手段の模索

代表的な経営情報システムの検討

経営情報システムへの着眼点の整理

## 具体化への課題と方法

等です。

この講座では皆さんが企業の直面する課題を創造し、自ら解決していくプロセスを体験することを旨とします。そこでは将来の課題を積極的、論理的に発見すること、集团的意志決定を実現に移すことが重要になります。

従って、講義を聞くことよりは参加者が内容を作っていくことに重点を置くことになりす。また皆さん自身が集団での作業の中で問題解決に貢献することができるかどうかが大切です。

この講座の参加者はある程度の準備に時間を割くことができること、共同作業におけるリーダーシップと協調性発揮の準備があることが前提となります。

### 参考文献

ブレークスルー思考 G. ナドラー, 日比野省三 ダイヤモンド社 スーパーエンジニアへの道 G. M. ワインバーグ 共立出版

## 会計情報論

助教授 山本 清

会計情報が企業等の組織においてどのような役割を果たしているのか。また、果たし得るかを主として情報の経済分析の考え方を応用して学習します。特に、会計情報は企業、官庁を問わず定量的な情報の代表的なものであり、経済分析や経営分析も会計情報に依存して行われています(企業利益, GNP等)。したがって会計情報が投資意思決定, 販売予測, 生産管理や人的資源管理といった組織内部においてどのような役割・機能を果たし, 価値を有しているのか, また, どのような情報システムが望ましいのかを理論的に考察します。併せて企業のディスクロージャーをめぐる会計規制を会計情報の社会的機能から把握することにより, そのマクロ的な価値についても概説します。主な講義内容は以下の予定です。

1. 会計情報論と他の科目・学問領域との関係
2. 意思決定問題における会計情報
3. 意思決定基準としての期待効用原理
4. 完全情報の価値
5. 不完全情報の価値
6. 情報コストと情報システムの選択
7. 情報評価者と意思決定者が異なる場合の情報評価
8. 意思決定者が情報評価者に雇用されている場合のプリンシパル・エイジェントモデル
9. エイジェントが複数の場合のプリンシパル・エイジェントモデル
10. 多期間の場合
11. 会計監査・モニタリングの機能と価値分析
12. ディスクロージャー規制の検討—会計情報開示制度の情報分析—
13. 情報分析の意義と限界

教科書: デムスキー著『情報分析の基礎理論』(千倉書房)

参考書: 細江守紀著『不確実性と情報の経済分析』(九州大学出版会)

## システムセキュリティ論

助教授 持田 泰昭

高度情報社会と言われる現代社会では, ①従来, 特定のサービス分野, 専門家に閉じて利用されてきたコンピュータが, 情報関連産業—IT (Information Technology) 産業—の著しい進展によって, 多種多様なサービス分野へ浸透し, 非専門家にも開放され, ②『ネオダマ』と称されるようにネットワーク化, オープン化, ダウンサイジング, マルチメディア化が進み情報システムの適用範囲は社会のすそ野まで広がり, ③情報システムに関わる社会問題が顕在化してきている。したがって, 情報社会の課題は, 人間とコンピュータが協調した情報システムの安全性・信頼性の確保維持(セキュリティ)と効率的利用です。情報システムの安全性・信頼性・効率性を客観的かつタイムリーに評価してそれらを向上させるために行われるのがシステム監査です。

本講義では, 上記のような背景を踏まえて, 情報システムの安全性・信頼性・効率性に関する現実の問題を掘り下げ, システム監査という立場から, いかにしたら問題発生を未然に防ぐことができるか等, システム監査の方法論を中心にその限界も含めて講義します。具体的には, 次のような内容(大項目)を予定しています。

- (1) コンピュータ・セキュリティの概念
- (2) コントロール機能
- (3) リスク・マネジメント
- (4) システム監査とは(背景と現状, 概念, 目的)
- (5) システム監査の方法
- (6) システム監査基準, 監査項目
- (7) システム監査監査技法
- (8) 他のセキュリティ対策基準(安全対策基準等)

参考書: 通商産業省機械情報産業局監修 日本情報処理開発協会発行(政府刊行物)

「システム監査基準解説書」1985年 定価2800円

## 社会と情報

教授 沼田 久

コンピュータの発達・普及と通信との一体化の進行, ファクシミリやコードレステレホンの普及, 通信衛星・放送衛星による情報伝達や放送の日常化, パソコン通信の浸透など, 情報技術の進展と普及, 情報インフラストラクチャーの整備の進行は, ビジネスの世界にも日常生活にも大きな影響・変化をもたらしています。そして洪水のように大量の情報が発信され飛びかっています。情報の流れは国境で阻止することも難しい時代になりました。今, 社会は大きな変化が進行中です。人々の意識が, 価値観が, 行動様式が, 消費の態様が変わりつつあります。「知識と情報」が非常に重要な役割を果たす時代になっています。アメリカが「知的所有権」問題で, 自国の国益を強く意識した行動に出るのも, そうした時代の故でしょう。情報化社会, あるいは「化」の段階は過ぎて情報社会とも言われる現代の変化の底流と

意味を考えてみたいと思っています。

授業は、ほとんど毎回資料と私の若干のコメントをもとに、「小論文」を書いてもらう形態で行うつもりです、従って出席しなければ授業を受けたことになりませんので、そのつもりで履修して下さい。

- 参考文献：田中良太「ワープロが社会を変える」中公新書，1991  
一ノ瀬正輝「日本一農家のハイテク技術」講談社，1991  
高田正純「ラップトップかかえて世界一周」早川書房，1991  
志賀信夫「新テレビ時代」丸善ライブラリー，1993  
成沢広行「社会情報入門」高文堂出版社，1991

その他必要に応じて、読んでもらいたい文献を挙げます。

### ソフトウェア科学 I (前期)

助教授 中村隆志

プログラムの基本的な作成法について講義・演習を行う。使用するプログラミング言語は Turbo Pascal である。

〔テキスト〕黒瀬，松尾：「Turbo Pascal プログラミング」，森北出版

授業は、次のように、半期制（前期）で行う。

- ・1週間2講のうち、1講は1クラスで講義教室で行う。もう1講はA, B, Cの3クラスに分け、情報処理センター実習室でパソコンを使って行う。
- ・実習室利用のクラス分けは次のようにする。クラスにより授業時間が異なるので注意すること。

Aクラス 社会情報学科(管理科学科)の3、4年生の履修者会員、及び社会情報学科2年生の一部

Bクラス 社会情報学科2年生のAクラス所属者以外の履修者

Cクラス 社会情報学科以外の学科の2、3、4年生の履修者

社会情報学科2年生のAクラス、Bクラスのクラス分けは開講時に別途掲示する。

後期に開講されるソフトウェア科学IIも同様のクラス分けとなる。

社会情報学科の学生へ

少なくとも「情報」という名前の付く学科に所属していて、プログラムのことをまったく知らないで卒業するわけにはいかないであろう。したがって、この科目は必修というべきものであり、必ず履修することが望ましい。ゼミ所属の時にこの履修していることを応募条件にしているゼミも多い。

社会情報学科以外の学生へ

一昨年までの情報処理IのBクラス(他学科用)では、ワープロや表計算ソフトを中心に易しい授業を行ったが、この科目は社会情報学科向けの内容であり、そう易しくはない。課題も多数出題される。本当に、コンピュータやプログラム作成に興味があり、やる気がなければ単位取得は困難である。履修する場合には、本当に必要があるかどうかを十分に考えること。

### ソフトウェア科学 II (後期)

助教授 加地太一

ソフトウェア科学の基本概念の一つとしてアルゴリズムの問題がある。アルゴリズムとは問題を解決するための手順の記述であり、その方法論である。ソフトウェア科学はこの基本概念のまわりに展開する。本講義では優れたアルゴリズムの考え方とそのプログラミング技法を事例によってわかりやすく説明し、同時にソフトウェア科学におけるいくつかの問題点について理解を深める。主に、以下の問題を通して講義、演習を進める。

1. アルゴリズムの設計とデータ構造
2. 数値計算
3. データベース
4. ソフトウェア工学の方法論
5. 計算容易と計算困難

また、Pascalの基本を理解しているものとして講義を進める。さらに、演習の課題の提出を義務とする。講義の詳細は第一回の授業で改めて述べる。

テキスト：未定

参考書：和田訳：「やさしいコンピュータ科学」，アスキー出版

### ソフトウェア科学 III

教授 戸島 熙

リスト処理言語Lispとその処理系(インタプリタとコンパイラ)のインプリメンテーション(実現)をめぐるソフトウェア科学上のさまざまな問題が浮び上り解決されていった。この講義では具体的にLispに即してそれらの問題を述べいかに解決されていったかを解説する。

講義の内容は大きくふたつにわかれ、前期では主として言語Lispを対象とし、後期では主としてLisp処理系を対象とする。前期はひと通りLispでプログラムが書けることが目標になり、後期はひと通りLispインタプリタの動作原理を理解することが目標になる。

講義は毎時間情報処理センターの実習室で行う。テキストはさしあたって使用しないが受講者の演習状況によっては適当な本をテキストに指定するかもしれない。

### 知識情報論

教授 杉本英二

人類が文字を使うようになって知識の記録と伝承が容易になったように、記号化された知識は人類にとって極めて重要な知的財産である。現代の科学的・文化的経験の増加によって、私たち人間の知識の量はますます増大していく一方であり、これらの知識の利用にコストと時間がかかるようになってきている。知識情報論は、これらの知識をコンピュータに収集整理蓄積し、刻々と必要とされる知識あるいは結論をそこから効率的に取りだし利用するための基礎的考え方や手法を講義する。講義は以下の項目で行う。

- (1)人工知能概論
- (2)データベースと情報検索システム

### (3)自然言語処理の手法

テキスト：① 荒屋真二「人工知能概論」共立出版¥2000

② 杉本英二「自然言語処理入門」パンフ（後期，生協で用意します。）

参考書（前期から各自用意していることが望ましい）：

瀬下孝之「Prolog入門」オーム社¥2500

履修の条件 ソフトウェア科学Ⅱの程度のことは理解していること。

## 情報システムⅠ

助教授 南 弘 征

コンピュータ・ネットワーク，特に近年国内でも急速に発展・膨張し続けているインターネットについて概説する。具体的には，

- ・物理面：通信媒体，通信方法，各種プロトコルと実装例
- ・利用面：アプリケーションレベルの実装と動作
- ・運用面：実社会でのインターネット利用，管理形態，管理組織

などに大別し，専門的・技術的に過ぎることのない範囲で講義する。また，情報処理センターでの見学，実習も考えている。講義の進行状況にもよるが，利用・運用面を重点的に，後期は利用面における最近の研究例（マルチメディア等）について説明を行なう予定である。

内容が多岐に渡るために特にテキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する予定。参考となる書名を以下に挙げておくが，必ずしも購入する必要はない。

- ・横河デジタルコンピュータSⅠ事業本部：インターネット商用化に向けて（CIX），トッパン
- ・B. P. キーホー（西田訳）：初心者のためのインターネット，トッパン
- ・Douglas Comer（村井ほか訳）：TCP/IPによるネットワーク構築Vol.1，共立出版

## 情報教育論Ⅰ

非常勤講師 土 谷 浩  
（札幌ハイテクアカデミー校長）

私は，字が下手である。それで，なにかアイデアが浮かんだり，面白い記事を見たりすると，その主な内容をワープロに入力しておく。ワープロといっても「一太郎」を使用している。したがって，項目別にデータが記憶されたフロッピーを三十枚ほど持っている。

原稿を頼まれたり，資料を作成する必要が生じると，これらのフロッピーの中から関係のあるものを抜き出してワープロで文章や資料に仕上げて行く。

今までは，出版社に送る原稿も，フロッピーで送ることが多かった。しかし，最近は，出版社も忙しくなったらしく，パソコン通信で原稿を送ることが要求されるようになった。いずれも，原稿用紙に書いて速達で送っていた10年ほど前には，考えられないことである。

ところで，こうした例は，情報処理の技術が，行政や企業や，研究所だけでなく，普通の社会生活にまで浸透してきたことを示している。

アメリカでは，いわゆる，情報スーパーハイウェイ構想（推進者である副大統領の名前を

取ってゴア計画などといわれている）が進み，家庭からでも学校からでも必要な情報を検索して使用できる体制が作られつつある。日本でも，ようやく，光ファイバーによる通信ネットワークの整備が全国的に進められることになった。

文部省も，平成5年から小中学校で，また，平成6年からは高等学校（特に，普通科で），情報処理教育を行うことを定め，必要なパソコンなどの整備を進めている。また，マルチメディアに関する技術も急速に進みつつある。

こうした状況の下で，情報処理に関する基礎的な技術を指導する教育の必要性が次第に高まってきている。この講座では，このように学校教育だけでなく生涯学習の一つとしても重要なものになった情報教育のあり方について諸君とともに考えてみたい。

テキストとしては，「教師のための情報教育入門（高等学校編）」岡本敏雄編（3,090円）

パーソナルメディア社を使用するが，できるだけ実習的な要素を取り入れるとともに，ダウンサイジングやオープンシステムのように，現在，情報処理の世界で話題になっている事項なども積極的に取り上げて紹介していきたい。

## 情報科学特講Ⅰ（前期）

教授 若 林 信 夫

本学情報処理センターのUNIXワークステーションを用いて，オペレーティング・システムUNIXの基本とアプリケーションを習得する。

1. ワークステーションとの対話（login,rlogin,telnet；logout,CTRL+D）
2. 文書データの作成と編集（vi,NEmacsエディタ）
3. 文書清書ツール（jTeX,jLaTeX）
4. 数式処理言語 Mathematicaの基礎
5. インターネットワーク（電子メール，電子ニュース，ftp）
6. マルチメディア（写真の取り込み，音声，アニメーション）
7. オブジェクト指向データベース（OBD,Oracle）

ワークステーションのUNIX OSの版は，Mach-NeXTSTEP(next), SunOS (sn otaru), OSF/1 (gemini) と微妙に異なる。出席を重視するので，欠席の場合，電子メールを若林あて，そのむね，送っておくこと。アドレスは，wahn@otaru-uc.ac.jpである。

教科書，参考書

1. 若林信夫，「情報処理特講レクチャーノート」情報処理センター広報7号（1994）。
2. 小林光夫，武市正人，鈴木卓治，「UNIXワークステーション入門」東京大学出版会，3296円
3. 大阪大学情報処理教育研究会編「NeXTユーザーガイドブック」アスキー出版局，3107円

## 6 教職科目

### 教育基礎論 I

教授 上野 耕三郎

この授業では「いじめ」「登校拒否」「管理教育」「教師」という問題をとりあげる。しかしそれらの問題に対して解決のための具体的な処方箋を提示することはたぶんできない。

授業の目的は、処方箋を提示する前に、それらの問題から

- ①「学校」とはそもそも何なのか
  - ②「中高校生」の心身とはどういう状態にあるのか
  - ③私たちの生きている〈いま〉という時代、高度資本主義社会は「学校」にそして「中高校生」に何を強いているのか
- ということを探ることにする。

最初の授業で一年間の講義予定について話すので出席するように。

### 教育基礎論 II A (後期)

非常勤講師 湯浅 誠 哉  
(北海道薬科大学教授)

教育基礎論 II A では、教育心理学を取り扱う。学校は勿論、社会、産業、家庭等の教育の場面に、心理学的アプローチの導入により、その教育により効果的結果が得られると考えられている。教育心理学とは、主として教育における心理学的側面を研究する学問であって、講義では、これに病理的な現象の考察を加味したものにした。

項目	授業内容
1. 発達	発達観の変遷 発達の過程 発達障害
2. 学習	学習理論と学習の形態 学習成立の諸条件(動機づけ等) 学習障害
3. 知能	知能とその測定(知能検査) 知能障害(精神発達遅滞, 痴呆等)
4. 適応	コラストレーションとコンフリクト 防衛機制と適応障害
5. 性格	性格(人格)の理論 性格検査の実習(YG人格検査, クレペリンテスト等)
6. 心理的援助	カウンセリングの諸理論と実例 児童・生徒の社会病理的現象(登校拒否, 暴力, 逸脱, 自殺等)

### 教育基礎論 II B (後期)

教授 上野 耕三郎

この授業では日本の学校、とくに高等学校の問題を考えることにします。

かつて「15の春を泣かすな」というスローガンのもとで、高校全入運動が進められたのですが、その目的を果たしたいま、高校生は考えもしなかった問題を抱え込んでしまったのです。一例を挙げれば、理在高校中退者は毎年10万人を数えています。1クラス40人として毎年2,500クラスが消滅している計算になります。

あるいは現在の輪切り体制をあらためるために、中学の段階での業者テストの廃止がめざされています。これで偏差値体制が崩れるでしょうか。

これらの問題はおおきく言えば「近代」の問題であります。と同時に日本の「特殊性」とも関連しています。ちなみに、日本の若者は18歳の段階で90%以上が高等学校に在籍しています。このような進学率は世界的にいても稀有な例です。

もしこれらの問題が納得いくように解けたならば、あなたがたが教師になった際に、学校教育にたいするみずからのスタンスをとりやすくなるでしょう。

最初の授業で具体的な講義予定を話しますので、必ず出席すること。

### 教育方法学 (前期)

助教授 土屋 文明

講義内容は、教育技術、教材研究、教育評価などに関するものである。教育実習にそなえて、時間的な余裕があれば学生による模擬授業も行いたい。

### 商業科教育法 (前期)

非常勤講師 横川 義雄  
(札幌大学名誉教授)

#### (1)科目のもつ教育目標

指導要領の改訂により、これからの新しい体制の高校における商業教育の発展のためにも本道商業科担当の教員の後継者として、高校教員の資格を得て活躍することを望むとともに、商業教育理念の再構築を必要とするとき、商業教育の目標、カリキュラムの編成、専門科目の指導内容にみる理念と現状を理解しつゝ、将来の産業社会に貢献する管理者養成の重要な役割をもつ科目であることを認識してほしい。

#### (2)講義内容

現在体験する変化の多様性をもつ経済環境のもとで、現象をよくとらえるばかりでなく、予測可能な知識と能力を持つことはもちろん、広く国際経済の中に立つ日本経済、企業の経営のあり方を学習するものであるが、同時に「商業簿記」「電子計算機概論」を履修していることが望まれる。講義は「企業の経営活動を主体的、合理的に処理する」を内容とする。

##### (1) 日本経済の現状分析と展望

##### (2) 職業教育と商業教育の関連性

「企業としての商業」の経済的並びに経営的機能を理解しつゝ、職業能力、企業の競争力、個性教育、人間の行動科学よりみた「学習のねらいどころ」を把握する。

(3) カリキュラムの編成

3ヶ年に配分される一般教育科目と専門科目と特別活動の単位をどのようにすべきかを研究する(商業科に設置される学科-情報処理科などを考慮して)

(4) 商業教育の目標と科目群における相互依存関係(商業経済科目群など)

(5) 学習指導の三つの原理(自発性, 生活化, 個別化と社会化の三つの内容)

(6) 学習指導の方法論(講義式, 復唱式, 討論式, 問題解決式の方法論の展開)

(7) 教育実習と「指導案の作成」についての注意すべき事項

テキスト

・河合, 雲英, 岡田, 山田編著「新商業教育論」 多賀出版

・横川義雄著「経営学的发展理論」(増補版) 千倉書房

## 英語科教育法

助教授 高井 収

Goals :

- (1) Students will be able to develop awareness of available methods of teaching English as a foreign language (TEFL).
- (2) Students will be able to develop their own understandings on foreign language acquisition process through available language acquisition and learning theories.
- (3) Students will be able to define foreign (or second) language teaching objectives and to choose appropriate methods and techniques to meet them.

Objectives :

- (1) Students will be able to demonstrate their understanding knowledge about course contents, including basic concepts of language teaching and learning theories to degree of 80% accuracy.
- (2) Students will be able to choose a topic of their interest and to write annotated bibliography.
- (3) Given a format of teaching plan, students will be able to demonstrate a mini-teaching according to their own teaching plan.
- (4) Students will be able to evaluate their own teaching and others as well.

Course Contents :

1. Making a teaching plan.
2. Exploring methods and activities.
  - a) Listening
  - b) Speaking
  - c) Reading

d) Writing

3. Evaluation.

4. Theoretical perspective.

a) Language and learning theory

b) Second Language Acquisition theory

Required Reading :

片山嘉雄: 改訂版 新・英語科教育の研究(大修館書店)

Recommended readings :

Jane Willis.1992.Teaching English through English (Longman)

## 道徳教育の研究(前期)

非常勤講師 小松 信夫  
(札幌啓北商業高等学校長)

中学校教諭の免許状取得には当科目の修得が求められる。本講座の内容は体裁の上では一貫性に乏しいものとなろう。中学校教育の中で「道徳」の時間に期待されるものとその実際から始まり, 話は高校教育の現場にシフトしていく。いま学校教育に求められるものという大きなテーマを下敷きに, 教師に求められる資質を組織体の構成員としての面と自己実現を図る個人としての面から話題を提供したい。そこには, 生徒理解という教師に不可避の課題が当然出てくるし, 教師としての職業意識の醸成に「研修」の問題も絡んでくる。長年高校教育界に身を置く者として, できるだけ生の事例を織り込んで学校の実像と課題を提示し, 一緒に考えてみたい。以上により, 本講座はいわば「オムニバス」形成のものとなる。なお, 教材はすべてプリントによる。

## 教育実践論 I(前期)

助教授 土屋 文明

「生徒指導」が中心的な内容である。いま学校現場では, ひと頃ほどではないにしても, なかなか授業自体がなりたたなかったり, 生徒指導全般がやりにくい状況があるといわれる。これに対しては, 粗くいうと, 一方では生徒管理を強化する方策と, 地方その逆に大幅に生徒の自主裁量を認め, その責任を多くもたせようとする方策が行われている。こうした問題をどのように考えればよいのか, 模索していくことにしたい。教材はプリントを使用する。

## 教育実践論 II(後期)

助教授 土屋 文明

「特別活動」が中心的な内容となる。「高等学校学習指導要領」第1章 総則では, 「自ら学ぶ意欲」や「社会の変化に主体的に対応できる能力」の育成, また「個性を生かす教育の充実」がうたわれている。しかし, こうしたことは教師主導の教育活動が主に中心となる教科の授業の中では行われにくいという現状がある。そこで, 生徒の自発的・自主的活動を時間・空間的に保障しようというのが特別活動のねらいとするところである。前半では, 特別活動の歴史的な変遷と, 新指導要領にある特別活動の中身についてみてみる。後半では,



特別活動における教師の役割について考えていくことにしたい。教材はプリントを使用する。「教育実践論Ⅰ」の履修者が、講義対象者である。

## 職業指導

非常勤講師 松田光一  
(北海学園大学教授)

### 職業指導講義内容

1. 職業について
2. 職業観の変遷
3. 職業指導の歴史
4. 職業的発達理論
5. 進路指導の管理と運営(1)
6. 進路指導の管理と運営(2)
7. 進路指導の実践(1)
8. 進路指導の実践(2)
9. 学歴と職業—学歴社会論をめぐって
10. 職業資格制度と教育機会の拡大
11. 学校における職業教育(1)職業高校の事例
12. 学校における職業教育(2)専修学校、職業訓練校の事例
13. 企業内教育訓練の推移
14. OJTとOff-JT
15. 技術革新と教育
16. 職場適応
17. 職業適正
18. 自己理解
19. 進路相談、カウンセリングの実際
20. 進路指導における個人理解の方法
21. まとめ

テキストは使用しない。

## 英語学概論

(前期)教授 大島 稔

### 参考書

石黒・山内・赤楚・友次・北林(1993),『現代の英語学』,金星堂

### 授業内容

英語学概論の授業は、英語の4技能である「話す」、「聴く」、「読む」、「書く」授業ではなく、英語という「ことば」そのものの仕組みについて「考え」、英語の性質・特徴をさまざまな角度から説明する授業です。

受講生の多くは、中学・高校を通じて英語を「外国語」あるいは「語学」として習ってき

ていると思いますが、その学習過程で母語である日本語と比べながら、日本語と英語との間にあるいくつかの類似点や相違点に気付いたに違いありません。

この授業では、日本語にも英語にも共通する「ことば」の性質について基本的なことを説明し、日本語と対照してみることで浮かび上がってくる英語の特徴をさぐります。

講義で取り扱う内容は、第1章「ことばのしくみと英語学」、第2章「音声の性質と機能」、第3章「語のしくみ」、第4章「ことばの意味」、です。

受講生の多くは、英語の教職の単位として履修する者、英語技能の習得を効果的にしたいと願って履修する者、一般的に「ことば」に興味を持つ者がいると思いますが、英語教職の専門科目として設定されていますので、英語学の知識が英語教育・学習にどのように役立つかという点にまで話しを進めたいと思っています。

毎回の講義には、解説用プリントを用意します。しかし、授業で扱える量は限られていますので、それを補足する意味で上記の参考書を指定します。講義中に参考箇所を指示しますので自分で読み進めておいて下さい。

休まずに講義に出席し、プリント及び参考書から作成した筆記試験を受けて下さい。

また、学期末には、『英語学の成果を英語教育・英語学習にどのように活用するか』という題で400字詰め15枚から20枚程度(横書きA4)のレポートを提出してもらいますので、レポートの執筆内容を考えながら授業に臨んで下さい。

なお、詳しい授業内容と進度およびレポートの参考になる文献は授業中に提示します。

## 英語学概論

(後期)助教授 津曲敏郎

後期では、英語の系統と歴史および現状を概観した後、英語とはどんな言語なのかを、発音、文法、語彙、文字などの面から、日本語と対照しながら見直してみる。そこから国際語としての英語のかかえる問題点も見えてくるだろう。前期と同じ参考書に言及しながら、必要に応じてプリントを用意する。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や授業への実質的不参加も欠席に準じる扱いとなる。

## 英語学Ⅱ

助教授 山本久雄

テキスト: *A University Grammar of English* by Randolph Quirk and Sidney Greenbaum

本年度は第9章以降を取扱かう。単位認定に際しては出席と予習を重視する。遅刻は欠席扱いとし、全授業数の3分の1以上欠席したものは受験資格を失なう。

## 英文学概論

(前期)教授 永原和夫

### 講義内容

1. 文学の本質と効用
2. 文学のジャンル
3. 文学の表現

#### 4. モダニズムの文学

参考文献はその都度指示する。定期試験のほかにレポートを課す。出席を重視し、 $\frac{1}{3}$ 以上欠席する者は受験資格を失う。

#### 英文学概論

(後期)非常勤講師 片山 厚  
(北海道大学教授)

主にアメリカ文学の中から数編の小説を素材として取り上げ、その時代的背景、作品の一般的な意味について概説し、文学理解の方法等について考察する。

使用する教材、講義の詳細は初回に説明する。

#### 英文学 II

教授 君羅久則

William Shakespeare, *Macbeth*. 研究社小英文学叢書

シェークスピアの四大悲劇の1つ「マクベス」は、人間の心の奥底に潜む悪の可能性を3人の魔女に仮託し精緻な言葉の表現として展開して見せた芸術である。その神髄を完全に見極めることは難しいが、言葉とその表現を手がかりとしてそこに近づくことは可能である。そのためには劇構成ばかりでなく、修辞法、韻律、イメージなどの詩の表現方法を理解することが肝要である。

参考書

齊藤勇「シェークスピア研究」研究社

志子田光雄「英詩理解の基礎知識」金星堂

C. T. Onions, rev. Robert D. Eagleton, *A Shakespeare Glossary*. Oxford, 1986.

#### 英文学 III

助教授 杉村泰教

ウィリアム・ゴールディングの代表的な小説を研究する。批評に関しては、作品を読んだ後、文献のコピー等を配付する。参考書は授業中に紹介する。

テキスト: William Golding, *Pincher Martin* (Faber paper Covered Editions)

#### 英会話・英作文 外国人教師 Diane Cammarata-Charlesworth

Raimes, Ann. *Focus On Composition* (Oxford University Press)

The objective of this course is to develop advanced skills in writing English. Students will write words to be read, not merely corrected. Written journals in English, and homework will be weekly assignments. 50 percent of the final grade depends upon homework which must be typewritten. The other 50 percent is determined by class participation, quizzes and attendance. No more than two absences allowed. Attendance is essential. Only serious students of English need apply.

## 7 研究指導

### 板谷教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

財政学および公共経済学

財政理論、特にミクロ経済学を正確に理解することを第1の目標とする。

財政学や公共経済学を応用ミクロ経済学という視点から勉強する。公共経済学がいかなる分野であるかについては、J.E.スティグリッツ『公共経済学』(マグローヒル)を参照せよ。

#### 2. 指導要領

3~4年次前半: 原書(英語)の輪読とリポーターによる発表

4年次後半: 卒業論文の作成と発表

#### 3. 指導テキスト及び参考書

①H.S.Rosen, 1992, *public Finance* Third ed.

IRWIN, INC.

②レイヤード・ウォルターズ『ミクロ経済学』

創文社(1982年)

### 井上教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

*International Economy in the Interwar Years*

両大戦間期(1920・30年代)における国際経済史を研究主題とします。

#### 2. 指導要領

3年次には両大戦間期の国際経済史に関する英文テキストを読む予定です。

3年次末までに各自が卒業論文のテーマを決めて、それに関するレポートを提出するように求めます。4年次には卒業論文の作成指導に重点が置かれます。

#### 3. テキスト

A. G. Kenwood and A. L. Lougheed, *The Growth of the International Economy 1820-1990*, 3rd ed. London, 1992.

### 今西教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

明治維新前後を中心に、民衆にとって「近代」とは何か?という問題を考えてみたい。「近代」の光と影。「進歩」性と抑圧性の二面から考えてみたいと思っている。

具体的には、天保期から「工業化」の頃迄の日本の歴史の本を読み、何か卒論のテーマを考けてもらいたい。

## 2. 指導要領

1年目はテキストを読んで、各自が報告し、自分たちの問題関心がどこにあるかを考えてもらいたい。

2年目もテキストを読むが、卒業レポートを作成するので、各自が自分の関心あるテーマを報告してもらおう。

## 3. 指導テキスト及び参考書

青木美智男『大系日本の歴史⑩近代の予兆』石井寛治『同⑪開国と維新』（小学館ライブラリー 各980円）、を順次読んでいく。

### 鷗沢教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

寡占理論

パソコン利用による経済学

#### 2. 指導要領

3年次には、テキストの輪読

4年次には、各人の個別研究発表とディスカッション。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

ゼミ参加者と相談して決定。

### 遠藤教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

計量経済分析

#### 2. 指導要領

4年次：卒業論文の作成

#### 3. 参考書

和合肇・伴金美『TSPによる経済データの分析』東京大学出版会、1988.

Johnson, A. C., Jr., M. B. Johnson and R. C. Buse,

*Econometrics: Basic and Applied, Macmillan, 1987.*

### 加藤（睦）教官担当研究指導

（世界の政治・経済秩序）

国際関係あるいは世界システムと日本との関係を、政治・経済・社会・思想・歴史の各視

点から多角的に検討する。特に2000年間に渡って日本人が追求してきた対外政策を基礎づける思想、即ちアジア征服願望と幕末に発生した攘夷思想（アングロ・サクソンとの世界制覇決戦論）が日本と世界の歴史をどう変革してきたのか、そして今後の世界をどう変えていくのかを勉強する。ゼミの眼目を超時代的視野を養うことにおく。テキストは随時指示。

### 渋谷教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

*Modern Economics: During the last few decades; the world has changed in many fundamental way and the discipline of economics has also changed to reflect these changes. For example, the collapse of the economy of the former Soviet Union along with its political system has signified the importance of incentives and information for successful economic organization and growth. Economic deregulation has progressed along with the reexamination of the role of government in the market economy. The growth of international trade and frictions has stimulated the development of the new trade theory and strategic trade policy. The purpose of this seminar is to acquire a basic knowledge of modern economics and to understand those exciting issues and events that fill the front pages of our newspapers.*

#### 2. 指導要領

*The seminar will be conducted in English. Each seminar will cover about 20 pages of the textbook. Thus, students are required to read some 3 Pages a day or 20 pages a week. In two years, students will read the whole textbook. Juniors will concentrate on speed reading and comprehension, while seniors will start writing a thesis. Both will make presentations on assigned chapters and participate in discussions.*

*By the time of graduation, successful students should be able to read THE ECONOMIST and to discuss current economic issues in English. They should be able to move on to studying abroad (with high scores in TOEFL, SAT, and GRE) or to pursue a career in the international arena. This seminar provides a stepping stone.*

#### 3. 指導テキスト及び参考書

*Joseph Stiglitz, Economics, W.W.Norton & Company, 1993: Professor Stiglitz is recognized as one of the leading economists of his generation. He has made important contributions to the economics of information and has applied it to virtually all of the subdivisions of economics. He has*

incorporated many new ideas and real-world examples in this new textbook. It is written in simple English so that students should be able to read it without a dictionary.

### 角野教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

財政学・公共経済学およびマイクロ経済学

#### 2. 指導要領

3年次は、まず、財政学の基本的なテキストの講読を行い、次に、マイクロ経済理論の基礎的な理解を確実なものにするために適当なテキストを用いた輪読を行う。また、報告担当者との討論を通じて財政学および公共経済学の理解を深めてゆくことを目標とする。

4年次は、卒業論文の作成を目標とする。草稿は適宜報告してもらい、それをもとにメンバーと討論するなかで卒業論文を完成させてゆく。

#### 3. 指導テキスト

本間正明編著『ゼミナール現代財政入門』日本経済新聞社、1990.

Hal R. Varian, *Intermediate Microeconomics, A Modern Approach*, 3rd ed., NORTON, 1993.

### 中村（健）教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

応用マイクロ経済学としての労働経済学を一応の主題としています。労働経済学は、マクロ経済学や、企業や組織の理論、経済制度の分析などと密接な関わりを持ち、意外な対象に意外な性格を見つけた点で、なかなか面白い分野です。

#### 2. 指導要領

中級程度のマイクロ経済学の能力を養った後に、その応用として理解出来るようなテキストの輪読を行う予定。ただし、参加者の適性・能力に応じて、テキストや進度、やり方が絶えず変化して行くのが当ゼミの特徴であります。要は参加者次第。

#### 3. 指導テキストおよび参考書

未定

### 西山教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

日本経済の計量分析。経済統計の取り扱いと計量経済分析の技法の習得をテーマとする。経済の動向に関心を持ち、景気の現状分析や経済予測が面白いという感性を持てるかどうか

かがポイントである。

#### 2. 指導要領

3年次：森口親司「日本経済論」（創文社）の論読を行う。なお、テキスト輪読に入る準備として、官公庁等による経済レポートを一箇月程度で分担、読了することを予定している。

4年次：卒業論文の作成を目指す（海外経済の計量分析、国際比較を選択しても可）

#### 3. 指導テキスト及び参考書

上記テキストのほか、計量経済分析の参考書としては、G.S.マダラ「計量経済分析の方法」（和合肇訳、マグローヒル社）を用いる。

### 花田教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

日本とアメリカの最近の経済について。

主に景気に関わる統計資料を収集整理して最近の日本とアメリカの経済について考えてみることにします。

#### 2. 指導要領

経済は複雑でむずかしいと考えている人が多いと思いますが、しかし、決してそうではありません。やや逆説的な言い方になりますが、現代の経済を理解するためには実は経済理論はほとんど必要としないのです。戦後経済は耐久消費財の大量生産と消費を土台とした経済であり、耐久消費財がよく売れている間は拡大できるが、売れなくなれば拡大は直ちに止まらざるをえないのです。理在の日本をはじめとする世界経済の深刻な低迷は耐久消費財を大量に生産して消費する経済がすでに行き詰まってしまっている結果にほかならないのです。こうした極めて常識的な観点から出発して現在の経済システムのままで今後順調な経済の拡大が可能かどうかということを事実に基づいて冷静に検討してみたいと思います。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

以下のような文献を読みながら統計資料を収集していくことにします。

井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣1993年

佐藤定幸『20世紀末のアメリカ資本主義』新日本出版社1993年

石崎・佐々木・鈴木・春田『現代のアメリカ経済』東洋経済新報社1988年

### 船津教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

国際経済に関する理論的および実証的研究

#### 2. 指導要領

3年次においては、英文の国際経済学テキストを輪読します。

4年次においては、計量経済学の手法をマスターした上で各自のテーマに基づいて、卒業論文の作成を行います。

### 3. 指導テキスト及び参考書

W.Ethier. *Modern International Economics* Norton. 1989.

## 本間教官担当研究指導

### 1. 研究主題

「環境と農業の経済学」

地球温暖化や森林破壊など環境問題への関心が高まっているが、そこでの問題の中心は環境と開発の調和である。環境問題は経済学の視点がなければ単に節約運動で終わってしまう恐れもある。本ゼミでは環境問題を、農業を例に取り上げながら開発とどう調和させていくかを経済学的に研究する。

### 2. 指導要領

3年次：各種文献の講読と討論。また統計的分析手法のための講習も計画している

4年次：卒業論文指導

本ゼミでは卒業論文のプロセスを重視します。

### 3. 指導テキスト及び参考書

植田・他『環境経済学』有斐閣、1991年

宇沢・國則編『地球温暖化の経済分析』東大出版会、1993年

OECD編『環境と農業』農文協、1993年

Khavari, *Environmics*, Praeger, 1993他

## 山本（賢）教官担当研究指導

### 1. 研究主題

ミクロ経済理論—財・サービスの需要・供給に関わる各経済主体の意思決定をもとに、経済現象に関する検証可能な仮説をどのように導出したらよいか、を考えていきます。

### 2. 指導要領

3年次：この研究指導の運営については、履修者間の相談によって決定していただきます。私は、履修者のそれぞれの研究テーマに沿った報告とそれを巡っての討論に多くの時間を費やしたい、と考えています。しかしながら、履修者の多くが、通常の講義以上にミクロ経済理論の理解を深めようとするならば、文献の講読も効果があると思います。

4年次：卒業論文の作成。卒業論文については、他のメンバーの論文に対するコメントを求めています。

### 3. 指導テキスト

必要に応じて、4月開講時までにリーディング・リストないしはテキストを用意します。

[適当な文献としては、たとえば *Journal of Economic Perspectives* に掲載されてきた解説論文や Donald W. Katzner; *The Walrasian Vision of the Microeconomy An Elementary Exposition of the Structure of Modern General Equilibrium Theory*. (Ann Arbor, MI, U, S, A. : The Univ. of Michigan press, 1989) .などを考えています。]

## 和田（良）教官担当研究指導

### 1. 研究主題

金融論。金融資産の価格の決定に関する理論的、実証的研究。

(1)金融理論及び制度の理解

(2)経済分析に用いられる数学の習熟（高校の微積や確率統計及びラグランジェの乗数法、ティラー展開）

(3)統計ソフト、SASの利用法の習得

### 2. 指導要領

3年次：金融論の教科書講読と問題演習。2, 3人で共同して分担分を発表します。原則として毎回全員発表します。

4年次：引き読み教科書の講読と問題演習。SASを利用しての数量分析の実習も行ないます。夏休み頃から卒業論文の作成にとりかかります。

### 3. 指導テキスト

バートン・マルキール、「ウォール街のランダム・ウォーク」、日本経済新聞社

岩田一政、「現代金融論」、日本評論社

### 4. その他

4月よりゼミ見学はいつでも受け付けます。ゼミの演習で現われる数学の範囲は限られているので、くり返し練習していれば慣れるでしょう。このことや発表の準備のための時間数などについて、昼休みにでもゼミ室に行って現ゼミ生に尋ねてみることを勧めます。ゼミ室は252教室です。

## 穴沢教官担当研究指導

### 1. 研究主題

東南アジアにおける日系多国籍企業の行動を国際経営の観点から考察すると共に、東南アジア諸国の工業化ひいては経済発展と多国籍企業とのかかわりをも検討する。

### 2. 指導要領

3年次：テキストの輪読・討論。

4年次：テキストの輪読・討論並びに卒業論文作成指導。

3. テキスト

3年次の1冊目は吉原英樹編著「日本企業の国際経営」同文館、1992年を予定。  
2冊目以降はおって指示する。

### 伊藤教官担当研究指導

1. 研究主題

流通、マーケティングの理論的・実証的研究

2. 指導要領

3年次、4年次前半：  
基本文献の輪読を通じ、現実に利用されているマーケティング理論の習得をはかる。  
詳細は参加者と相談。

4年次後半：  
卒業論文作成指導。

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト：『現代マーケティング』石井淳蔵他 有斐閣  
『現代日本の流通システム』三村優美子 有斐閣  
『生販統合マーケティングシステム』矢作敏行 白桃書房  
『POSとマーケティング戦略』小川孔輔 有斐閣

参考書：

“MARKETING MANAGEMENT” (7th ed.) P. Kotler Prentice-Hall  
その他適宜指導。

### 井村教官担当研究指導

1. 研究主題

証券市場と金融システムの諸問題

2. 指導要領

引き続き2年間のゼミナールと卒業論文指導を通じて、証券市場を中心とする金融システムの理解につとめ、この側面から現代社会を「解剖」できる能力を身につけることを目標とします。

1993年度の3年次ゼミでは、前期に信用論・金融論の基礎的な文献を輪読し、後期はゼミナリスト各自が投資銘柄を選んで、模擬的に「株式投資コンテスト」をおこないました。特に後期は、まず株式の投資尺度、およびマクロ的、ミクロ的両側面での投資判断材料を総合的に理解することが求められてきましたが、なお不十分な点があると考えています。

そこで1994年度の4年次ゼミでは、これまでの研究の不十分な点を補い、きちんとしたものにまとめることをゼミナールの中心課題とします。そのために必要な研究を推進し、ゼミナリスト相互間の議論を活発にするために、今年度は統一テーマに基づく集団的な卒業論文の作成に取り組みます。

3. 参考文献・資料

- ①日本経済新聞（引き続き各自で取って下さい）
- ②日本銀行調査統計局『経済統計年報』各号（図書館所蔵）
- ③日本銀行調査統計局『経済統計月報』各号（図書館所蔵）
- ④日本銀行『日本銀行月報』各号（図書館所蔵）
- ⑤東京証券取引所『東証統計月報』各号（図書館所蔵）
- ⑥東京証券取引所『東証要覧』各号（各自で購入します。証券市場論の講義でも採用予定。）
- ⑦日本経済新聞社編『94年版株式投資の手引』（日本経済新聞社、1994年1月発行、1,900円：ゼミで共同購入します）
- ⑧東洋経済『会社四季報』（ゼミで共同で1冊購入します）

### 鶴野教官担当研究指導

1. 研究主題

企業の組織行動、組織構造の理論を取り扱います。

コンティンジェンシー理論により蓄積された研究成果を学習してもらった後、アンケート調査等で、実際の企業の行動戦略、組織構造設計、及びリーダーシップについてのデータを収集してもらい、そして、それらを多変量解析を使って分析してもらいます。

2. 指導要領

3年次及び4年次の前半：テキスト講読します  
4年次の後半：卒業論文の作成の指導をします

3. 指導テキスト及び参考書

Judith R. Gordon, *Organizational Behavior, (Second Edition) Allyn and Bacon Inc. : Boston, 1987.*

岩田暁一、『経済学のための統計的方法』（第2版）、東洋経済新報社、昭和58年。

二宮正司、『統計分析システム』、オーム社、昭和63年

以上のテキストを予定しています。

### 小田教官担当研究指導

1. 研究主題

「日本とロシアの企業経営比較」：

現在、旧ソ連・ロシアと企業経営は、ゴルバチョフのペレストロイカやエリツィンの

「民主主義革命」, それに引き続く「市場経済への急進的移行」政策によってその環境が大きく変わりつつある。市場経済への移行に適合的な企業形態が模索されている。例えば、国有企業の従業員集団による買い取り・株式会社化、協同組合の結成、中小私企業の自由化等々。また、企業内の労働関係にも大きな変化が生じている。そのような変化への模索の中で、日本企業のあり方も一つの有力なモデルとして参考にされている。そうした状況において、今年、日本企業の経営体制とソ連企業の経営体制を企業形態論的視点（「所有—支配—経営の相互関連構造」視点）から比較検討することを試みる。

## 2. 指導要領

3年次：テキストの輪読

4年次：卒業論文の作成指導

## 3. 指導テキスト及び参考書

Paul R. Lawrence et al. Behind the Factory Walls : Decision Making in Soviet and US Enterprises. (Harvard Business School Press, 1990)

## 片桐教官担当研究指導

### 1. 研究主題

商業・流通の理論的、実証的研究

### 2. 指導要領

4年次のみで、3年次に引に続き文献輪読・討論を行うが、卒業論文の指導を中心とする。各ゼミナリストの発表に基づく討論を重ねる。

## 久野教官担当研究指導

### 1. 研究指導

会計学（財務会計）

参考までに小生の現在の関心領域を示せば次のとおりです。

アメリカ会計史

会計原則構造論

財務諸表分析論

インフレーション会計論

### 2. 指導要領

3年次：

和書による基本的会計理論の修得と英書による読解力の養成

4年次：

卒業論文の指導—各ゼミナリストの発表に基づく質疑応答と助言

### 3. 指導テキストおよび参考書

3年次の4月から使用する最初のテキストは武田隆二、『会計学一般教程（第2版）』（中央経済社，1991）であるが、その他の参考書については、必要に応じて紹介する。

## 黄教官担当研究指導

### 1. 研究主題

現代マーケティング研究

### 2. 指導要領

3年次：まず、基礎文献と事例研究を輪読し、ディスカッションを通して現代マーケティング論の基礎知識と見方を身につける。各ゼミ生が興味ある具体的なテーマを設定し、報告することを通して実証研究の方法を修得する。

4年次：基礎文献と事例研究の輪読とディスカッションと並行して、定期的にゼミ生が研究の経過を報告することを通して卒業論文の作成を指導する。2年間で英語の読解力とパソコンの知識を身につけることを求める。

### 3. 指導テキスト及び参考書

基礎文献：Warren J. Keegan (1989) Global Marketing Management 4th ed.

参考書：①黄 磷著『流通空間構造の動態分析』千倉書房 1992年

②吉原英樹編『外資系企業』同文館 1994年

## 篠崎教官担当研究指導

### 1. 研究主題

日本的経営の諸問題

《日本的経営といわれるものの実体はなんのなのか》

《いまどの様な問題に直面しているのか》

こうした問題意識を踏まえながら、日本企業の行動の論理を客観的多面的に分析する。ちなみに、近年の共同卒論テーマを紹介すれば、平成5年卒業生「国際自動車産業における大量生産システムの導入と展開—労働過程論からのアプローチ」、平成6年卒業生「『日本の生産システム』の検討」、平成7年予定「日本の生産システムのアメリカ導入をめぐる基本問題」である。

### 2. 指導要領

3年次：まず、日本的経営についての個別テーマを取り上げ、ミニ卒論を仕上げる。次いで、経営学の基礎、社会科学的なものの考え方を身につける。卒論テーマを決定する。

4年次：共同では、基本的な問題を取り上げて理論的な分析を試みる。個別的には、卒論の作成に取り組む。

### 3. 指導テキスト及び参考書

内田義彦『資本論の世界』岩波書店  
大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社  
鎌田慧『自動車絶望工業』講談社文庫  
ブレイヴァマン著、富沢賢治訳『労働と独占資本』岩波書店

### 高宮城教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

マーケティングの理論的・実証的研究

マーケティングとは環境（特に市場）に対する主体（特に企業）の適応活動であり、その内容は競争優位性を創造・維持することによってマーケティング取引を推進しようとする、環境に向かっている主体の組織的行動からなる。

本ゼミは、特に実際の企業のマーケティング行動について理論的検討を加えることにより、広義の流通現象についての理解を深め、現実世界を見る眼を養うことを狙いとする。

#### 2. 指導要領

3年次：マーケティング論の基礎知識を修得するために、まず基礎文献の輪読を行う。次に、テーマ別に事例研究を行う。以上と並行して3年次後半よりグループで実証研究を行うことを求める。

4年次：文献輪読・事例研究と並行して、卒業論文の指導を教室での報告・討論と個別指導を通じて行う。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

以下のテキストを予定しているが、詳細についてはゼミ開始時に指示する。

ランバン『戦略的マーケティング』（嵯峨野書院）  
嶋口・石井『現代マーケティング』（有斐閣）  
田村『現代の市場戦略』（日本経済新聞社）  
佐川『新しいマーケティングの実際』（プレジデント社）

### 高田教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

経営と労働、およびその相互関係に関する歴史を研究主題とします。3年次のゼミで主に扱う対象は今世紀の日本とアメリカになるでしょう。議論は経営史、経済史にとどまらず、社会史的なアプローチも取り入れ、広範な視角から始めたいと思います。ゼミ生皆の疑問を掘り起こし、活発に議論したいところです。

#### 2. 指導要領

基本は、私を含めたゼミ構成員皆で、議論、相談しながら、ゼミを運営していくことに

あります。ただし、以下は私からの強い要望です。

3年次：テキストの輪読・討論（活発な討議のなかで問題関心と分析力を養いたい）。

4年次：卒業論文の作成（ゼミナリスト間の切磋琢磨を通じて論文作成を図りたい）。

### 田中教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

公認会計士、税理士およびその他会計スペシャリストに必要な簿記、会計学および原価計算の基礎と応用について

#### 2. 指導要領

(1)テキストの輪読、討論と解説を中心として

(2)公認会計士と税理士の志望者は、専門学校との相互関係と学生の自主性を重視する。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

飯野利夫著『財務会計論（三訂版）』同文館

武田隆二著『簿記一般教程』（改訂版）、中央経済社

岡本 清著『原価計算』（四訂版）、国広書房

井上達雄・新井清光編著『検定簿記講義』（商業簿記2級、1級）、中央経済社

番場嘉一郎・岡本 清編著『工業簿記2級、1級、原価計算1級』中央経済社

PASS下級課程『商業簿記』（問題集）、『工業簿記・原価計算』A、B、C（問題集）、

大原簿記学校

### 中村（竜）教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

企業財務の基礎研究（B/SアプローチとValuationアプローチ）と実証分析とを主題とする。企業財務は、企業と経済の資金需給バランス、金利、株価・外国為替といった金融マーケット動向、金融システム（制度と慣行）の特徴に影響される。したがって、各国特有の企業財務の現状が存在し、則務理論にも若干特有が見られる。本ゼミでは以下の洋書、和書を輪読して、日米企業財務の理論と実践とを比較する。

#### 2. テキスト

井手・高橋『ビジネス・ゼミナール 企業財務入門』、日本経済新聞社、1992年。

ニッセイ基礎研究所編『これからの企業金融・財務戦略』、東洋経済新報社、1992年。

S. A. Ross et al., *Corporate Finance*, Irwin, 1990

R. E. Litan, *The Revolution in U. S. Finance*, Brookings, 1991

#### 3. 指導要領

3年次：上の文献を輪読し、年度末までに卒論のテーマを各自決定する。参考文献を紹介するので、春休みに各自研究をする。



4年次：4月中に各自が卒論の第1回目の報告をする。9月に第2回目の報告をし、年末に卒論を提出する。

## 福島教官担当研究指導

### 1. 研究主題

原価計算および管理会計

会計関係の科目、あるいは商学科の科目全般にいえることかもしれないが、原価計算あるいは管理会計といった実践性の強い分野を学ぶ場合、単に理論を理解するだけでなく、広く知識と技術を身につける必要がある。

このため、ゼミ生には旺盛な研究意欲とならんで、地道な学習努力を要求する。

ちなみに会計学は商法や企業会計原則などにもとづく制度会計と、そのような社会制度という側面を持たない情報会計とに分けることができる。管理会計はこのうち企業の自由裁量によっておこなわれる情報会計に属しているが、原価計算のほうは両者にデータを提供する境界領域にある。

### 2. 指導要領

3年次の前半では基本的なテキスト（邦文）によって基礎知識を学び、その後半から4年次にかけて、英文テキストの輪読により知識を深める。

ひきつづき卒業までに、各自選択したテーマで卒業論文を執筆する。

いずれの段階においても、知識の修得だけでなく、討論を通じて研究主題特有の考えかたを培うことを目標にする。

### 3. 指導テキスト及び参考書

使用テキストは相談して決めるが、今のところ、できるだけ一般的な管理会計の教科書を使用する予定でいる。たとえば、邦文テキストとしては岡本清編著『管理会計の基礎知識』（中央経済社、1982）または溝口一雄編著『管理会計の基礎』（中央経済社、1987）など、また3年次の後半から使用する英文テキストとしてはD. T. DeCoster, E. S. Schafer and M. T. Ziebell, *Management Accounting: A Decision Emphasis*, 4th ed., 1988などが考えられる。

参考書は適宜指示するほか、学年の初めに基本文献のリストを配布する。

## 松本教官担当研究指導

### 1. 研究主題

複式簿記原理、財務会計論および国際会計論

### 2. 指導要領

上記の研究課題について、数冊の文献の輪読および討論を重ねます。

なお、長期休暇期間中には、会計に間接的に関連する指定図書についてレポートの提出

を求めます。

4年次生については、卒業論文の作成を最終目的として、各自の選択したテーマについて、発表と討論を重ねます。

### 3. 指導テキスト

【簿記】久野光朗編著『簿記論講義』同文館

【財務会計論】阪本安一『基礎会计学』中央経済社

【国際会計論】G. G. Mueller, H. Gernon and G. Meek  
*Accounting--an international perspective--*

## 山本（真）教官担当研究指導

### 1. 研究主題

簿記論および財務会計論

### 2. 指導要領

3年次前半：邦語文献の講読およびレポート

〃 後半：外国語（英語）文献の講読

4年次前半：上記の継続

〃 後半：卒業論文の作成指導

### 3. 指導テキスト及び参考書

邦語文献：飯野利夫著『財務会計論（三訂版）』（同文館）および『会計法規集』（中央経済社）。

外国語文献：Hendriksen, E. S. and Michael F. van Breda, *Accounting Theory* 5th ed., Homewood, IL : Richard D. Irwin, 1992.

## 李教官担当研究指導

### 1. 研究主題

日本企業のグローバル経営とボーダーレス時代における経営戦略

### 2. 指導要領

3年次：テキスト及び参考文献の輪読

4年次：卒業論文の作成

### 3. 指導テキスト及び参考書

Bartlet & Ghoshal, *Managing Across Borders*

吉原英樹編著『日本企業の国際経営』

中垣昇編著『日本企業の国際化戦略』

## 渡辺（和）教官担当研究指導

1. 研究主題  
財務会計の研究
2. 指導要領
  - ①卒業論文の作成指導  
テーマの選定，参考文献の調査，卒論試案の中間発表，卒論の作成，といった順序で進行させたいと考えている。
  - ②テキストに関する報告と討議
  - ③各種の論文ならびに新聞記事等に関する検討
3. 指導テキスト及び参考書  
醍醐聡編著『財務会計論ガイダンス』中央経済社。  
中央経済社編『会計法規集』中央経済社。

## 和田（完）教官担当研究指導

1. 研究主題  
研究テーマ：職場における精神衛生  
職場の心理的物的環境が与える心理学的影響を，臨床心理学的見地から考察する。
2. 指導要領  
3年次：臨床心理学的知識の吸収  
4年次：卒業論文のテーマに関連する専門的知見の修得に当てる。
3. 指導テキスト及び参考書  
原則として教室で用意する。

## 青竹教官担当研究指導

1. 研究主題  
会社法の判例研究
2. 指導要領  
会社法に関する判例をテキストより取り上げて報告・討議し，会社法の専門知識と法律的思考方法を身に付け，また，会社法が実際の企業活動においてどのような役割を果たしているかを知ってもらう。  
4年次の後半は，卒業論文の作成指導が中心となる。
3. 指導テキスト及び参考書  
ジュリスト別冊『会社判例百選（第5版）』（有斐閣）

## 秋山教官担当研究指導

1. 研究主題  
「行政判例の研究」  
具体的な事例を通して行政法の基礎理論を身につけると同時に，法律的な素養と論理的な思考方法を身につけることを目的とする。
2. 指導要領  
1回のゼミで1例の事例をとりあげ，ゼミ生の報告に基づいて論点を整理して議論する。
3. 指導テキスト及び参考書  
「行政判例百選Ⅰ，Ⅱ」（第3版）〈有斐閣〉を使用するが，適宜「判例時報」等を用いる。

## 猪股教官担当研究指導

1. 研究主題  
憲法判例の研究
2. 指導要領  
研究指導の時間を二部に分ける。一部では，法についての基礎的な考え方および憲法の主要な論点について，教材（コピーして配付する）を使用しながら検討する。二部では，以下に掲載する指導テキストの中から，各自に憲法判例を一つ選択してもらい，その判例の解説と問題点を報告してもらう（これを一年間繰り返す）。
3. 指導テキスト及び参考書  
別冊ジュリスト『憲法判例百選（第二版）Ⅰ・Ⅱ』

## 臼木教官担当研究指導

1. 研究主題  
刑法総論・各論の諸問題の研究・基本論点・重要判例・先端問題等を幅広く考察討論し，刑法の理解を深めることをねらいとする。
2. 指導要領  
3年次及び4年次前半：演習を行なう。毎回，1～2名の担当者がまず課題の研究報告をし，それから司会者を1名選んで全員で討論する。  
4年次後半：卒業論文作成指導。
3. 指導テキスト及び参考書  
○刑法総論・各論の各種教科書  
○平野龍一他編『刑法判例百選Ⅰ・Ⅱ（いずれも第三版）』有斐閣  
○芝原邦爾編『刑法の基本判例』有斐閣

- 藤木英雄他編『刑法の争点（新版）』有斐閣
- 我妻栄他編『刑法の判例（第二版）』有斐閣
- 小暮得雄他編『教材刑法判例（第2版）』北海道大学図書刊行会
- 植松正他著『現代刑法論争Ⅰ・Ⅱ』勁草書房
- 阿部純二他編『基本問題セミナー刑法1・2』一粒社
- 阿部純二他編『判法基本講座1～6』法学書院
- その他、当該課題に関する論文および判例 等。

### 神田教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

財産法の領域を中心とする民法学上の重要問題の研究（但し、学生諸君の希望があれば、家族法の領域をとりあげる用意はあります。）

#### 2. 指導要領

重要判例もしくは設例の分析・検討をとおして、民法の全体像、運用の実際を理解するとともに、民法学上の現代的課題を研究する。原則として、毎回2名から問題の分析・検討の結果を報告してもらい、それをうけて全体でその当否を論議し、問題点を究明するという手法をとる。なお、報告者以外の者からも、毎回、各自の意見要旨を提出してもらう。

4年次の後期以降は、主に卒論の指導に充てられる。参加者の数にもよるが、一人あたり3回ないし4回の中間報告を交互に行い、他からの意見やアドバイスをも消化しながら、完成にもっていくよう指導する。

### 桑原教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

国際取引法上の諸問題

国際的売買・国際的支払・国際的運送

国際的保険の各取引に関する法的諸問題

国際私法に関する諸問題

#### 2. 指導要領

3年次および4年次前半：下記テキストの輪読

4年次後半：卒業論文作成指導

#### 3. 指導テキスト及び参考書

指導テキスト：高桑他編『国際取引法』（青林書院）

Schmitthof's Export Trade 9th ed.

参考書：澤田他著『国際取引法講義』（有斐閣）など

### 島田教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

研究テーマ 変容する労働社会と労働法

今回の不況は、多くの点で日本の労働社会の変容を迫っているようです。かつては終身雇用慣行のもとに雇用が保障されていた中高年サラリーマンも、最近では雇用調整の対象とされはじめました。また、女性にとっては、再び企業の門戸が極めて狭く感じられるようになってきていると思われます。そして、終戦直後に制定された労働法もまた、近年の労働時間法の改正等により大きな変容期にあります。

本ゼミでは、このような現代の労働社会と労働法の動きを、特に国際比較をふまえて、動態的に把握することを目指します。このことを通じて、現代日本における妥当な労働法解釈論、立法論を探って行きたいと思えます。

#### 2. 指導要領

①判例研究 過去の重要判例及び最新の判例を教材として、労働法の仕組み、解釈論の基礎を学びます。

②労働立法研究 育児休業法、労働時間法等、最近の労働立法についてその制定過程、内容、今後の課題を研究します。

③比較法制研究 本年度は次の比較労働法制の文献を講読します。

R. BLANPAIN, "Labour Law and Industrial relations of the European Community" Kluwer (1991)

### 田邊教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

商法学における重要問題。

#### 2. 指導要領

3年次は、下記のテキストより報告・討論してもらいます。

4年次は、卒業論文を作成し、中間報告を数回行ってもらいます。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

法学教室106号より連載中の「特別講義商法」（予定）

### 中村（恵）教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

「国際法上の基本問題」

#### 2. 指導要領

3年次：国際法に関する外国語文献の輪読および国際法判例の研究。

4年次：卒業論文作成指導。

3. 指導テキスト及び参考書  
文献および判例の検索方法を指導した後、各自が選択したものを使用します。

### 藤原教官担当研究指導

1. 研究主題  
財産法を中心とする民法学の基本的な論点の検討。  
以上を通じて基本的な法的思考能力のトレーニングを目的とする。
2. 指導要領  
レポーターの報告をもとにディスカッションをする。  
3年次の学生は、ゼミでとりあげたテーマにつき毎週レポートを提出し、添削して返却することは例年通り。4年次は卒論の中間報告及び指導。
3. 指導テキスト及び参考書  
未定。但し、民法ゼミナール教材（有斐閣ブックス）、ワークブック民法（有斐閣選書）のような簡単な解説の付された問題集を考えている。  
4年生は従来通り。

### 結城教官担当研究指導

1. 研究主題  
近代立憲主義ならびに現代憲法における基本問題
2. 指導要領  
3年次生：テキストの項目を分担して報告と討論を行う  
4年次生：卒論を作成して、その中間報告を行う
3. 指導テキスト及び参考書  
相談の上決定する

### 渡辺（達）教官担当研究指導

1. 研究主題  
「契約法の研究」  
今年度開講のゼミは、昨年度に引き続き契約法を主たる研究テーマとする（その内容は広範だが、図書館開架閲覧室に所蔵の『現代契約法大系』[全9巻]（有斐閣）、『講座・現代契約と現代債権の展望』[全6巻：うち4冊発刊済]（日本評論社）等の目次だけでも一瞥すると、いちおうの目安が得られると思われる）。

2. 指導要領  
(1)ゼミ員による研究報告と質疑応答を中心とする。研究テーマ設定は、各ゼミ員の選拓に委ねられる。  
(2)研究報告の成果は、3年次に3回（6月、9月、1月の各月末）、4年次に1回（9月末）、レポートにまとめて提出のうえ、最終的に卒業論文として仕上げられることになる。  
(3)なお、上の研究報告と並行して、基礎文献～英語の文献が取り上げられることもありうる～の輪読を行う。
3. 指導テキスト及び参考書  
未定

### 奥田教官担当研究指導

1. 研究主題  
生産システムに関する研究  
物（品物に限らず情報やサービスを含む）を製造する生産システムを対象にした生産計画、生産実施、生産管理の理論的研究を行う。
2. 指導要領  
3年次：テキスト輪読、文献紹介を通じて各自の卒論のテーマを選択する。  
4年次：卒論のテーマに関する文献紹介および研究報告を行い卒業論文を作成する。  
昨年度（平成5年度）の卒業論文の表題を参考までに掲げておく。
  - ・MRPⅡによるキャッシュフローの最大化
  - ・ファジィ線形計画法
  - ・フレキシブル生産システムのペトリネット解析
  - ・スケジューリング問題に対するAIアプローチ 等
3. 指導テキスト  
人見勝人：入門編生産システム工学，（共立出版），1991。  
A. Muhlemann, J. Okaland, K. Lockyer：Production and Operations Management, 6th., (Pitman), (1992) .

### 加藤（修）教官担当研究指導

1. 研究主題  
地域計画科学及び意志決定にかかる数量化技法などの研究：計画科学の方法論、とりわけ魅力ある地域形成に向けて策定される計画そのものと、その計画づくりの際に適用される種々の数量化技法についてできるだけ具体例を用いて学習する。輪読方式（和・英併用）。また、社会情報の収集・処理・並びに効果的利用のあり方などについても触

れる。

注) より現実的, 操作性を考えるため極端に難解な数学的アプローチはとらない。

## 2. 指導要領

卒論のテーマ及び使用テキストなどは適宜相談して決定する。

3年次: 調査研究資料を含めた使用テキストを決め輪読方式で研究し, 地域開発プロジェクト策定のなかで適用されている技法の研究を中心に行い, 議論を通して卒論テーマ設定に向けた絞り込みを行う。3年次末を目途に卒論テーマを決める。

4年次: 各自の卒論の作成・報告を行う。

前年度, 3月に決定している卒業論文のテーマについて以下の項目に従って整理していく。

- 1) 目的 (計画情報の創出の視点から)
- 2) 課題・論点
- 3) 三ポイント表現 (くだけた表現-就職面接対応用)
- 4) キーワード, キャッチフレーズ
- 5) 想定しうる目次
- 6) ユニーク性 (自分の卒論の売り込む点, 目玉)
- 7) アイデアの必要性
- 8) 適用計量化技法
- 9) データの存在
- 10) プログラムソフトの有無 (ソフト開発が目的でない)
- 11) 野外調査の必要
- 12) 関係官庁との関係
- 13) 作業量 (全体, 議論, アンケート, インタビュー調査)
- 14) 想定しうる作業行程
- 15) やりがい度
- 16) 文献検索・整理
- 17) 期待される具体的成果 (3点)
- 18) 今後の応用的展開性
- 19) 就職分野との関連からの応用的展開性
- 20) 今後の研究課題 (後輩への「卒論」の課題継承)

## 3. 指導テキスト及び参考書

特にないが, 以下のものを適宜参考にする場合がある。

- 1) 計画科学, 開発計画などにかかわる調査研究レポート。
- 2) 各国学会論文 (英) など。

## 清水川教官担当研究指導

1. 研究主題  
統計学
2. 指導要領  
統計手法の使い方を学ぶ
3. 指導テキスト及び参考書  
未定

## 杉本教官担当研究指導

1. 研究主題  
知識情報処理  
これまでのコンピュータは主に計算のため用いられていましたが, 現在では, ワープロ等のように人間の知的な作業の支援に重点が移っています。しかし, コンピュータには人間の知的な作業を代行することが限られています。それは人間の知的作業の意味がコンピュータに理解されていないからです。では, どうすればコンピュータに人間の知識を処理させることができるのでしょうか?  
それを考えるのが知識情報処理です。
2. 指導要領  
知識情報処理が目標ですが, コンピュータの一般的な利用も重要です。  
【入門コース】  
・パソコン入門・Pascal プログラミング  
【実力養成講座】  
・オブジェクト指向アプローチによる抽象化設計技法の理解を目標にする  
・オブジェクト指向概念・データ構造 種々のプログラミング言語  
・人工知能の応用例のプログラミング  
【応用発展コース】  
卒論として, 以下の項目から1つを選び, 理論的勉強と開発を行う。  
ゲームやエキスパートシステムなどの人工知能  
自然言語解析や意味理解システム データベースシステム  
オブジェクト指向プログラミング
3. 指導テキスト  
データ構造とアルゴリズム  
他のテキストは, 春の集中ゼミで相談して決定します。

## 戸島教官担当研究指導

### 1. 研究主題

数式処理システムおよびそれを効率よく走らせるためのLisp処理系（インタプリタとコンパイラ）の研究と開発。

### 2. 指導要領

数式処理システムはREDUCEを対象とし内部構造を解説する。Lispに関しては、Basic, Pascal, Cなどで記述された小規模なLispインタプリタを対象にその機能を拡張しそれらの上でLispで記述されたLispコンパイラを走らせる。コンパイラは新しく開発するものか既存のものを使用する。

### 3. 指導テキスト及び参考書

必要に応じてその都度指示するが、次の文献はLispプログラミングを行う者にとっては必読書のひとつである。

Winston and Horn, LISP (2nd Ed.), Addison-Wesley, 1984.

なお、REDUCEについては

Anthony C. Hearn, REDUCE User's Manual Version 3.4. RAND, 1991.

が基本である。

## 中村（隆）教官担当研究指導

### 1. 研究主題

「確率システムのモデル化と解析に関する研究」

マルコフ過程、待ち行列理論、確率ペトリネット等によるシステムのモデル化と解析に関して研究する。

### 2. 指導要領

3年次：テキストの輪読と演習

4年次：卒業論文作成指導

### 3. テキスト

未定

## 行方教官担当研究指導

### 1. 研究主題

ゲーム理論に関する基礎的研究

複数の参加者がいる意思決定問題を扱うゲーム理論を研究する。拘束力のある取り決めを行うことが出来ない非協力ゲーム、拘束力のある取り決めを行うことが出来る協力ゲームの基礎的な考え方や概念（均衡点、提携、等）の理解と応用を目的とする。

### 2. 指導要領

分担を決めてテキストを読み進める。自分の担当分を準備する際、分からないところと分かるところをはっきりさせ、それをゼミ中に発表してもらおう。また、現実のどの面をどのようにモデル化しているか、捨象された部分は何処か、利用されている数学的手法は何か、に注意することも重要である。数学的な理解よりもモデル化の意味合いをつかむことのほうがもっと重要である。

以上の事に留意しながらゼミを進める。

### 3. 指導テキスト及び参考書

3年次：“An Introduction to Game-Theoretic Modelling” by Michael Mesterton-Gibbons 1992.

4年次：“Game Theory for Applied Economists” by Robert Gibbons 1992.

## 沼田教官担当研究指導

### 1. 研究主題

オペレーションズ・リサーチ（OR）

経営科学・計画科学の中心をなすORの考え方、手法、適用例を学ぶ。

### 2. 指導要領

3年次：英語の文献を読み、内容を正しく理解する訓練をしながら、ORの諸分野の理論・手法を学ぶ。

4年次：できるだけ早期に卒論にとりかかる。

### 3. 指導テキスト及び参考書

H.G. Daellenbach, J.A. George & D.C. McNickle *Introduction to Operations Techniques*, 2nd ed. Allyn and Bacon, 1983.

### 4. 申し込みの条件

- 通常の年限で卒業する見込が十分あること。
- 社会情報概論単位取得済みのこと。
- 計画数学 I 不合格の場合はゼミ内定を取り消す。
- ソフトウェア科学 I, II 不合格の場合は、ゼミ内定を辞退してもらおう。

## 持田教官担当研究指導

### 1. 研究主題

「情報システムセキュリティに関する基礎的研究」

- 情報システムの安全性、信頼性、効率性の阻害要因分析と対策（事例研究）
- システム監査モデルの研究
- システム監査ツール、技法の開発

## 2. 指導要領

### 3年次：テキストの輪講と演習

コンピュータを中心とした情報システム（ネットワークシステム、コンピュータシステム）のセキュリティ（安全性・信頼性）に関わる問題の原因はシステムの奥深くに潜んでいる。そのため、コンピュータシステムの仕組みや動作の仕方の理解なしには、セキュリティについて論じることはできない。このような理由から、標準的なプログラミング言語を通して「プログラミング動作の仕組み」を理解することによって、ユーザプログラムがシステムプログラムを介してハードウェアにどのようにアクセスするか等、コンピュータシステムの基本的な動作原理を習得することを目的とします。言語自体の習得が目的ではない（念のため）。3年次に研究テーマを決めるつもりで取り組むこと。

### 4年次：テーマに沿った卒業論文の作成指導

## 3. 指導テキスト及び参考書

未定

## 山本（清）教官担当研究指導

### 1. 研究主題

組織活動の情報経済学アプローチ特に、業績給制度の有効性についての理論的、実証的研究。その他、非営利組織、政府の業績測定、評価システムの開発と効果についての総合的研究

### 2. 指導要領

基本的には、多くの学生は研究者になるのではないから、広く社会的常識と教養を身につけることをモットーとする。その中で、組織と情報とのかかわり合いについて何かテーマを見いだして考察する経験を積むことを目標とする。

### 3. 指導テキスト及び参考書

3年次；Norman Flynn, *Public Sector Management 2nd Edition*, 1993, Harr-ester Wheatsheaf.

4年次；教科書は用いず、内外の研究論文・資料を用いる

## 若林教官担当研究指導

### 1. 研究主題

社会情報学の基礎的・数理的研究

—UNIXマシンを利用したオペレーションズ・リサーチの研究—

—最適施設配置の数理（ボロノイ図）—

### 2. 指導要領

・英語論文の輪読、専門和雑誌の論文紹介

- ・情報処理技術の習得（UNIX, Windows）
- ・高品質出版物の作成、プレゼンテーション（OHP）
- ・卒業論文の作成上の指導

### 3. 指導テキスト及び参考書

- ・Mathematica Journal
- ・Operations Research
- ・Management Science

## 君羅教官担当研究指導

### 1. 研究主題

英文学（シェークスピア及び英詩）

### 2. 指導要領

3年次：毎週英詩数編を読み、発表・討論を行ない、英詩の分析法を中心に文学批評・研究の基礎を養成する。

4年次：前半は3年次と同じ内容を続け、後半からは各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）を最終目的として報告と討論を中心にする。

### 3. 指導テキスト及び参考書

C. Brooks & R.P. Warren, *Understanding Poetry*, 4th ed. (Holt, Rinehart and Winston, 1976)

F.T. Palgrave: *The Golden Treasury* (Oxford U.P., 1964)

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）

志子田光雄『英詩理解の基礎知識』（金星堂）

## 高井教官担当研究指導

### 1. 研究主題

Classroom Oriented Research is the main theme of this course.

Students are expected to analyse and discuss the effectiveness of teaching methods using audio-visual materials such as movies and videos based on the recent theories of Second Language Acquisition in order to produce a thesis for graduation.

### 2. 指導要領

Topics of discussion will be assigned for each week, and will be discussed in the seminar.

### 3. 指導テキスト及び参考書

1. David Nunan, 1989. UNDERSTANDING LANGUAGE CLASSROOMS :

A guide for teacher-initiated action (Prentice Hall)

2. 島川茂清 (監修) 外国映画英語シナリオ, スクリーンプレイ・シリーズ「フィールド・オブ・ドリームス」(スクリーンプレイ出版)

### 永原教官担当研究指導

1. 研究主題  
英米小説及び文芸批評
2. 指導要領  
3年次: 毎週短編小説一編を読み, 発表・討論を行って文学研究の基礎を養い, あわせて現代文芸批評についても指導する。  
4年次: 各自の研究テーマについて卒業論文(英文40枚程度)作成を最終目的として報告と討論を中心にする。
3. 指導テキスト及び参考書  
Brooks & Warren. *Understanding Fiction*  
E.M.Forster. *Aspects of the Novel*  
Wayne C.Booth. *The Rhetoric of Fiction*  
原田敬一訳, 「MLA新英語論文の手引」(北星堂)

### 山本(久)教官担当研究指導

1. 研究主題  
生成文法理論
2. 指導要領  
3年次: 毎週生成文法理論に関する論文を読み, 生成理論の基礎を養成する。  
4年次: 各自の研究テーマについて卒業論文(英文40枚程度)作成を最終目的として報告と討論を中心とする。
3. 指導テキスト及び参考書  
Andrew Radford: *Transformational Grammar*  
原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)

## 8 一般教育ゼミナール

### 一般教育ゼミ(数学)

教授 兼 岩 龍 二

今年はこちらで設定するテーマは特にありません。参加者の顔ぶれと意志によってテーマを決めたいと思います。対象は「火曜日4・5講目にゼミのない1・2年次の学生」, 「ノンゼミ学生」, 「夜間主コースの学生」, 「教職員」です。考えられるテーマをいくつか挙げておきましょう。

- |                |   |
|----------------|---|
| 1. トポロジー(位相数学) | 理論経済学で使われる。   |
| 2. 記号論理        | ものの考え方に役立つ。情報科学, 実証主義関連の人文社会科学で使われる。                            |
| 3. 有限体の理論      | 符号理論・暗号理論に応用されている。  |
| 4. ゲームの理論      | フォン・ノイマン/モルゲンシュタインによって始められ, 現在では経済学, 政治学, 経営学, 情報科学等で広く応用されている。 |
| 5. 確率論         | これも当然のことながら応用範囲が広い。   |

これらのテーマはほとんど予備知識も要りません。中学程度の数学が理解できていれば十分です。参加希望者は上記以外でも数学なら何でもよいので勉強してみたいテーマを考えて

4月26日火曜日14:30

に小生の研究室(新研究棟4階)に集まってください。

### 一般教育ゼミ(数学)

助教授 池 田 薫

多変数の微積分に関するゼミを行います。偏微分や重積分といった経済学や計画科学に必要な不可欠だが通常の講義ではどうしても手簿になりがちな項目を重点的に学習しましょう。必然的に2年生以上が対象となりますが意欲ある1年生の参加も歓迎します。興味のある方は4月22日PM4:30に私の研究室532まできて下さい。



2

## VII 平成6年度開講科目(夜間主コース)の講義要目

### 目 次

1 一般教育科目	175
2 外国語科目	178
3 保健体育科目	182
4 基礎教育科目	184
5 専門教育科目	189
6 教職科目	209
7 研究指導	211

# 1 一般教育科目

## 哲 学

助教授 久保田 顕 二

哲学が取り組む数々のテーマの中から、特に「主要問題」と呼べるようなものをいくつか選んで論じる。それによって、哲学の基本概念・考え方を習得する。話の順序としては、まず問題の所在（そもそも、なぜそういったことが問題になるのか）を具体例をも挙げながら説明し、次いでその問題についての過去および現代の諸学説を紹介する。取り上げる予定のテーマは次の通り。

(1) 人格の同一性, (2) 心身問題, (3) 行為論, (4) 科学哲学の諸問題など。

その他、倫理学の問題も若干取り入れるつもりである。

「哲学」の特徴、および勉強の仕方について、あらかじめ以下の諸点に注意を喚起しておきたい。

(1) 哲学では、関心はずと「根本的なもの」のほうへと向かい、従って例えば他の学問分野では「自明」とされているような基本的な前提事項が敢えて取り出されて疑問に付される。

(2) しかし、哲学とは決して高遠で現実離れした学問なのではなく、むしろ哲学問題の所在は多くの場合、日常卑近なごく普通の場面にある。

(3) 哲学では、同じ問題や問題の同じ局面についてもいろいろな見方、考え方があり、しかも後の時代に現われるからといって必ずしもよりすぐれていたり正しかったりするとは限らない。

(4) 哲学問題の処理においては「論理」ということが非常に重要であり、一見屁理屈や詭弁と見えても、筋の通った主張はこれを尊重せねばならない。

(5) 訳本でもよいから、大哲学者と呼ばれる人々の書いたものにじかに触れることが大切であり、またそのほうが却って理解が容易であることが多い。

なお、教科書は特に指定しないが、講義の中で参考文献を随時紹介する。

## 日 本 文 学

教 授 村 山 出

日本最古の歌集『万葉集』を取り上げます。和歌の伝統は『古今和歌集』以降に成立したといわれますが、伝統形成の創造性に満ちた時期の表現に認められる日本的抒情の特質とその変遷について講義します。日本文化について考える参考にしてもらえればと思います。

前期は万葉歌の発想と表現の性格を理解し、後期は1世紀余にわたる万葉歌の歴史を特色づけた主な歌人について考察します。講義はテキストにそって進めますが、内容の概略は下記のとおりです。なお内容が多岐にわたる事項は2講時に及ぶこともあります。また何かの事由で若干変更することがあるかもしれませんので含んでおいて下さい。

### I 万葉の表現

#### 1 風 土

風土と生きた日本人の心性

- |   |    |              |
|---|----|--------------|
| 2 | 自然 | 自然を表現することの意義 |
| 3 | 羈是 | 行旅の歌の表現と人間の心 |
| 4 | 相聞 | 上代日本人の恋と愛の表現 |
| 5 | 無常 | 無常の知識と抒情表現の型 |
| 6 | 搗歌 | 死者を悼む心と哀傷の発想 |
| 7 | 風流 | 風流の意味と心のよそおい |
| 8 | 戯歌 | 日本人の言葉の遊びと機知 |

## II 万葉の歴史

### 1 呪から詩へ（飛鳥期）

- |     |         |             |
|-----|---------|-------------|
| (1) | 皇族歌人たち  | 呪的儀礼の歌と私的抒情 |
| (2) | 宮廷詞人額田王 | 宮廷における活躍の意義 |

### 2 抒情詩の確立（藤原期）

- |     |          |             |
|-----|----------|-------------|
| (1) | 天武系の皇族歌人 | 皇親政治下の情熱と挫折 |
| (2) | 天智系の皇族歌人 | 自己疎外感と現実の凝視 |
| (3) | 宮廷詞人柿本人麿 | 残照の王朝の讃美と鎮魂 |
| (4) | “ 高市黒人   | 傍流の悲哀と旅愁の表現 |

### 3 個性の分化（奈良前期）

- |     |          |             |
|-----|----------|-------------|
| (1) | 宮廷詞人笠金村  | 従駕の讃歌と情詩的世界 |
| (2) | “ 山部赤人   | 自然詠への傾斜とみやび |
| (3) | 官人作者大伴旅人 | 老いの憂愁と酒と夢の歌 |
| (4) | “ 山上憶良   | 無常への抗いと世間の道 |
| (5) | “ 高橋虫麻呂  | 羈旅と伝説と孤独の幻想 |

### 4 抒情の閉塞（奈良後期）

- |     |           |             |
|-----|-----------|-------------|
| (1) | 宮廷詞人田辺福麻呂 | 遷都と彷徨のなかの讃歌 |
| (2) | 家刀自歌人坂上郎女 | 家刀自とみやびの日常化 |
| (3) | 官人作者大伴家持  | 憂情と孤独沈思歌の成立 |

毎時出席調査をします。

テキストは試験の時に必要ですので、受講する人は必ず準備して下さい。参考書は随時紹介します。

テキスト：村山 出編『万葉集 表現と歴史』 丘書房

## 社 会 学

助教授 宝 福 則 子

現代の社会で日々、身近に起こっている様々な現象や出来事（例えば「不況と失業」「環境破壊」「核家族」「高齢化社会」「民族紛争」「外国人出稼ぎ労働者」等の具体的な問題）を通して社会的な物の見方を養ってもらおう。

「社会学とはどのような学問か？」という問いをしばしば受けるが、これについて第一回目の講義で簡単に説明する。一年間を通じて「社会学」の基礎理論や学説の解説のみをする

つもりはない。

実際に私達が日常、見聞きするひとつの現象を、ビデオや新聞・雑誌等のメディアも活用しながら、それを大きな社会的連関から分析する「マクロ」レベルの分析と、より小さな「社会」の中で分析をする「ミクロ」レベルの視点を身につけることを目標とする。最終的にはこの両レベル間の関係についても考えてみる。

暗記式の勉強をするのではなく、「履修者自身が考える」社会学の講義を実践する予定なので、ノートをとるだけでなく、積極的な授業への参加を望む。

前期の筆記試験と、後期のグループないしは個人単位の発表・個人の学術小論文の提出によって成績評価する。

参考書は下記に挙げるが、各テーマ毎にその都度、参考資料を挙げる（テーマ内容は、第一回目の講義時に報せる）。

参考書：中野秀一郎編「ソシロロジー事始め」

有斐閣ブックス，1990年

鈴木・木下・友枝・三隅編「社会学と現代社会」

恒星社厚生閣，1993年

## 政 治 学

非常勤講師 坪 井 主 税  
(札幌学院大学助教授)

政治とは、「島原の火山爆発」や「釧路の地震」のような自然現象ではなく、「湾岸戦争」や「ユーゴの紛争」のような人為的現象である。されば、政治を良くするも悪くするも、その主体は、神・仏ならぬ人間である。人間には、一方に権力と暴力（すなわち、銃と抑圧）そして金に物言わせて政治を左右する者がいる、が他方に、連帯と非暴力行動と（平和や人権などの）人類的・普遍的価値（観）を“武器”に政治を変革せんとする者もいる。本講座は、後者の人間の挑戦に光を当てる。誰がいつ、どんな政治課題をどんな風に挑戦したのか。そしてその結果から、私達はどんな教訓を学べるのか。ペトラ・ケリー、エルンスト・フリードリッヒ、トレバー・ハダグストン、そしてジーン・シャープが登場人物である。出欠・評価方法については第1時間目に。

## 物 理 学

教授 原 田 稔

現代物理学がどのようなプロセスをたどって生まれて来たかを、アインシュタイン-インフェルト著「物理学はいかに創られたか」（岩波新書）にそって解説する予定。

## 2 外国語科目

### 英語 I

◦ E11A 教授 豊国 孝

テキスト : Graham Greene, *The End of the Party & Other Stories* (南雲堂)  
イギリスの小説家グリーンの短編小説を読む。彼の作品はストーリー性を重視した面白いものである。このクラスでは基礎的な読解力の修得を目標とする。学生諸君が積極的に授業に参加されることを望む。3/5以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

◦ E12A 教授 君羅 久 則

Muriel Spark, *The Portobello Road and Other Stories*. 朝日出版  
現代イギリスの作家ミュアリエル・スパークの作品を利用し、読解力、リスニング、語彙力、文法等の鍛練を目標とする。評価は平常時間内に随時行う小テストと、前・後期の試験、それにクラスワーク、出席を加味して総合的に行う。授業実施時間数の3/5以上出席しなければ単位認定はしない。

◦ E13A 非常勤講師 布施 英 憲  
(藤女子大学教授)

西村満男編『オー・ヘンリ傑作選』南雲堂

- (1) O. Henry の短篇小说「賢者の贈りもの」をゆっくり丁寧に講読する。
- (2) 英語の Idiom の構造とその特徴について、理解と知識を深める(『英語教育小冊子』を使用する)。
- (3) TOEFL のテープを使用して、英語聴解力について理解を深める(年間、数回実施)。
- (4) 英語らしい生きた口語表現形式の理解と習得につとめる(75題)。
- (5) テキストの Reading を、特に重視する。
- (6) 夏期・冬期休暇中に自学自修してもらった課題もあります(TOEFL の問題)。

E. Wiechert 「童話の世界とは奇蹟や魔法の世界ではなく、究極の偉大な正義の世界である。」

テキストはプリントを配布します。

◦ E11B 助教授 山本 久 雄

テキスト : *A Short Social History of the United States* by Susan J. Tripp  
(篠崎書林)

本授業は、英文読解力の向上及び内容把握を目的とする。遅刻は欠席扱いとし、全授業数の3分の1以上欠席したものは受験資格を失なう。

◦ E12B 助教授 杉村 泰 教

Marvin Harris, *America Now* (研究社, ¥1,300)

アメリカ社会の変貌に関する文化人類学者の評論を読むことにより、読解力の向上に努める。実施授業時間数の3/5以上出席しなければ定期試験を受けることはできない。原則として遅刻は欠席と同等に扱う。

◦ E13B 講師 吉田 直 希

驚くべき推理力により、次々と難事件を解決する名探偵シャーロック・ホームズを調査する。

テキスト : Arthur Conan Doyle, *Sherlock Holmes* (Oxford UP, 1951)

最初のクラスで授業の進め方、評価等について具体的に説明する。

### 英語 II

◦ E21A 助教授 山本 久 雄

テキスト : *American and English Ideals* by Carl Becker (英宝社)

本授業は、英文読解力及び内容把握力の向上を目的とする。遅刻は欠席扱いとし、全授業数の3分の1以上欠席したものは受験資格を失なう。

◦ E22A 助教授 杉村 泰 教

Joseph S. Fletcher, *Fear* (成美堂, ¥980)

英国の短篇小説家フレッチャーの作品を読むことにより、読解力の向上に努める。実施授業時数の3/5以上出席しなければ定期試験を受けることはできない。原則として遅刻は欠席と同等に扱う。

◦ E23A 講師 吉田 直 希

日本でも最近さまざまな場面で語られるエイズについて考える。エイズがどのようにして病気として発見されたのか、またエイズという言葉に対していかなる意味づけがなされてきたのかを現在アメリカで発行されている雑誌記事を題材に調べる。最初のクラスで授業の進め方、評価等について説明するので、受講希望者は必ず出席すること。なお、テキストはプリントとして配布する。

◦ E21C 外国人教師 Michael Carr

Richards, *Interchange 1 and Interchange 1 Student Activity Book*, (Cambridge University Press)

This course will emphasize functional communication in English. Attendance

and participation are strictly required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades will be determined from weekly tests in the language laboratory, role-plays, and other activities.

◦ E22C 外国人教師 Diane Cammarata-Charlesworth

Materials will be supplied by instructor.

Students will use pair and group technique to make improvements in everyday communication in the English language. Students must expect to actively participate in class using imagination and interaction skills. Grades are based upon class participation, projects, individual improvement and weekly tests. No more than three absences allowed.

◦ E23C 非常勤講師 Wendy Schwartz

Helgesen, Brown, and Venning, *FIRSTHAND SUCCESS* (Lingual House)

This course is designed to promote creative English conversation. Emphasis will be placed on dialogue through pair work and small group work. No more than three unexcused absences will be accepted. Grades will be based on attendance, class participation and quizzes.

ドイツ語 I 助教授 鈴木将史

教科書：吉田 眸，たかがどいつ語一文法読本（郁文堂）

ドイツ語は語尾変化の言語と呼ばれています。確かに動詞・冠詞・形容詞などが織り成す変化の世界に、英語に慣れ親しんだ初学者はいささかたじろぐこともあるでしょう。しかし、それ故にまた、ドイツ語は、時にはこの上なく厳密な、時には全く微妙な言語表現を可能にしているのです。本授業では、この一見とっつきにくそうなドイツ語を、自主的な表現練習を通じて学習、定着に努めます。高度なことは何も要求しませんが、唯不断の努力が無視されてはなりません。

フランス語 I 教授 江口 修  
助教授 尾形 弘人

用書：デュボワ他著『シャンタル登場』（朝日出版社，¥1,700）

日常的シチュエーションで展開される、しかしフランスっぽい会話を学んでいきます。

中国語 I 助教授 萩原正樹

先ず中国式ローマ字による音節表記を学び、中国語の発音が正しく出来るようにする。続いて基礎語法及び基本文型について順次勉強していきたい。入門段階の語学はとりわけ積み重ねが大切であるから、出来るだけ続けて出席することが必要条件である。

また、言葉の学習を通して、ぜひ中国の政治や歴史、文化等について興味を持ってもらいたい。ただ授業を聞くだけではなく、積極的に参加することが、語学上達の近道であろう。

教科書：「表現マスター中国語」黒坂満輝他著（同学社，¥1,545）

「20分ドリル中国語」関根謙他著（同学社，¥1,236）

上記テキストは後期の前半には終了する予定であるので、以後はプリントを使用して中級程度の中国語にチャレンジしてみたい。他に辞書も購入してもらう必要があるが、詳しくは開講時に説明する。

なお成績は、前期後期の定期試験の点数及び出席状況、平常点等を総合して評価する。

### 3 保健体育科目

人間が直面する健康の諸問題に対する総合的な判断力をそなえ、且つ積極的な身体運動を通して健康・維持と自己健康管理の基礎を養う。

#### 保健体育理論

- ・2年次配当，後期開講，2単位科目
- ・担当：花輪啓一，浅沼義英

#### 保健体育理論（後期）

助教授 花輪 啓 一

われわれ人類は、未だかつて経験したことの無いめざましい技術進歩の渦のなかで生活している。社会変化のスピード化，機械技術の急速な発達，生活水準の向上，情報の氾濫と多様化，競争の激化，家庭の核家族化などの要因が複雑に互いにかみあって，ほとんどの人が日常生活の中で大なり小なり運動不足やストレスによる不健康を認識している。

また，職場の急速なOA化が進み，OA不適應による健康問題，職場環境による健康問題，職場不適應による健康問題など，現代社会および企業社会で起きているトータル（心とからだ）な健康問題をトピックス的に労働衛生（労働安全衛生法を含む）を中心に，人間工学，精神衛生，労働生理，運動生理などの視点からも具体的な事例をもとにスライドとOHPを用いて講義する。特に，人間とコンピューター作業との関わりにおける健康問題を重点的に講義する。（指定図書はない）

#### 保健体育理論（後期）

教授 浅沼 義 英

大学生活や将来の健康の保持，増進のために重要な問題を，現代医学の見地から解説する。次のような内容を，各講義に一テーマとしてとりあげる予定である。

◎高血圧，肥満，糖尿病のような成人病の青年期からの予防法について。◎栄養摂取の考え方と現代の弊害。◎アルコール，タバコなどの嗜好品。◎エイズおよび性感染症。◎生活のリズムと睡眠。◎青年期の精神衛生。◎運動と疾患のかかわり。◎環境変化に対する体の適應について。◎温泉医学と保養。◎医学のトピックス。

各講義で小感想文を書いていただきます。出席は成績の評価に加味されます。

#### 体育実技Ⅰ・Ⅱ

教授 田 野 有 一  
助教授 花 輪 啓 一  
助教授 中 川 喜 直

#### 1. 履修方法

- ・必修科目。毎週1回。所定のクラス（時間）で履修。1年次通年履修…前期「実技①」+後期「実技②」。2年次前期履修…「実技③」。

- ・「実技①，②，③」のすべてが合格した場合に『体育実技の2単位認定』がなされる。なお，1年次分終了時点での分割単位認定はしない。
- ・1年次は前期・後期ともに履修学生を半分に分け，期ごとに担当教官が交替する。
- ・2年次は履修学生を半分に分け，期の半ばで種目および担当教官が変わる。

#### 2. 共通実施種目と内容

- 1) 共通種目…「オリエンテーション」，「体力診断テスト」（通年授業で）  
「水泳」，「スキー」（集中授業で）

- ・体力診断テスト…反復横跳び，垂直とび，背筋力，握力，伏臥上体そらし，立位体前屈，踏み台昇降運動の7種目。春・秋の二期に実施。

- ・集中授業…1・2年次とも「水泳」，「スキー」の二者択一制。

	水 泳	ス キ ー
実施期日 (予定)	1年次…6/11・6/18 2年次…6/25・7/2	1年次…1/28, 2/4 2年次…1/17, 1/21
履修日	指定の1日間(全日)	指定の1日間(全日)
会 場	本学；室内(温水)プール	天狗山；スキー場
履修方法	昼間コース(学生)	合併授業
指導体制	班別(技能別)	…非常勤講師が加わる

#### 3. 実技内容

##### ☆軽スポーツ

さまざまなスポーツを体験し，生涯に亘って楽しみながら続けられる生涯スポーツの習得を目指している。具体的にはソフトボール，バレーボール，サロンフットボール，バスケットボール，ユニホックなどを取り上げ，この他ユニークなスポーツ種目なども取り入れたい。

##### ☆レクリエーション

1年次に体験し，習得したさまざまなレクリエーションゲームおよび軽スポーツ，また，子供の頃に体験した遊び等からグループダイナミクスによりレクリエーションゲームの創作を行う。創作過程で，互いに協力して，人と人とが接し，交わり，お互いに作用しながら自然に人間交流を深めていく中で，自分自身の健康・体力の状態に気づくことを目標に置く。

##### ☆健康運動

体力の向上に役立つと考えられる各種トレーニング方法の理論と実際を学ぶとともに，手軽に行える健康保持・増進運動（動き）を模索し，あわせて「生涯スポーツ」の観点から幾つかのスポーツ種目を取り上げてこれを実施する。

## 4 基礎教育科目

### 経済学概論

(前期) 教授 鶴 沢 秀

経済学の基本的な概念についての理解を深め、適切に応用できる能力を得られるように授業を予定している。

具体的には、

(A) 資源配分において価格メカニズムがどのような役割を果たしているかを明らかにするために、

- (1) 消費者行動の分析
  - (2) 企業行動の分析
  - (3) 需要と供給による市場分析
- を行いながら明らかにして行きたい。

また、

(B) 生産、分配、支出の所得循環において、政府がどのような役割を果たしているかを

- (1) GNP, GDPとはどのような概念か
- (2) 国民所得分析
- (3) 政府の役割

を分析しながら明らかにして行きたい。

出来る限り、具体例、数値例を用いて、十分な理解力と応用力が身につけられるよう授業を進めて行きたい。

### 経済学概論

(後期) 助教授 山 本 賢 司

後期では、日頃私達が耳にする「GNP (GDP)」, 「物価水準」, 「利子率」等について、その意味を説明していきます。さらに、これらの水準がどのように決まるかを簡単なマクロ経済モデルによって示します。

よく知られているように、1960年代には日本の(実質)GNPは毎年10%以上の割合で増加し、「高度成長」の時代と呼ばれます。しかし、1970年代に入るとその成長率も1桁となりました。また、73-75年には原油価格の高騰を端緒として、物価水準は年率10~20%の割合で上昇し、インフレーションへの対処が大きな政策課題でした。近年では、為替レートの国内経済への影響も大きく、円高は一方で輸出企業の国際競争力を弱め、他方では海外旅行を身近なものにしてきました。

後期で解説するマクロ経済学では、消費、投資、貯蓄等の集計的な経済変数から考えていきます。それらの相互関係はマクロ経済モデルで示されます。また、この経済モデルは財政政策や金融政策の効果を検討する際にも役立ちます。

- 概 要
1. マクロ経済分析のフレームワーク
  2. 金融財政と海外部門

### 3. インフレーションと失業

### 4. 経済の成長と変動

教科書 今・鶴沢・山本『基本現代経済学』(中央経済社, 1992年)

成績評価 後期分(50%)については、学年末試験で評価を行なう。

### 商学概論

(前期) 助教授 黄 磷

(中期) 教授 渡 辺 和 夫

(後期) 助教授 高 橋 正 泰

#### (1) 講義形式

商学科に属する学問領域はきわめて多様な内容を含んでいる。それらは大別すると、商学・経営学・会計学の三つの領域になる。それらの学問領域はある程度独立性を確保しており、全体をひとつにまとめることがむずかしい。すなわち、ひとりの担当者が三つの領域を網羅することは実質的に困難な状況にある。そのため、商学概論は3人の担当者によって講義する形式が採られている。

#### (2) 試験と成績評価

商学部門の試験は6月下旬、会計学部門の試験は11月上旬にそれぞれ実施する予定である。成績評価は3部門の成績の平均によって行う。

各部門の講義内容はつぎのとおりである。

#### I 商学部門(4月~6月末)

担当 黄 磷

商業は、数世紀にわたって学問の対象として長い発展の歴史をもち、国民経済の中で重要な地位を占めている産業分野として変化の激しい領域です。講義の商学は、利益を得て商品を再販売することを目的とする商業者だけでなく、生産と消費を結び付ける流通活動を専門的に遂行する業者(広告代理業、運送業、倉庫業、保険業、交通業など)をも研究対象にしています。商学部門の講義では、商業を理解するための基礎知識および交換、取引や機能分化などの基礎的理論を学習し、現実の流通問題について学ぶことになります。

講義内容と教科書は次のとおりです。

1. 商業と商学の学問体系
2. 商学の基礎的理論: 取引および機能分化
3. 商学研究の展開: 商業, 流通, マーケティング
4. 商学研究の今日的課題

テキスト: 鈴木安昭・田村正紀『商業論(有斐閣, ¥1,030円)』

参考図書: 黄 磷『流通空間構造の動態分析』序章, 第2章(千倉書房, ¥3,600円)

#### II 会計学部門(7月~11月上旬)

担当 渡辺 和夫

会計学というのは主として企業の経営状況を計数的に把握することと関わっている。計数的に把握するといっても、すべてが会計の対象となるのではなく、通常、それらは複式簿記

の原理にのっとっている必要がある。会計学は複式簿記という特殊な技術を基礎に成立しているのである。したがって、会計学の学習に複式簿記の原理は欠かすことができない。しかし、ここでは会計学の概要を知ってもらうことが目的であるから、複式簿記の技術的な側面はできるだけ避けたいと考えている。それよりもむしろ、会計の社会的な役割をしっかりと理解することが大切である。われわれの身近には会計情報が多く存在している。そうした会計情報がなぜ必要なのか、それらの限界はどこにあるのか、それらを活用するにはどうしたらよいか、といったことを的確に理解することが重要である。

なお、本年度はとくに「財務諸表」に焦点を合わせた講義を予定している。

### Ⅲ 経営学部門 (11月中旬～2月末)

担当 高橋正泰

経営学とは、どの様な対象を、どの様に扱うのかを、以下の要領で講義する予定です。

1. 経営学の対象と方法
2. 経営学の歴史
3. 企業論と経営者論
4. 経営組織論
5. 経営管理論
6. 経営戦略論
7. 経営の国際化と文化

参考文献：

大月博司・高橋正泰『経営学—理論と体系—』同文館  
車戸 實編著『現代経営学』八千代出版  
岡本康雄『経営学入門』日本経済新聞社

### 法 学 概 論

(前期) 助 教 授 田 邊 宏 康  
(後期) 助 教 授 桑 原 康 行

2年次以降法律関係の専門科目を履習するうえで必要な予備知識を与えることを目的とする。

テキスト：伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第3版〕』有斐閣

### 社会情報概論

(前期) 教 授 加 藤 修 一

主に以下の内容に沿って講義を行う。

1. 社会と情報
2. 情報と問題解決
  - 2.1 はじめに
  - 2.2 問題解決にむけた情報の抽出と方法
  - 2.3 情報「化」のための新QC七つ道具
3. 情報と階層構造 (AHPを巡って)

- 3.1 情報と階層構造
- 3.2 意志決定とAHP
- 3.3 AHP法の手順 (実例, 演習)

### 4. 情報と予測

- 4.1 予測について
- 4.2 予測の手法
- 4.3 時系列における傾向線の当てはめ
- 4.4 相関・回帰分析

### 社会情報概論

(後期) 助 教 授 近 勝 彦

本講義は基礎教育科目であり、概論であるので、社会情報に関する一般的・網羅的な内容を講義することにする。

社会情報論をもっとも大きく分けると、コンピュータ (hardware & software) と通信 (Communication) に関する知識と、様々な生活領域に関する応用とその問題点に分けられよう。そこで、その主なものを取り上げて、なるべく平易に具体的事例(具体的システム)にそって議論していくことにする。(下記にその内容を列挙する。)

#### I Computer & Communication の基礎知識

- ①「情報」とは何か
- ②コンピュータの基本構造 (基本機能と種類)
- ③コンピュータの発展とその限界
- ④ソフトウェアとは何か
- ⑤ソフトウェアの構造 (製作手法とその問題点)
- ⑥ソフトウェアの将来とその課題 (特に知的DB, CG, Multi Media, AI)

#### ⑦「通信」とは何か

#### ⑧通信システムの将来とその課題 (特にメディアの変容をめぐる) II 情報社会論

- ⑨Post-Industrial Society は Information Society か (理論と批判)
- ⑩Information Society の内容とその問題点
- ⑪産業の情報化 (FA と OA)
- ⑫家庭の情報化 (HA)
- ⑬社会の情報化 (特に行政システムについて)
- ⑭コンピュータリゼーションによる諸問題
- ⑮豊かな社会の実現と情報システム (総括)

### 数 学

助 教 授 池 田 薫

今後大学で学ぶにあたって必要な最小限度の数学の素を身につけてもらうための講義を行います (受験数学では十分ではありません)。従って多くの一年生諸君の履習を望みます。もちろん他の学年の履習者も歓迎します。内容は一変数及び多変数の微積分で教科書は、



渡部隆一著「解析入門」培風館  
です。

## 5 専門教育科目

### ミクロ経済学

助教授 加藤 睦 洋

テキスト：奥野正寛著『ミクロ経済学入門』 日経文庫，日本経済新聞社

### マルクス経済学

助教授 花田 功 一

マルクス経済学の立場から戦後の日本とアメリカの経済について解説していきます。途中できるだけ関連する基礎理論についても触れていくつもりです。

テキストは使わず私のノートによって講義を進めます。参考文献についてはその都度指示しますが、さしあたり、以下の文献を挙げておきます。

第1編 国家独占資本主義の成立とその政策体系

第2編 IMF体制の崩壊・スタグフレーションの発生と高度成長の終焉（1945—75年）

第1章 IMF体制の成立とその崩壊

第2章 日本における高度成長の終焉とスタグフレーション

第3章 戦後アメリカ経済とスタグフレーション

第3編 スタグフレーションからの脱出過程と資本主義の危機の深化（1975—87年）

第1章 日本におけるスタグフレーションからの脱出過程と財政危機，貿易摩擦の拡大

第2章 70年代後半のアメリカ経済の深刻な低迷とレーガン政権によるアメリカ経済の「再建」

第4編 新たな出発と危機の一層の深化（1987年以降）

第1章 平成景気の性格とその終焉にともなって発生した困難の根本的性格

第2章 ブラック・マンディ以後のアメリカ経済

参考文献：

横山正彦・金子ハルオ編『マルクス経済学を学ぶ』有斐閣

林 直道『経済学下帝国主義の理論』新日本出版社

林 直道『国際通貨危機と世界恐慌』大月書店，1972年

井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣，1993年

石崎昭彦・佐々木隆夫・鈴木直次・春田素夫著『現代のアメリカ経済 改訂版』

東洋経済新報社，1992年

### 経済統計学

助教授 西山 茂

内外の経済動向を観察，分析するには種々の統計資料がデータとして活用される。本講義では，経済分析で頻りに利用されている統計的技法のいくつかを実践的側面から概説することに力点が置かれる。

講義内容：

資料の要約：度数分布，平均値と分散

相関・回帰分析：相関図，相関係数，単回帰分析と重回帰分析

時系列分析：時系列の構成要素，移動平均法，物価指数と数量指数

統計的推測：確率の基本，母集団と標本，母数の推定，回帰分析と仮説検定

教科書：森田優三・久次智雄「新統計概論」日本評論社

参考書：日本の主な経済統計の概説書として溝口敏行「経済統計論」東洋経済新報社，一層易しい手引書である「統計つれづれ草」経済統計研究会編，大蔵省印刷局の二冊を副読本として推薦しておく。

## 日本経済史

助教授 今西 一

近年，社会主義世界体制の崩壊，自由主義市場経済の行き詰まりといった，19—20世紀システムの終焉を前にして，あらためて「近代」とは何か，ということが問いなおされている。これは，従来の「ヨーロッパ近代をもって進歩と発展の普遍モデルとする『大きな物語』」の解体であり，今日，ヨーロッパ近代を「普遍モデル」としてきた歴史観そのものが，批判にさらされているのである。

フランス史の二宮宏之氏は，アラン・フィンケルクロートの『思考の敗北』（1987年）の次の言葉を引用する。

“すべての人間科学は，構造主義人類学に倣い——それぞれその固有の領域において——自文化中心主義 ethno-centrisme の一掃をはかる。まず第一に，歴史学の場合がそうである。現在をあらゆる文化帝国主義から浄化するため，歴史家たちは，もはや，時間の糸をそのまま巻き戻そうとはしない。彼らは，その糸を切断し，われらの祖先のうちに自らの似姿や素描を見出したりしてはいけないという。歴史家の伝統的任務は，過去についての記憶をわれわれに返してくれることにあったのだが，いまや彼らは，その過去をわれわれの支配から引き離し，過去とわれわれを隔つ断絶を浮き立たせ，過去をその根源的な他者性のうちに示そうとする。こうして，すべてを自らのうちに取り込もうとするわれわれの野望に幻滅をもたらすのだ、ミシェル・フーコーの強烈な表現に従えば、「己の姿の再確認という気休めの戯れを許す一切のものを破碎すべく」努めているのである。存在の恒久性や精神の自己展開，人間本性の不変性，成熟あるいは持続的成長といった単線的発展の図式，それらの一切をである。こうして歴史的知は，セクシュアリティ，感情，家庭生活，生き方，食のとり方，死に方といった，一見恒久的と見える領域を好んでとりあげ，そこに，消し去ることのできない差異を浮き立たせようとする。こうして，われわれが不変の現象を相手にしていると思いついていたまさにその場に，まったく質を異にするさまざまな行動が姿を現すのだ。われわれが歴史とはそのようなものかと思いついていた，過去へとどこまでもひとつならに遡っていく過程に代わって，いまや差異の万華鏡が眼にとびこんでくる。われわれが，自然的なものとみなしてきた現実が，歴史的なものとみなされ，時間的推移そのものが，一切の進歩の展望から解き放たれる。約言すれば，歴史家たちは，人間の歴史的営みを単一の型に押しこめたり，同一の進化の路線の上に位置づけたりするのではなく，どこまでも，その多様な姿の

うちに提示するのである。このように，不連続性に注目し，過去・現在・未来を一つの方向へはめこむことを拒否し，本質的な意味での「歴史の脱方向化」*désorientation de l'histoire* を主張することによって，歴史家たちは，民族学者が空間において行ったのと同じ目的を，時間において追求しているといえる。すなわち，「人間存在には，時間・空間に応じてさまざまなありようがあるにもかかわらず，そのなかのただひとつの型のうちに，人間はまるごと身を委ねているかのように」（レヴィ=ストロース）考える，自己中心的であると同時にいたって素朴な観念の誤りを，決定的に正すことがそれである。”

本年は，日本経済史の方法を考えながら，具体的な史実の問題を使って，近代日本の「文明化」とはなにか，という問題を考えたい。

テキスト：今西 一『近代日本の差別と村落』（雄山閣出版）

参考文献：二宮宏之「歴史的思考の現在」（岩波講座『社会科学の方法』第IX巻，岩波書店）。

今西 一『近代日本成立期の民衆運動』（柏書房）

## 産業組織論

教授 鶴沢 秀

現代の産業組織の特徴を理解し解明するため，この授業では主として理論的側面に重点を置きながら講義を進めていく予定である。

具体的には，

- (1) 独占や寡占状態を判断する際の指標である産業の集中度についての定義と意味
- (2) 独占企業の行動分析
- (3) 寡占企業の行動分析
- (4) 規制（緩和）の経済的意義と政府の経済政策
- (5) ゲーム論による寡占企業の分析
- (6) カルテルの弊害

などの講義を中心にする。

できる限り具体例，数値例を利用して，十分な理解力と応用力を付けさせたいと思う。

## 財政学

助教授 角野 浩

財政学は，財政の制度，財政の理論，財政の実証から構成され，守備範囲は広いといえる。また，最近の財政に関わる時事問題は事欠かず，毎日のように新聞・TV等をにぎわしている。例えば，景気対策としての所得税減税と消費税増税のような税制改革，さらには財源確保としての赤字国債発行のような深刻な問題がクローズ・アップされてきている。また，21世紀に向けて急速に進展する高齢化社会は，租税，社会保障，医療および教育等のさまざまな問題も引き起こしている。そこで，本講義では，財政学で取り扱うテーマを伝統的な制度的側面だけでなく，理論的な側面まで考慮し，的確に現実を見据えてゆける視点を身につけることを目標とする。本年度は以下の講義項目を予定している。

1. 市場経済と公共部門

2. 現代日本の財政
3. 公共財と公共投資
4. 公共料金と財政
5. 租税の経済分析
6. 日本の税制—制度と問題点—
7. 社会保障
8. 公債の経済的効果
9. フィスカル・ポリシー

テキスト：

浅井 勇・入谷 純編著『現代財政の基礎』八千代出版，1993。

参考文献：

牛嶋 正『財政』（第2版）東洋経済新聞社，1990。

本間正明編著『ゼミナール現代財政入門』日本経済新聞社，1990。

山田・中井・岩根・林編著『財政学』有斐閣，1992。

## 金融経済論

助教授 和田良介

この科目では、(1)個別主体の消費と貯蓄の意志決定と資金市場の均衡、(2)貨幣及びその他の資産に対する需要、(3)日本の金融機関とその役割、(4)資産価格の変動とそのリスクの回避手段という4つを取り扱います。

(1)と(2)では均衡利子率や貨幣需要の決定要因を説明しようとするミクロやマクロ経済学のモデルを取扱います。バブル現象は株式や土地といった資産の価格や、あるいは17世紀のオランダではチューリップの球根という資産の価格が上昇すると皆が予想するので実際に価格が上昇するものです。ではバブルがない時の価格はどうかあるべきなのでしょうか。

(2)ではこのようなバブル現象も含めて、資産価格の決定についても考えます。

(3)では金融仲介機関の役割や貨幣供給のメカニズムを概説します。

(4)では forward 取引や派生的証券と呼ばれる futures や option 取引の仕組みを紹介します。

ドル、株式、債券の価格は毎日変動しています。例えば1カ月後に受取る予定のドルの円貨換算額が予想外に少なくなってしまうリスクや、あるいは保有する株式の価格が将来下落するリスクを回避するために、上記の取引を利用することができます。オプション市場では対象となる資産そのものではなく、その資産をあらかじめ定めた価格で売ったり買ったりするための権利が取引されます。

質問受付時間（office hour）には研究室で質問を受付けます。授業で説明不足だったのに気が付かないことがあります。質問を受ければ、次の授業で補足説明を行なえます。質問した人ばかりでなく、クラス全体の理解に役立ちますから質問は歓迎です。

リーディング・リストを1回目の授業で配付します。試験は4回行ない、内容は計算問題40%、グラフを用いるものも含めて記述式が60%の予定です。宿題が7回程度あります。4・

5人でグループを作り、共同で宿題に取り組めます。

教科書：堀内昭義「金融論」東京大学出版会，1990。

## マーケティング

助教授 高宮城 朝 則

本講は、市場環境に適応し、競争優位性を創出し維持する企業活動であるマーケティングについて、マネジメントの視点から講義する。講義項目は以下のものを予定している。

1. マーケティングの基礎概念と枠組
2. マーケティング戦略と計画
3. 消費者行動とマーケティング・リサーチ
4. マーケティング・ミックス戦略
5. マーケティング研究の現代的課題

授業ではOHPを使用する。各項目の説明は事例を折りまぜて行う。また出席者に事例分析を行わせることも予定している。

本授業の履修者は、流通組織論、経営管理論を履修済みであることが望ましい。これらの科目の未修者はできるだけ併行して履修するように望む。

テキスト：嶋口充輝・石井淳蔵『現代マーケティング』（有斐閣Sシリーズ）

## 保 険 論（後期）

非常勤講師 本間 照 光  
（北海学園大学教授）

保険は、現代の社会と生活を映し出す鏡である。しかも、鏡の中にいる人びとには、鏡も映し出されている自分自身もみえないという不思議な世界がひろがっている。保険のハウツーものは世にあふれていながら、これまで人は、保険という視点から鏡の中をみてこなかったし、社会科学や経済学においても、その視点はみおとされてきた。

わたくしたちは、いわば「保険増殖社会」のただなかに生まれ、生きているのであり、保険には、人生・生活・生命のあり方、「社会」のあり方が深く投影されている。たとえば、高齢化社会対策の切り札とされる民間活力の導入、日本型福祉社会とは、「日本型私的保険化社会」にはかならない。はたして、私的保険は社会保険に代りうるのだろうか。そして、社会保障・社会保険の私的保険化は、医療、年金、福祉になにをもたらすのであろうか。

本講では、没後50年を迎える小林北一郎（1899—1944）〔注〕の樹立した、先駆的で今なお新しい「歴史的範疇としての保険」論に学びつつ、保険を通じて現代「社会」と生活の諸問題を、受講生とともに考えていきたい。したがって、出席が単位修得の必要条件となります。

テキスト：本間照光・小林北一郎『社会科学としての保険論』1983年、汐文社。

本間照光『保険の社会学——医療・くらし・原発・戦争——』1992年、勁草書房。

〔注〕「私の幼年時代からの知人であった小林北一郎という青年は、私がこの学校に入ると入れちがいにこの学校を卒業して、東京の商科大学へ入った。私の村出身の最も目立った秀才と言われたこの青年は、この年に、中学五年生の私に、ブルジョアとプロ

レタリアという新しい言葉を教え、この二つの言葉を覚えておかないとこれからの世の中に遅れる、と言った。そしてその年、即ち私が入学する前の年に軍事教練が実施された時、この高等商業学校の生徒たちは軍事教練への反対運動を起した。それに続いてその運動は各地の高等学校や大学に飛び火し、全国的な運動になった。北国の港町の、この名もない専門学校は、その事件のために存在を知られるようになった。」「私は中学校に入った始め、同村出身の小林北一郎が母と二人緑町に暮していた家に同居し、その次に姉と自炊生活をしていたが、その中学校の三年生になった時から、隣の塩谷村の自家から車で通学しはじめた。」(伊藤整『若い詩人の肖像』)。

## 証券市場論

助教授 井村進哉

商学としての証券市場論は、交通・保険業、金融業などとならぶ講義の商取引部門を取り扱う研究領域として出発した。すなわち穀物などの商品取引所、あるいは国債、株式、および社債などの証券取引所を対象としながら、そこにおける技術的・制度的側面を論ずる実学としての研究が出発点であった。

こうした証券市場論は、戦後次第に金融論や財務論などの視角を導入しながら証券経済論、証券経営論として独自の発展をみることになる。本講義担当者もまた、このような研究の発展に即してその体系的に理解しようと努める一人であるが、今日の証券市場をめぐる以下のような状況を考慮しながら、講義の当面の重点を証券経済論におくことにする。

今日の日本経済は、依然として深刻な不況下にある。この不況は、1990年以降の株価と不動産価格の下落・低迷を引き金にして生じており、これらが証券業や不動産業の不振にとどまらず、金融システム全体の機能を低下させ、これがまた不況をいっそう深刻にしている点に特徴がある。

中でも証券市場は、80年代後半のバブルの形成・膨張期に、その本来の役割から逸脱して著しく投機化した。本来証券市場は、社会に散在する資金を直接に動員、集中し、この資金を巨額で長期・固定的な投資資金に転換する機能をもっている。ところが80年代後半の日本の証券市場は、低金利下で異常な株価成長を生み出した。また企業や金融機関が株式などを通じて低コストで調達した資金は、生産活動に使われるのではなく、値上がり益(キャピタル・ゲイン)だけを期待して再び株式や土地に運用される状況が生じた。まさに証券市場の投機化がバブル膨張の主役となったのである。

その意味で今日の「バブル不況」ほど、証券市場が投機化がなぜ異常なまでに進展したのか、またその崩壊が実態経済にどのような影響を及ぼしているのか、さらには証券市場本来の役割を回復させるための政策は何か等々、証券市場と金融システムをめぐる問題を鋭く提起している時期はないように思われる。しかしこうした問題に答えるためには、少なくとも以上のような証券市場と金融システムに関する基礎的な理解が不可欠である。

そこで本年度の講義では、まず前半でマクロ的な(巨視的な)視点から証券市場の経済的な機能を概説する。そこではまず証券市場の金融システム全体の中での地位を概観した上で、有価証券を中心とする種々の金融手段の生成論理を明らかにし、これらの経済的機能と運動

の特質を経済主体との関連で位置づける。

続いて後半では、戦後日本の証券市場をとりあげ、そこにおける株価形成メカニズムの特質を検討した上で、バブルを生み出した株式市場の変貌の特質を構造的、機構的に明らかにする。また今日の金融システム不安のもとで実施され、検討されている金融・証券政策を取りあげ、その有効性と問題点を明らかにすることにしたい。

<テキスト>

佐藤 昇/高橋 元/相沢幸悦『入門 現代の証券市場』(東洋経済新報社、定価3,200円)

東京証券取引所『Fact Book 1994 東証要覧』(東京証券取引所調査部、定価900円前後)

<参考文献>

中村孝俊編『証券市場論読本』(東洋経済新報社、定価1,650円)

<履修上の注意>

本年度は、6月20日前後から海外出張などを予定しており、夏期休暇前の講義は6月の第2週から第3週で終了とし、補講を8月末に予定しております。あらかじめお知らせします。

また本年度から、従来随時配布しておりました講義メジュメ・資料をできるだけ簡略化し、OHPなどを多用することにいたします。従来以上に出席が重要な意味をもつこととなりますので、十分留意して履修して下さい。

## 経営管理論

教授 鶴野好文

本コースでは、3年次以降の経営諸科学への理論的準備を与えることを目的として、中級レベルの経営管理の基礎を解説します。したがって、planning(経営戦略)、organizing(経営組織)、leading(リーダーシップ、動機付け)、controllingの管理過程全般が論じられます。また、トピックスとして、

organizational planning, strategic planning,  
organizational design, organization-environment,  
interface, leadership, group dynamics,

がとりあげられます。

テキスト: John R. Shermerhorn, Jr., *Management for Productivity* (Third edition), John Wiley & Sons Inc.: New York, 1991.

## 国際企業論

助教授 高田 聡

国境を越える企業活動の経済・経営的ならびに社会的な意味を探ることが本講義の目的です。対象は日米の製造企業を主とします。今日の企業活動の国際化の一焦点です。おおまかな目次は以下の通り。

I 日本の経営と日本の経営風土

II アメリカの経営とアメリカの経営風土

III 在米日本企業の経営傾向

講義の進め方。受講生の規模にもよりますが、討論の機会を多くもちたい。テキストは特

定しません。数冊の参考文献を指示します。定期試験の他に数回のレポートの提出を求める予定です。

## 簿記論

助教授 松本 康一郎

〔テーマ〕

複式簿記の基本原則（必ずしも入門的内容にとどまらない）を理解し、会計関係諸科目の基礎を得ることを目的として進めます。

〔範囲・内容〕

1. 複式簿記の基本的メカニズム（とくに、単式簿記との比較において）
2. 企業複式簿記の基本的記帳手続（個人企業を対象とし、重要な基本的取引をめぐって）
3. 帳簿組織の基本類型

〔テキスト〕

久野光朗編著『簿記論講義』同文館

久野光朗編著『簿記論演習』同文館

〔参考書〕

安平昭二『簿記の理論と実際』東京経済情報出版

安平昭二『簿記要論』同文館

〔その他〕

1. 本講義の履修上の注意については、4月最初の授業で詳しく述べますので、必ず出席すること。
2. 講義中は、私語厳禁!!

## 財務会計論

教授 山本 真樹夫

会計とは企業活動を金額的に計量化し、企業内外のさまざまな利害関係者の意思決定に役立つ情報を生産することに関わる活動である。投資家や債権者などの企業外部の利害関係者に、財務諸表を通じて、会計情報を提供する領域は外部報告会計あるいは財務会計と呼ばれる。外部利害関係者にとって財務諸表は、ある場合には唯一の企業活動を知る手段であること、そのため財務諸表の信頼性を確保するため様々な制度的規制が課せられていることなどが財務会計の特徴である。

本講義ではテキストを参考にしながら、以下の順序で財務会計について考えていきたい。

1. 財務会計とそれを取り巻く環境
2. 一般に認められた会計原則
3. 資産の評価
4. 貸借対照表
5. 期間損益計算の原理
6. 損益計算書

〔テキスト〕

太田哲三・飯野利夫著『会計学』（千倉書房）。

〔評価〕

定期試験のほか、講義中に随時クイズや小レポートを課し、それらを総合して評価する。

〔その他〕

受講者は簿記論を履習済ないし履習中であること。

## 原価計算論

助教授 福島 吉春

1. 科目の概要

原価計算は19世紀の末、イギリスにおいて生産物の実際製造原価を計算する方法として、また同時期に、アメリカにおいて標準—実績比較を可能にする経営管理手段として成立した。それ以来、標準原価計算、直接原価計算などの各種計算技法を産みだし、1930年代には財務諸表作成のための棚卸資産評価を担うようになるなど、現在では企業、とりわけ製造業における情報システムの中核として機能している。

原価計算は財務会計と結びついて常時継続的に実施される「原価計算制度」と、必要に応じて必要な計算をおこなう「特殊原価調査」とに分けられる。

本講義ではそのうち、主として原価計算制度を扱う。

2. 講義内容

授業では、テキストの順序にしたがい、以下の内容について講義する。

第1章 基礎概念

第2章 原価の分類と原価計算の種類

第3章 原価計算と工業簿記

第4章 原価の費目別計算

第5章 原価の部門別計算

第6章 原価の製品別計算 1 個別原価計算

第7章 原価の製品別計算 2 総合原価計算

第8章 販売費と一般管理費

第9章 標準原価計算

3. 使用テキスト

小林健吾『原価計算総論（増補改訂版）』創成社、1992。

4. 参考書

岡本 清『原価計算（四訂版）』国元書房、1990。

その他、授業の中で適宜指示するほか、最初の授業で年間を通じて使えるものをいくつか紹介する。

## 会計学特講 I

教授 田中 良三

講義では商業簿記を中心とし、会社が社会に開示する財務諸表（貸借対照表と損益計算表）を作成することができるぐらいの理論と技術（少くとも日商検定簿記一級程度）の習得を目

的とする。したがって、講義は理論と演習の両方を重視し、実社会においても通用するものにしたい。講義の進め方は、簡単なものから複雑なものへというプログラム方式であるが、具体的には商業簿記3級（5月中旬）、商業簿記2級（9月下旬）、そして商業簿記1級（1月下旬）とし、その都度検定問題程度の試験を授業時間内で実施する。また講義内容を示すとつぎのようになる。

#### I 講義内容

1. 簿記一巡の手続と財務諸表
2. 現金・預金取引、有価証券取引
3. 債権・債務取引、手形取引
4. 商品売買取引、特殊商品売買取引
5. 固定資産取引、損益取引
6. 決算と財務諸表
7. 株式会社会計
8. 本支店会計
9. 帳簿組織、伝票式会計、行列簿記

#### II テキスト：

- 井上達雄・新井清光編著「検定簿記講義」（商業簿記3級）中央経済社，650円  
井上達雄・染谷恭次郎編著「検定簿記講義」（商業簿記2級）中央経済社，650円  
TAC簿記研究会編「100万人の簿記・個別問題特訓」TAC出版，2,400円  
大原簿記学校編「PASS I」（1級課程，商業簿記）(株)オービーエス・アカデミー，1,500円  
井上達雄・新井清光編著「検定簿記ワークブック」（商業簿記3級，2級）中央経済社，580円

### 憲法総論

助教授 猪股弘貴

憲法総論という科目名で呼ぶものの中身として考えているものは、そもそも「憲法とは何か」ということと、日本国憲法の中における、平和主義と基本的人権である。したがって、日本国憲法の全範囲を学ぼうとする者には、時間が許す限り、昼間コースに開講されている統治機構論をさらに、あるいは同時に履修することをお勧めする。

1年間の授業内容について、その柱となるものだけを示すと以下のようになる。

- 第1章 憲法とは何か
- 第2章 平和主義
- 第3章 基本的人権総論
- 第4章 法の下での平等
- 第5章 思想・良心の自由
- 第6章 信教の自由
- 第7章 表現の自由

### 第8章 学問の自由

### 第9章 人身の自由

### 第10章 経済的自由

### 第11章 社会権

できるだけ、裁判例等の事例をあげながら、話があまり抽象的になりすぎないように進めていきたいと考えている。

関連科目：行政法総論

教科書としては、伊藤正己『憲法入門（改訂版）』（1993年，有斐閣）を考えているが、この書は憲法全般を扱っているものであり、この書に則って授業を進めるものでもない。参考書等をも含め、詳しいことは最初の授業の時間にお話しするつもりである。

### 行政法総論

助教授 石黒匡人

代表的な裁判例をとりあげながら、行政法全般にわたって講義する。憲法及び民法を履習していることを前提にして進めていく。

テキスト：原田尚彦他著『行政法入門（新版）』（有斐閣新書）

参考書等は講義の際に紹介する。

### 民法総論

（前期）助教授 渡辺達徳

民法とは、家庭生活を営み、財産を所有し、取引を行うといった市民の日常生活を規律する私法の原則法・一般法であり、その中心を成すのは民法典（明29.4.27法律第89号）である。夜間主コースの「民法総論」は、この民法典のうち「第1編，総則」及び「第2編，物権」を主な講義対象とし、前期では「総則」編（渡辺），後期では「物権」編（藤原教官）を扱う。

このうち、前期で講義される民法総則は、民法全般にわたる基本的な、しかし反面において抽象的な諸々の概念を集めた部分であり、理解しにくいという声をしばしば聞く。しかし、民法は市民の日常生活にきわめて関わりの深い法であり、講義ではできる限り現実の裁判例や設例に即して話を進めるよう心がけるから、是非、講義に出席していただきたい。

なお、参考文献及び具体的な講義スケジュールについては、開講時にプリントを配布して説明する予定でいる。

### 民法総論

（後期）助教授 藤原正則

前期の総則につづいて、物権法を取り扱う。担保物権法についても詳しくふれる予定なので、債権法に関しても必要部分については解説する。民商法全体の概観を与える講義が目標。

テキスト：中島文雄編「民商法概説」（成文堂）

その他参考文献は開講時に指示する。

## 刑 法

助教授 白 木 豊

刑法は犯罪と刑罰に関する法であり、いわゆる刑法典だけではなく数多くの特別刑法も含まれる。その刑法を扱う学問である刑法学には、大別して、犯罪全てに共通する一般的成立要件を考察する刑法総論と、個々の犯罪の成立要件をそれぞれ考察する刑法各論とがある。

この講義は、主に刑法総論を扱い、およそ犯罪はいつ成立し処罰はいつ許されるかという基本的視点を養うことを目的とする。刑法各論は必要に応じて触れる予定。

教科書：大越義久『刑法総論』（有斐閣）

教 材：平野龍一他編『刑法判例百選Ⅰ総論（第三版）』（有斐閣）

参考書：中山研一『概説刑法Ⅰ』（成文堂）

大谷實『刑法講義総論（第三版）』（成文堂）

曾根威彦『刑法総論（新版）』（弘文堂）

前田雅英『刑法総論講義（第2版）』（東京大学出版会） など。

※上記の教科書・教材は暫定的なもので、変更もありうる。詳しくは初回の講義の際に指示する。

## 会 社 法

教 授 青 竹 正 一

会社法は、共同企業の典型的形態である会社組織の成立から消滅に至るまでの利害関係者（会社・出資者・会社債権者）の利益調整を行うことを主たる目的としている、企業法に関する重要な法律です。講義は、このような会社法のうち最も重要な株式会社法を中心に、会社法が現実の企業活動においてどのような役割を果たしているかを知ってもらうため、判例、書式、公告などの具体的素材を取り上げながら進めることにします。

テキスト：上柳克郎ほか編『会社法Ⅰ、Ⅱ・商法講義(2)、(3)』（有斐閣）

別冊ジュリスト『会社判例百選（第5版）』（有斐閣）

田村諒之輔ほか編『目で見る商法教材』（有斐閣）

## 労 働 法

助教授 島 田 陽 一

労働時間短縮、過労死問題、外国人労働者問題、単身赴任、雇用調整等、日常生活のなかに多様な形態で存在している労働法をめぐる諸問題をできる限り実例に即して解説する。内容は以下のとおりである。なお、本年度は個別的労働関係に重点をおいて講義する。

### 第一編 総 論

第一章 市場経済と労働法原理

第二章 労働法の歴史と労働者の権利

第三章 現代労働法の大系

### 第二編 個別的労働関係と法

第一章 個別的労働関係法の基本的仕組

第二章 労働関係の終了と法

第一節 解雇

第二節 有期労働契約

第三節 退職

第四節 定年制

### 第三章 労働関係の成立と法

第一節 使用者の採用の自由

第二節 労働契約締結に関する労基法の規制

第三節 採用内定・試用期間

### 第四章 労基法における基本原則

第一節 平等取扱い

第二節 労働憲章

### 第五章 人事異動

第一節 配転

第二節 出向

### 第六章 就業規則

### 第七章 懲戒制度

### 第八章 非典型的労働関係

第一節 パートタイマー

第二節 労働者派遣

第三節 その他

### 第九章 賃金

### 第十章 労働時間・休日・休暇

### 第十一章 安全衛生・労災

### 第三編 集团的労働関係と法

第一章 労働組合

第二章 不当労働行為制度

第三章 団体交渉と労働協約

第四章 争議行為

教科書は使用せず、適宜講義レジメを配布する。教科書がないと不安な学生諸君のために、第一回目の授業で各種の労働法教科書を紹介するが、さしあたり以下を参考文献として掲げておく。

参考書：菅野和夫『労働法第三版』弘文堂

外尾健一『労働法入門第三版』有斐閣

別冊ジュリスト 労働判例百選第五版（有斐閣）

ジュリスト増刊 労働法の争点（新版）（有斐閣）

## 管理科学

助教授 奥田和重

管理科学(マネジメント・サイエンス)という学問は、これまでに出版されたいくつかの書物を見ると、おおよそ次のようである。

管理科学とはシステムの研究のために科学的方法を適用することである。そこで用いられる方法論は、考察の対象となるシステムを定義し、そのモデルを構築し、モデルに含まれる変数をいろいろ操作することによって対象とするシステムの目的にとって最適な解を導出するという手順からなっている。それは単に数学的手法の寄せ集めではなく、数量化の哲学であるともいえる。

本講ではこのような視点から、システム概念を正確に把握し、システムの定義を行い、最適な決定を行なうための数学的方法論について講義する。

開講時にガイダンスを行い、講義に関する資料を配布する(資料は講義時以外では配布しない)ので、履修希望者は必ず出席するように。

教科書:ガイダンス時に指示する。

参考書:資料参考

## 計画科学 I (後期)

教授 若林信夫

意思決定の問題が、1次不等式制約のもとで1次式の最大又は最小を求める形に定式化されるとき、線形計画問題(リニア・プログラミング)といい、その問題を機械的に解くことは、50年近い歴史がある。単体法(シンプレクス法)の生みの親は、George Dantzigであり、今以って健在である。1994年に、*Linear Programming and Extensions and Software* が Scientific Press から出版される。

1. 線形計画法のコンセプト
2. 線形計画法のモデル
3. 輸送問題
4. 積み替え問題
5. 割当問題
6. 生産在庫雇用問題
7. 巡回セールスマン問題
8. ゲーム理論

について、情報処理センターのコンピュータを利用して学ぶ。

参考書:

ダンツィーク, 小山昭雄訳, 「線形計画法とその周辺」ホルト・サウンダース・ジャパン 出席を重視する。

## 社会計画 I (後期)

教授 加藤修一

私達は、日常生活の中で絶えず意志決定を繰り返し、重ね積み上げその多くの行動のなか

から共通した意志決定の手順をモデル化して、自分なりに有る程度の意思決定の手順「法」を見だし、効果的な処理をおこなっている。過去と似たような意志決定問題の場合には、蓄積された情報(これは、いわゆる経験側であり、カンといわれるもの)にてらし合わせて、決定しているわけである。これは、一個人のケースであるが、集団として種々のシステムからなる企業、社会、地域、国などは、より効果的、より幸福的な(?)状況の形成のための意志決定の問題群の解決機会、すさまじく多い。管理科学は、この意志決定を行う場合にできるだけ科学的成果を援用する方法論で、その成果を学習することにより、究極的には、経験側に潜むと思われる法則性の抽出、個人のレベルにおわっているカンから普遍的要因を探り出すなど、意志決定の確実性を高めることにある。本講義では、ORなどに適用されている計量的な方法について、生活環境の質、地域計画学的な視点から進める。たんなる理論の紹介に終わらずできるだけ事例学習についても行う。

1. わが国の都市、地域問題と21世紀への基本戦略
2. 地域人口推定法
3. 産業立地分析
4. 地域産業連関分析
5. 地域計量経済分析

教科書(後期):山村悦夫「地域計画(1)―計画の分析―」, 技報堂。

## 計画数学 I (前期)

助教授 行方常幸

線形代数学の基礎的な事柄をなるべく数値例を用いて講義する。すなわち行列、行列式、固有値等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れることなどである。

先ず、高校時代でおもに学習した2次元ベクトル、2行2列の行列を一般の $n$ 次元ベクトル、 $m$ 行 $n$ 列の行列に拡張し、これらの計算を通じてベクトルの1次独立、行列の階数、ベクトル空間の次元、行列式等の概念を説明し、連立1次方程式の解の構造を調べる。

次に、行列の固有値という一見何の役にも立ちそうもないもの(高校時代から解き慣れている方程式[特性方程式と呼ばれる]の解)を導入する。その後この固有値の数々利用法を行列の対角化等の話題を通じて体験する。

教科書:沼田久, 行方常幸ほか著『線形数学(改訂)』(富士書院)

## 計画数学 II (後期)

助教授 中村隆志

計画科学などを学ぶために必要となる

- ・微分方程式の解法
- ・確率・統計の初歩

について講義・演習を行う。

[テキスト]未定。



## 応用統計 I (前期)

助教授 清水川 緋紗子

テキスト：未定

### 組織と情報総論

(前期) 助教授 持田 泰昭

(前期) 助教授 酒井 弘一

(後期) 助教授 近 勝彦

本講義は、3年次以上の専門課程で組織における意思決定、情報システムのデザイン、評価、セキュリティ対策を学ぶための基礎的知識を得ることを目的とします。組織における資源は「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」であると言われて久しいが、情報を明示的に扱った組織論は未だ不十分です。概念としての取り組みに止まっていてオペレーショナルな段階に到達した経営理論の確立はまだまですし、意思決定要素に定量的ファクターとして組み入れた情報の経済学も組織文化・規範とか人的資源バラエティーをモデルに内生化しおらず、個々人の合理的（各自の効用最大化）を基本的な前提にしています。したがって、依拠すべき標準理論はありませんが、情報が企業、官庁等の組織で重要な役割を果たしているのは事実ですし、単なる取引記録以上の機能を担っています。しかし、組織と情報の関係を分析し、理解するという目的からは、大きく組織内部における情報（たとえばある投資案件についての分析情報など）の役割は何か、および組織から発せられたり、受け取られたりする情報が外部環境である社会とどのような相互作用をしていくかという二つの側面から把握する必要があります。そこで、組織内部の活動・意思決定を情報分析の観点から説くとともに、組織間および対社会との活動についても情報の社会的機能に着目して解説していくことにします。具体的には次のような内容を予定しています。

#### 【前期】

- (1) 企業組織と情報
- (2) 経営戦略、組織戦略と情報の変遷
- (3) 企業組織の特性と情報
- (4) 企業組織のダイナミクスと情報
- (5) 近未来の情報環境と企業組織
- (6) 高度情報社会（ネットワーク組織）における情報システムの特徴と問題
- (7) 情報システムの安全性・信頼性（セキュリティ）・効率性  
定義、事例に基づく阻害要因分析と向上対策等

#### 【後期】

- (1) 組織理論と情報との関係（経営学における情報の位置づけ）
- (2) 情報の経済学にみる組織（経済学における情報の位置づけ）
- (3) ヒエラルキーにおける情報伝達
- (4) 分権的組織における情報伝達
- (5) 情報シェアリングの組織効率

(6) 日本企業における組織と情報

(7) 官僚制における情報伝達と機能不全の可能性

(8) 情報システム部門（システム開発、運用、保全）の組織戦略と経営

(9) ナショナル・カルチャーと情報・組織

教科書：未定

### 経営情報論 (後期)

助教授 酒井 弘一

企業経営に求められるのは、自ら課題を設定し、解決していく過程を具体的に作っていくことです。この講座では将来必要になるであろう課題解決の一助として、（本当の課題は皆さん自身の力で解かねばなりません）企業経営の様々な局面を理解し、課題解決のための情報活用の観点を考察、構築することを目的に進めていきたいと考えています。

#### I. 企業経営の諸側面の理解

問題の構造把握

活動の目的

目的と課題と手段の検討

集団、組織による問題解決の特性

#### II. 経営と情報の結合手段の模索

代表的な経営情報システムの検討

経営情報システムへの着眼点の整理

具体化への課題と方法

参考文献：

- ブレイクスルー思考 G. ナドラー, 日比野省三, ダイヤモンド社。  
スーパーエンジニアへの道 G. M. ワインバーグ, 共立出版。

### 会計情報論 (前期)

助教授 山本 清

会計情報は企業、官庁を問わず最も早く情報システムで処理されるようになった基本的な情報である。たとえば、企業における売上、仕入、利益等の基礎的データに関して集計・分析されるものは経営分析や経済分析に用いられています。したがって、会計情報が企業内部の意思決定や投資家の意思決定にどのように活用され、また価値を有しているかを知ることが極めて重要といえます。

そこで、本講義では会計情報の有用性、価値とは何か、また、会計情報が用いられるシステムにおいて情報を作成する側と利用・評価する側の相互作用が組織にどのような影響を与えるか。さらに、情報の不正操作や誤謬がないような情報システムにはどのような工夫が必要かについて解説します。主な講義内容は次のとおりです。

1. 会計情報とは何か？
2. 意思決定問題の定式化をどう行なうか？
3. 合理的な意思決定基準は存在するのか？

4. 完全情報の価値を測定する
5. 不完全情報の価値を測定する
6. 情報システムのコストと価値について考える
7. 会計情報システムの選択とは何か?
8. 情報評価者と意思決定者(情報作成者)が異なる場合の情報システムの価値を測定する
9. 組織の経済学(エイジェンシー理論)と会計情報との関係はどうなっているか?
10. 情報システム分析の限界を考える

教科書: デムスキー『情報分析の基礎理論』(千倉書房)

### 社会と情報(前期)

助教授 近 勝彦

1980年代後半以降、内外の政治、経済、社会のあらゆる面が劇的に変化しています。国際的には人、モノ、金、情報のボーダレス化が急速に進展していくと同時に、国際的ハーモナイゼーションと新しい枠組みの形成が模索されています(例えば、GATTのTRIP交渉や、OECDの情報セキュリティガイドライン策定など)。国内的には、いわゆるバブル崩壊によって産業構造の変化が加速され、特に情報産業に大きな影響をあたえました。又、それに連動する形で、情報・通信技術にも大きな変化が表われました(例えば、ネットワーク化、オープン化、ダウンサイジング化、マルチベンダー化、マルチメディア化など)。それらの変化が、あらゆる組織の再編を促すこととなります。

いふなれば、現在は第2の「情報化」に移行しつつあると言えます。そのような認識の下で以下の問題を論じていきたいと思えます。

- ①現代は情報化社会か(その理論と指標)
- ②情報量の増大は我々の生活をどうかえるか(その供給と消費をめぐって)
- ③サービス化・ソフト化社会における価値観・価値意識の変容
- ④情報化社会における労働関係、労働組織の変容
- ⑤マスコミュニケーションの変容(特に、ニューメディアの本格的発展によって)
- ⑥情報(知識)産業は真のリーディング・インダストリーになれるか
- ⑦情報化は地域の活性化につながるか(主に行政の情報通信政策をめぐって)
- ⑧コンピュータリゼーションの進展に伴う諸問題

### ソフトウェア科学I(前期)

助教授 加地 太一

計算機の基本的操作法および簡単なプログラミング技法について講義、演習する。また、プログラム作成において Pascal という言語を使うが、言語学習を無理なく進めるために、ここでは Pascal の基本を重視して授業を進める。以下に講義の内容を記す。

1. 計算機の原理について
2. ワードプロソフト、エディターの使い方を通してパソコンの基本操作を学ぶ。
3. パスカルによるプログラミングおよび問題の解法(アルゴリズム)について(ここで

は主として四則演算、if文、for文、while文、配列、関数と手続きについて簡単な問題を応用しながら勉強する。)

テキスト: 古郡: 「Pascal 入門」, サイエンス社(予定)

### ソフトウェア科学II(後期)

助教授 南 弘征

C言語の実習を通じ、基礎的なアルゴリズムやプログラミング手法の習得を目指す。ソフトウェア科学I履修者あるいは PASCAL などの手続き的プログラミング言語について若干の経験を有する者を前提として進める予定であり、未経験者が履修する場合は相応の覚悟が必要となる。

テキスト: 資料などは開始時に指示する。

### ソフトウェア科学III(前期)

教授 戸島 熙

計算機科学にも多数のアプローチがあるが、その中のひとつにこういうのがある。

"To iterate is human, to recurse is divine."

日本語でいえば「くり返しは人間業、再帰は神業」とでもなろうか。ことほど左様に iteration(くり返し)と recursion(再帰)は計算機科学の古くて新しい問題である。

そこでこの講義では前期半年間 iteration と recursion をテーマに理論およびプログラミング上の諸問題をなるべく易しく解説する。講義は演習を重視するので毎時間情報処理センターの実習室で行う。テキストはさしあたって使用しないが受講者の演習状況によっては適当な本をテキストに指定するかもしれない。

### 情報システムII(後期)

助教授 持田 泰昭

コンピュータは、ソフトウェアがあつてこそ、情報の記憶、処理、検索やゲームなどを行うことができ、威力を発揮する。コンピュータのソフトウェアは、システムプログラムとアプリケーションプログラムの二つに大きく分類することができます。システムプログラムは、ハードウェアを効率的に制御してアプリケーションプログラムにコンピュータシステムへの簡易なアクセスインターフェイスを提供するものです。アプリケーションプログラムは、ユーザー独自の問題を処理するものですが、システムプログラムの助けなしには何も処理することができないと言っても良いくらいです。システムプログラムの中心となるのがオペレーティングシステム(OS)と呼ばれているものです。

本講義では、コンピュータを利用する人にとってブラックボックスのように見える(提供する人はあえてブラックボックスとして見せている)OSの機能とか役割について解説します。OSの基本的な機能は、どんなメーカーが開発したものであれ、ほぼ共通的です。OSの概念や基本的原理をあくまでもコンピュータを利用する人の立場から捉えて講義する予定です。具体的な内容(大項目)は次のとおりです。

- (1) オペレーティングシステムとは
  - ・歴史

- ・必要性和役割
- (2) オペレーティングシステムの構造
  - ・カーネル
  - ・入出力制御
  - ・プロセス管理
  - ・ファイルシステム
  - ・セキュリティ
- (3) ヒューマン・マシン・インターフェイス (HMI)
- (4) OSインターフェイスの標準化

教科書：未定

### 情報教育論 I (前期)

非常勤講師 土谷 浩  
(札幌ハイテクアカデミー校長)

私は、字が下手である。それで、なにかアイデアが浮かんだり、面白い記事を見たりすると、その主な内容をワープロに入力しておく。ワープロといっても「一太郎」を使用している。したがって、項目別にデータが記憶されたフロッピーを30枚ほど持っている。

原稿を頼まれたり、資料を作成する必要が生じると、これらのフロッピーの中から関係のあるものを抜き出してワープロで文章や資料に仕上げて行く。

今までは、出版社に送る原稿も、フロッピーで送ることが多かった。しかし、最近では、出版社も忙しくならしく、パソコン通信で原稿を送ることが要求されるようになった。いづれも、原稿用紙に書いて速達で送っていた10年ほど前には、考えられないことである。

ところで、こうした例は、情報処理の技術が、行政や企業や、研究所だけでなく、普通の社会生活にまで浸透してきたことを示している。

アメリカでは、いわゆる情報スーパーハイウェイ構想(推進者である副大統領の名前を取ってゴア計画などともいわれている)が進み、家庭からでも学校からでも必要な情報を検索して使用できる体制が作られつつある。日本でも、ようやく光ファイバーによる通信ネットワークの整備が全国的に進められることになった。

文部省も、平成5年から小・中学校で、また平成6年からは高等学校(特に普通科)で、情報処理教育を行うことを定め、必要なパソコンなどの整備を進めている。また、マルチメディアに関する技術も急速に進みつつある。

こうした状況の下で、情報処理に関する基礎的な技術を指導する教育の必要性が次第に高まってきている。この講座では、このように学校教育だけでなく生涯学習の一つとしても重要なものになった情報教育のあり方について諸君とともに考えてみたい。

テキストとしては、「教師のための情報教育入門(高等学校編)」岡本敏雄編(¥3,090円)

パーソナルメディア社を使用するが、できるだけ実習的な要素を取り入れるとともに、ダウンサイジングやオープンシステムのように、現在、情報処理の世界で話題になっている事項なども積極的に取り上げて紹介していきたい。

## 6 教職科目

### 教育基礎論 II A (後期)

非常勤講師 渡辺 誠  
(小樽女子短期大学助教授)

教育活動に関連する様々な問題を、心理学的な角度から考えてゆく。具体的な内容としては I. 発達, II. 学習, III. 学級集団, IV. 学力評価, V. 知能を予定している。基礎的な知見が中心となるが、応用的な面、つまりなま身の子供たちと実際に接していく上での問題点にも、可能な限り言及する。テキストとして、倉石精一他編著「改訂版 教育心理学」新曜社を使用する他、必要な資料はプリントにしてその都度配布する。

### 教育基礎論 II B (前期)

教授 上野 耕三郎

この授業では日本の学校、とくに高等学校の問題を考えることにします。

かつて「15の春を泣かすな」というスローガンのもとで、高校全入運動が進められたのですが、その目的を果たしたいま、高校は考えもしなかった問題を抱え込んでしまったのです。一例を挙げれば、現在高校中退者は毎年10万人を数えています。1クラス40人として毎年2,500クラスが消滅している計算になります。

あるいは現在の輪切り体制をあらためるために、中学の段階での業者テストの廃止がめざされています。これで偏差値体制が崩れるのでしょうか。

これらの問題はおおきく言えば「近代」の問題であります。と同時に日本の「特殊性」とも関連しています。ちなみに、日本の若者は18歳の段階で90%以上が高等学校に在籍しています。このような進学率は世界的にいても稀有な例です。

もしこれらの問題が納得いくように解けたならば、あなたがたが教師になった際に、学校教育にたいするみずからのスタンスをとりやすくなるでしょう。

最初の授業で具体的な講義予定を話しますので、必ず出席すること。

### 教育方法学 (後期)

助教授 土屋 文明

講義内容は、教育技術、教材研究、教育評価などに関するものである。教育実習にそなえて、学生による模擬授業も行いたい。

### 商業科教育法 (前期)

非常勤講師 小山 正芳

今年度(平成6年度)から高等学校においても新学習指導要領が学年進行で実施され、新しい学力観に基づく授業が展開されます。(新しい学習観といった方が良いかもしれません)

制度的には、第3の学科といわれる「総合学科」が全国各地でスタートします。高校時代に将来の生涯学習社会に向けて、人間としてのあり方生き方を考えながら、自分の人生設計を描いてみようということです。

高等学校における商業教育も、この流れをしっかりと踏まえて、生徒の人間形成や社会と

のつながり、社会の存続発展という教育活動の普遍的な原理を大切に教育であるという原則を重視し授業を進めます。

1. 商業教育の基盤及び目的・意義について
2. 我が国の商業教育の歴史について
3. 商業に関する教科の学習指導について
4. 教科外活動や生徒指導・進路指導について
5. 教職の専門性とこれからの商業教育について

以上の内容で授業を進めますが、教材はプリントを使用し、参考文献等はその都度紹介します。また、教科の性格からも出席は重視します。

## 職業指導

非常勤講師 松田光一  
(北海学園大学教授)

### 職業指導講義内容

1. 職業について
2. 職業観の変遷
3. 職業指導の歴史
4. 職業的発達理論
5. 進路指導の管理と運営(1)
6. 進路指導の管理と運営(2)
7. 進路指導の実践(1)
8. 進路指導の実践(2)
9. 学歴と職業——学歴社会論をめぐって
10. 職業資格制度と教育機会の拡大
11. 学校における職業教育(1)職業高校の事例
12. 学校における職業教育(2)専修学校、職業訓練校の事例
13. 企業内教育訓練の推移
14. OJT と Off-JT
15. 技術革新と教育
16. 職場適応
17. 職業適正
18. 自己理解
19. 進路相談、カウンセリングの実際
20. 進路指導における個人理解の方法
21. まとめ

テキストは使用しない。

## 7 研究指導

### 中村(健)教官担当研究指導

1. 研究主題  
マクロ経済学
2. 指導要領  
応用ミクロ経済学的なマクロ経済学のテキストの輪読、および入門的ミクロ経済学の学習。
3. 指導テキスト及び参考書  
バロー「マクロ経済学」 多賀出版  
ヴァリアン「入門ミクロ経済学」 勁草書房

### 井村教官担当研究指導

1. 研究主題  
証券市場と金融システムの諸問題
2. 指導要領  
2年間のゼミナールと卒業論文指導を通じて、証券市場を中心とする金融システムの理解につとめ、この側面から現代社会を「解剖」できる能力を身につけることを目標とします。  
1994年度の3年次ゼミでは、前期にゼミナリス滕各自が投資銘柄を選んで、模擬的に「株式投資コンテスト」をおこないます。ここではまず株式の投資尺度、およびマクロ的、ミクロ的両側面での投資判断材料を理解することを目的としますが、そのための前提として、研究のための新聞、その他統計資料の使い方を最低限身につけておくことが求められます。  
こうした作業を通じて夏期休暇以後、日本の株式投資尺度に関する理論的、実証的研究に進み、11月に予定している商学科を中心とする学内ゼミナール大会に参加します。  
以上の成果を理論的に再確認するために、もう一冊の輪読を予定しています。
3. 参考文献・資料  
<当面の株式投資コンテストに必要な文献・資料>  
①日本経済新聞(各自取って下さい)  
②日本銀行調査統計局『経済統計年報』各号(図書館所蔵)  
③日本銀行調査統計局『経済統計月報』各号(図書館所蔵)  
④日本銀行『日本銀行月報』各号(図書館所蔵)  
⑤東京証券取引所『東証統計月報』各号(図書館所蔵)  
⑥東京証券取引所『東証要覧』各号(各自で購入します。証券市場論の講義でも採用予定。)  
⑦日本経済新聞社編『94年版株式投資の手引』(日本経済新聞社、1994年1月発行、1,900円:ゼミで共同購入します)

⑧東洋経済『会社四季報』（ゼミで共同で1冊購入します）

<夏以降の文献・資料：下記のものを中心に相談の上決定します>

①高橋元『証券市場と投資の理論』（同文館，1993年，3,800円）

②鈴木淑夫編『実戦ゼミナール 日本の金融と銀行（第2版）』（東洋経済新報社，1992年，2,800円）

### 篠崎教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

日本的経営の諸問題

《日本の経営といわれるものの実体はなんなのか》

《いまどのような問題に直面しているのか》

こうした問題意識を踏まえながら、日本企業の行動の論理を多面的に分析する。

#### 2. 指導要領

3年次：先ず、日本的経営についての個別テーマを取り上げミニ卒論を仕上げる。次いで経営学の基礎、社会科学的なものの考え方を身につける。卒論テーマを決定する。

4年次：共同では、基本的な問題を取り上げて理論的な分析を試みる。  
個別には、卒論の作成に取り組む。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

内田義彦『資本論の世界』岩波書店

大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社

鎌田慧『自動車絶望工業』講談社文庫

熊沢誠『日本的経済の明暗』築摩書房

丸山恵也『日本的経済』日本評論社

### 渡辺（和）教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

財務会計の研究

#### 2. 指導要領

共同研究と個人研究を行う。共同研究では財務会計に関する基礎知識を修得するため、テキストを報告形式で読む。また、個人研究では卒業論文の作成に必要な準備作業を行う。なお、新聞記事等も適宜利用する予定である。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

染谷恭次郎著『現代財務会計』中央経済社。

中央経済社編『会計法規集』中央経済社。

### 神田教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

民法学における重要問題の研究（財政法の領域を中心とする）

#### 2. 指導要領

重要判例もしくは事例問題の検討をとおして、民法の全体像、運用の実態を理解するとともに、民法学上の現代的課題を研究する。

毎回2名から研究の結果を報告してもらい、それをうけて全体でその当否を論議し問題点を究明する。毎回、全員に各自の回答の要旨の提出が義務づけられる。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

テキスト半田正夫他編「スリーステップ民法ゼミナール」（一粒社）参考書「民法の争点I、II」および「民法判例百選I、II、第II版」（いずれもジュリスト別冊）

### 和田（健）教官担当研究指導

#### 1. 研究主題

経済規制法の諸問題—とくに規制緩和との関連で

「経済規制」とは、料金規制（たとえば運賃、ガス、電気料金などの認可制）や参入規制（たとえば事業認可）などのことをいい、そのための種々の法律を「経済規制法」という。ゼミでは、わが国において各産業（金融業、運輸業、農業など）で行われている経済規制を、現在細川政権下で政治日程に登らんとしている「規制緩和」の観点から総合的に研究することをめざす。

※このテーマは、暫定的なものである。もしゼミ生の諸君から強い要望があれば、変更することもありうる。

#### 2. 指導要領

最初に三カ月程度、基礎的な知識や理論の勉強をする。その後、経済規制が行われている分野ごとに上記テーマのもとで研究する。

ゼミの始めに課題の割り当て表を配付する。

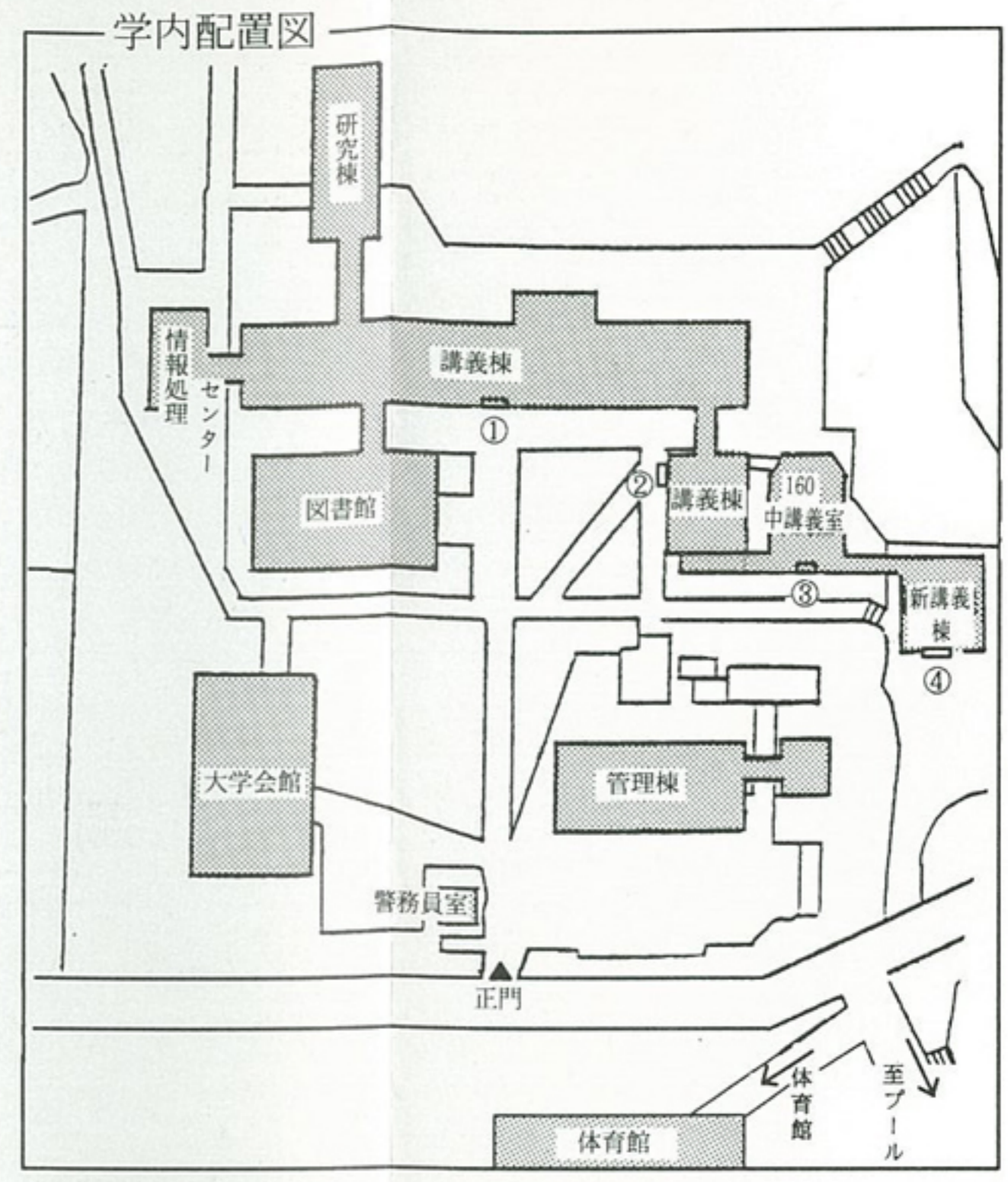
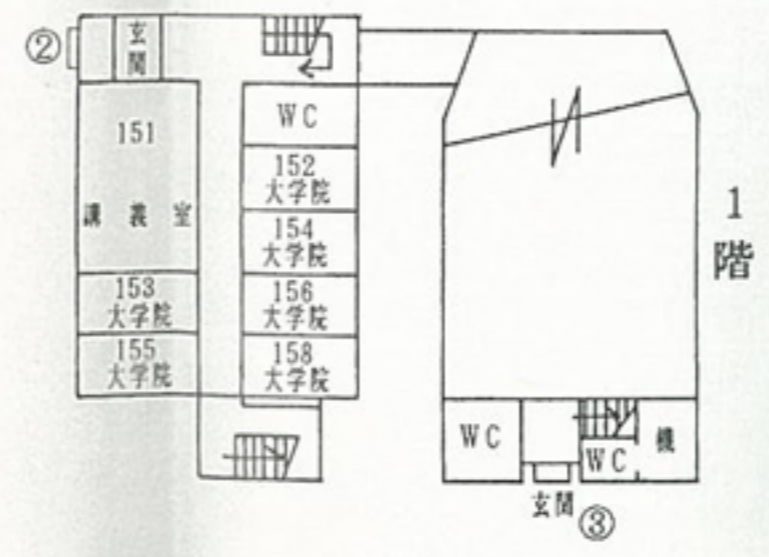
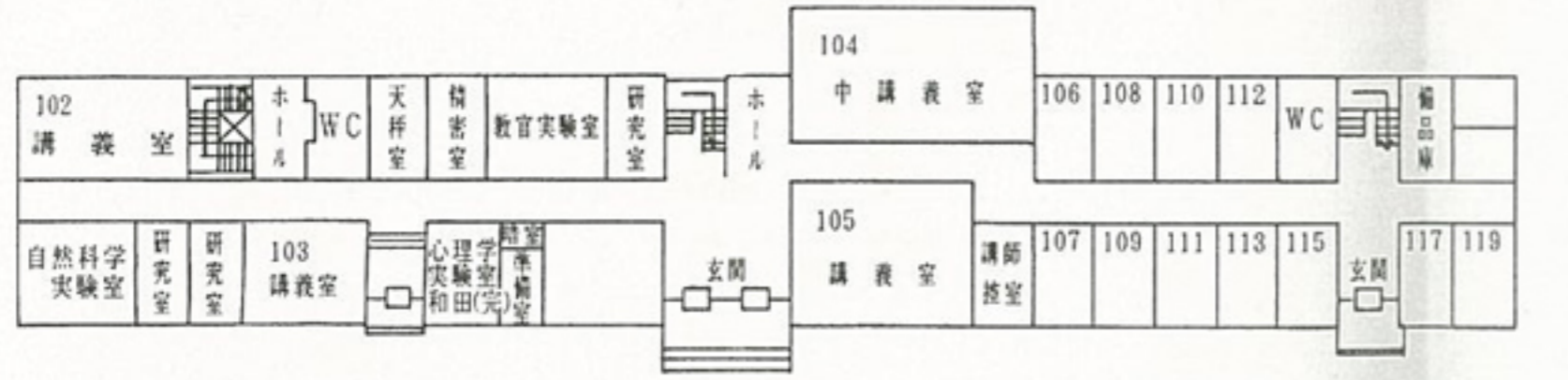
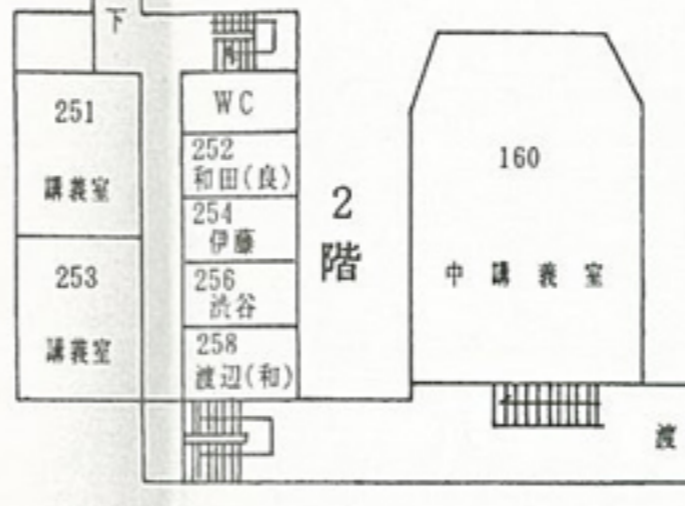
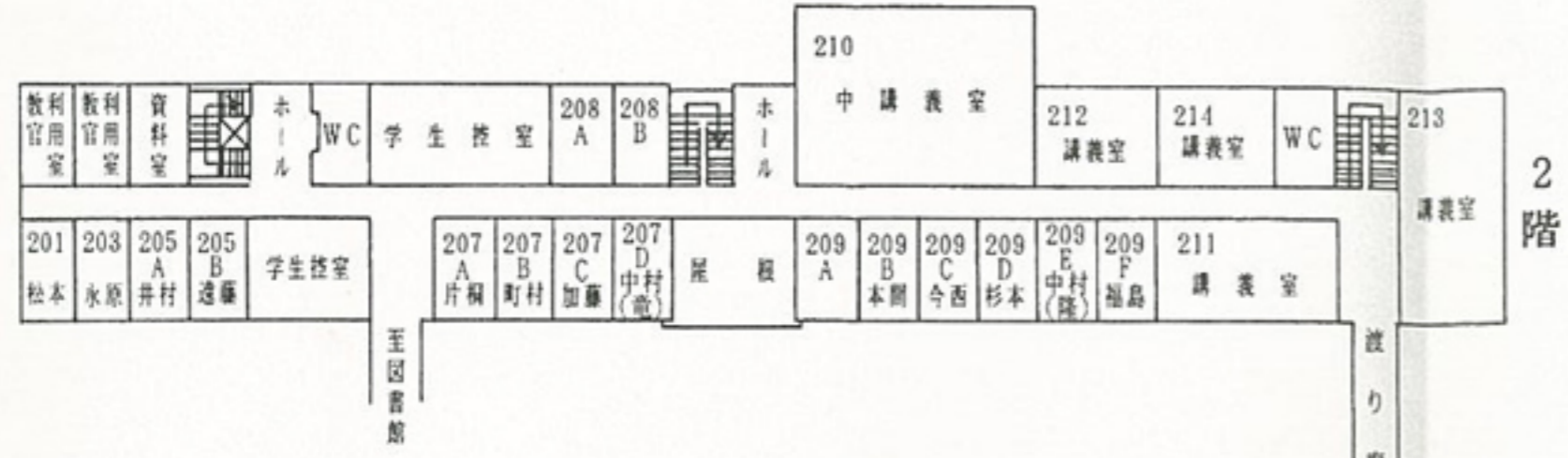
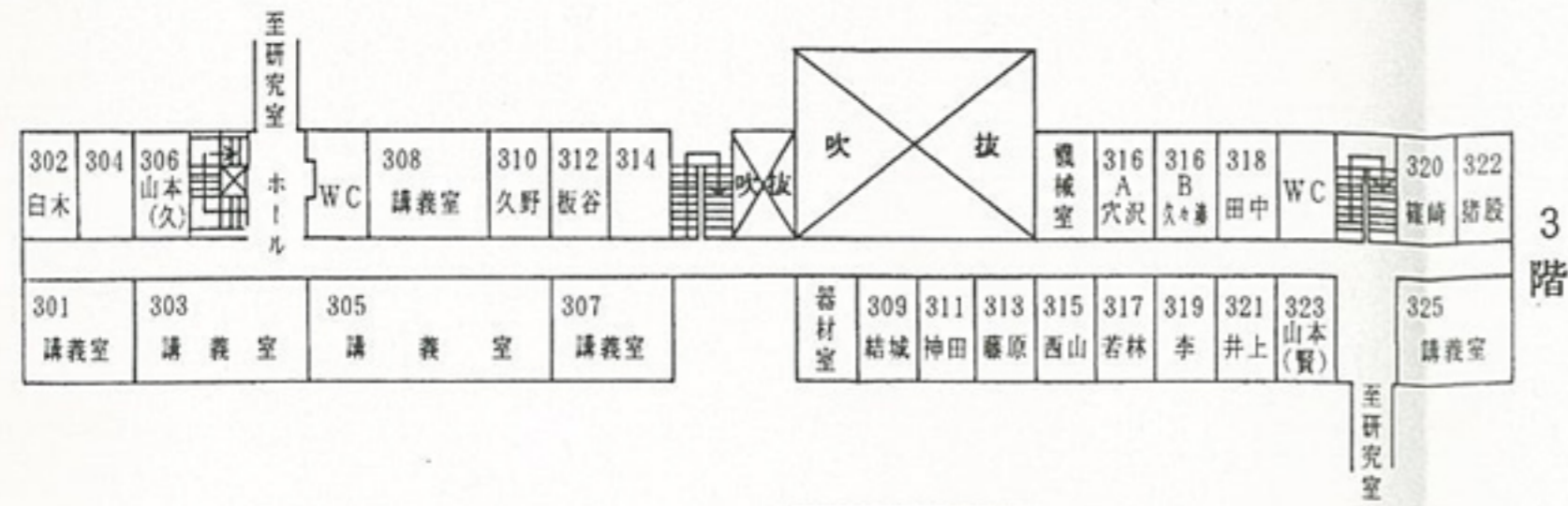
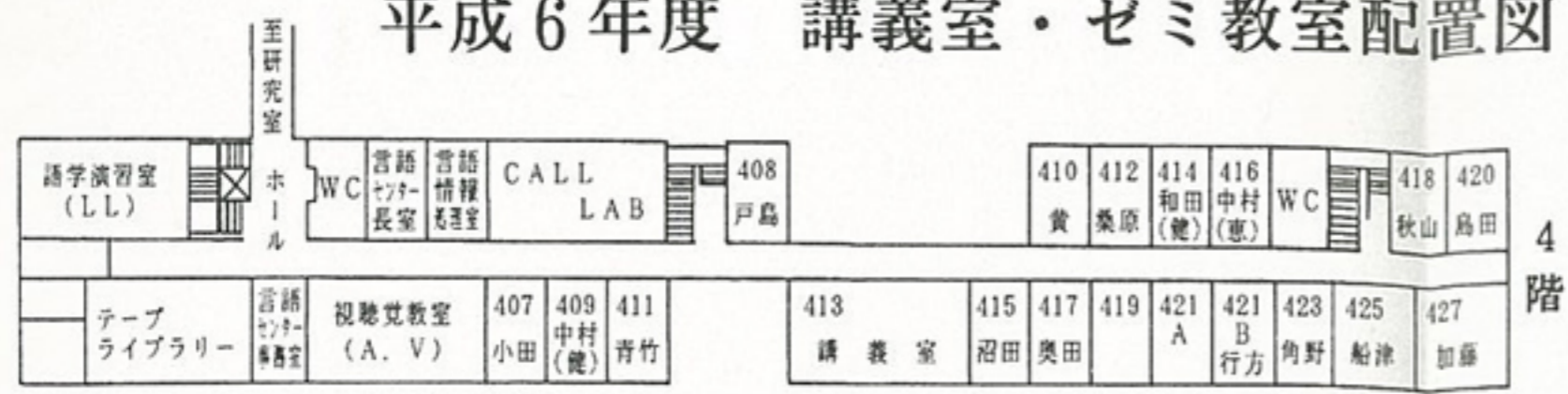
ことからの性質上、このゼミは法制度の研究が中心となり、法律学の標準的なゼミで見られる判例や条文解釈の研究を期待している人にはもの足りないかも知れない。ただし、本ゼミでも、関連する判決はできるだけ取り上げる予定である。

#### 3. 指導テキスト及び参考書

上記テーマをみれば、おわかりのように、決められた一つのテキストに従って研究するというスタイルはとれない。新聞記事、雑誌論文、研究書等を色々読んで、各自がレポートをまとめる作業が中心となる。

したがって、この段階では、指導テキストや参考書を示すことはできない。ゼミの開始時に紹介する。

# 平成6年度 講義室・ゼミ教室配置図



○は玄関位置を示す

